

デジタル技術活用オーバーツーリズム実態調査（令和7年度）

【業務目的】

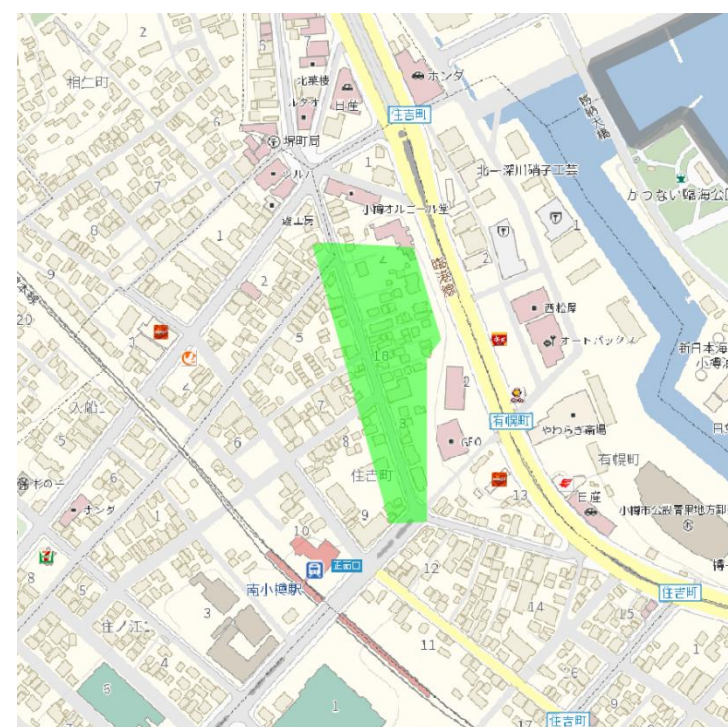
- 昨今、小樽市においては外国人観光客の増加などによりオーバーツーリズムが深刻化しており、データ分析に基づく「打ち手」を検討する必要があることから、本業務においては、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」の調査要領に準じて実施する観光入込客調査結果を基礎として、GPS人流データを活用し多サンプルに基づく来訪者（国内・外国人）の動態調査を網羅的かつ解像度の高い形で行い、オーバーツーリズムの実態を把握することを目的とする。
- また、小樽市がこれまで実施してきた観光入込客数調査をGPS人流データを使用した調査に切り替える場合の両者の結果の違いの傾向を把握するとともに、GPS人流データを用いる際の観光入込客の定義や、観光入込客の移動元・移動先分布に係るデータ取得のあり方、観光消費額算定上の観光入込客数（実人数）把握のあり方についての検討も併せて行うことを目的とする。

【調査対象地】 本資料における調査対象地は、以下の市内6エリア

① 船見坂周辺



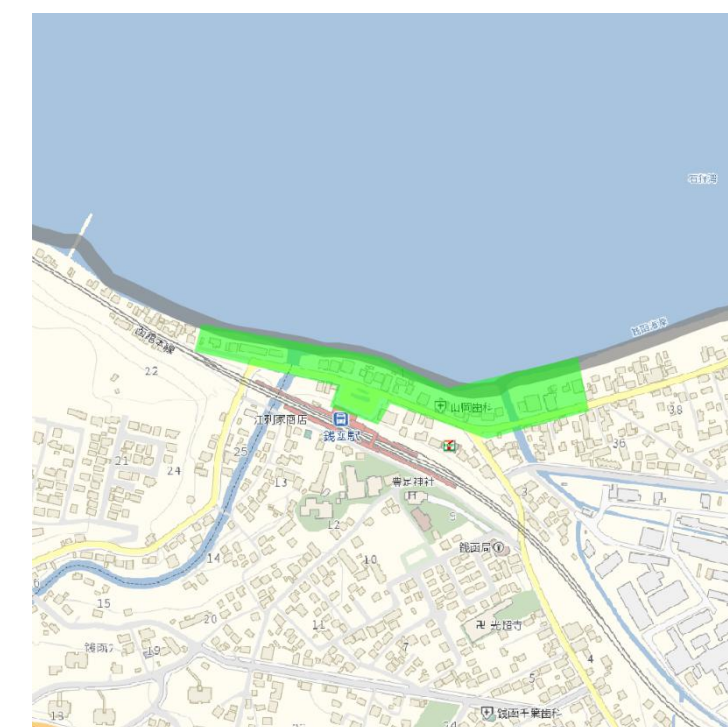
② 三本木急坂周辺



③ JR朝里駅周辺



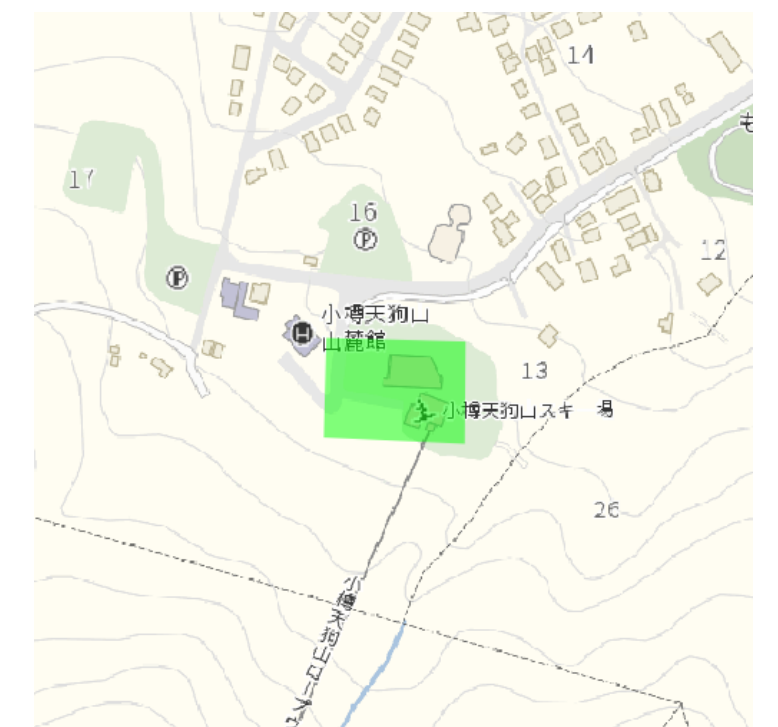
④ JR銭函駅周辺



⑤ 祝津パノラマ展望台周辺



⑥ 天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉



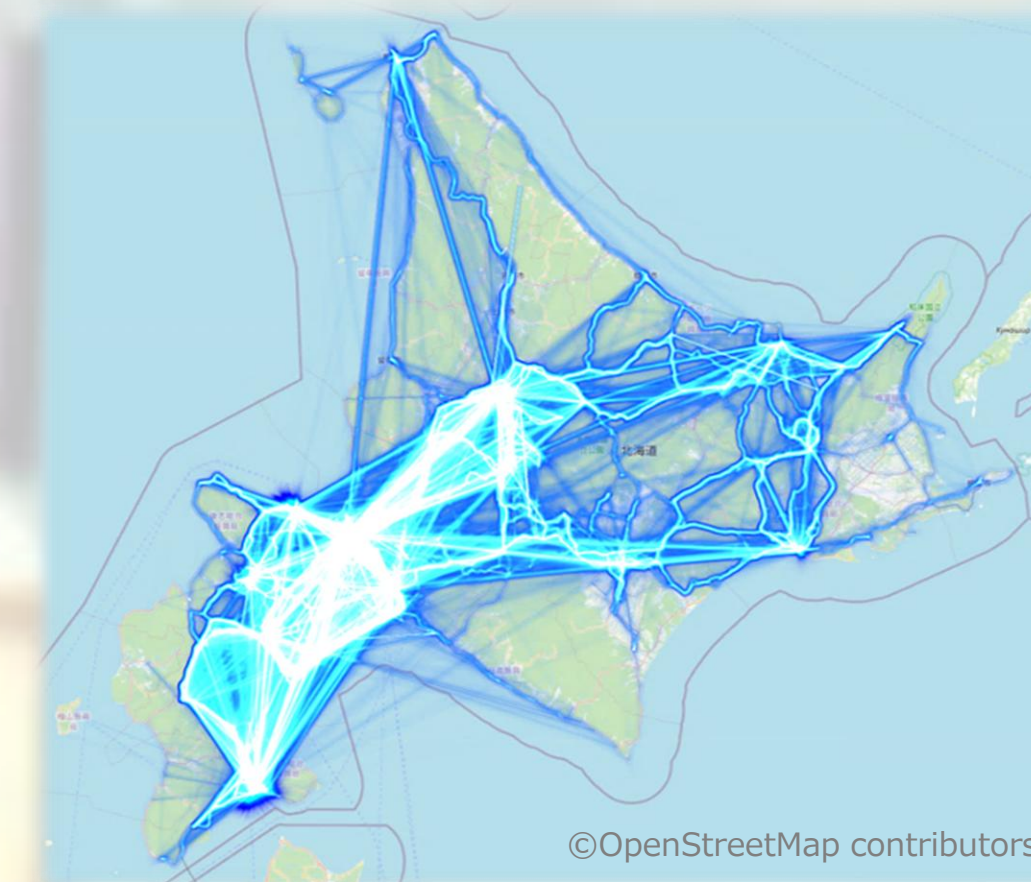
※地図出典：NTTインフラネットの地図をもとに当社加工

全国インバウンド統計

【網羅性】 24時間365日、全国数千万人のインバウンドの移動を高精度に把握

【機能性】 独自のロジック (特許技術) から、来訪・周遊動向を居住国別や交通手段別に分析

【有用性】 ご要望に応じ可視化・解釈や施策検討まで伴走、真に役立つアウトプットを提供




©OpenStreetMap contributors

できること

インバウンド携帯端末のGPS位置情報 Powered by **Azira**

メニュー

施設来訪分析 

エリア来訪分析 

広域周遊分析 

分析項目

※選択内容によりお見積りいたします。

来訪人数 / 宿泊客数

滞在時間 / 宿泊日数

居住国・自治体

移動経路 / 交通手段

+ オプション ・性/年代 ・拡大推計(居住国別) ・広告/アンケート配信 ・集客施策案の検討

ユースケース

観光

- 各観光地等への来訪状況の把握
- in-out空港や周遊ルートの把握
- 重点ターゲット・ペルソナの検討
- プロモーション検討、効果検証 等



交通

- 二次交通検討・周遊ルート造成
- 多言語対応コンテンツによる誘客
- 道路整備効果検討の多角化
- 交通安全対策検討の強化

商業・不動産

- 商品仕入・テナント誘致の最適化
- ライバル施設等への来客分析
- 出店候補地への来訪客層把握
- 開発・不動産投資の重点検討

項目	内容
「(日本人) 観光客」の定義について	日本人全体から、小樽市民のほか、小樽市に月6回以上来訪している人※および小樽市内が通勤/通学先と判定されている人を除いたもの。 ※「観光入込客統計に関する共通基準（令和5年改訂版）」（以下「共通基準」という）の定義に基づく。
拡大推計について	主に、国別のサンプル率（日本人・インバウンド）、人口統計（日本人）、出入国管理統計（インバウンド）により、国別の拡大推計を実施している（いずれも詳細は非公開）。 なお、拡大推計も含め本頁記載の各種ロジックは、同一業務内で変更されるものではなく、安定性を確保している。
宿泊地/居住地判定について	午前2-3時台に最も多く滞在していた地点を宿泊地、数か月間に最も多く滞在していた宿泊地を居住地と判定している。 ※共通基準では「午前4時に滞在していた地点を宿泊地とみなす」としているが、午前4時ちょうどに位置情報を捕捉できるとは限らないため。
インバウンドの捕捉について	国家体制上、中国人の位置情報は捕捉することができないため、以下の方法で人数の補完を行っている。 ①人流データ「モバイル空間統計」（株式会社ドコモ・インサイトマーケティング）から、「中国人」と「台湾人 + 香港人 + 韓国人」の比率を算出。 ②全国インバウンド統計における「台湾人 + 香港人 + 韓国人」の合算値に上記比率を掛け合わせ、「中国人」を補完。
交通手段判定について	位置情報の「移動ルート」と「移動速度」により代表交通手段の判定を行っており、本資料ではJRまたは自動車（道路利用）に分類される。
個人情報保護について	位置情報から個人が特定されないよう、緯度経度がずらされて記録されることがある。 また、同様の観点から一定の閾値を下回ったデータは秘匿されるが、その可能性は分析項目により異なる。 インバウンドの一例として、「居住地」は国のみで細分化されており秘匿可能性が比較的低い、「居住地 × 来訪時間帯 × 周遊先分布」の場合、国・時間帯・周遊先の掛け合わせとなるため秘匿可能性が高くなる。

インバウンド来訪動向の概要（2024年/2025年）

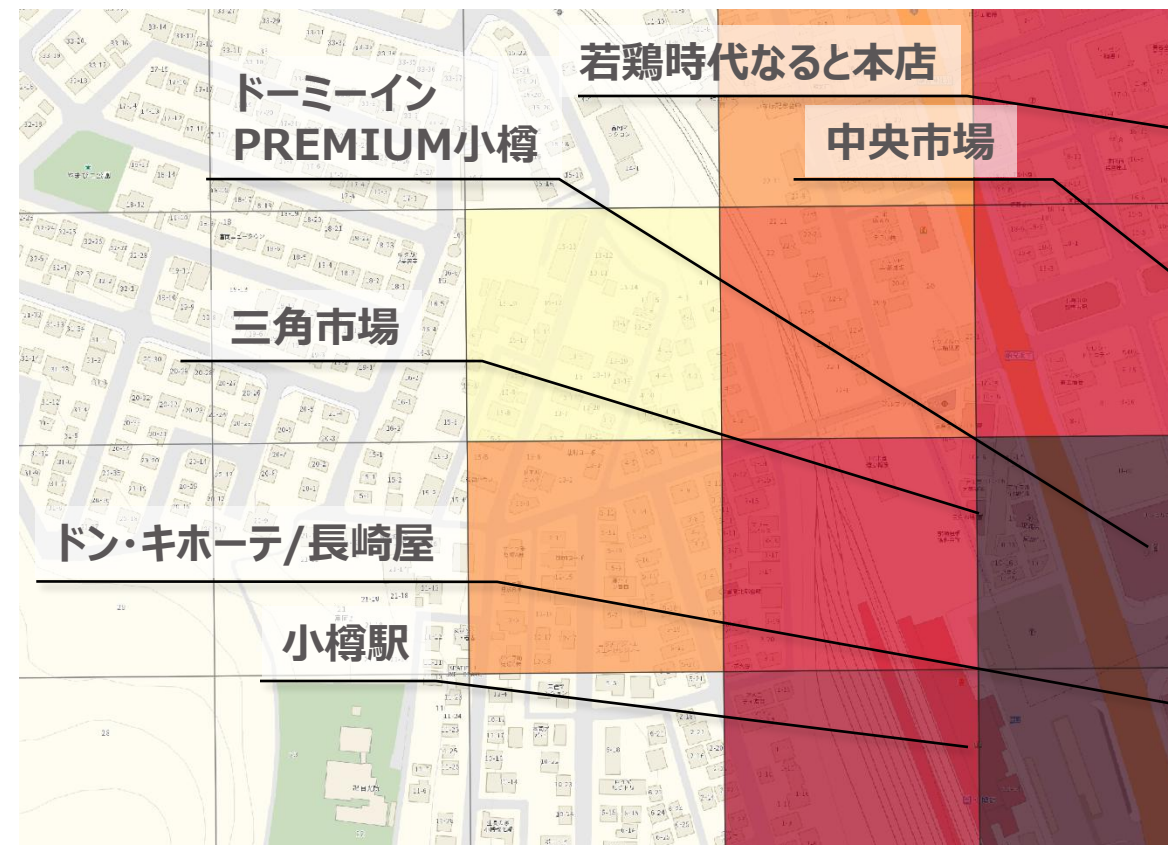
調査対象地	年	来訪ピーク日	来訪ピーク時間帯	平均滞在時間
船見坂	2024年（1～3月）	2月3日(土)	11時台（一日の13%）	0:18
	2025年（1～3月）	2月14日(金)	13時台（一日の15%）	0:21
三本木急坂	2024年（1～3月）	2月24日(土)	14時台（一日の14%）	0:09
	2025年（1～3月）	1月27日(月)	14時台（一日の14%）	0:09
JR朝里駅	2024年（1～3月）	1月31日(水)	17時台（一日の11%）	0:29
	2025年（1～3月）	1月28日(火)	15時台（一日の11%）	0:21
JR銭函駅	2024年（1～3月）	2月17日(土)	16時台（一日の11%）	0:10
	2025年（1～3月）	1月9日(木)	11時台（一日の12%）	0:23
祝津パノラマ展望台	2024年（1～3月）	2月6日(火)	10時台（一日の16%）	0:11
	2025年（1～3月）	2月16日(日)	10時台（一日の18%）	0:13
天狗山ロープウェイ 〈山麓周辺〉	2024年（1～3月）	2月3日(土)	16時台（一日の13%）	0:19
	2025年（1～3月）	1月23日(木)	16時台（一日の15%）	0:21

インバウンド来訪動向の概要（2024年）

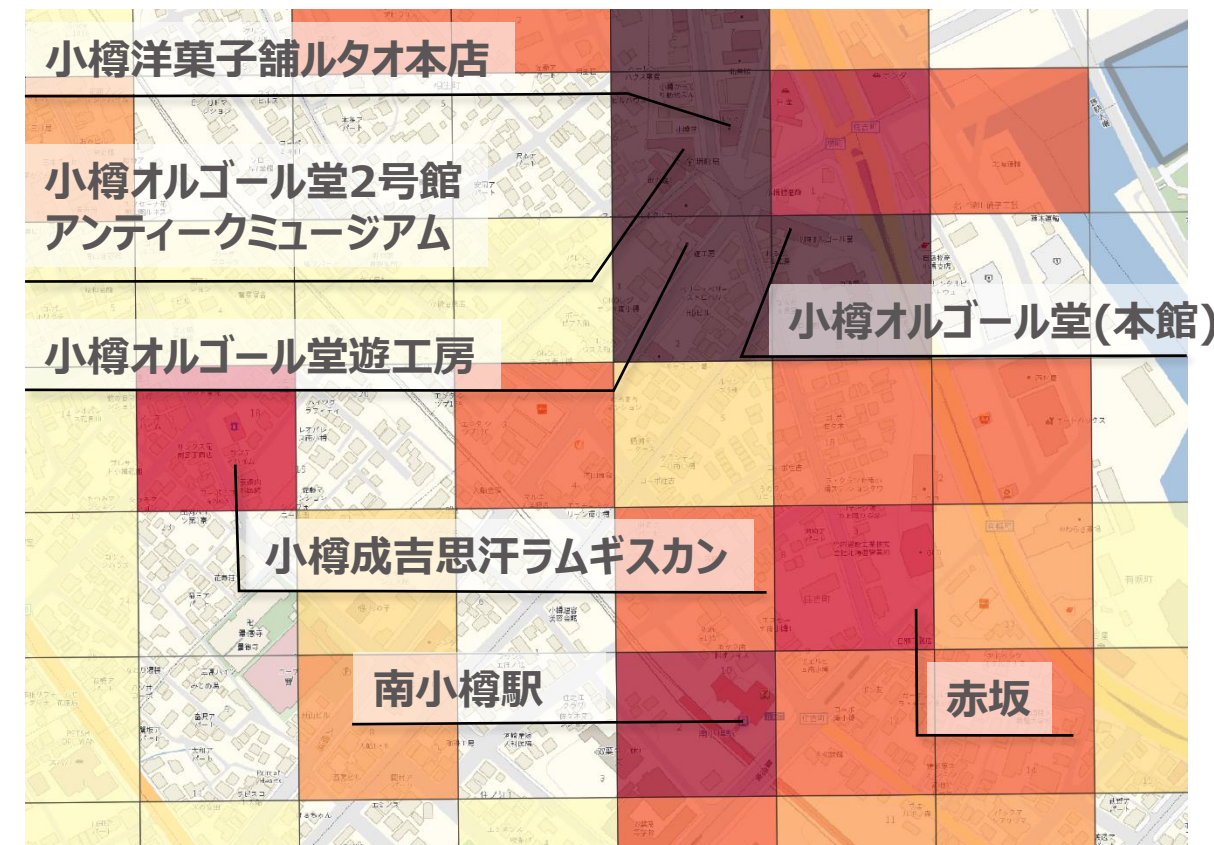
- 船見坂周辺は、ドーミーインPREMIUM小樽～ドン・キホーテ/長崎屋 付近が混雑傾向にある。
- 三本木急坂周辺は、ルタオ本店～小樽オルゴール堂(本館) 付近が混雑傾向にある。

● 入込客分布（インバウンド・滞在5分以上）〈2024年1～3月〉

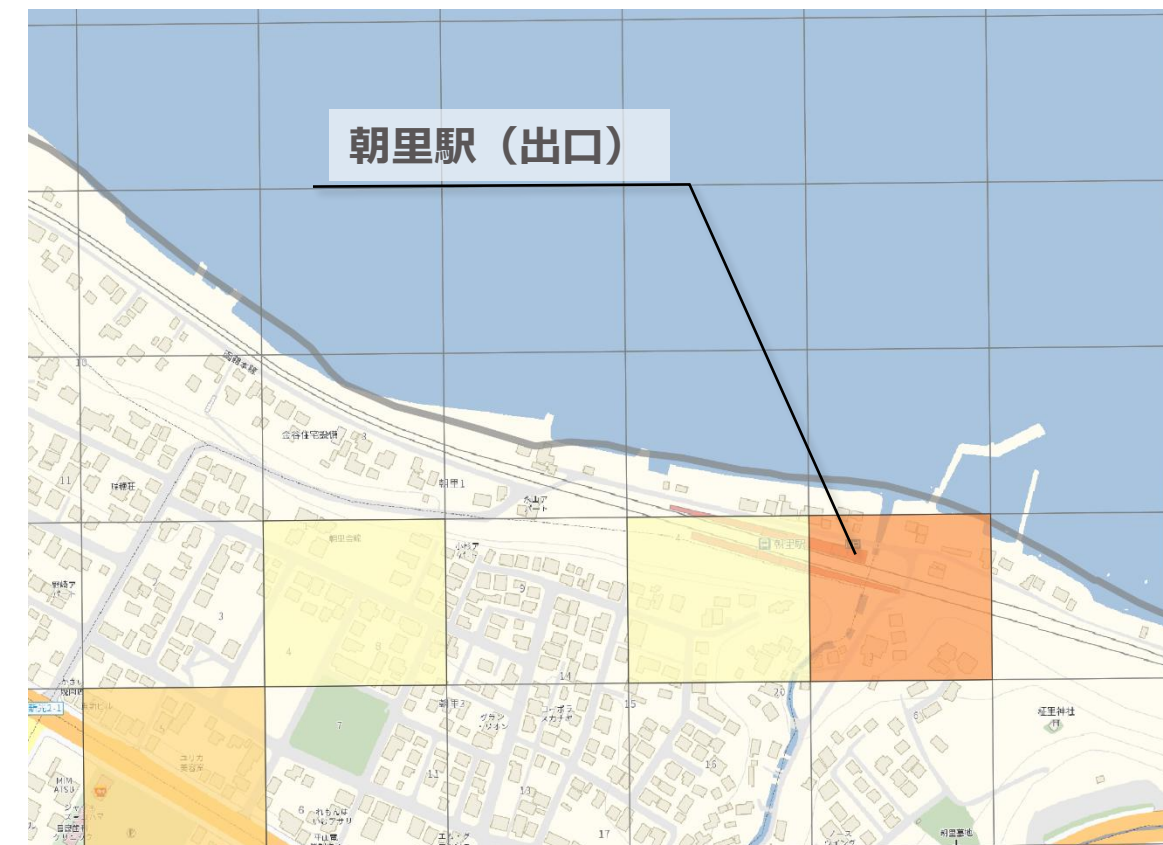
① 船見坂



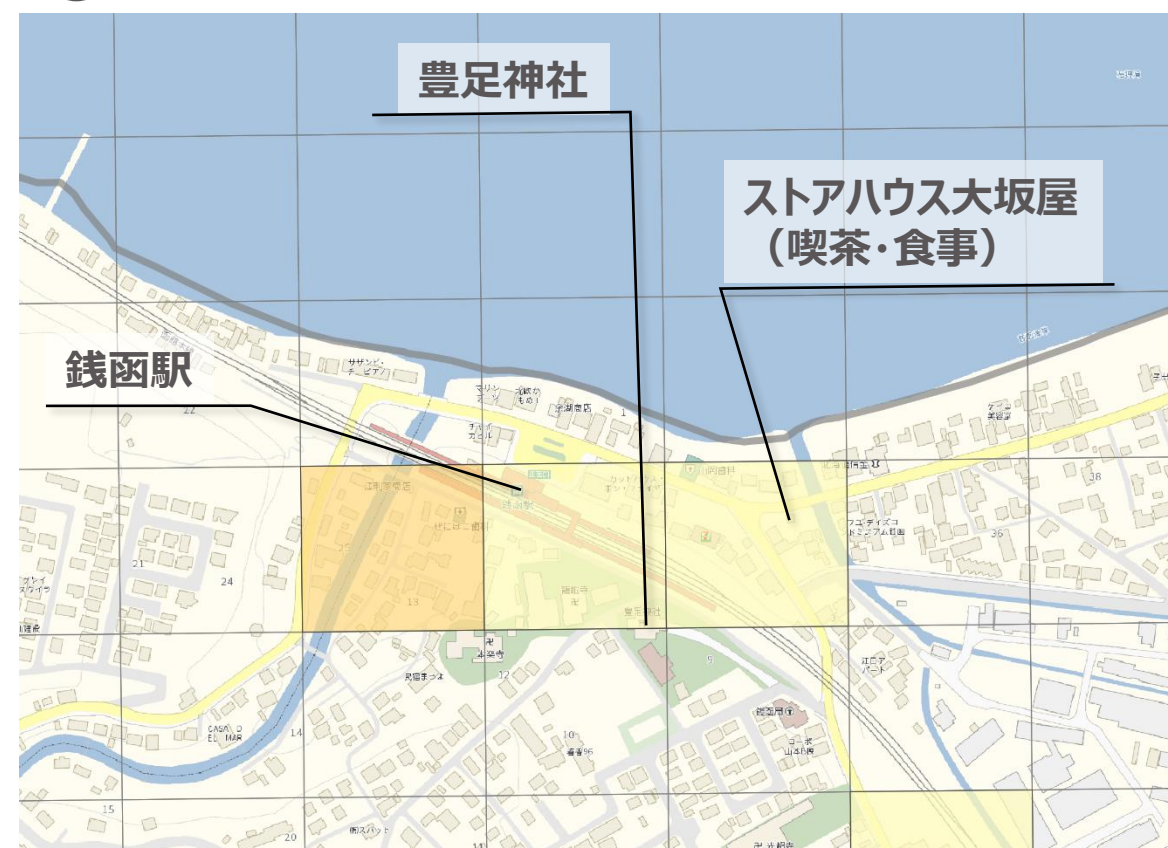
② 三本木急坂



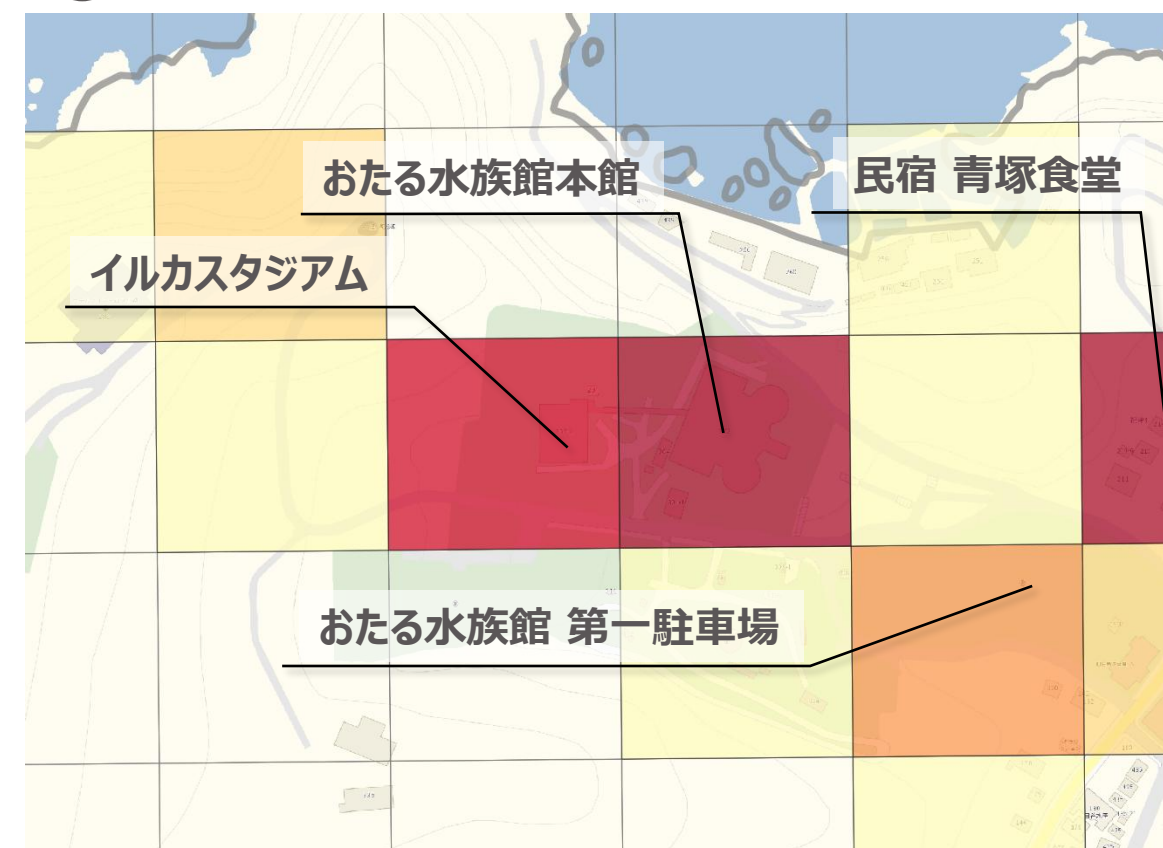
③ JR朝里駅



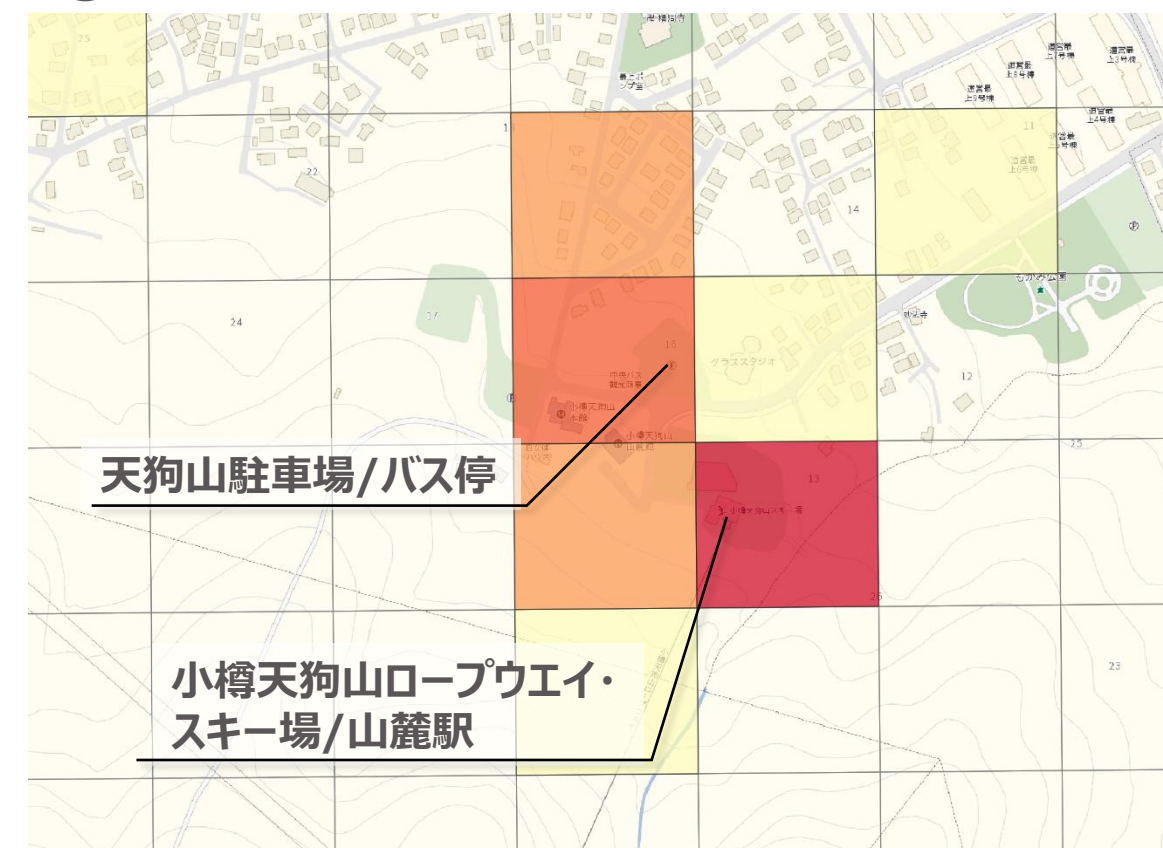
④ JR銭函駅



⑤ 祝津パノラマ展望台

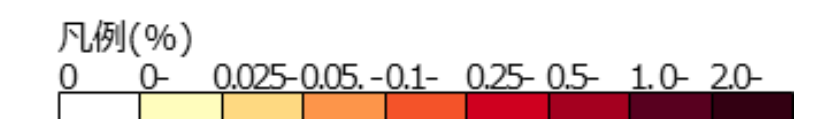


⑥ 天狗山ロープウェイ



※当該期間の9～20時台における小樽市への来訪者を100%としている。

※地図出典：NTTインフラネットの地図をもとに当社加工



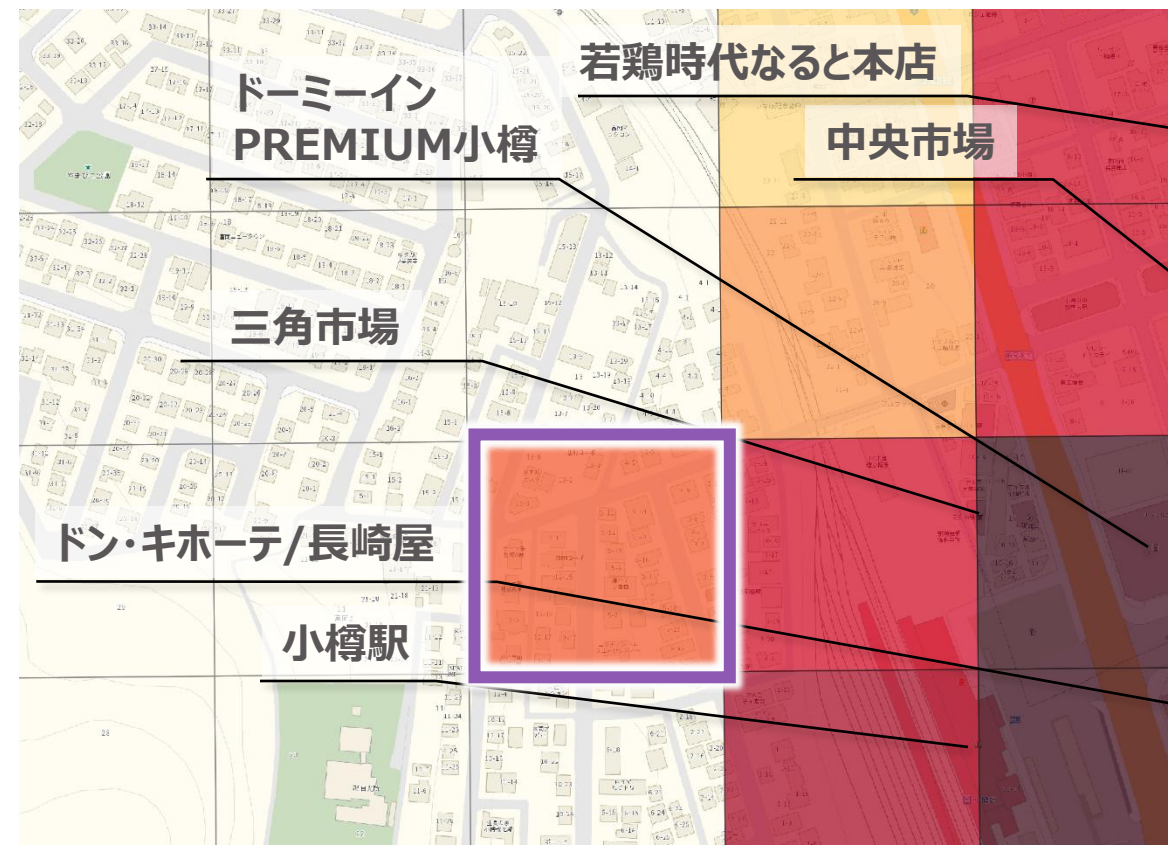
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

インバウンド来訪動向の概要（2025年）

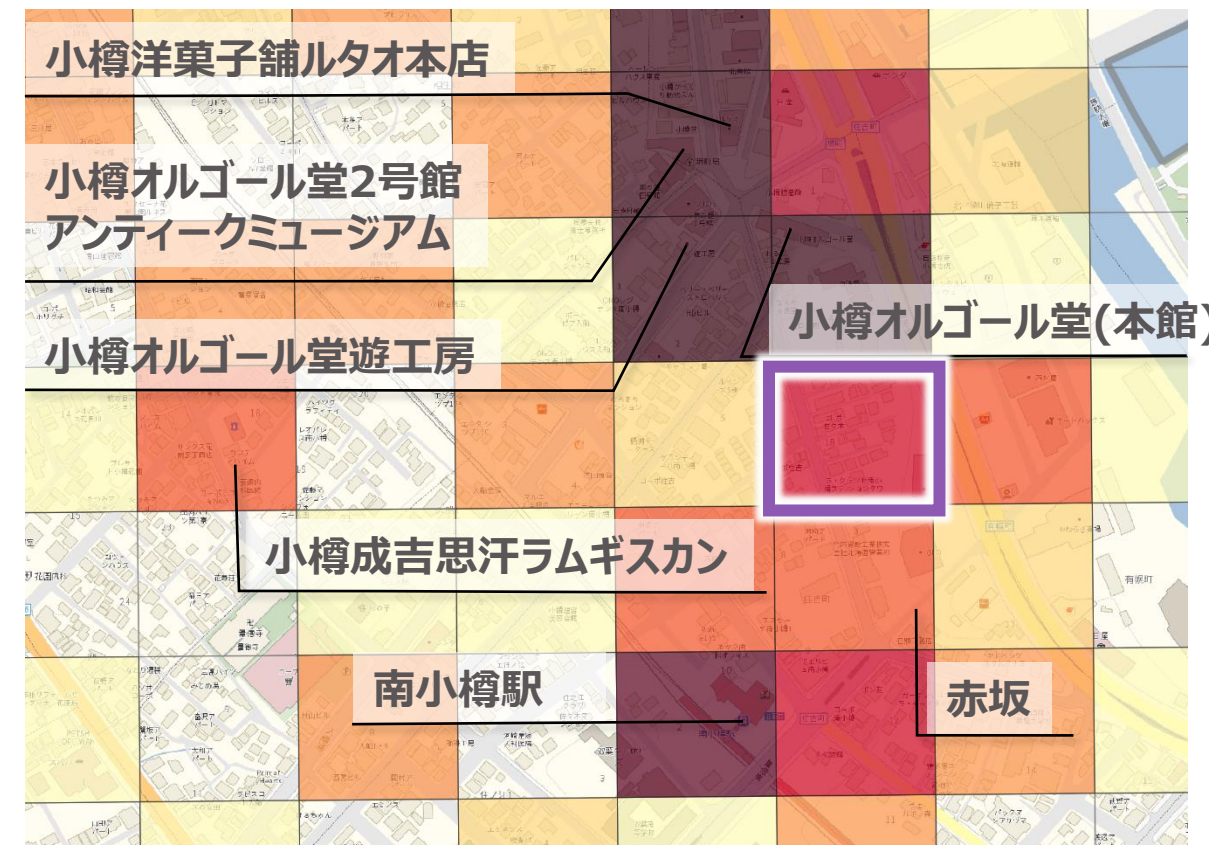
- 祝津パノラマ展望台周辺（おたる水族館）への集中は、2024年よりも緩和した。
- 他方、船見坂・三本木急坂の撮影スポット付近や、朝里駅・銭函駅・天狗山ロープウェイ周辺については、2024年よりも混雑している。

● 入込客分布（インバウンド・滞在5分以上）〈2025年1～3月〉

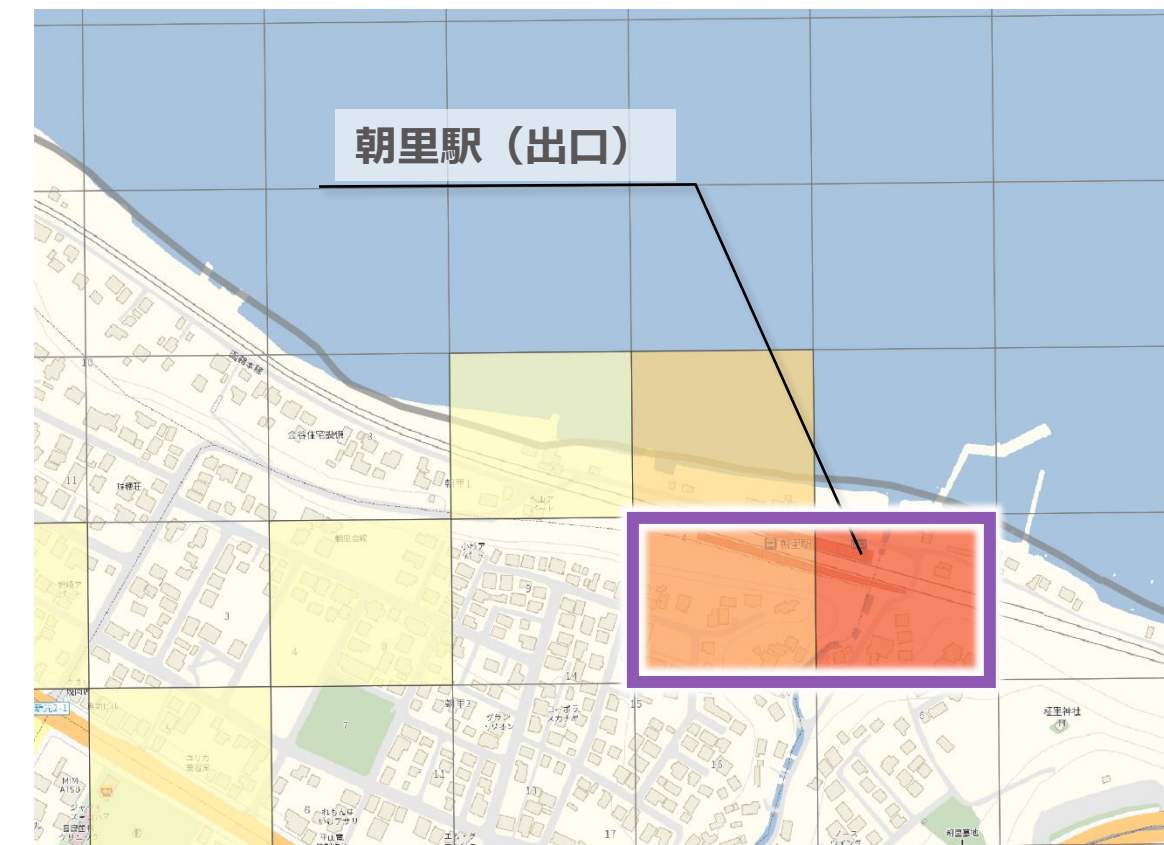
① 船見坂



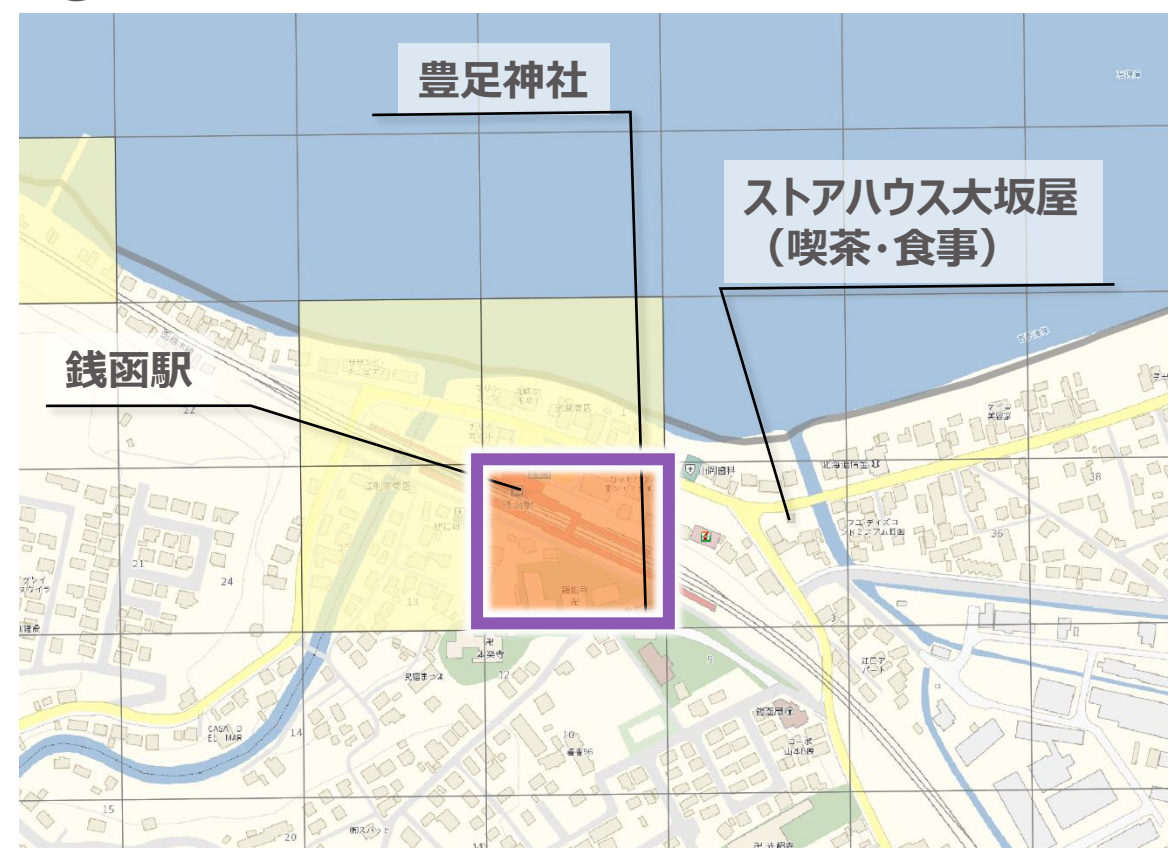
② 三本木急坂



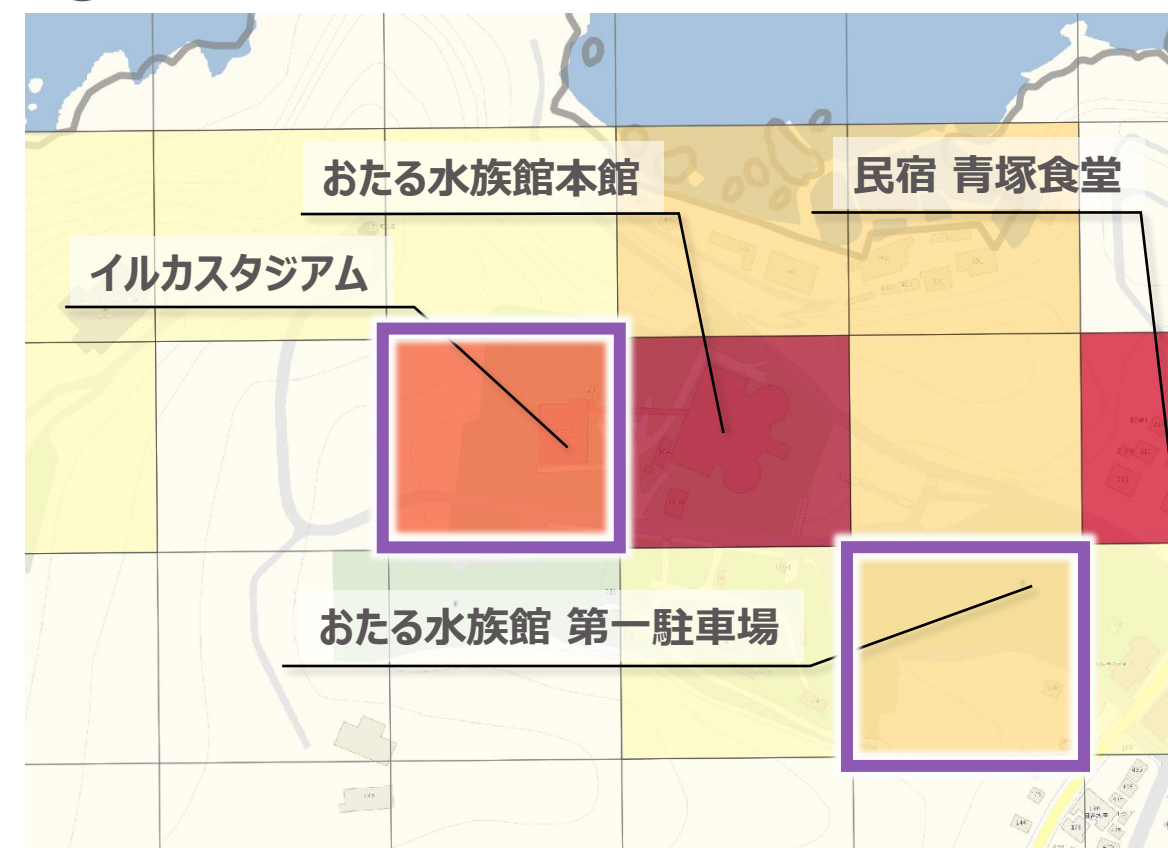
③ JR朝里駅



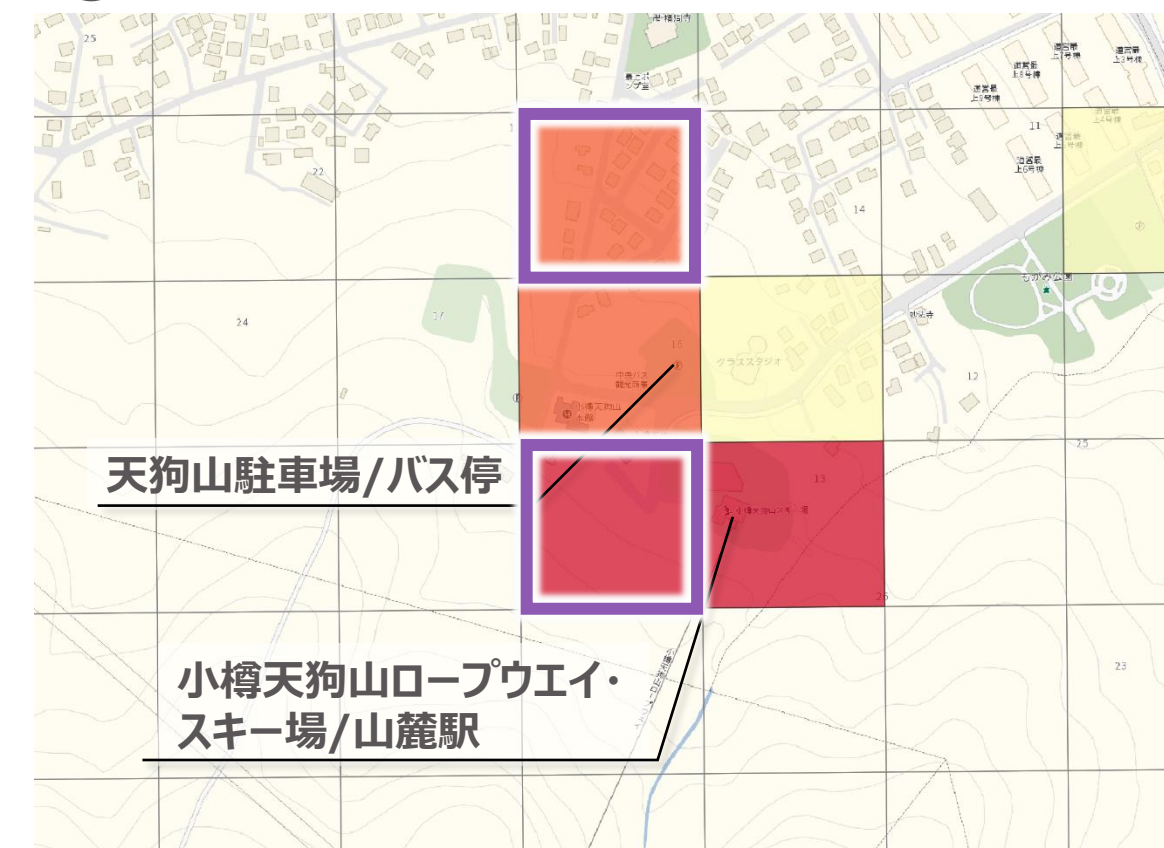
④ JR銭函駅



⑤ 祝津パノラマ展望台

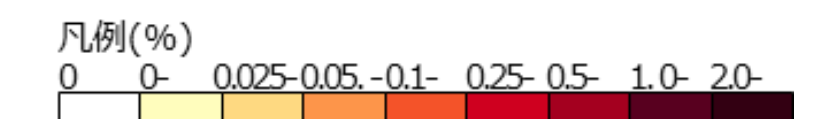


⑥ 天狗山ロープウェイ



※当該期間の9～20時台における小樽市への来訪者を100%としている。

※地図出典：NTTインフラネットの地図をもとに当社加工



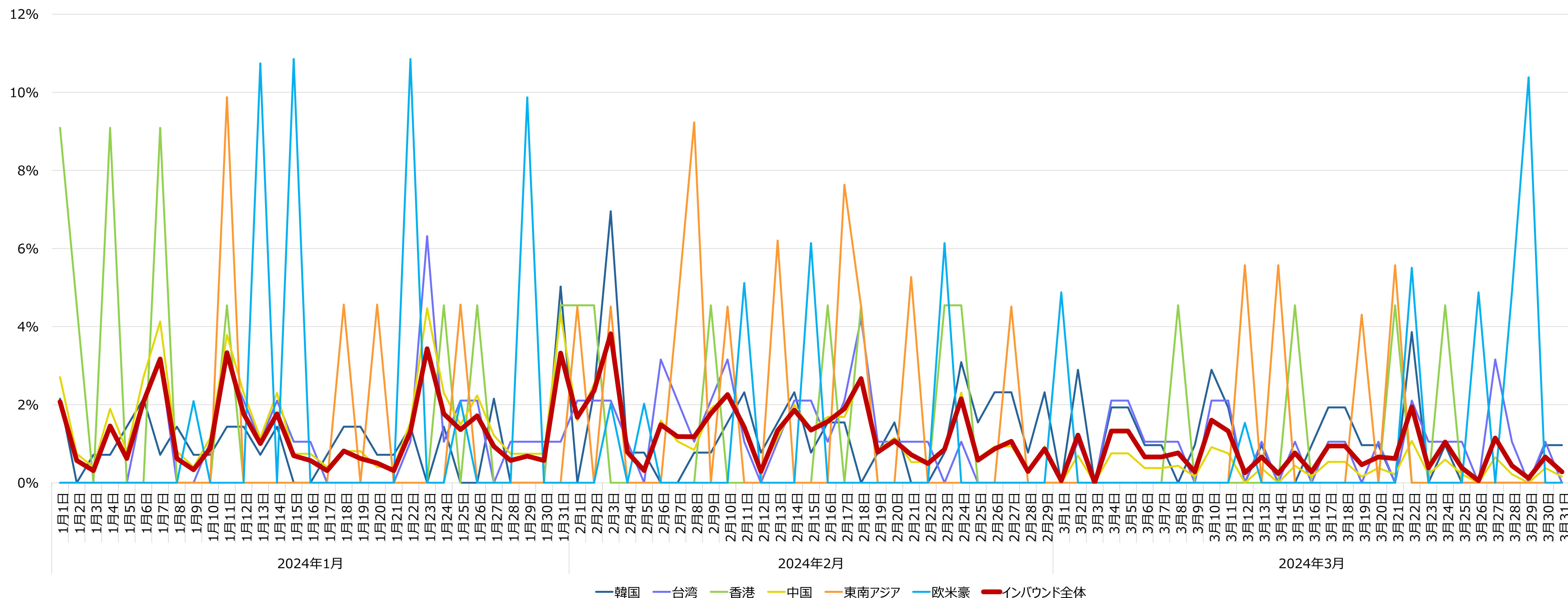
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺

船見坂周辺の分析結果（2024年）

- インバウンド全体の入込は、2月3日が最も多く、次いで1月23日、1月11日の順となっている。
- 市場別の入込状況を見ると、欧米豪は1月15日・1月22日、東南アジアは1月11日・2月8日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2024年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている

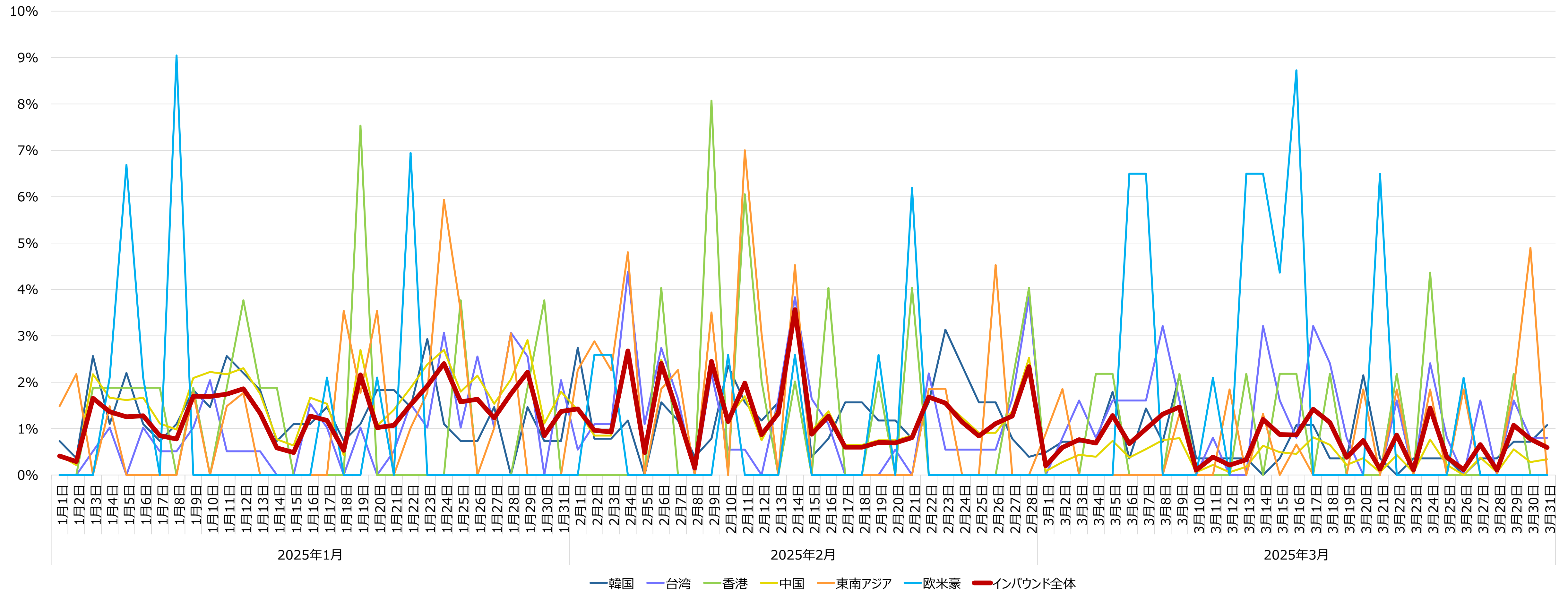


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺の分析結果（2025年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、2月14日が最も多く、次いで2月4日、2月9日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、欧米豪は1月9日、香港は2月9日、東南アジアは2月11日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2025年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている



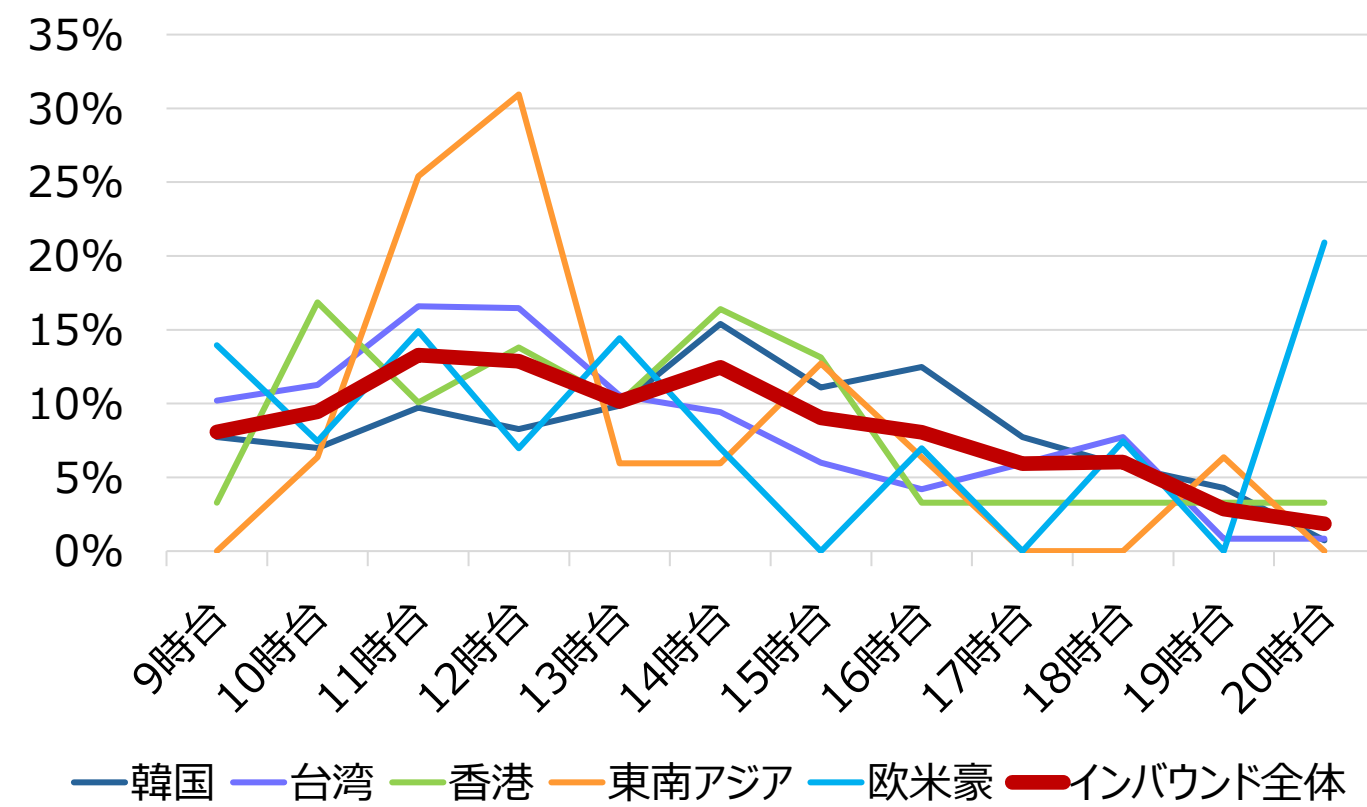
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺の分析結果（2024年/2025年）

- 来訪時間帯について、2024年は11時台、2025年は13時台がピークとなっており、ピーク時間帯における来訪率が2%増加している。
- 滞在時間について、2024年に比べ2025年は韓国・台湾・香港・欧米豪で増加傾向にある。

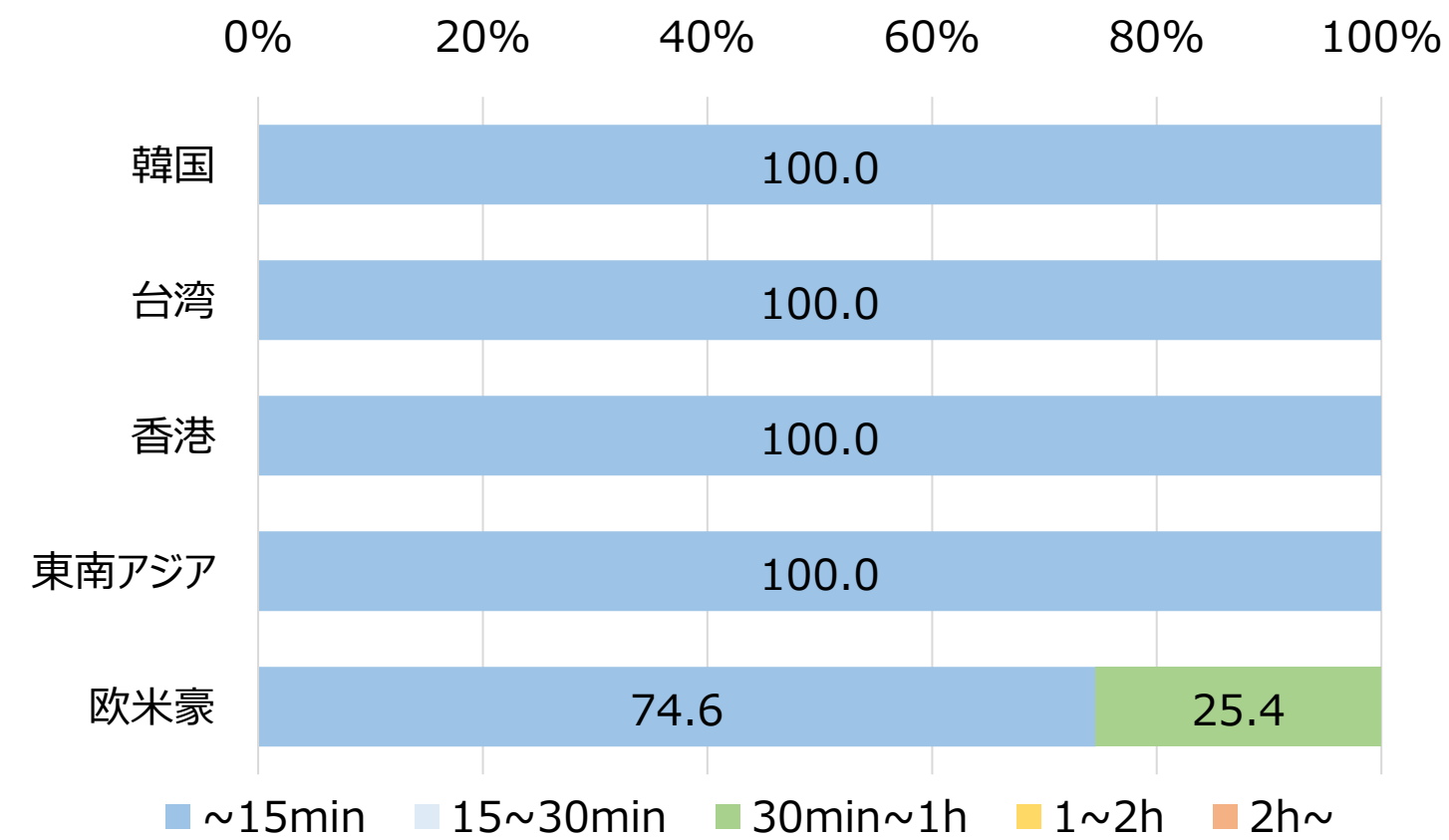
● 来訪時間帯分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉 全体ピーク：11時台（13%）



● 滞在時間分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉

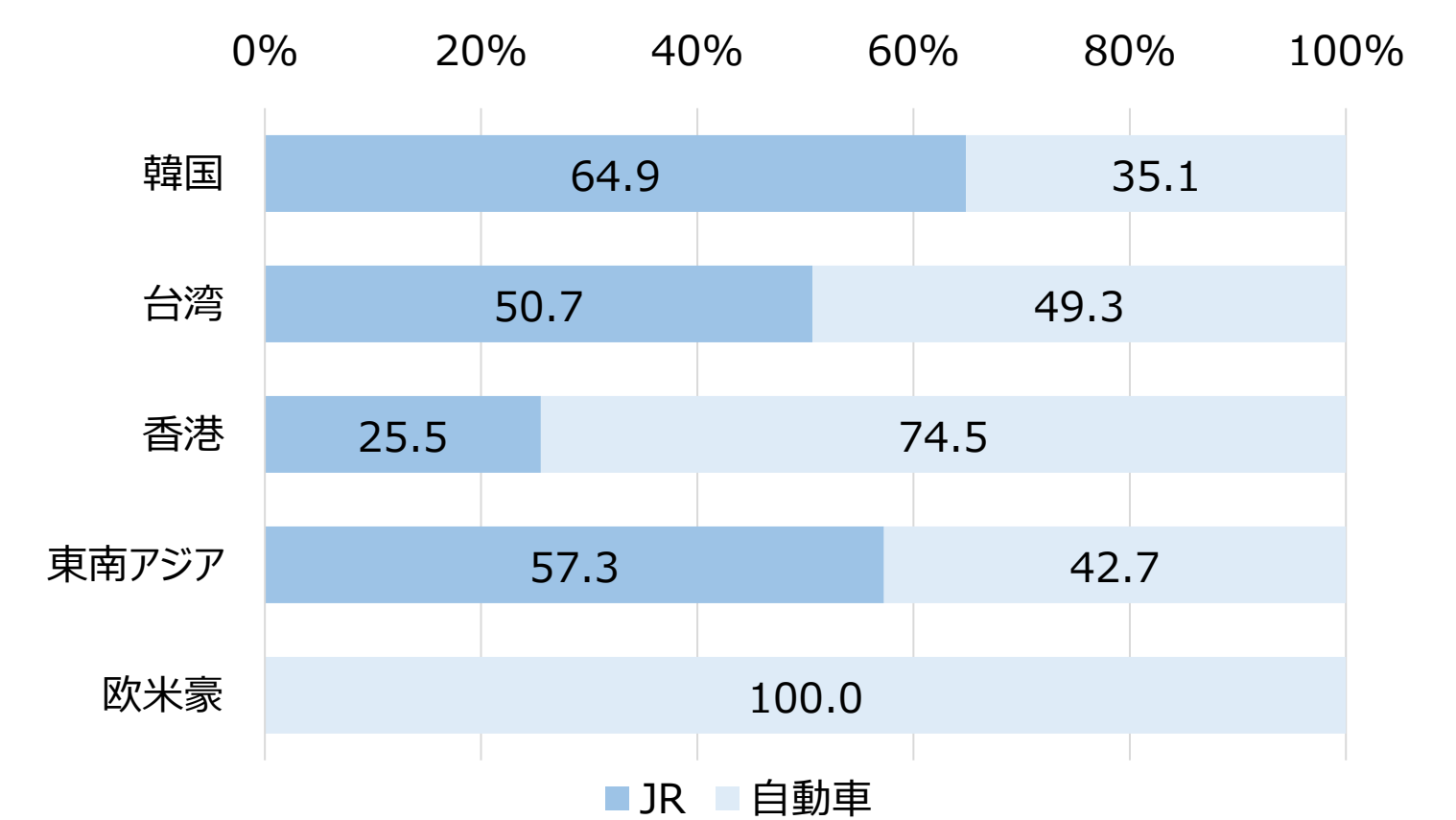


平均滞在時間 (分)

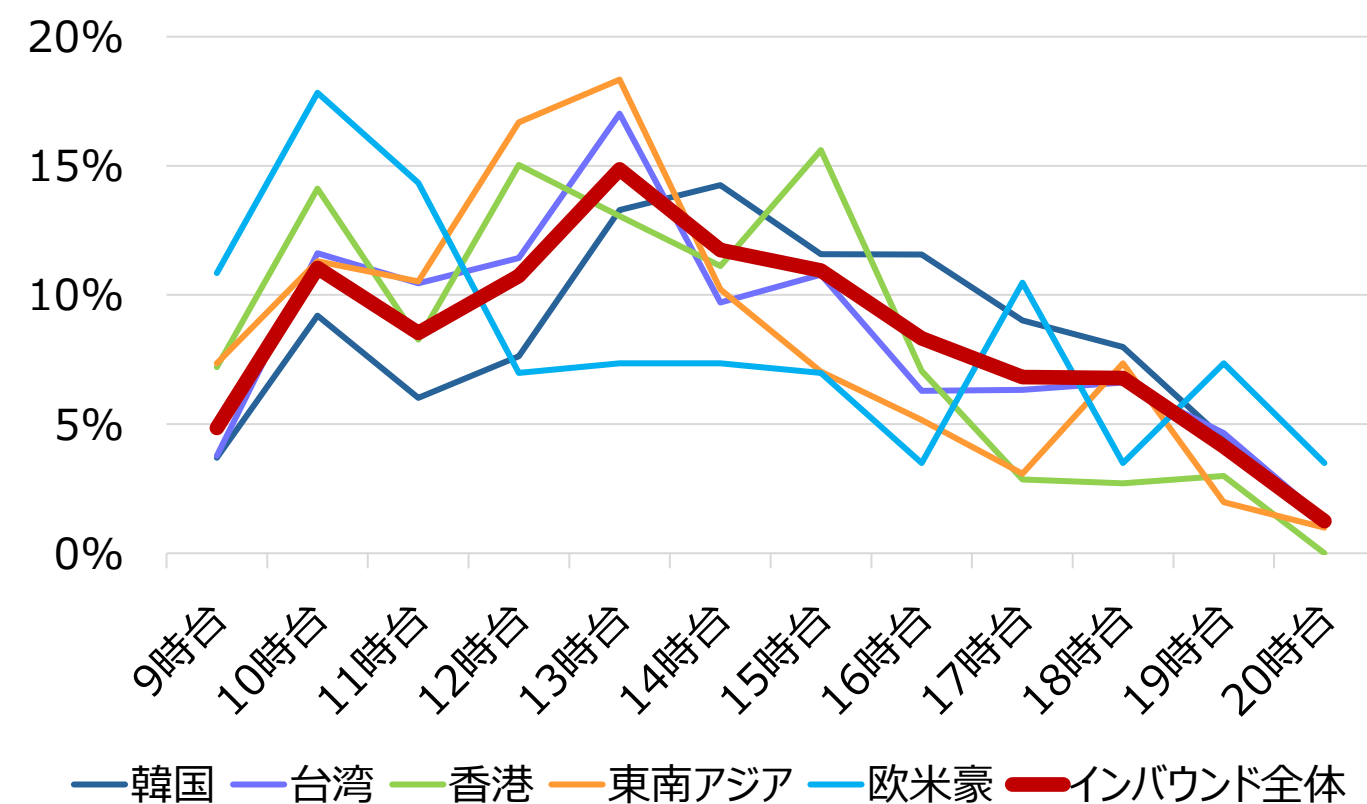
0:10
0:12
0:05
0:05
0:22

● 利用交通手段分布（インバウンド）

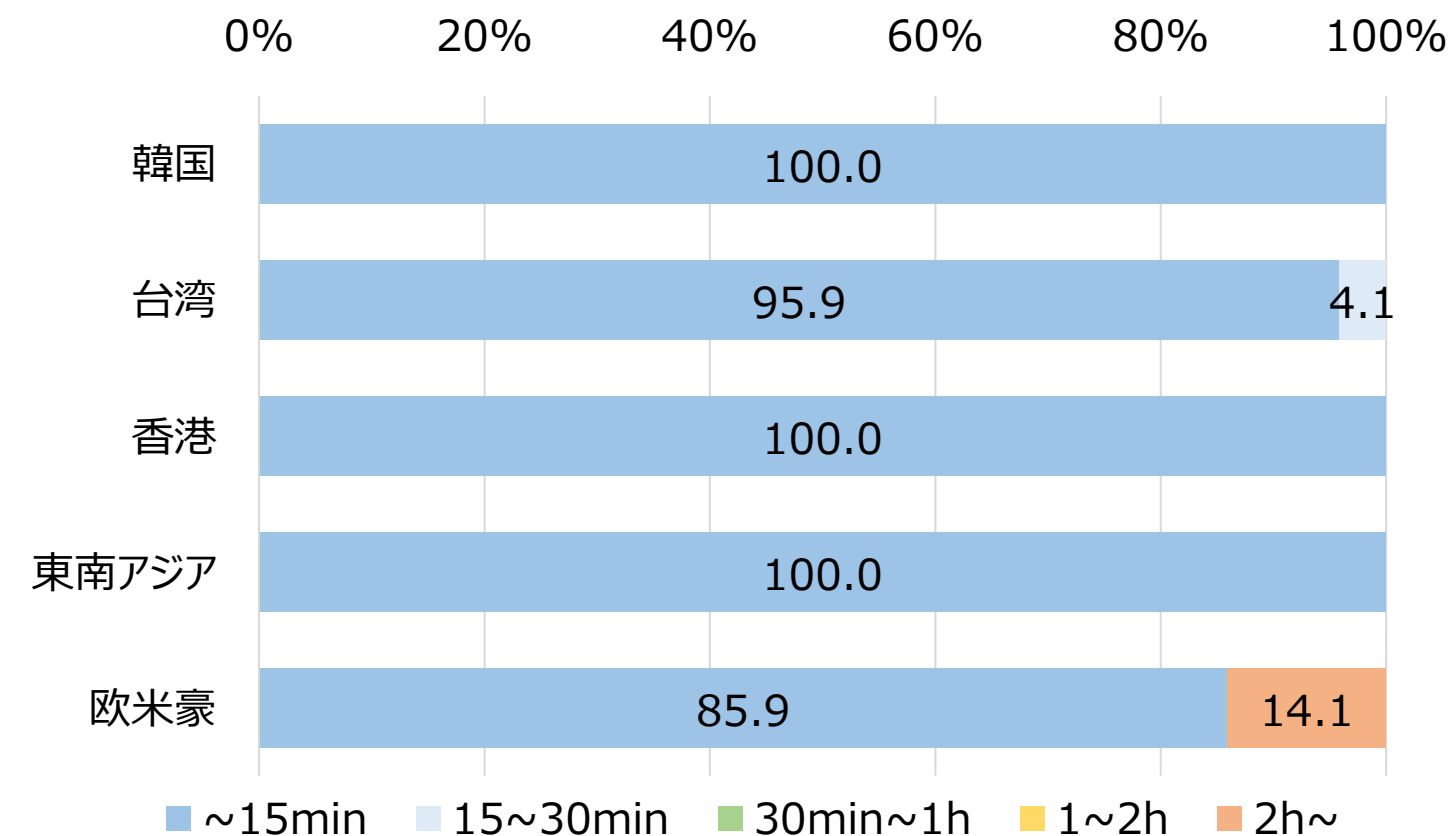
〈2024年1～3月〉



〈2025年1～3月〉 全体ピーク：13時台（15%）



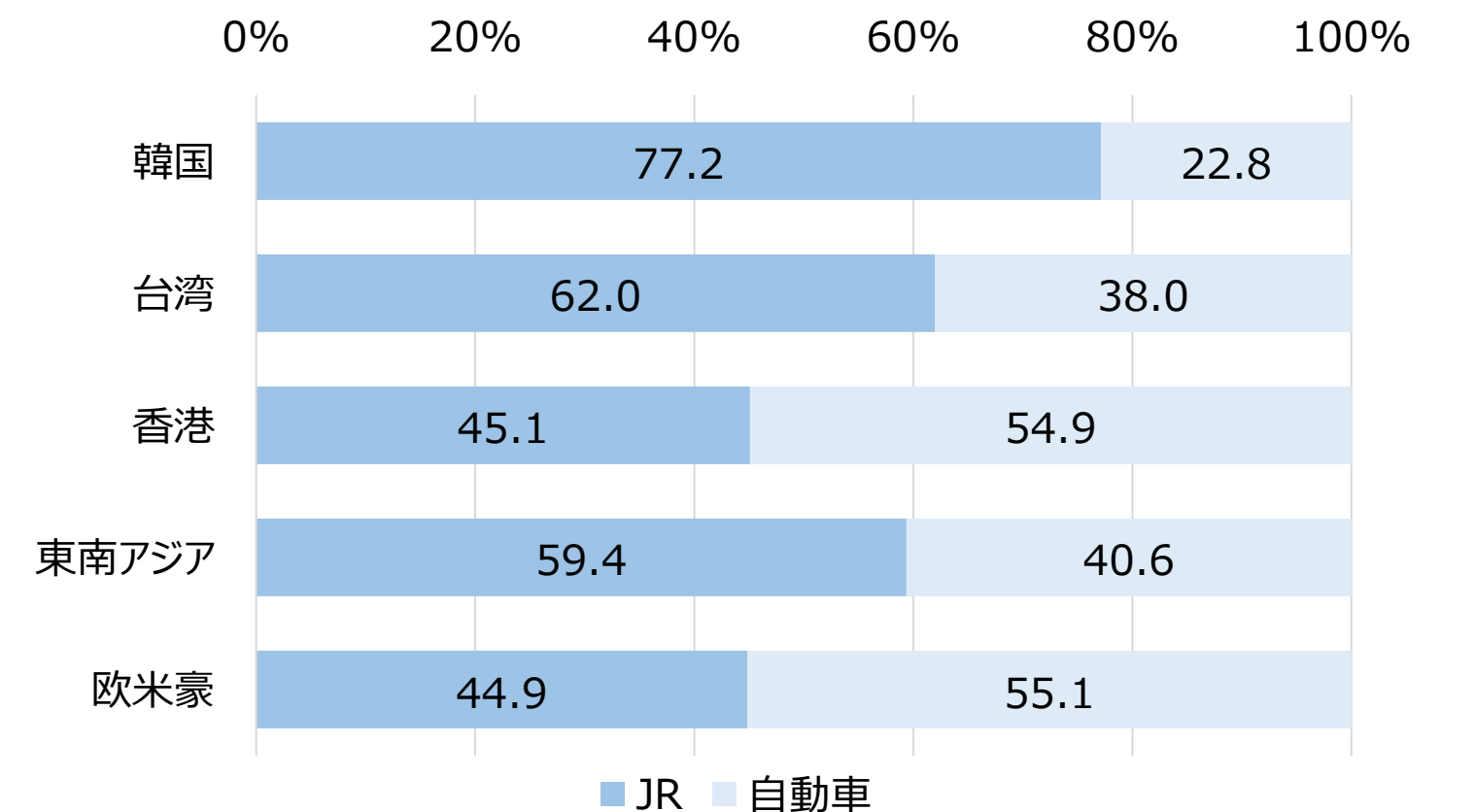
〈2025年1～3月〉



平均滞在時間 (分)

0:11
0:17
0:12
0:05
0:30

〈2025年1～3月〉



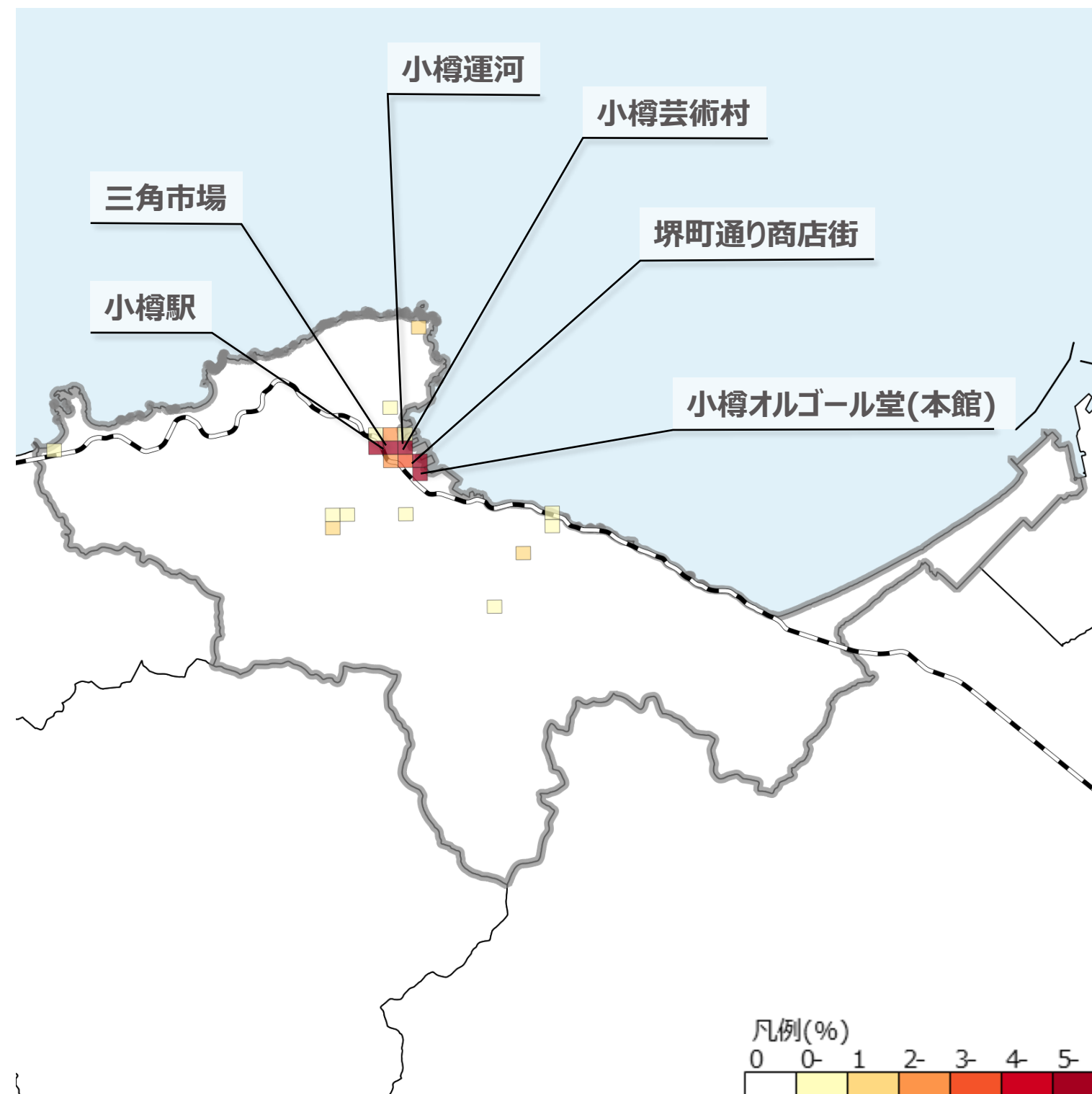
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺の分析結果（2024年）

- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・函館との周遊が多い。

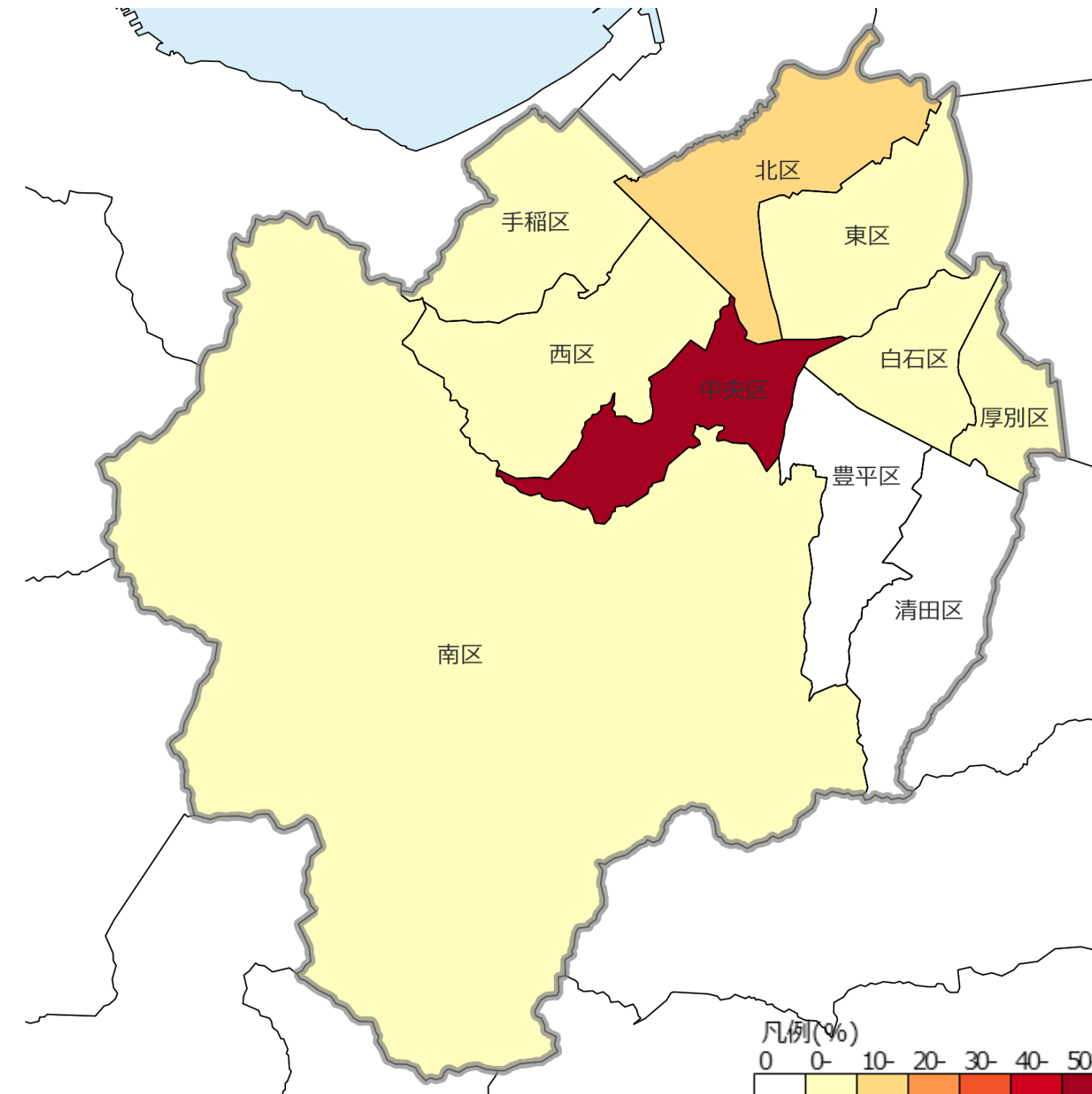
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2024年1～3月）

【小樽市内】



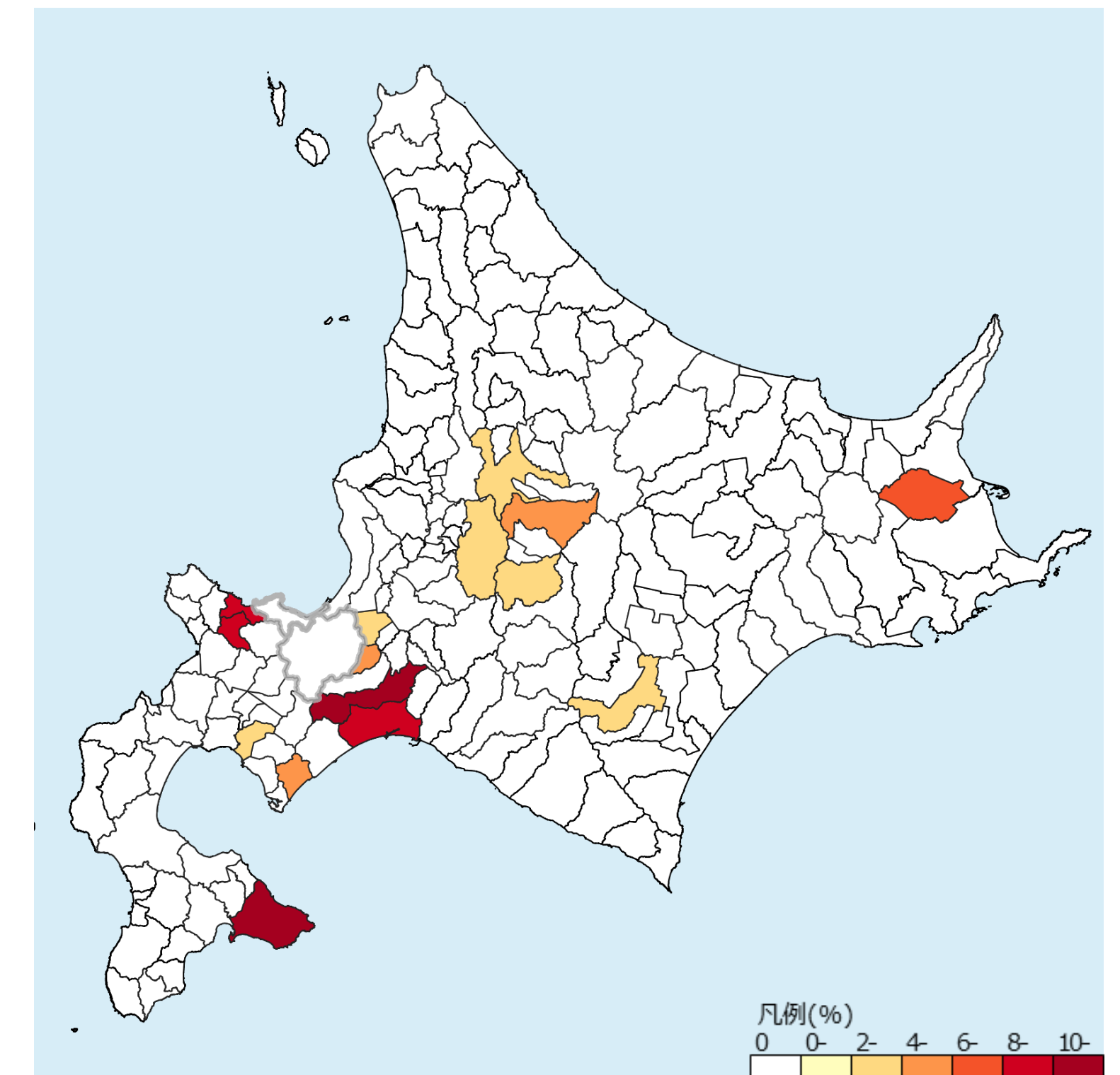
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

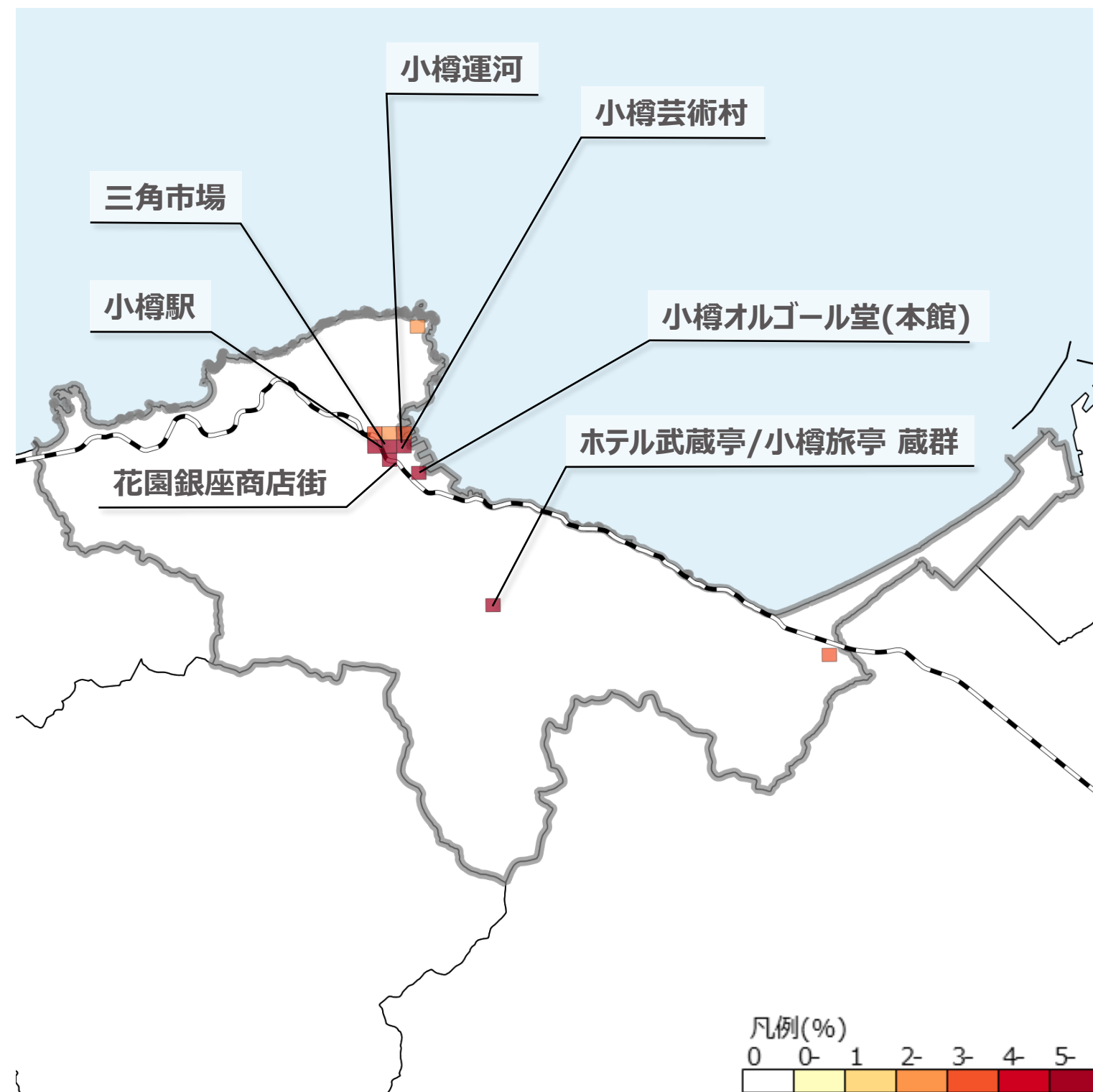
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺の分析結果（2024年）

- ▶ 小樽市では中心部エリアのほかホテル武蔵亭・小樽旅亭 蔵群付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では北区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか仁木・千歳・岩見沢・苫小牧・函館・蘭越との周遊が多い。

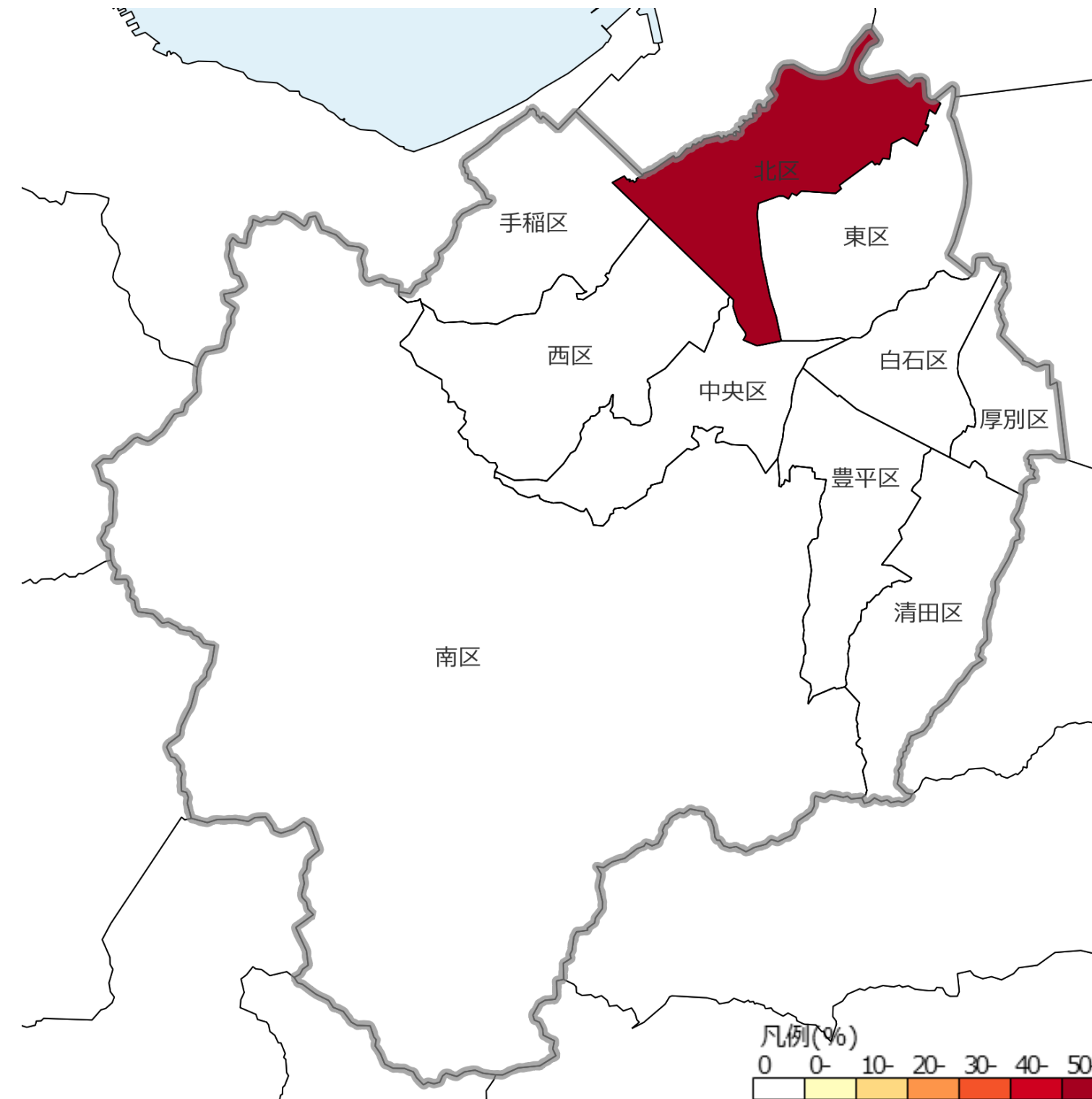
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2024年1～3月）

【小樽市内】



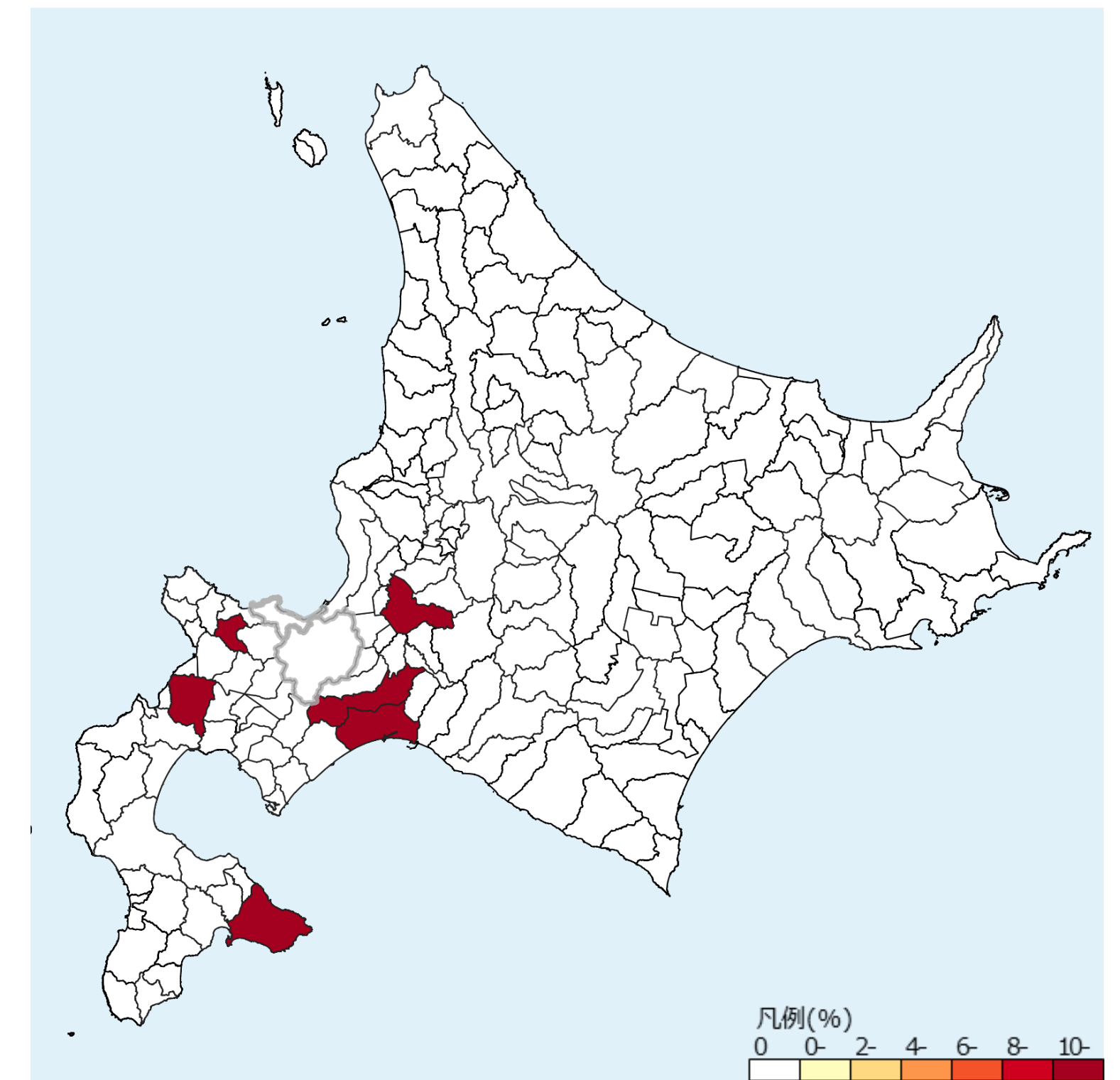
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

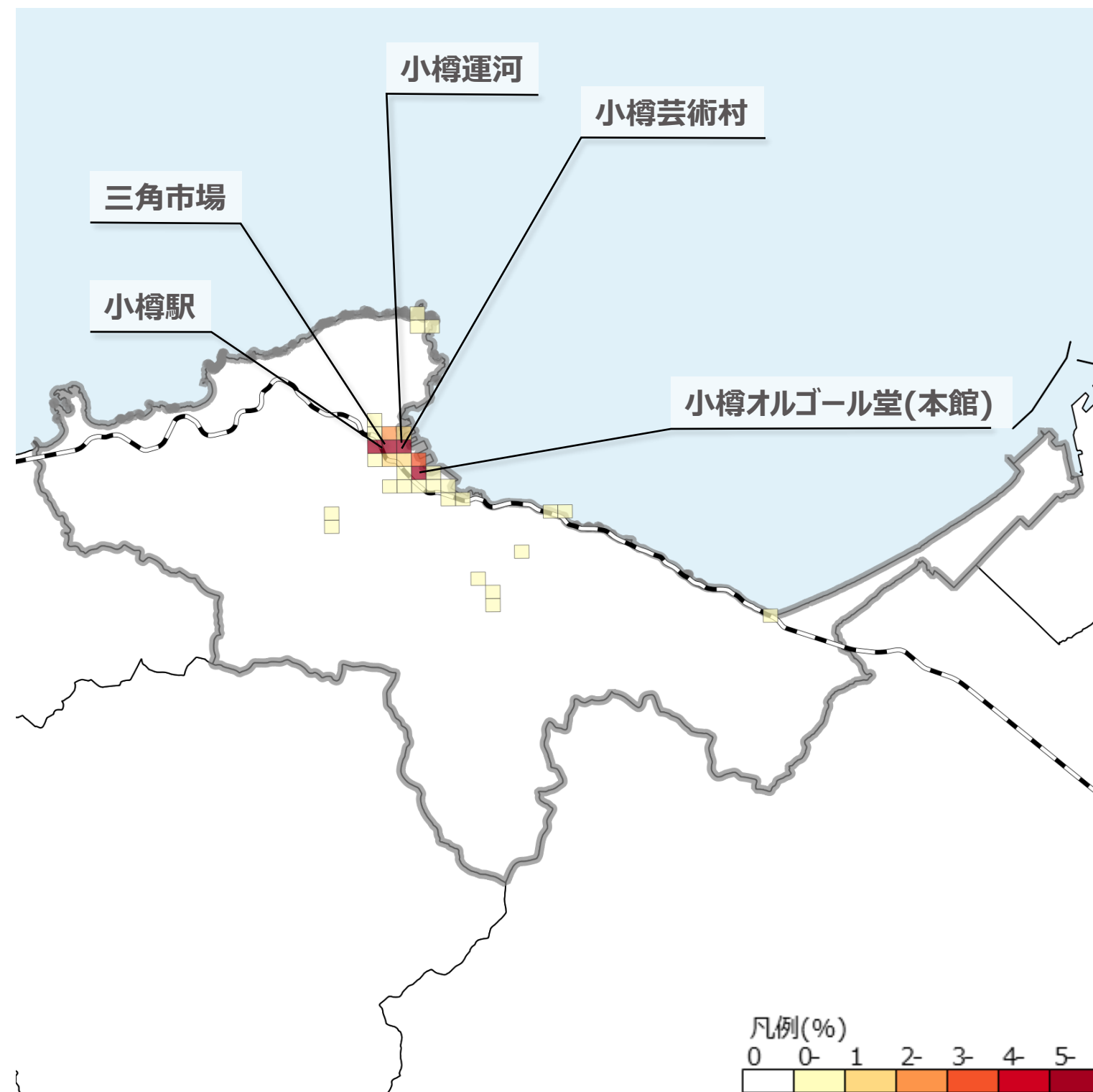
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺の分析結果（2025年）

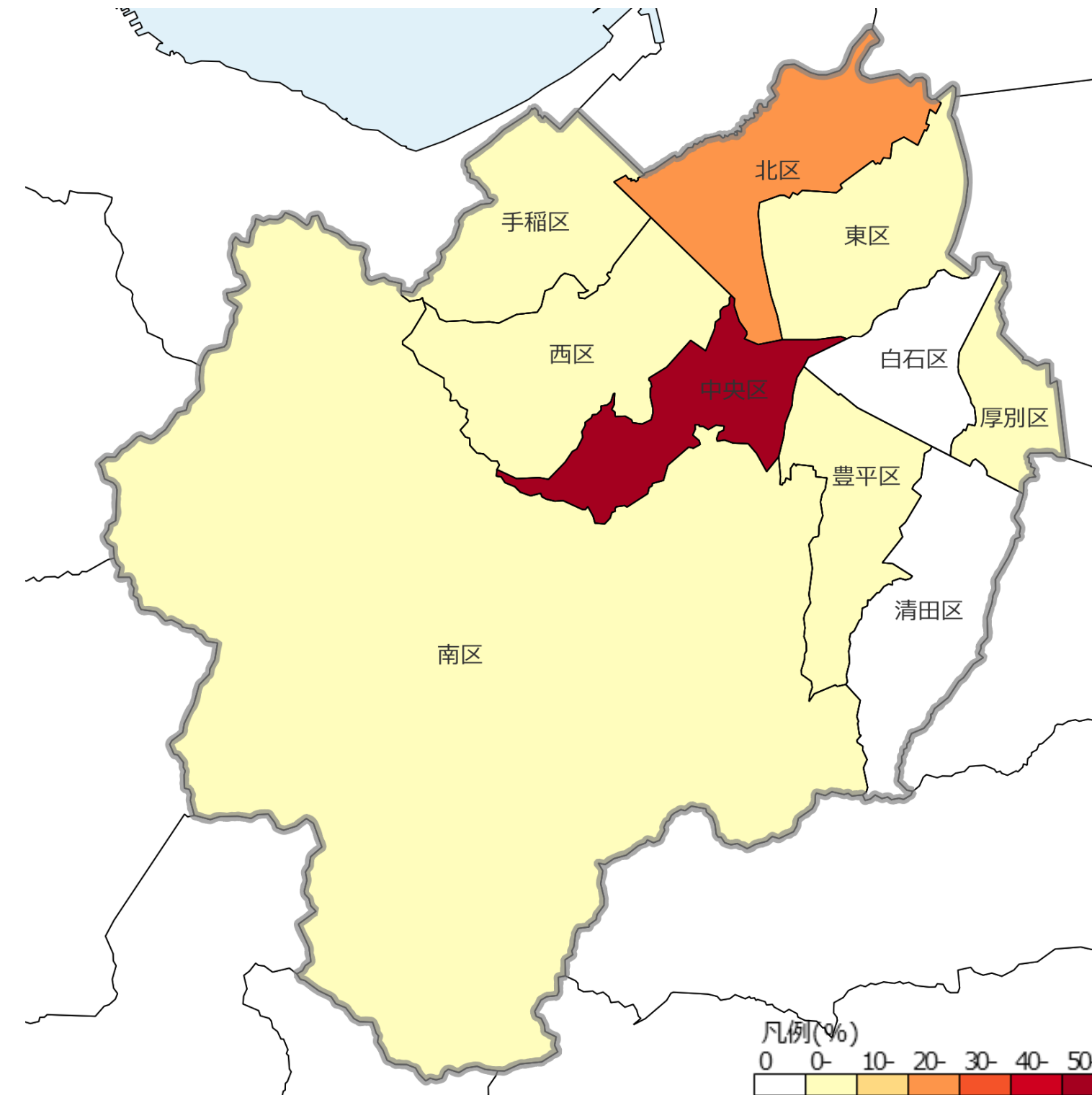
- ▶ 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・小樽オルゴール堂(本館)付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか仁木・千歳・余市との周遊が多い。

● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2025年1～3月）

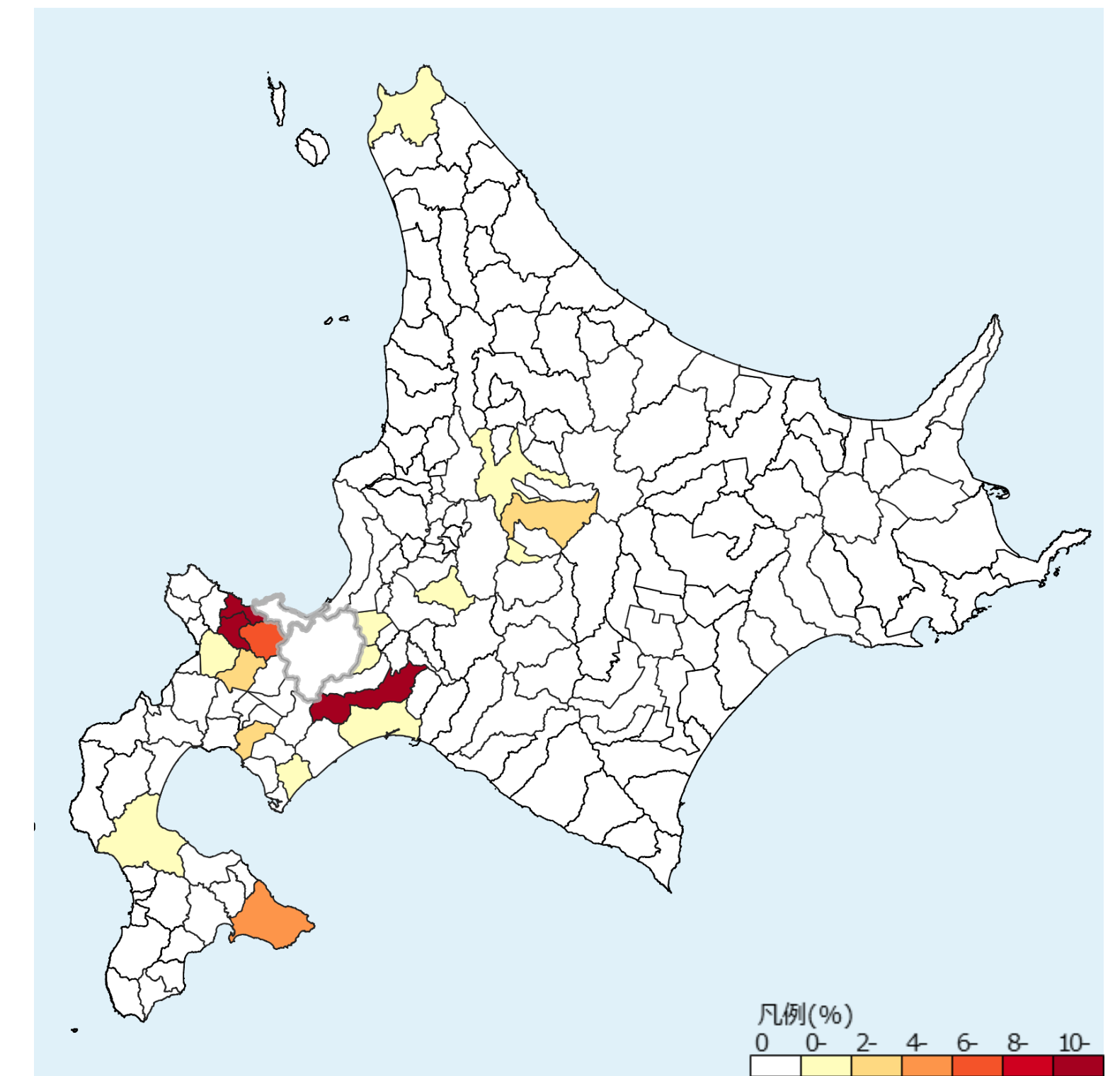
【小樽市内】



【札幌市内】



【全道】



※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

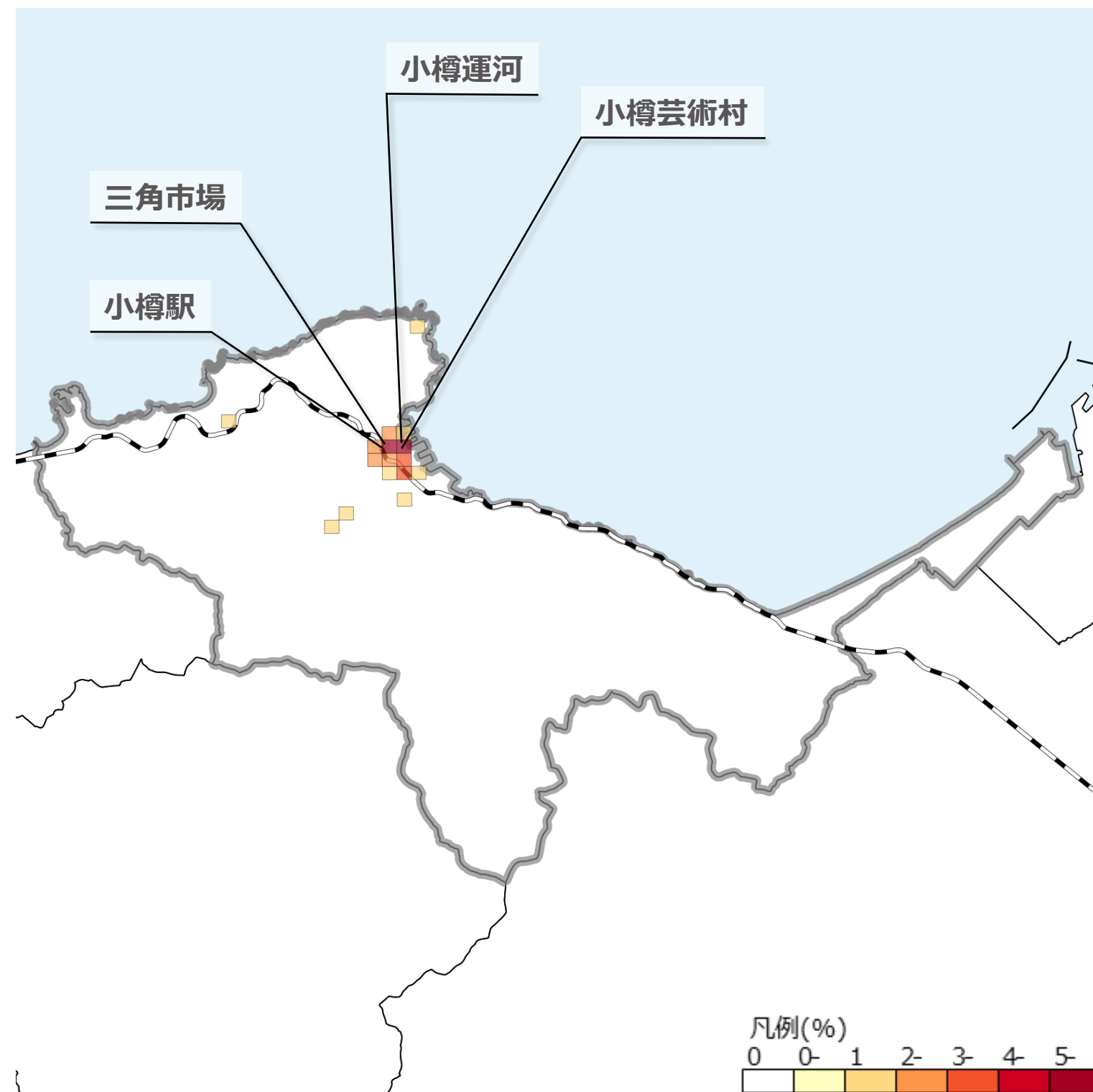
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

船見坂周辺の分析結果（2025年）

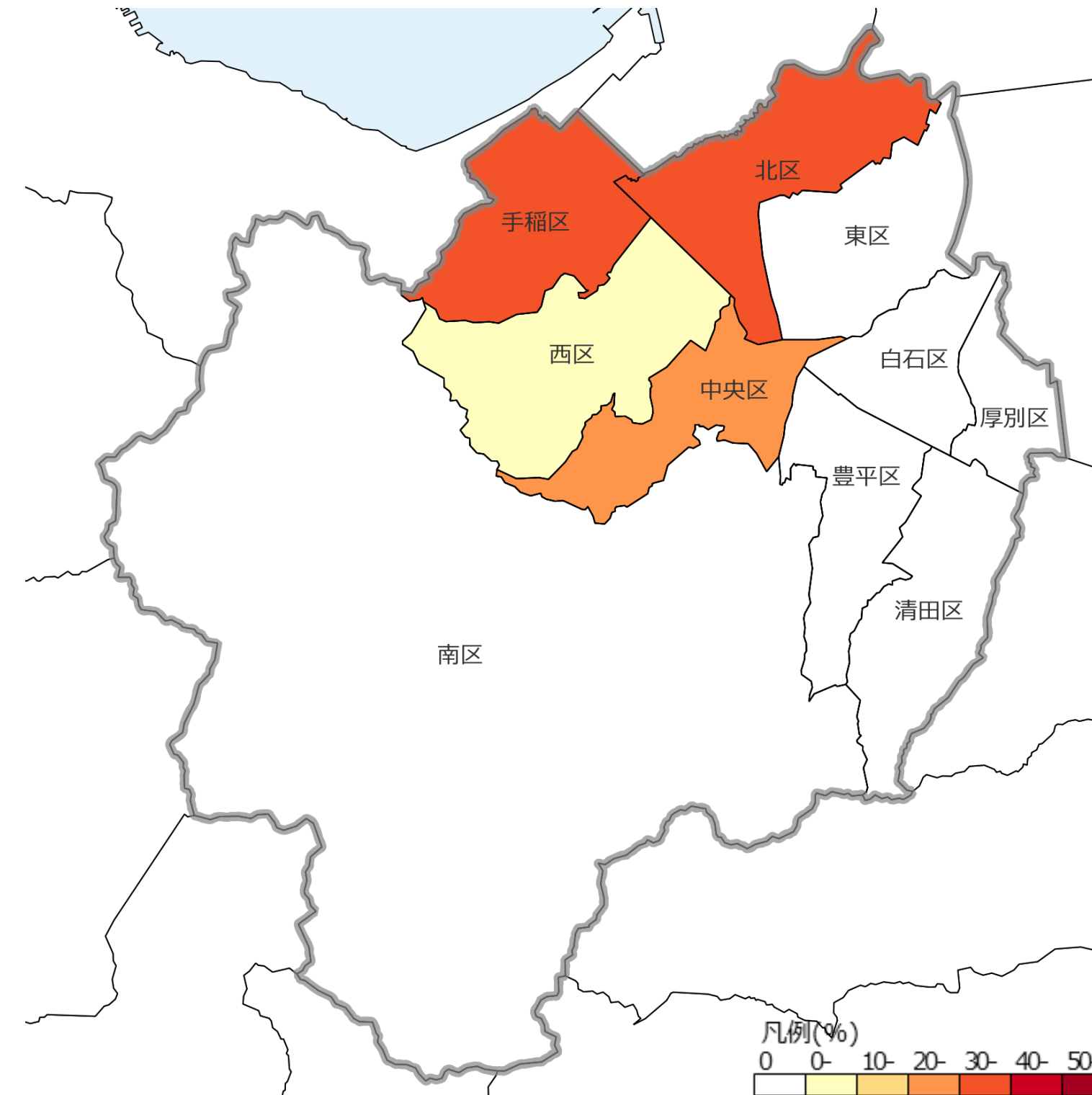
- ▶ 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では北区・手稲区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか仁木・千歳・共和との周遊が多い。

● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2025年1～3月）

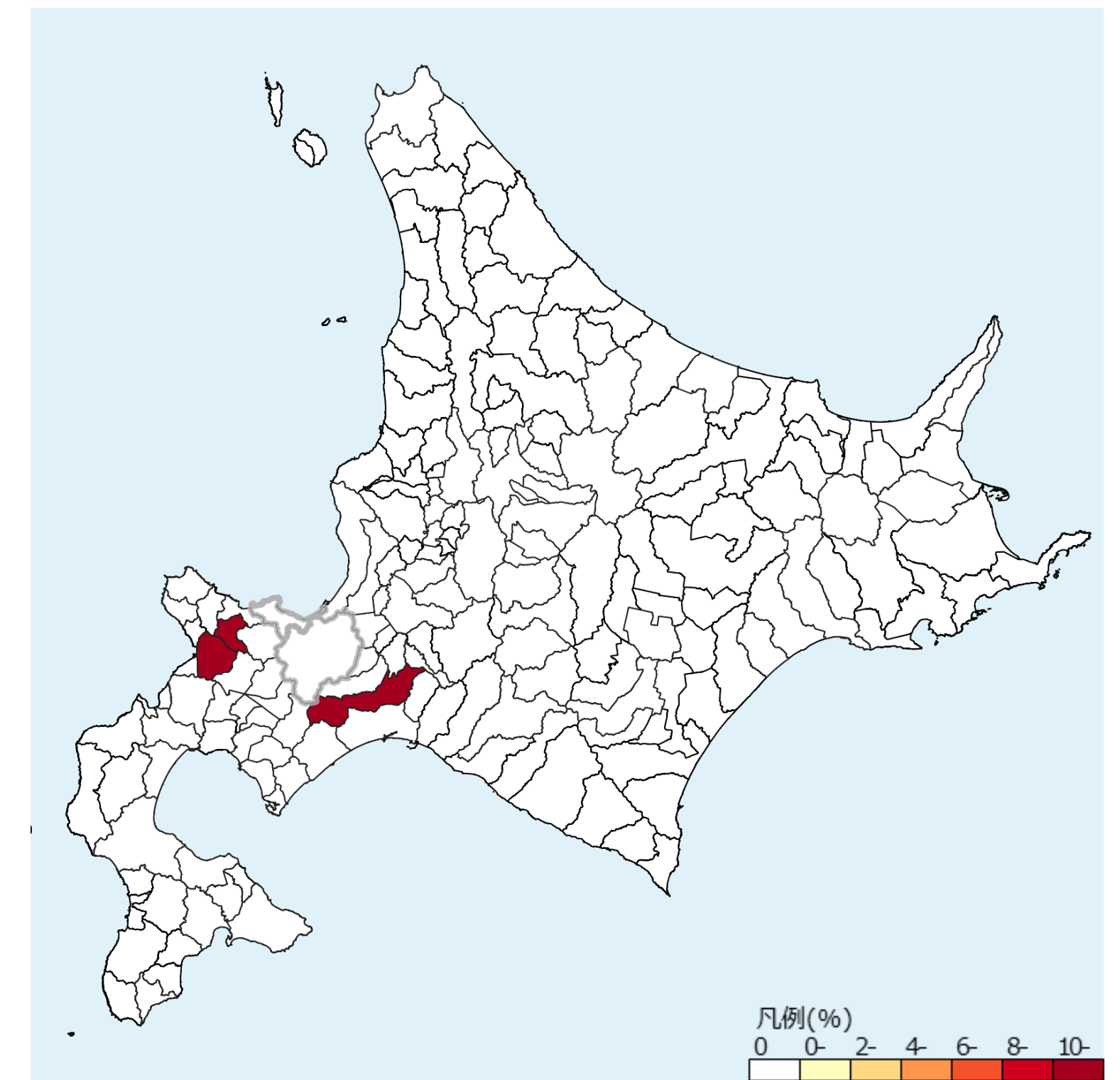
【小樽市内】



【札幌市内】



【全道】



※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

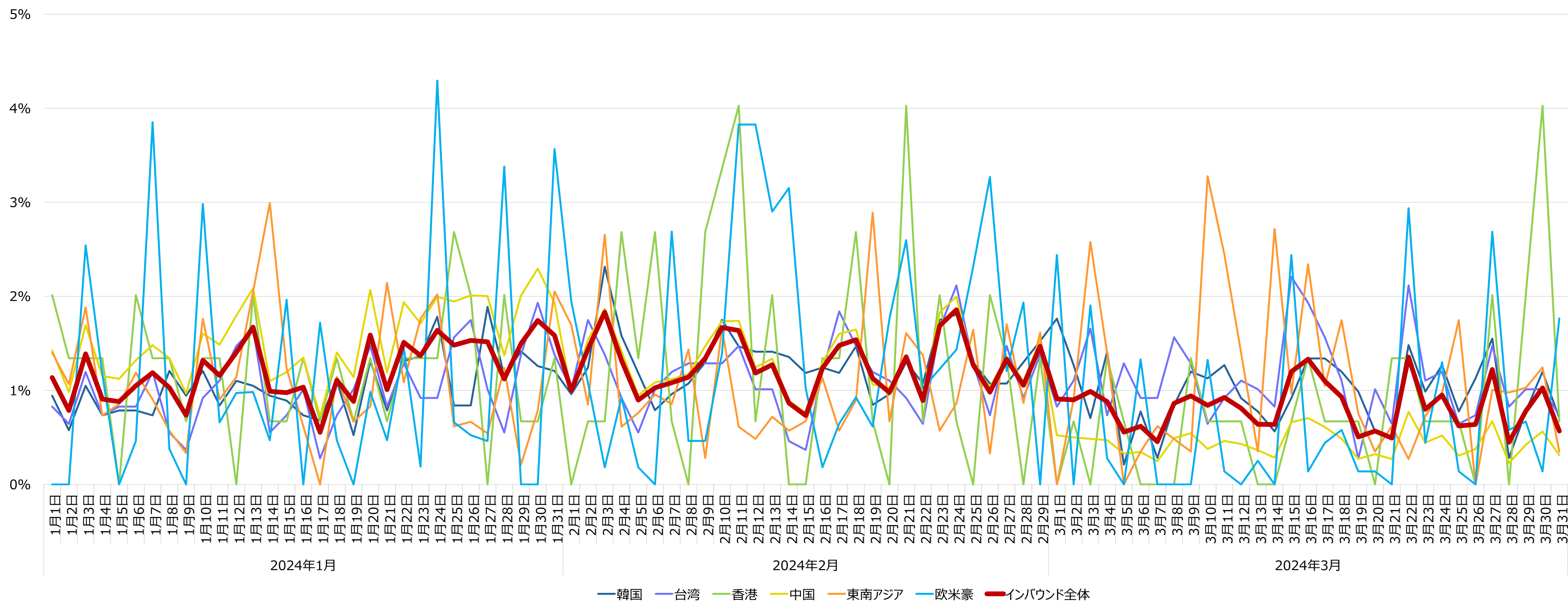
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺

三本木急坂周辺の分析結果（2024年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、2月24日が最も多く、次いで2月3日、1月30日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、欧米豪は1月24日、香港は2月11日・2月21日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2024年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている

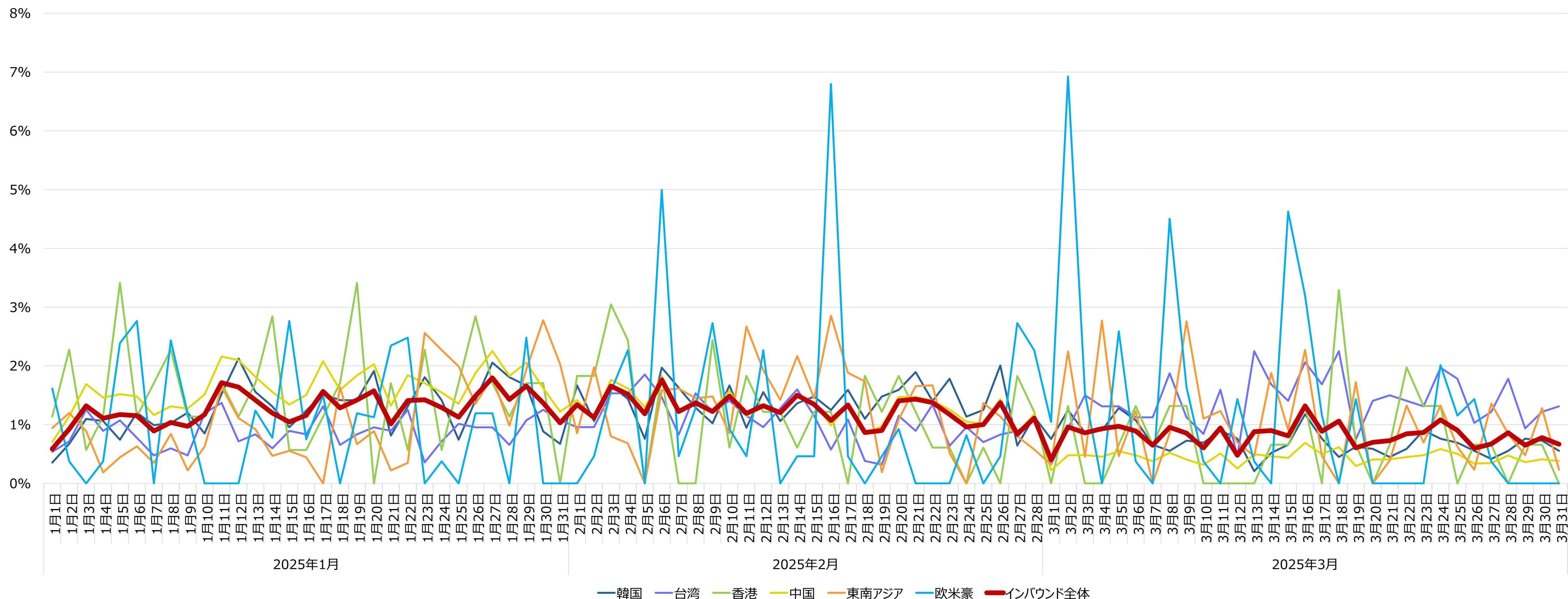


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺の分析結果（2025年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、1月27日が最も多く、次いで2月6日、1月11日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、欧米豪は3月2日・2月16日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2025年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている



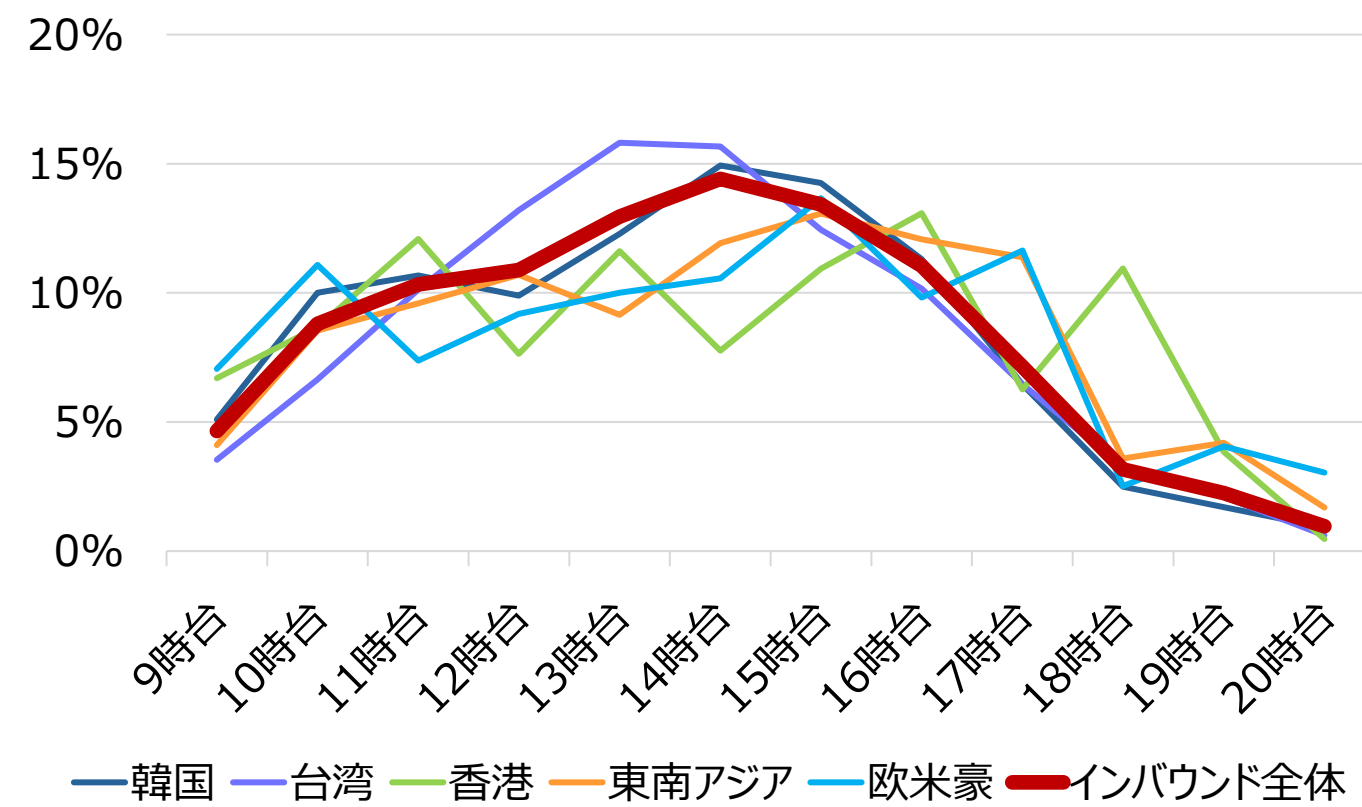
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺の分析結果（2024年/2025年）

- ▶ 来訪時間帯について、2024年・2025年とも14時台がピークとなっており、ピーク時間帯における来訪率も同程度である。
- ▶ 滞在時間について、2024年に比べ2025年は台湾・東南アジアで増加傾向、香港で減少傾向にある。

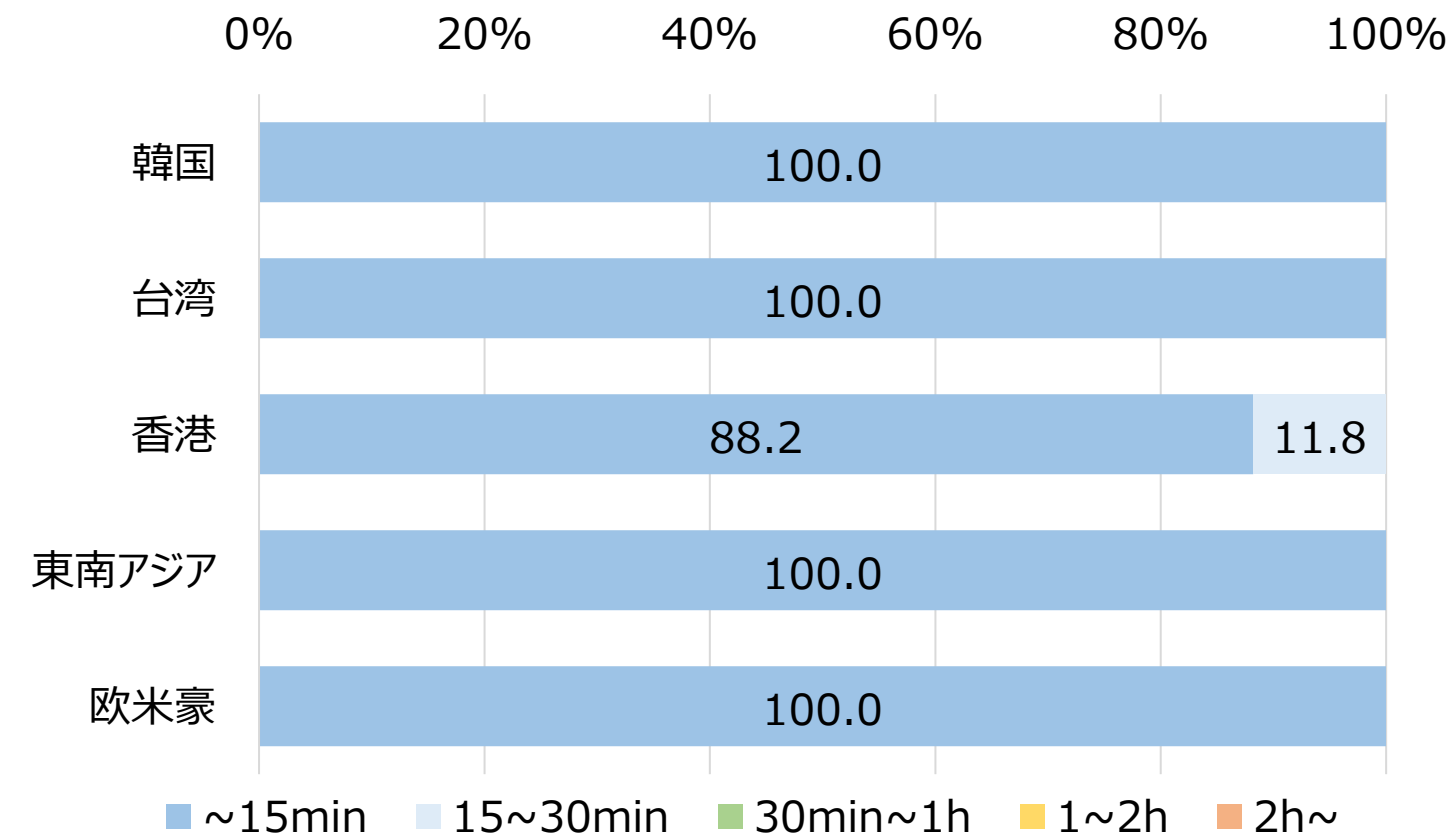
● 来訪時間帯分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉 全体ピーク：14時台（14%）



● 滞在時間分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉

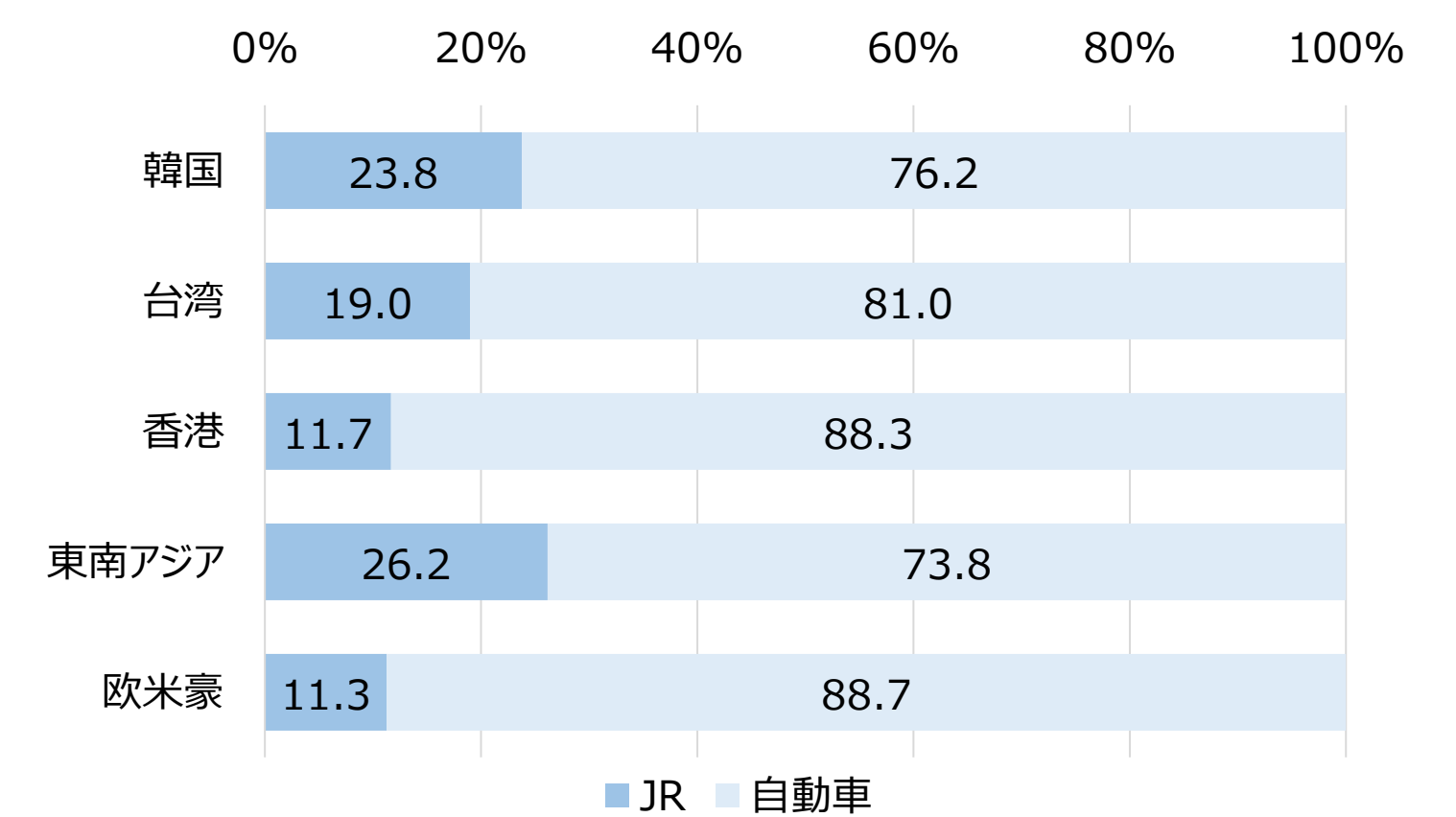


平均滞在時間（分）

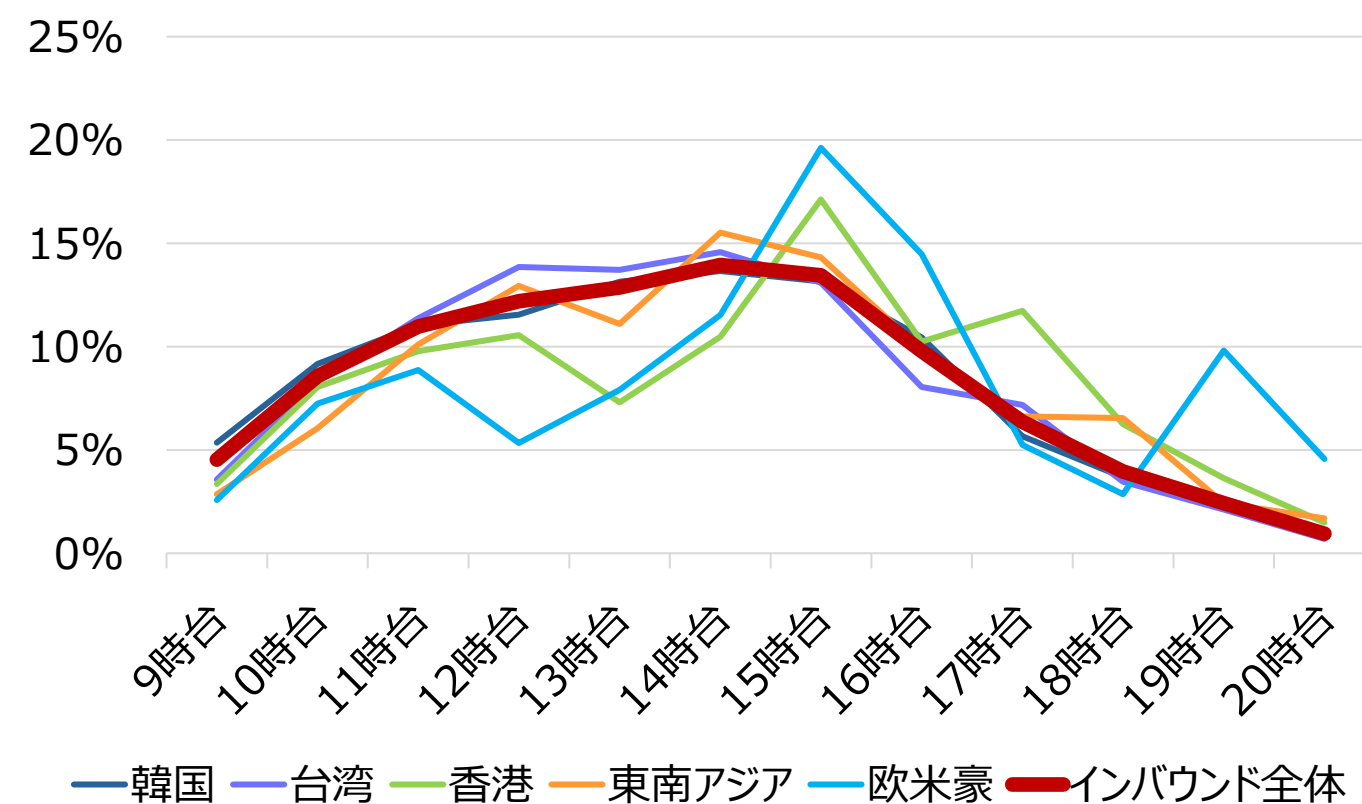
0:08
0:08
0:25
0:05
0:05

● 利用交通手段分布（インバウンド）

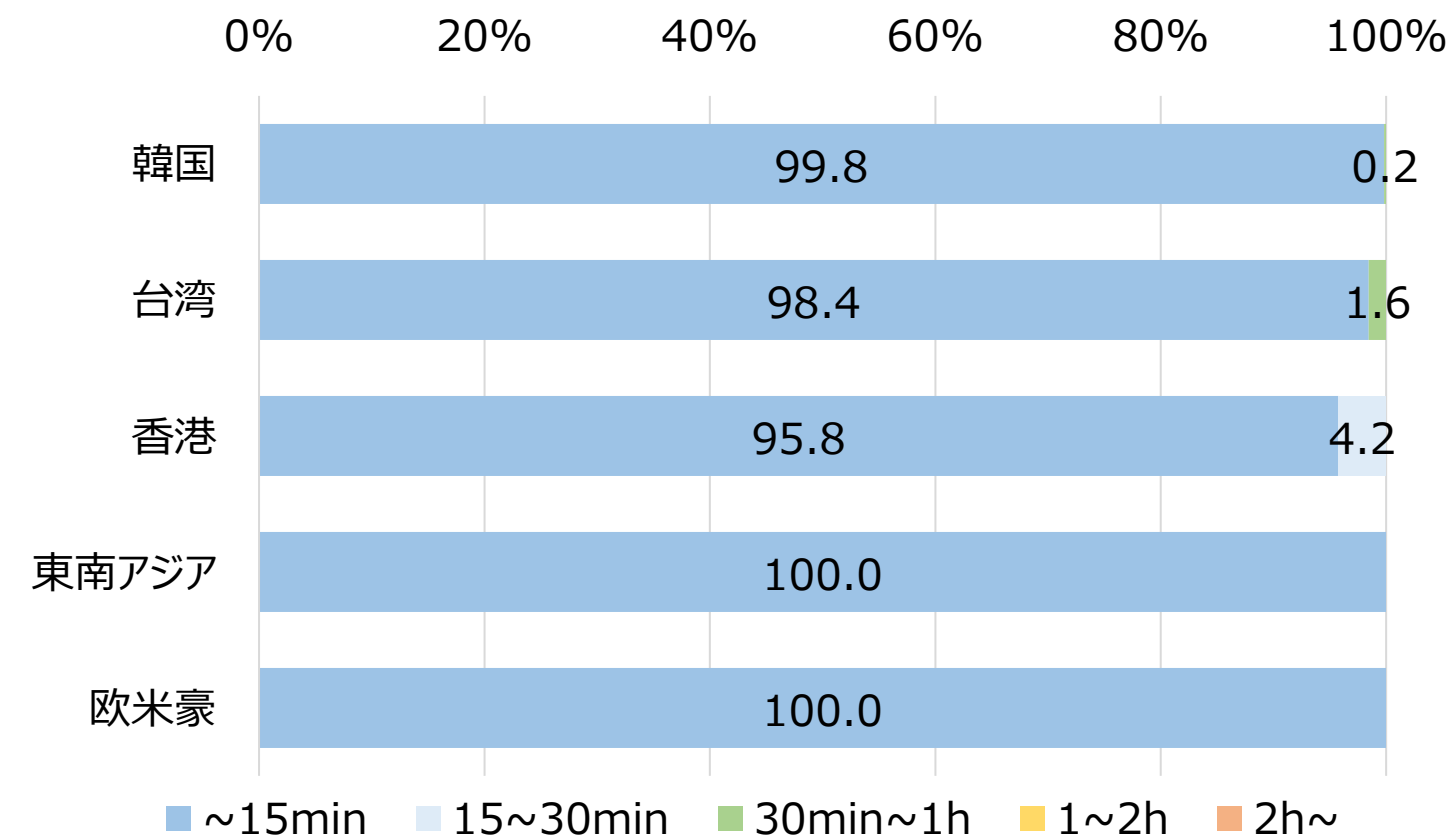
〈2024年1～3月〉



〈2025年1～3月〉 全体ピーク：14時台（14%）



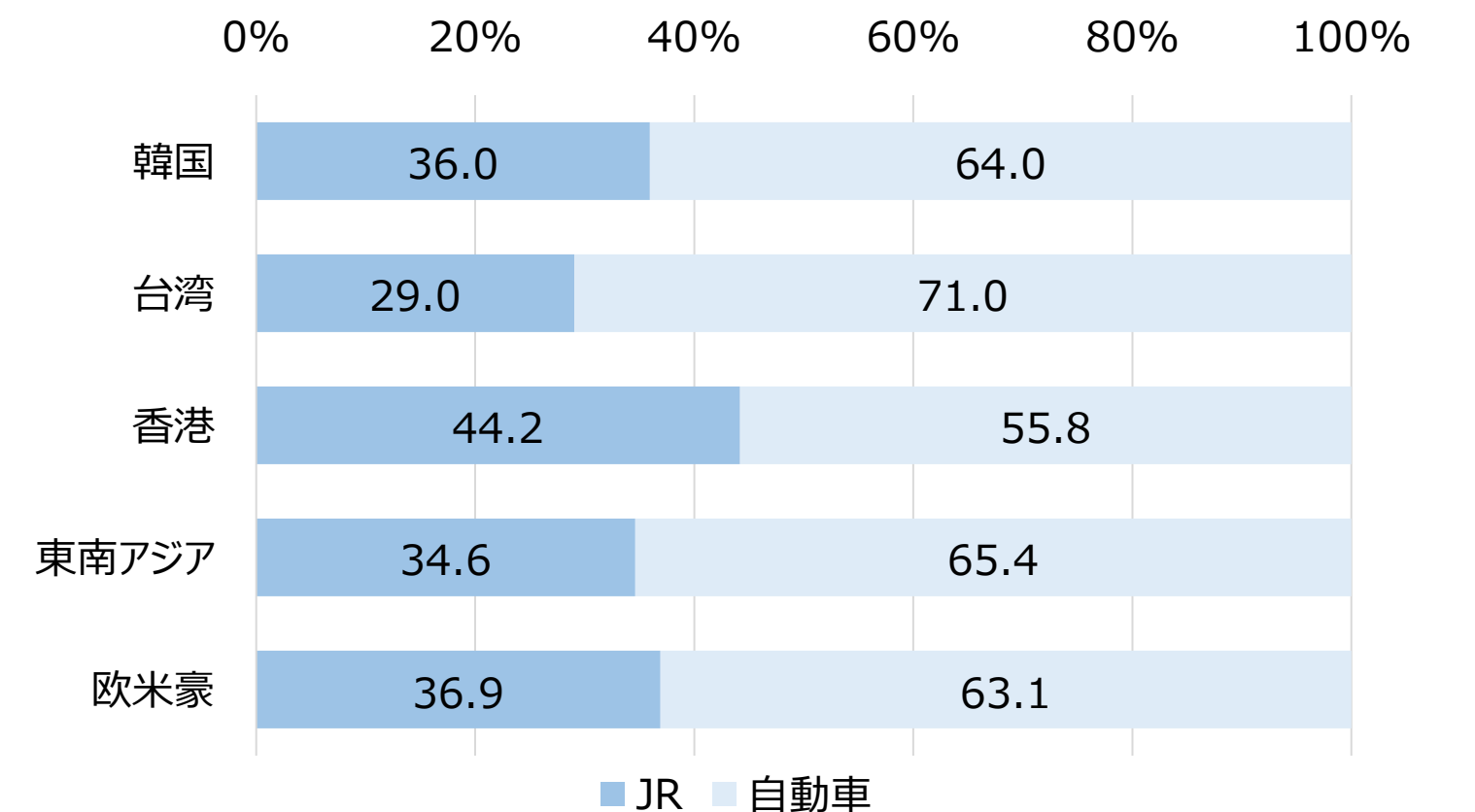
〈2025年1～3月〉



平均滞在時間（分）

0:08
0:12
0:13
0:06
0:05

〈2025年1～3月〉



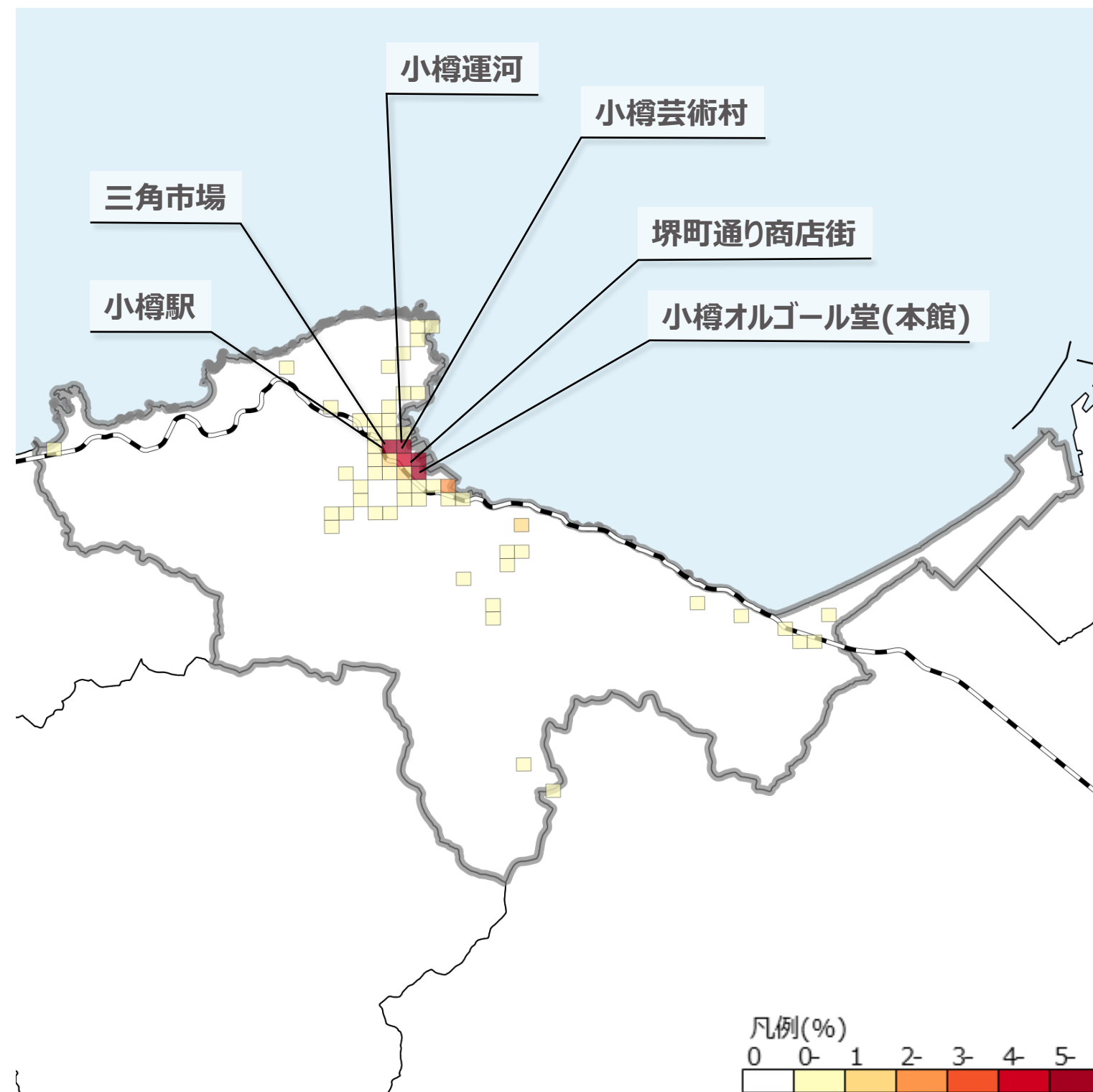
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺の分析結果（2024年）

- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

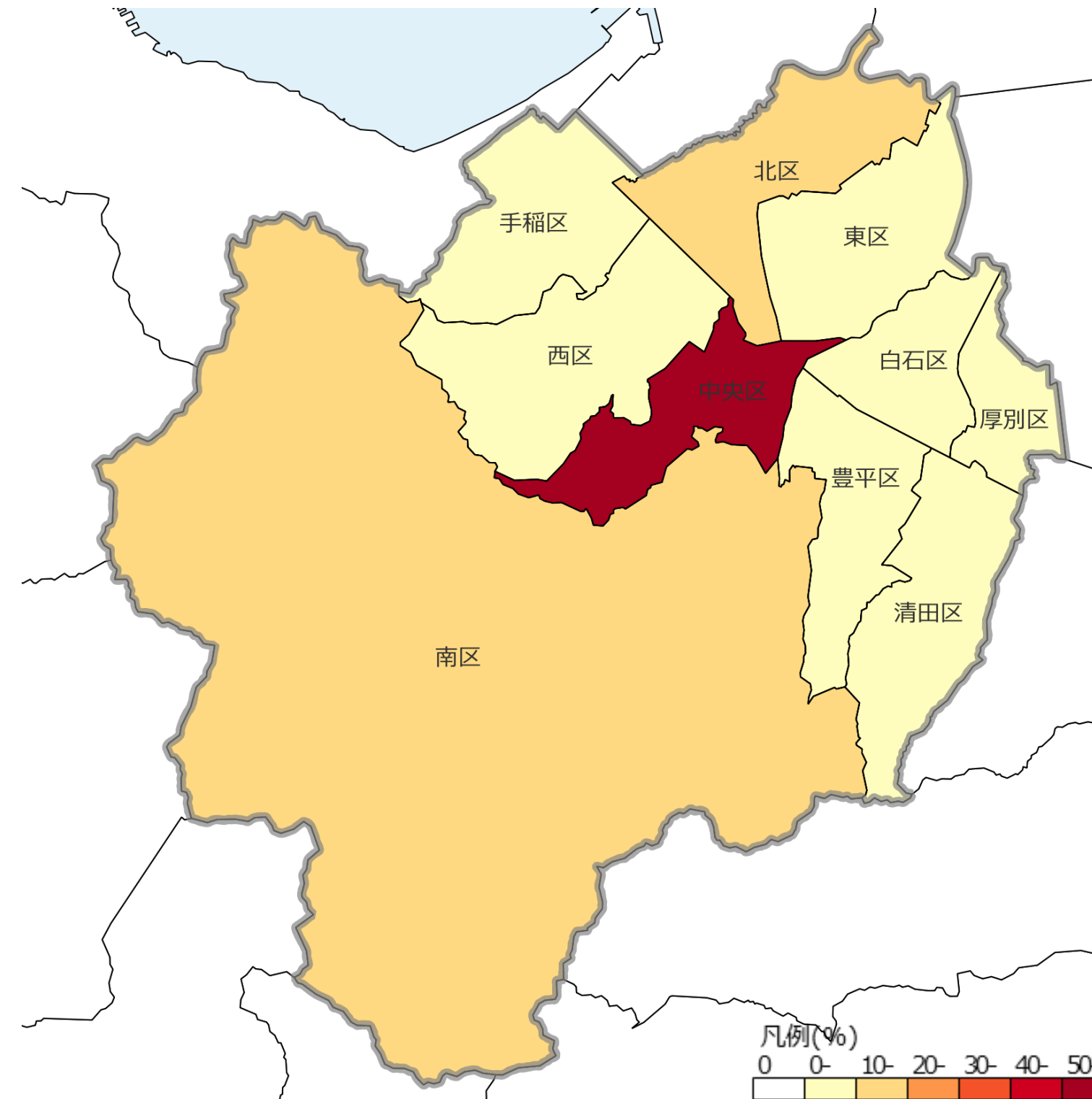
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2024年1～3月）

【小樽市内】



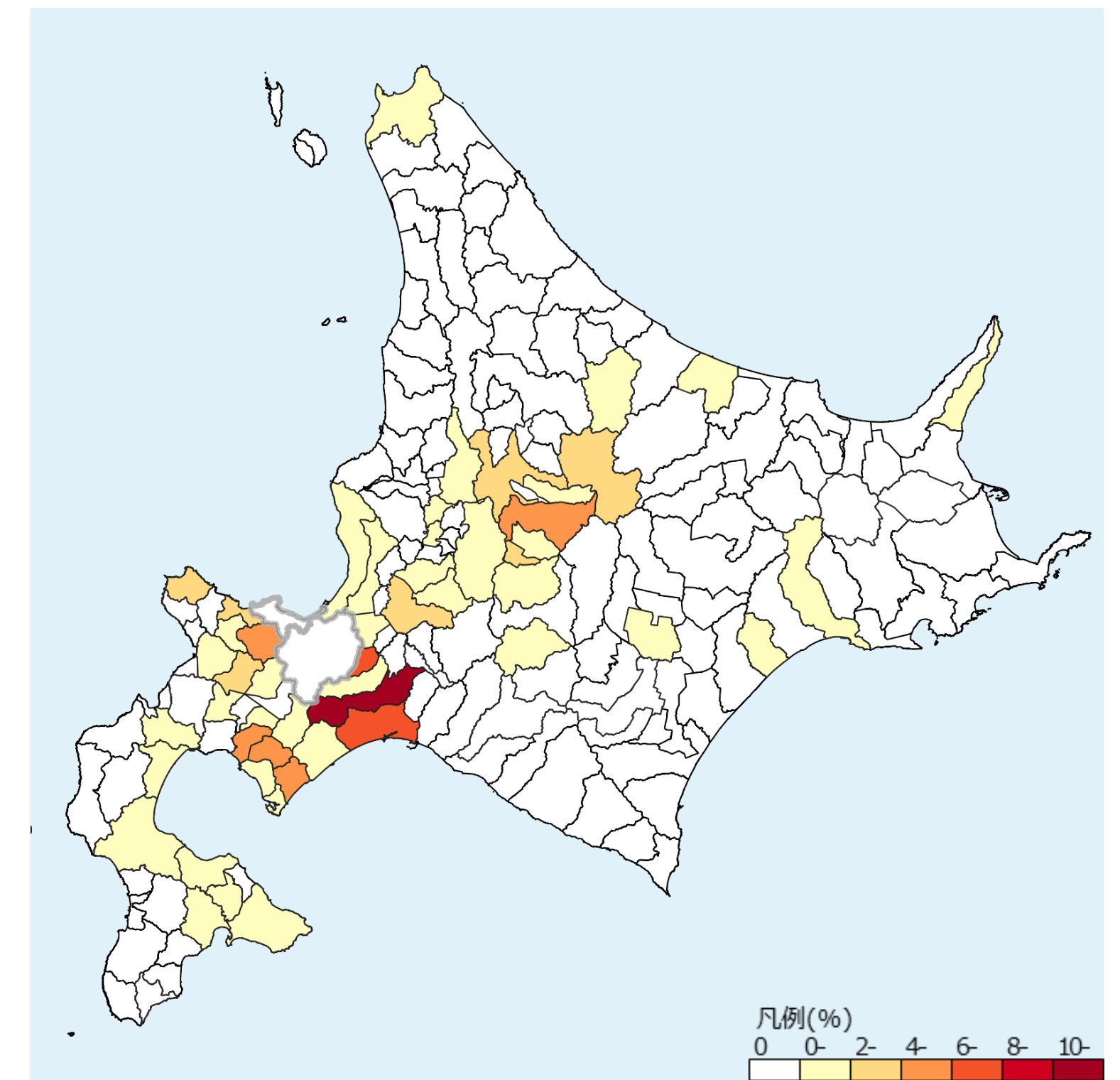
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

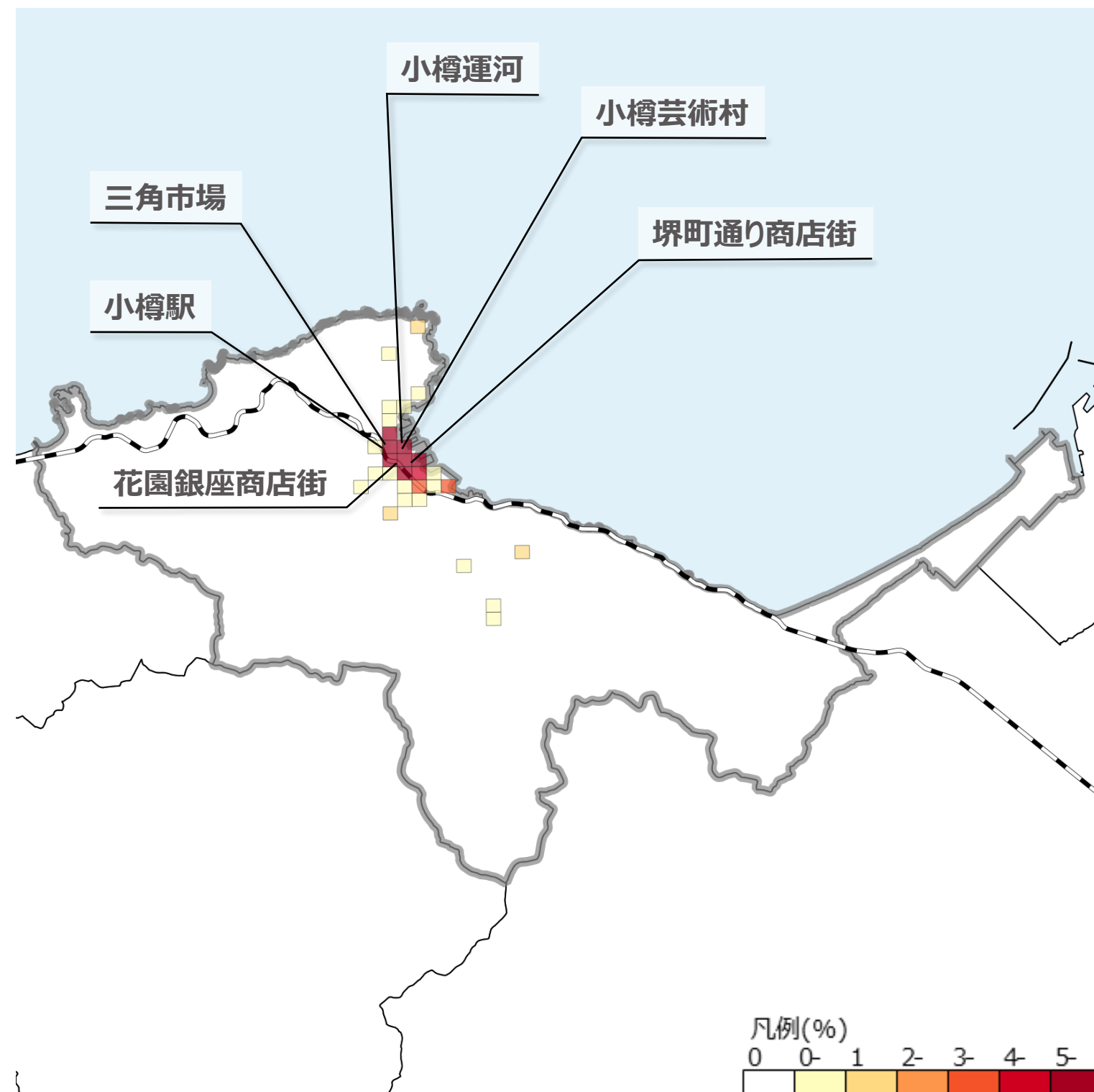
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺の分析結果（2024年）

- ▶ 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・花園銀座商店街付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・赤井川・苫小牧との周遊が多い。

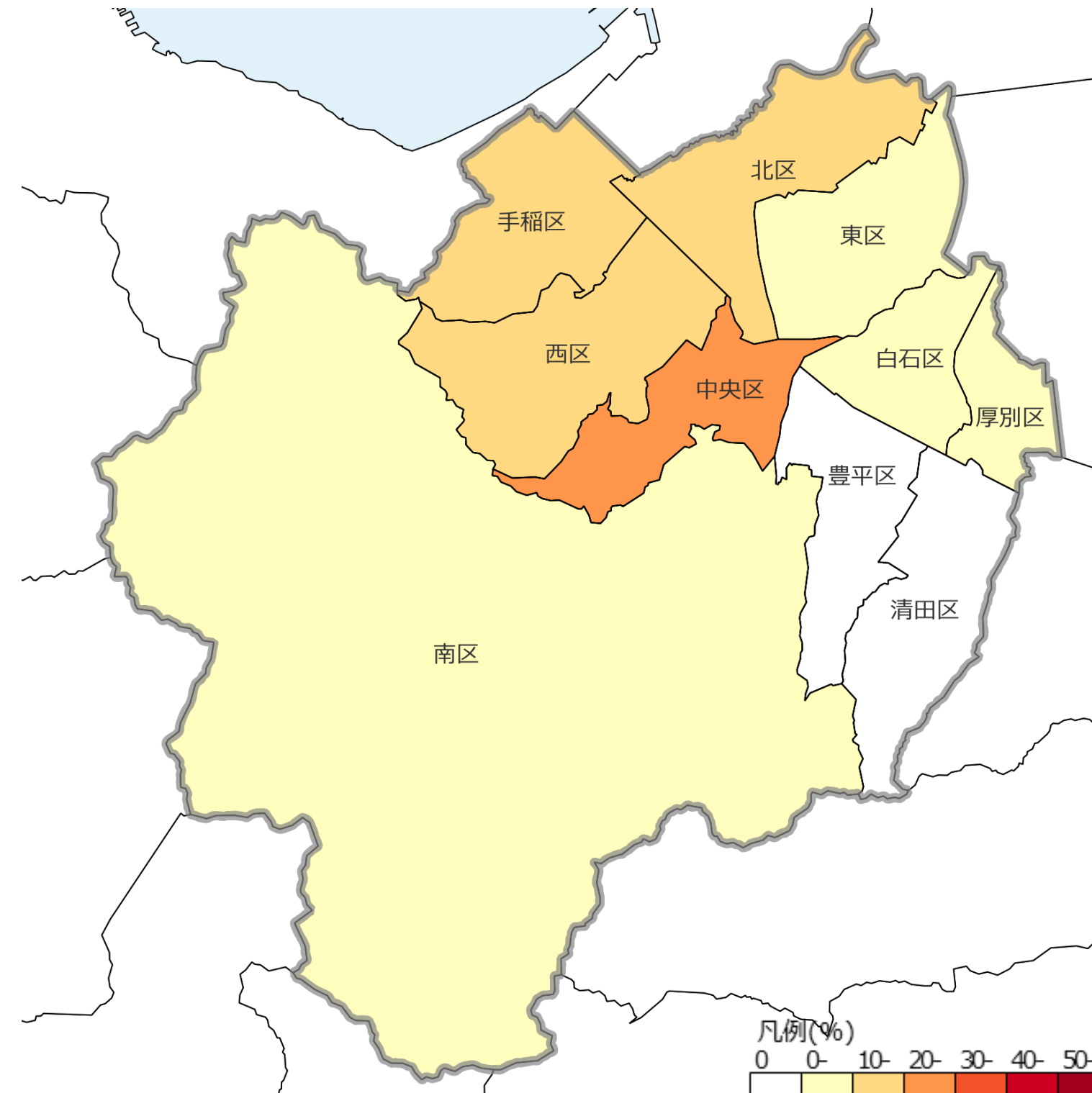
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2024年1～3月）

【小樽市内】



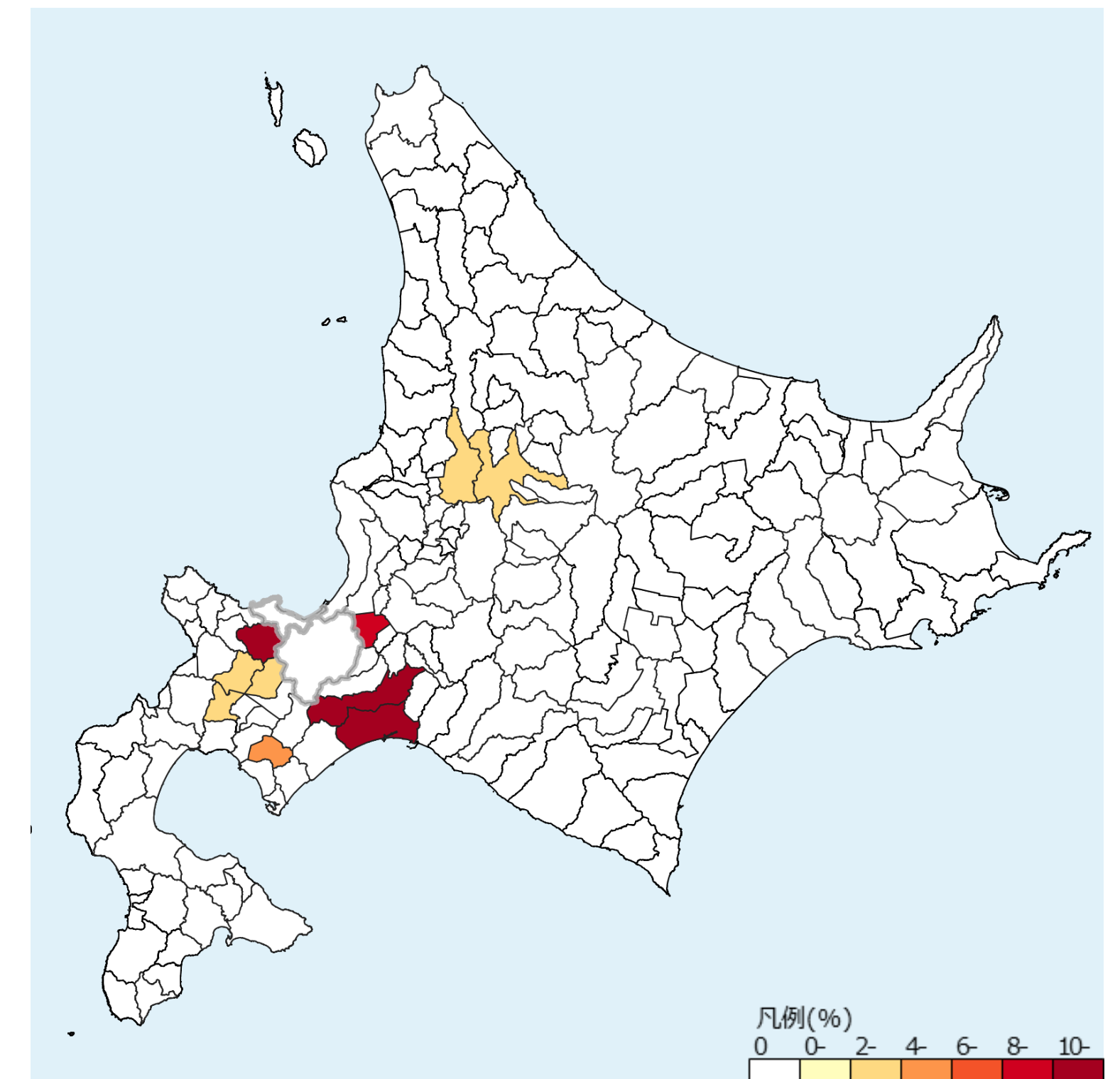
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

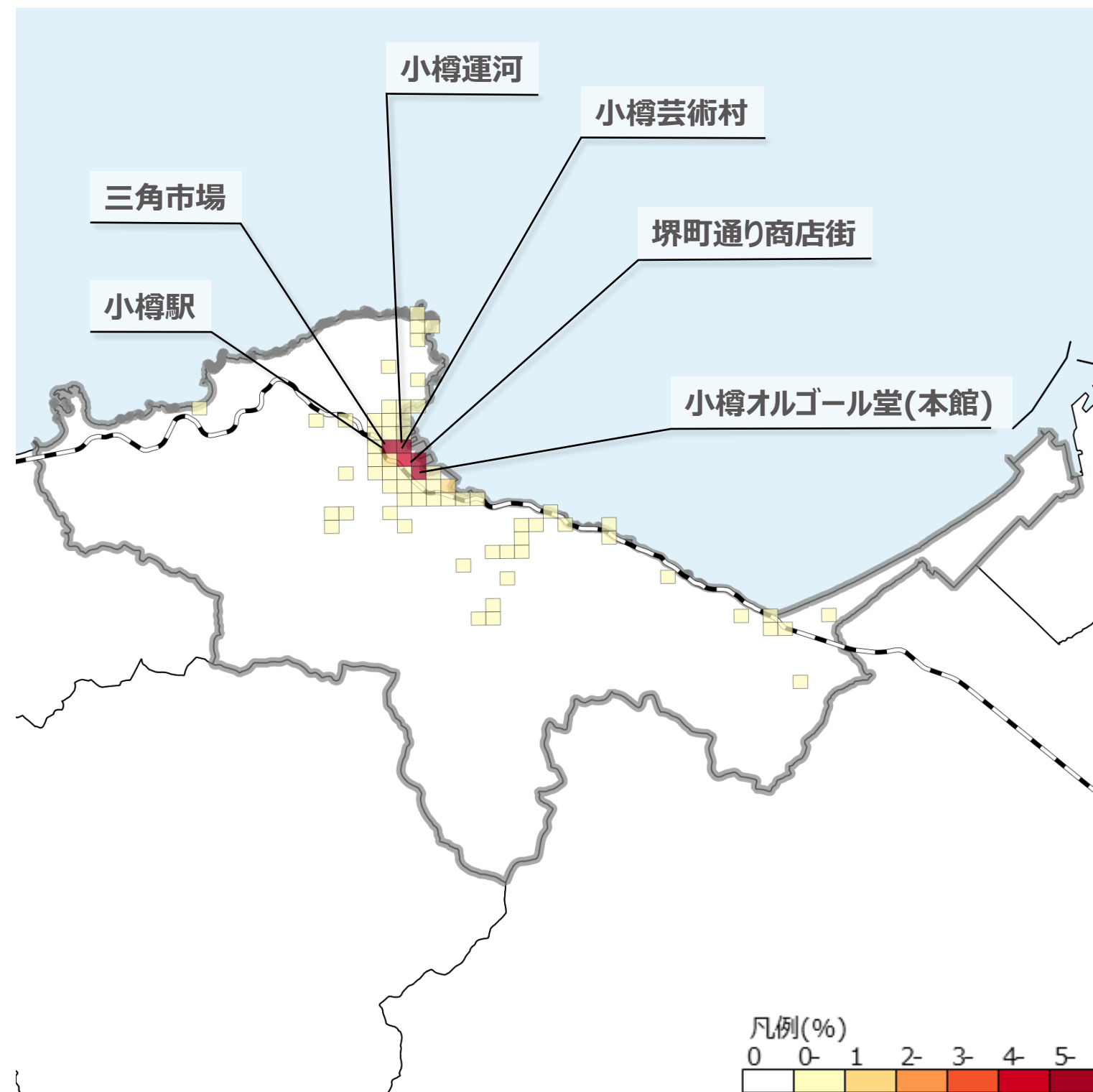
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺の分析結果（2025年）

- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

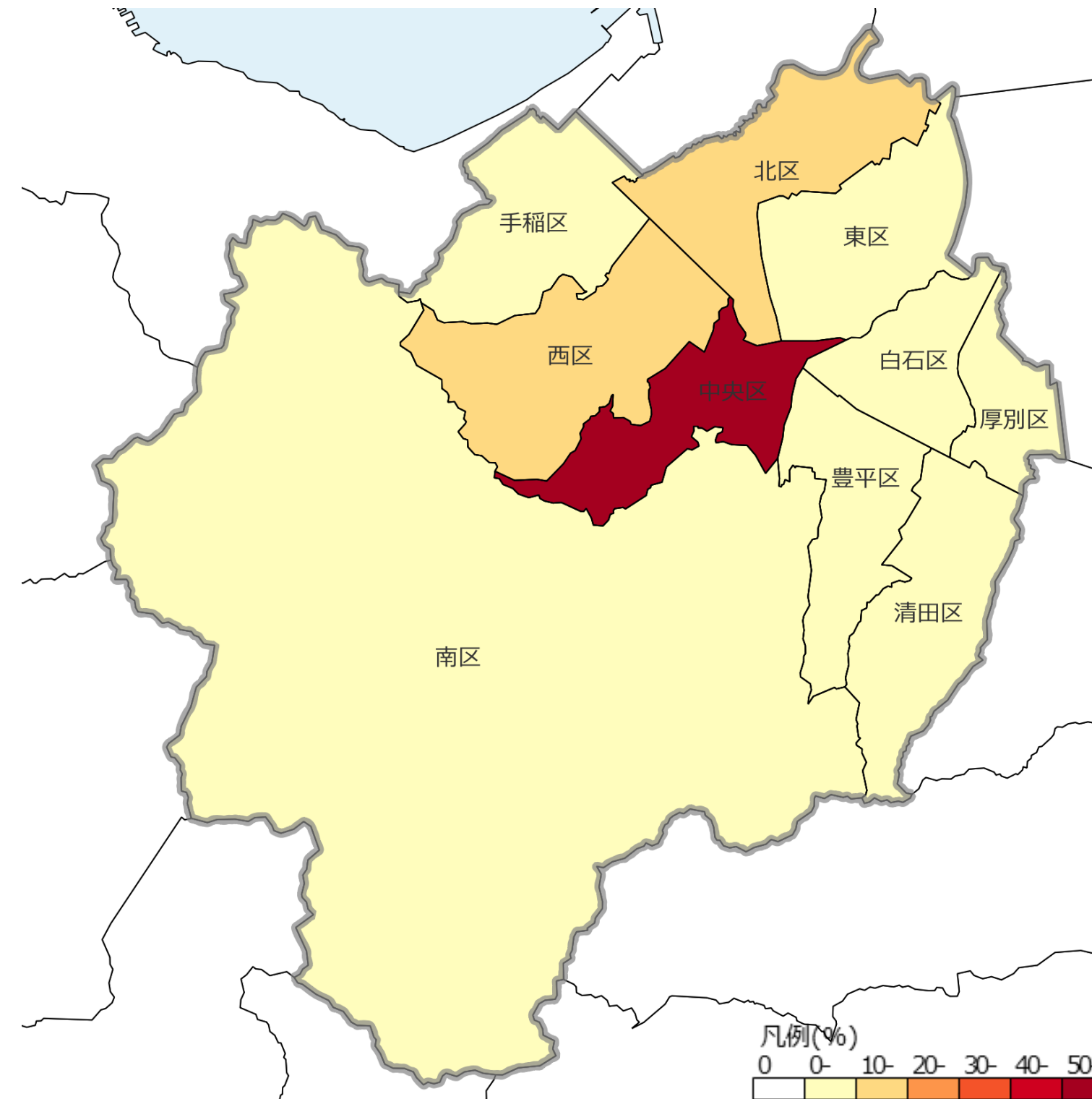
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2025年1～3月）

【小樽市内】



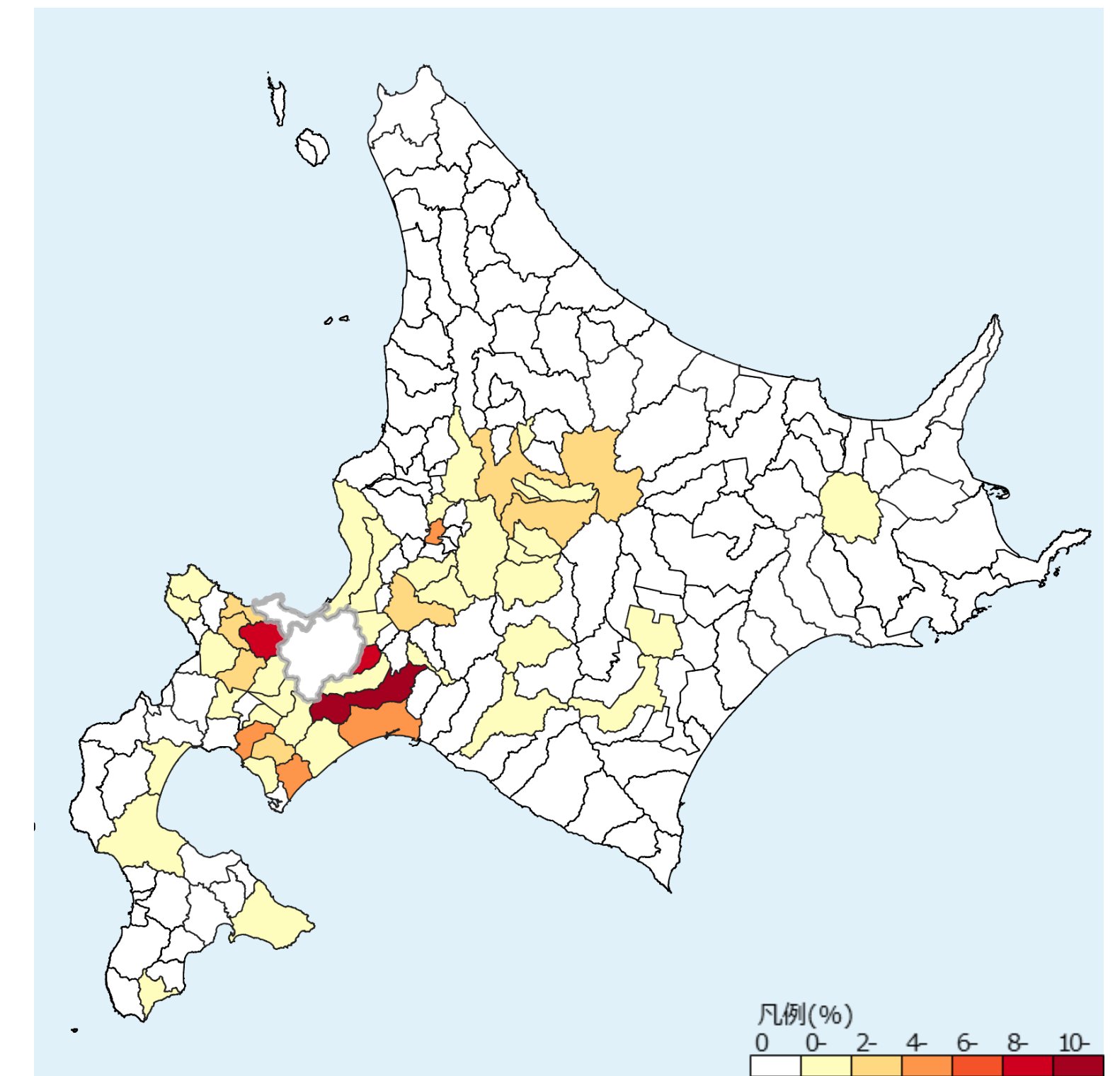
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

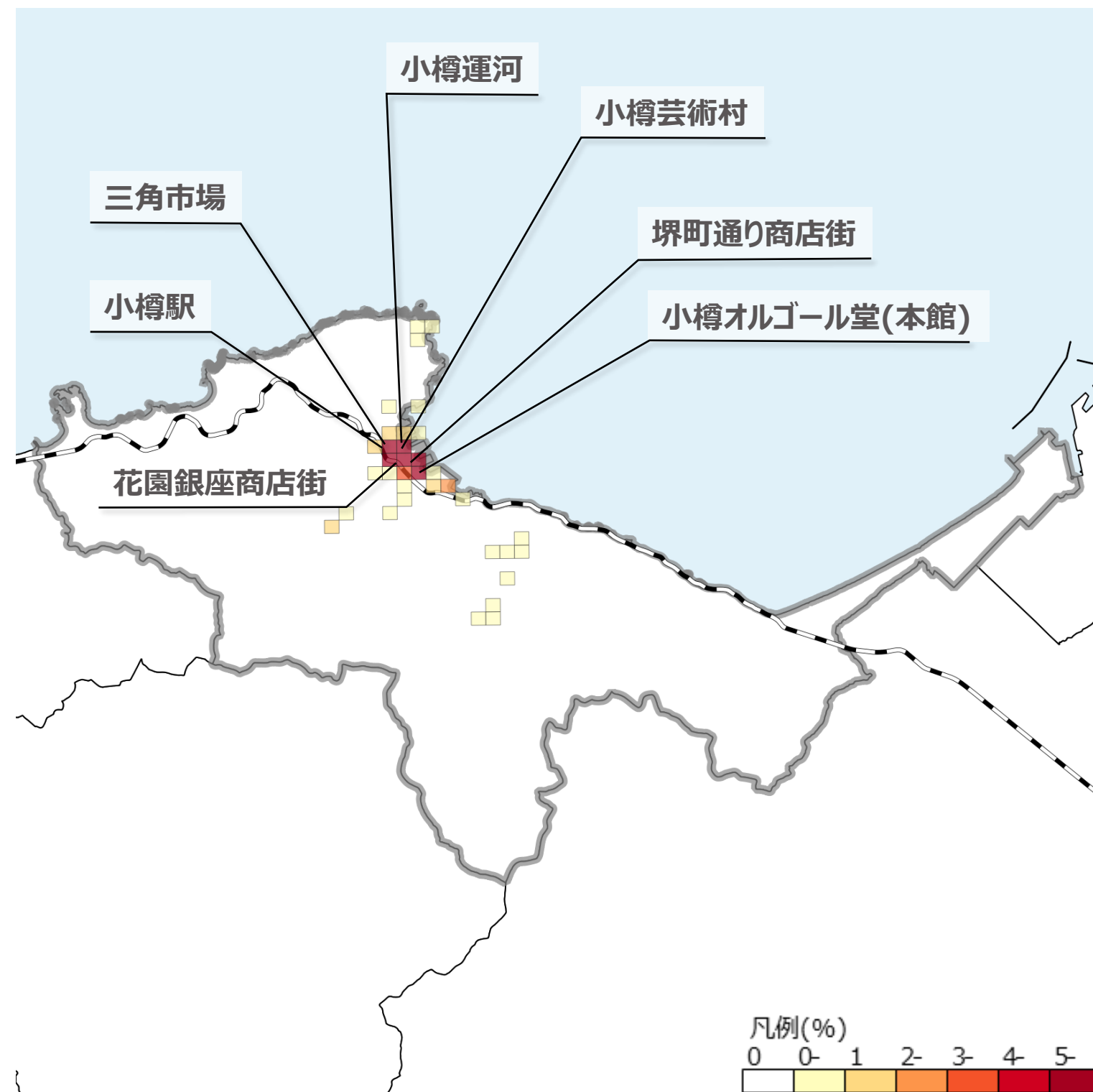
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

三本木急坂周辺の分析結果（2025年）

- ▶ 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)・花園商店街付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では北区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・北広島との周遊が多い。

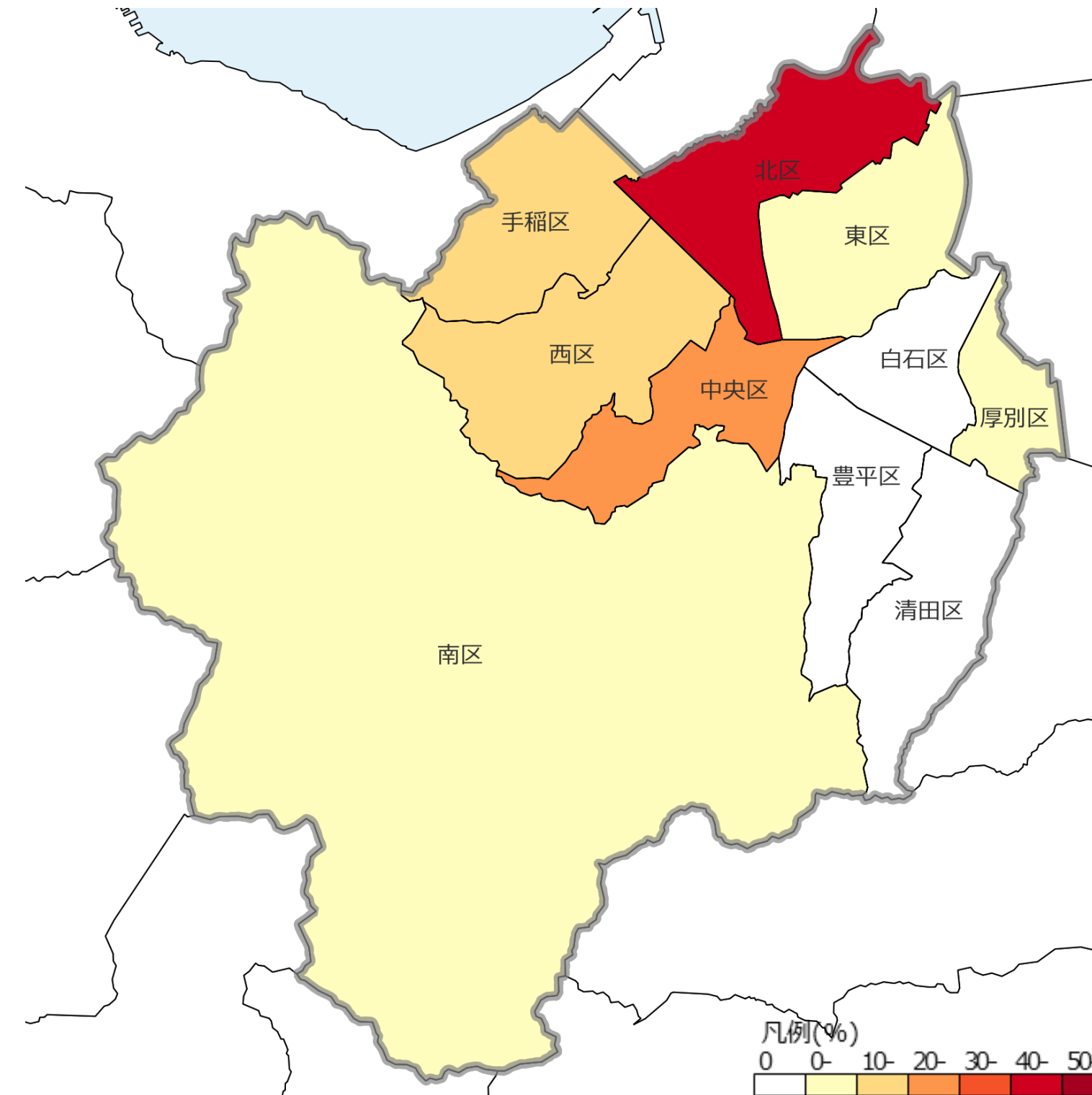
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2025年1～3月）

【小樽市内】



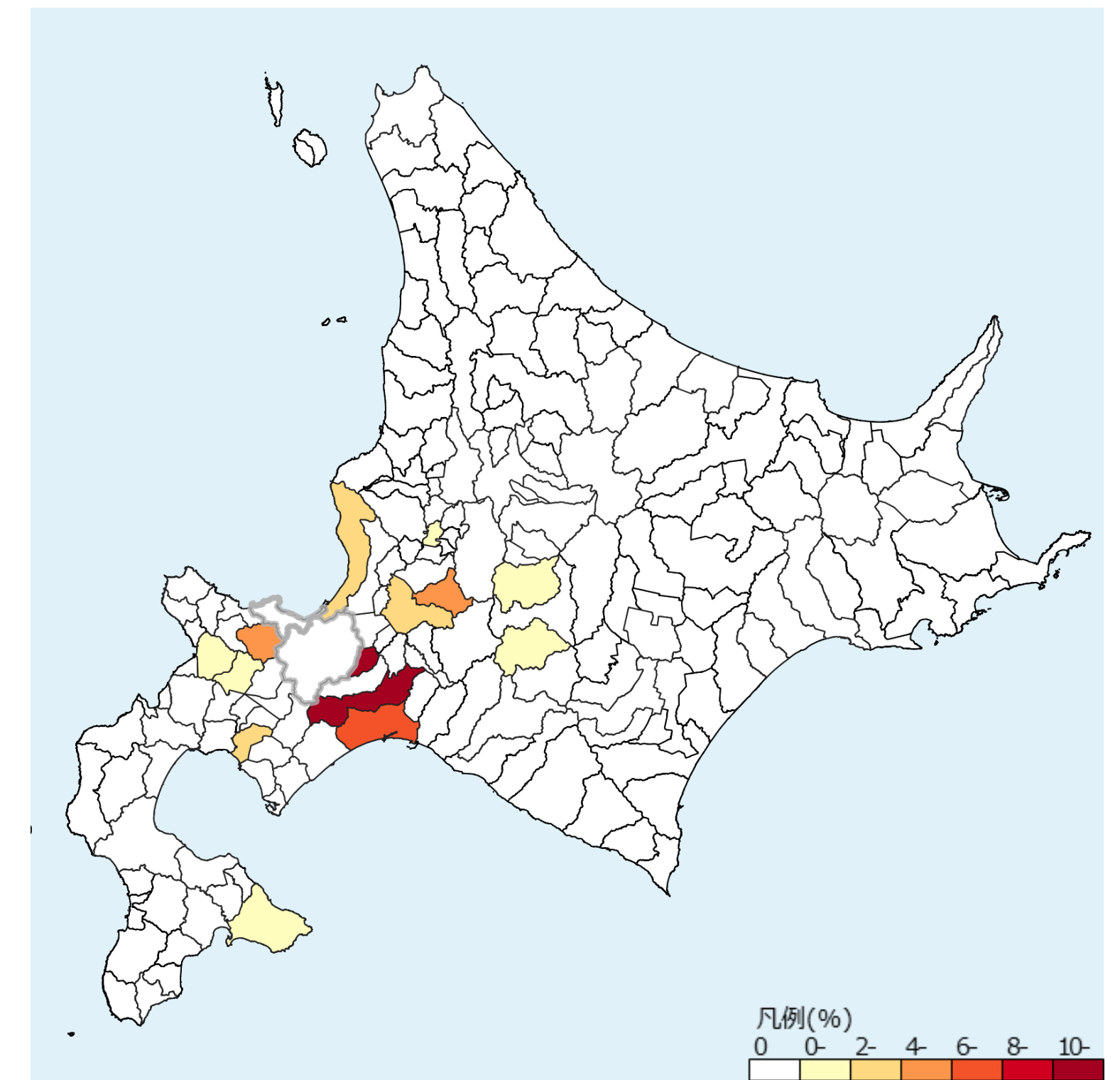
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

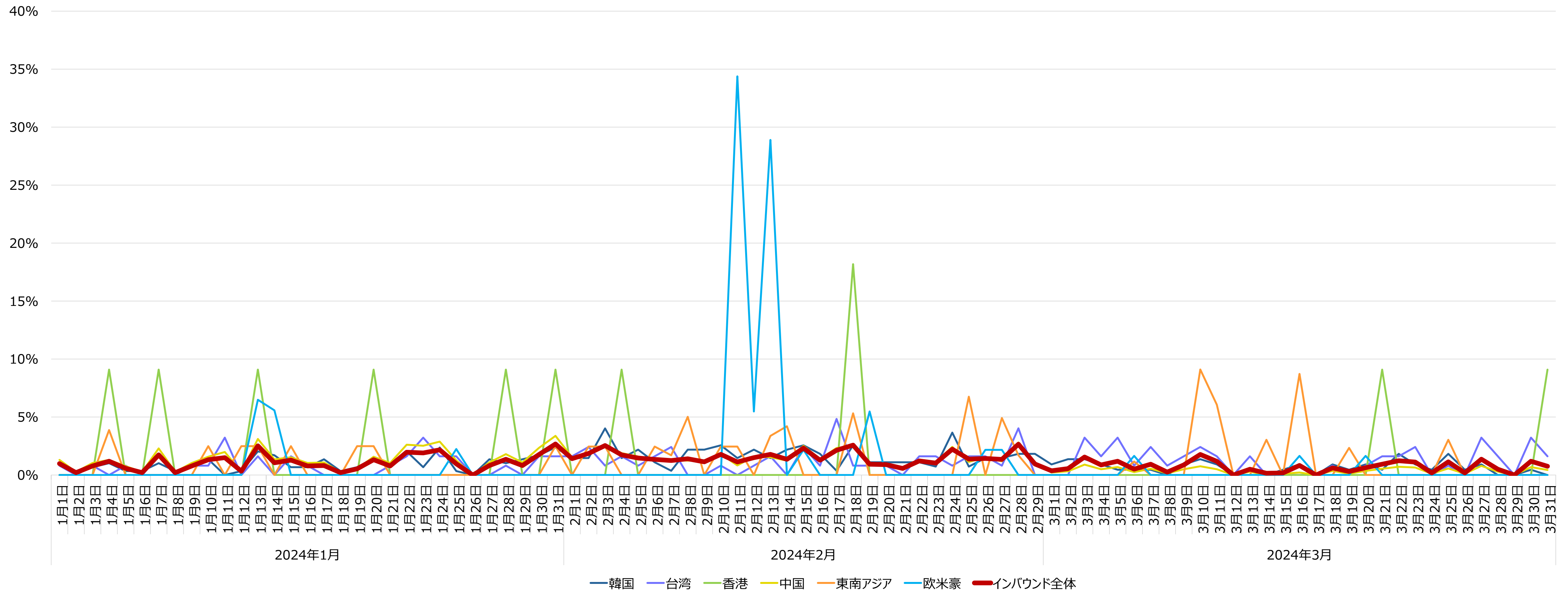
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺

JR朝里駅周辺の分析結果（2024年）

- インバウンド全体の入込は、1月31日が最も多く、次いで2月28日、2月18日の順となっている。
- 市場別の入込状況をみると、欧米豪は2月11日・2月13日、香港は2月18日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2024年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている

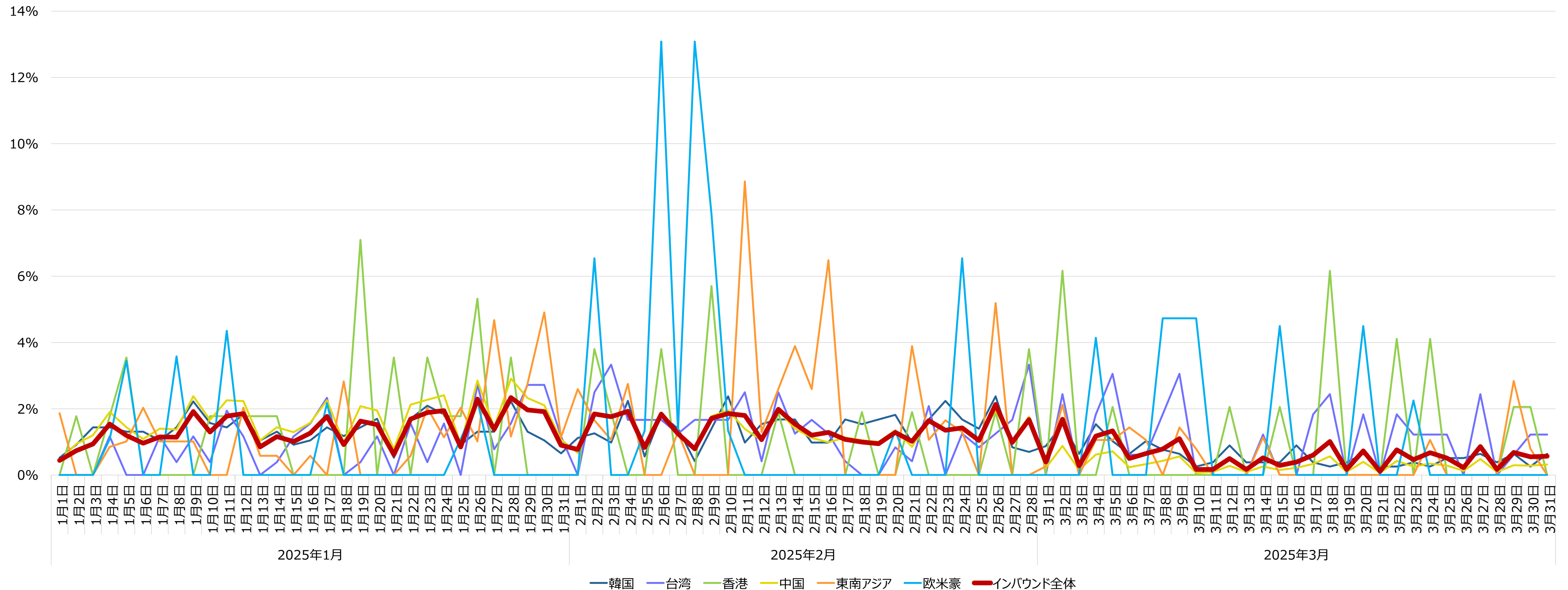


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺の分析結果（2025年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、1月28日が最も多く、次いで1月26日、2月26日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、欧米豪は2月6日・2月8日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2025年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている



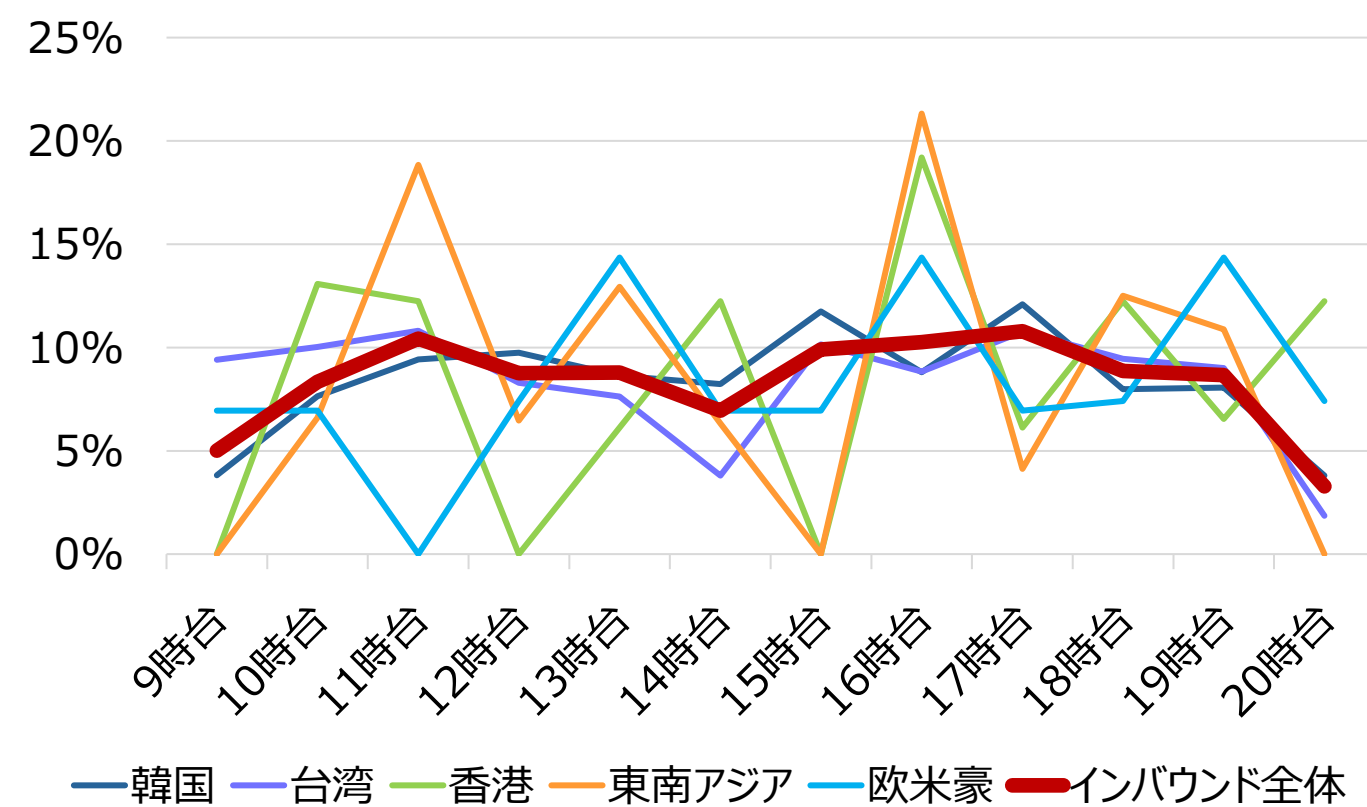
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺の分析結果（2024年/2025年）

- 来訪時間帯について、2024年は17時台、2025年は15時台がピークとなっており、ピーク時間帯における来訪率は同程度である。
- 滞在時間について、2024年に比べ2025年は韓国・台湾・香港・東南アジアで増加傾向、欧米豪で減少傾向にある。

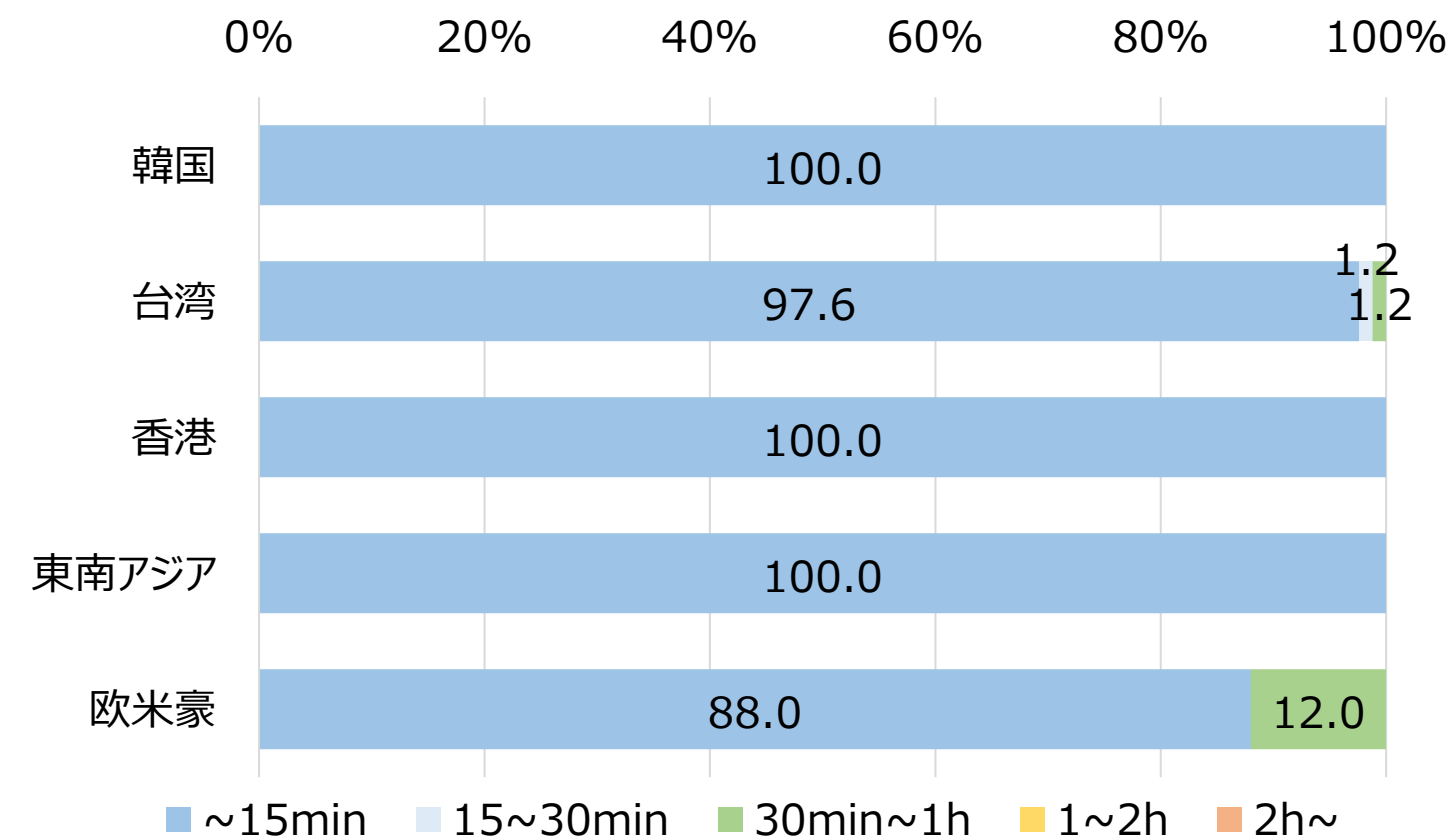
● 来訪時間帯分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉 全体ピーク：17時台（11%）



● 滞在時間分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉

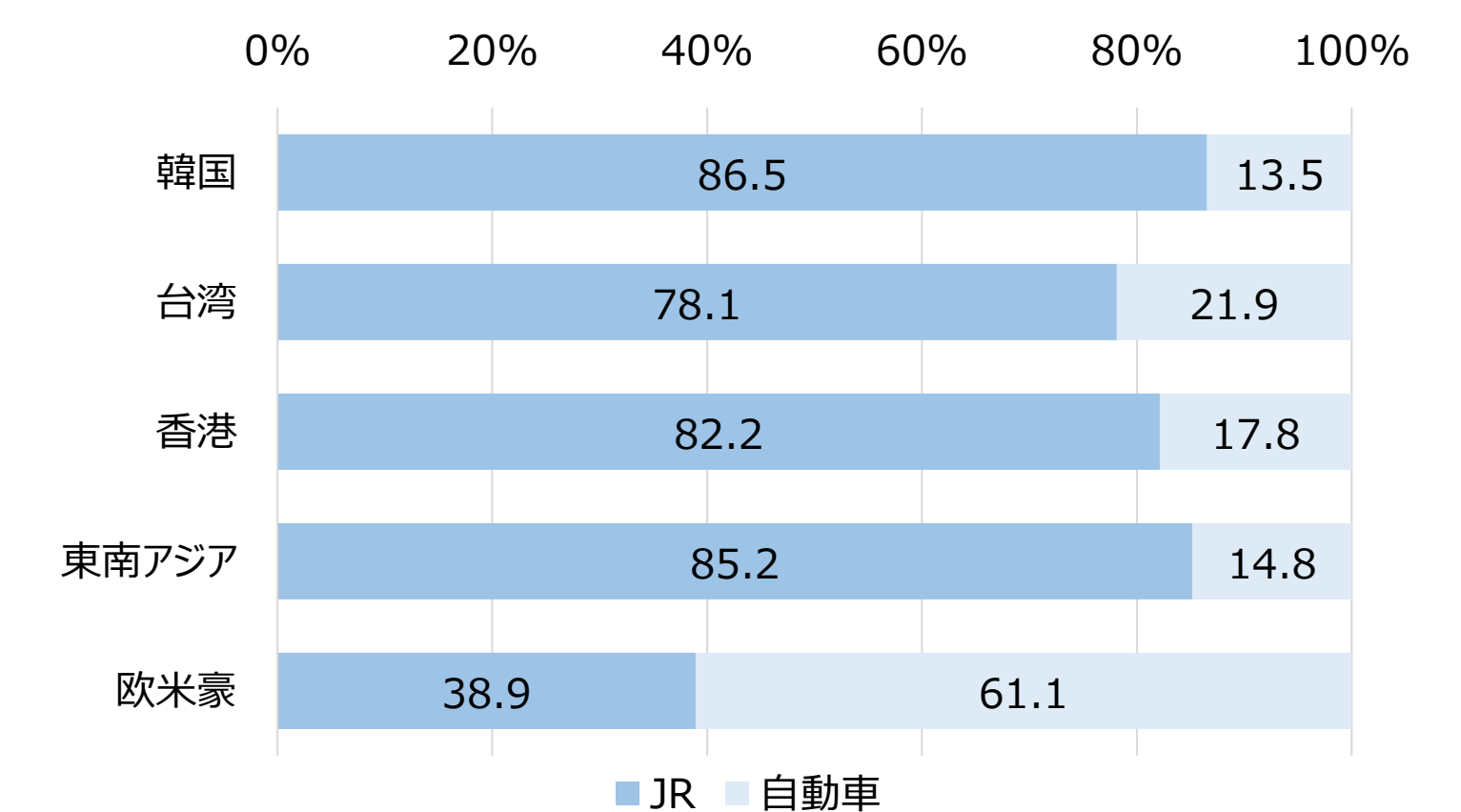


平均滞在時間 (分)

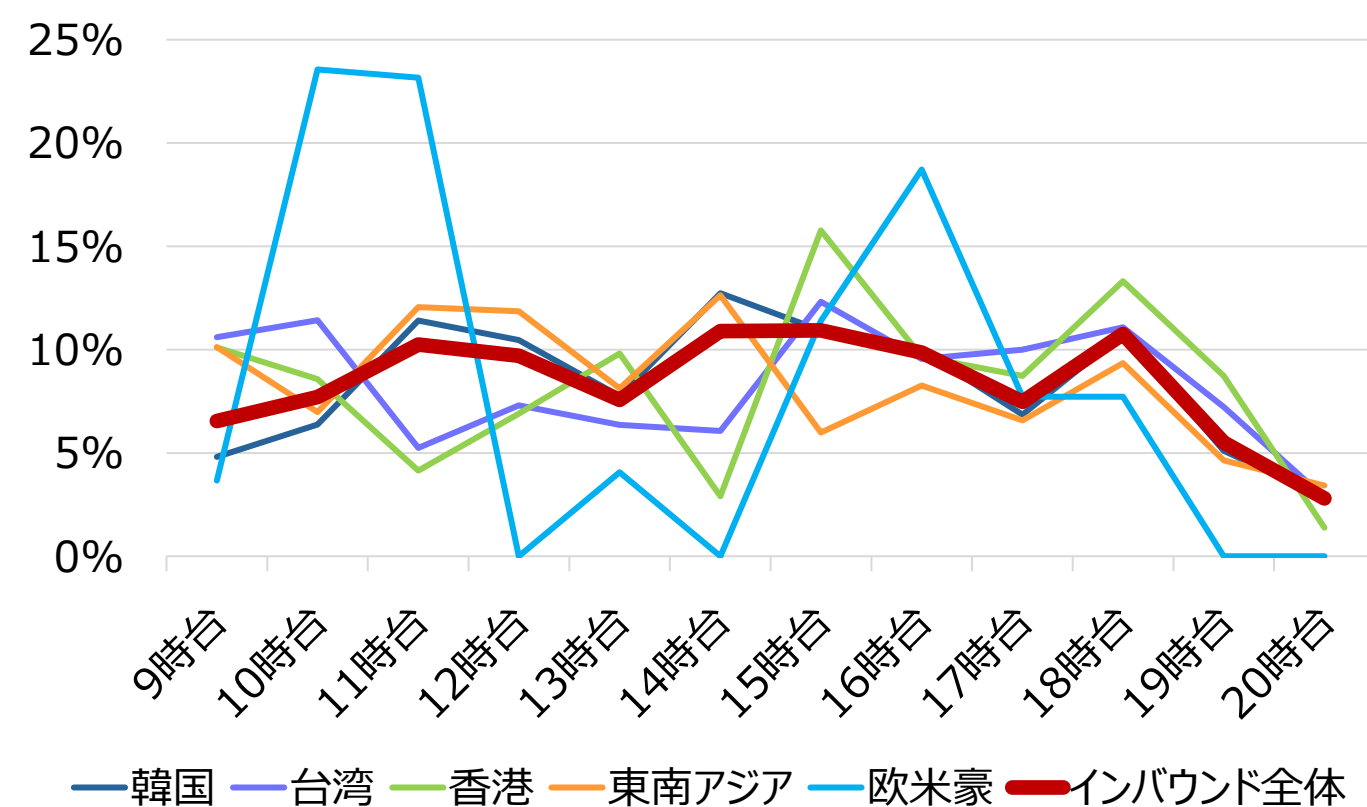
0:06
0:23
0:05
0:05
0:32

● 利用交通手段分布（インバウンド）

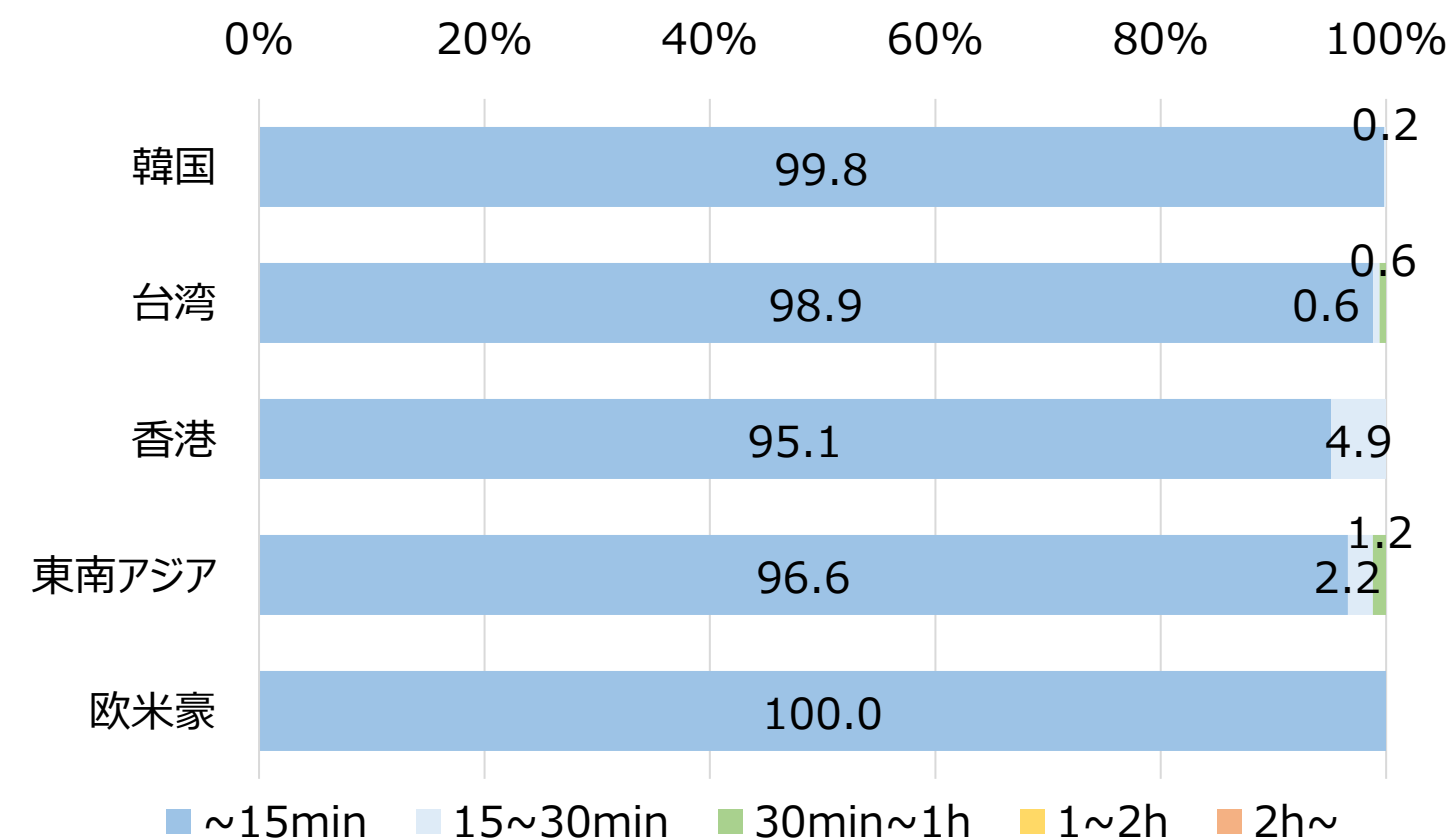
〈2024年1～3月〉



〈2025年1～3月〉 全体ピーク：15時台（11%）



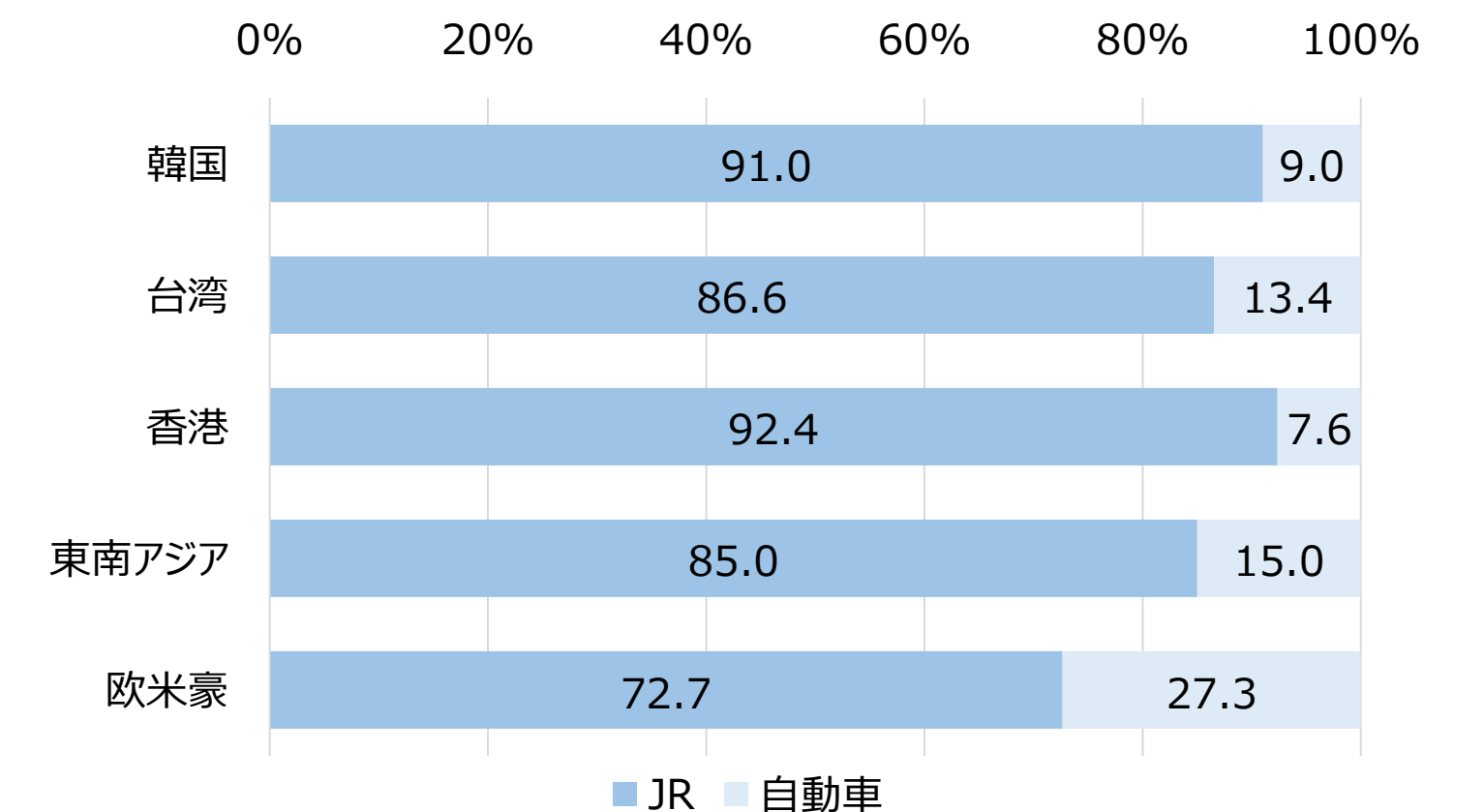
〈2025年1～3月〉



平均滞在時間 (分)

0:15
0:27
0:28
0:21
0:05

〈2025年1～3月〉



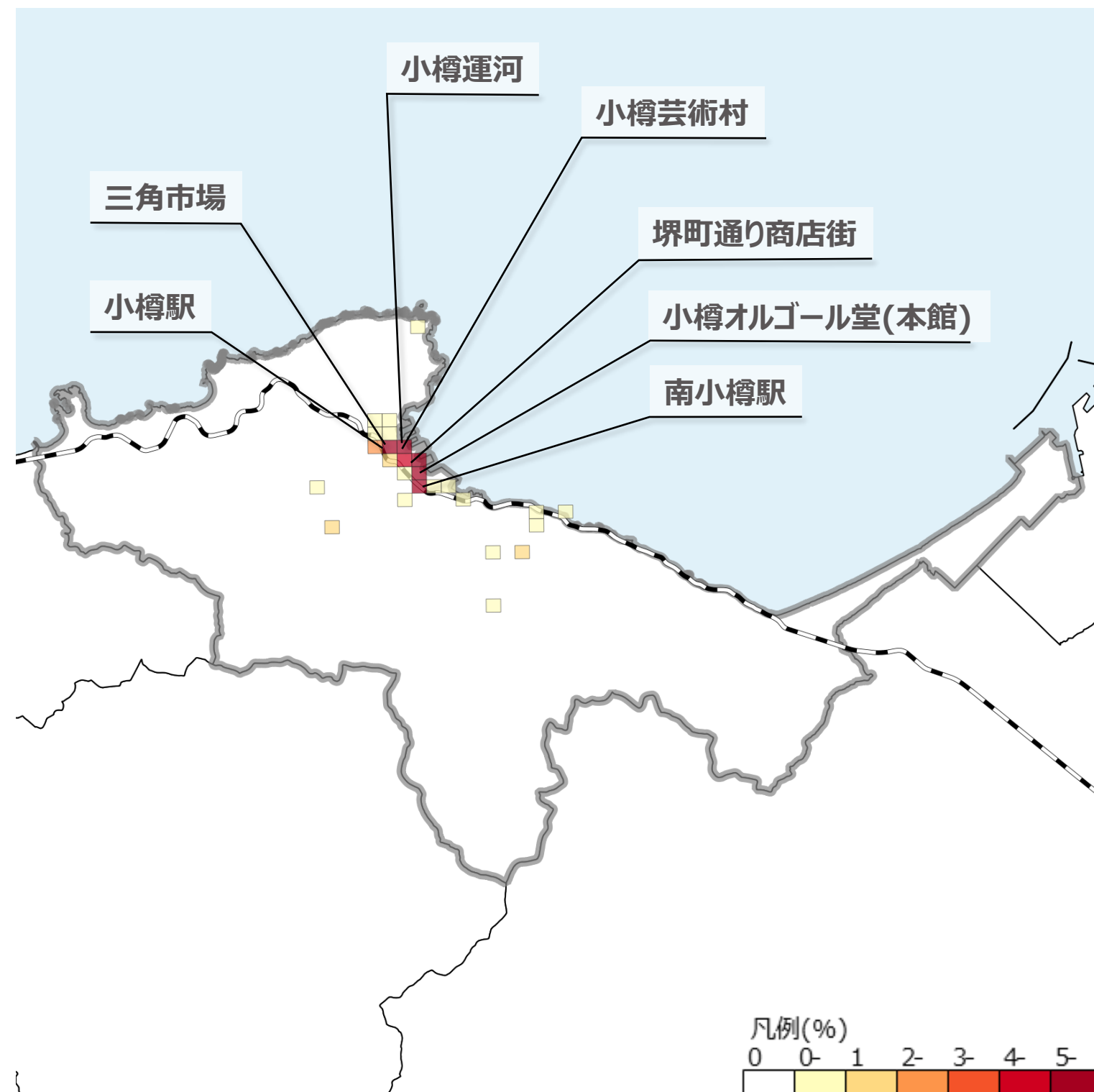
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺の分析結果（2024年）

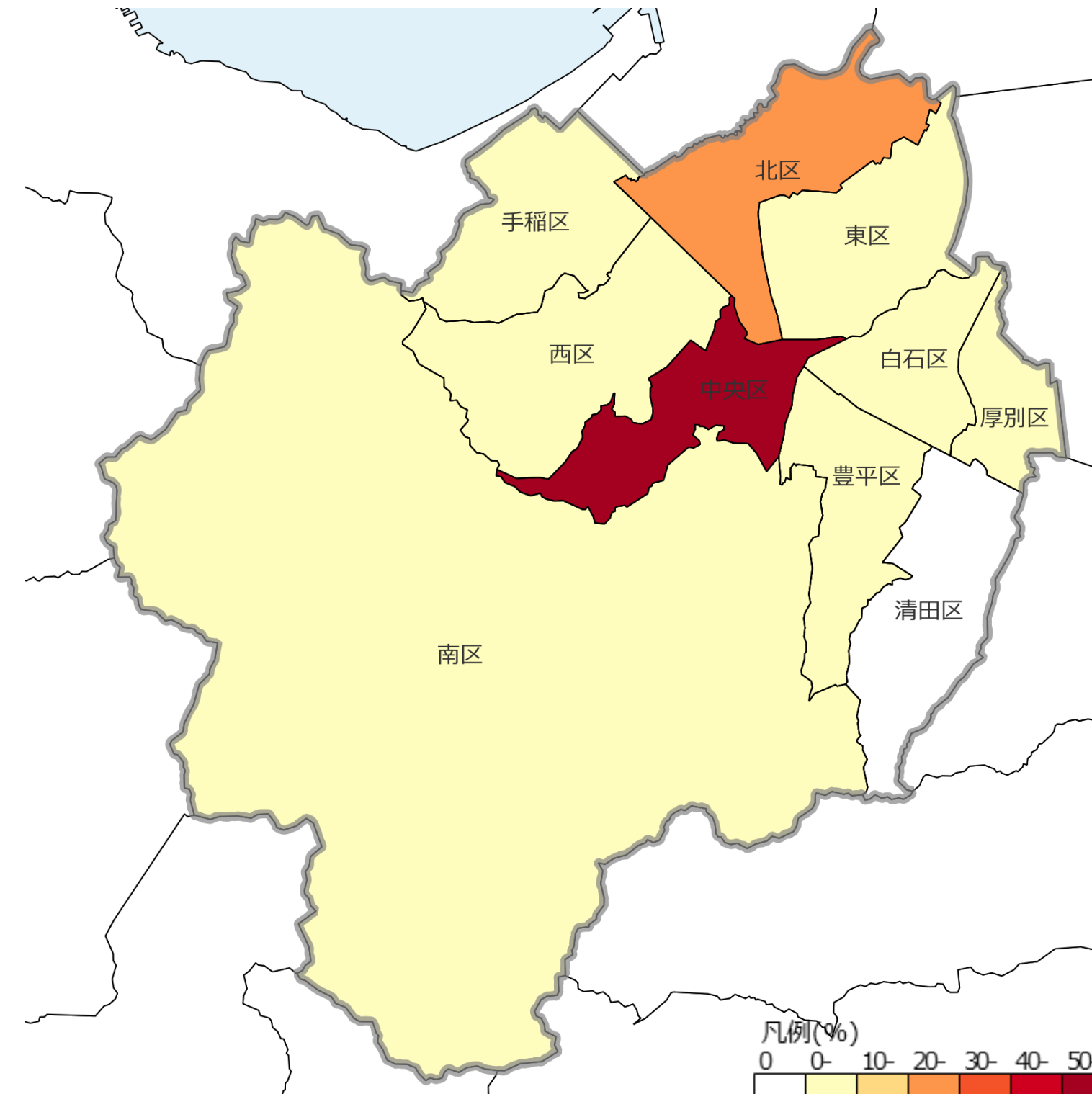
- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)付近・南小樽駅付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

● 周遊先分布【小樽市来訪前 + 後合算】インバウンド・日帰り客（2024年1～3月）

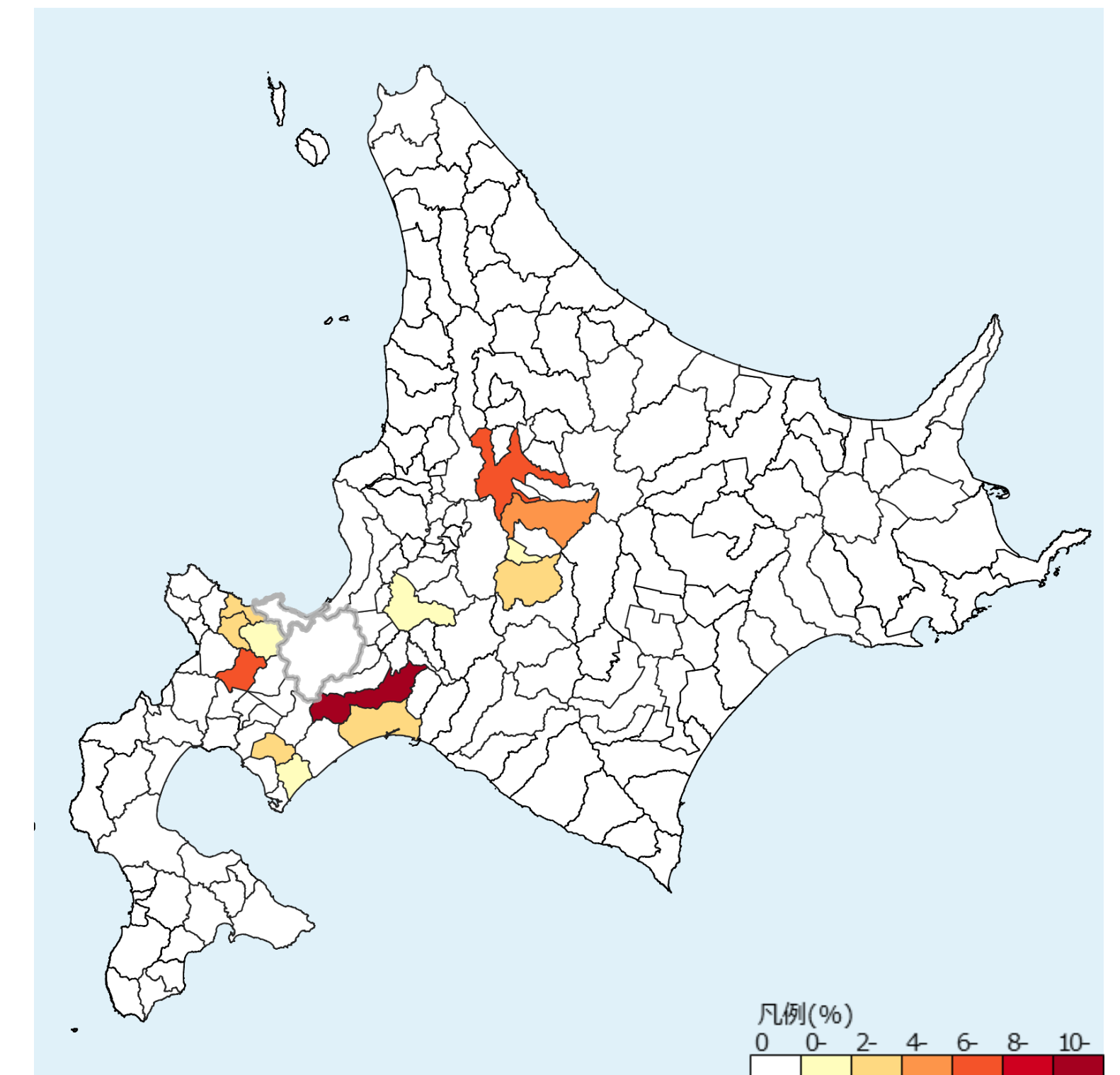
【小樽市内】



【札幌市内】



【全道】



※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

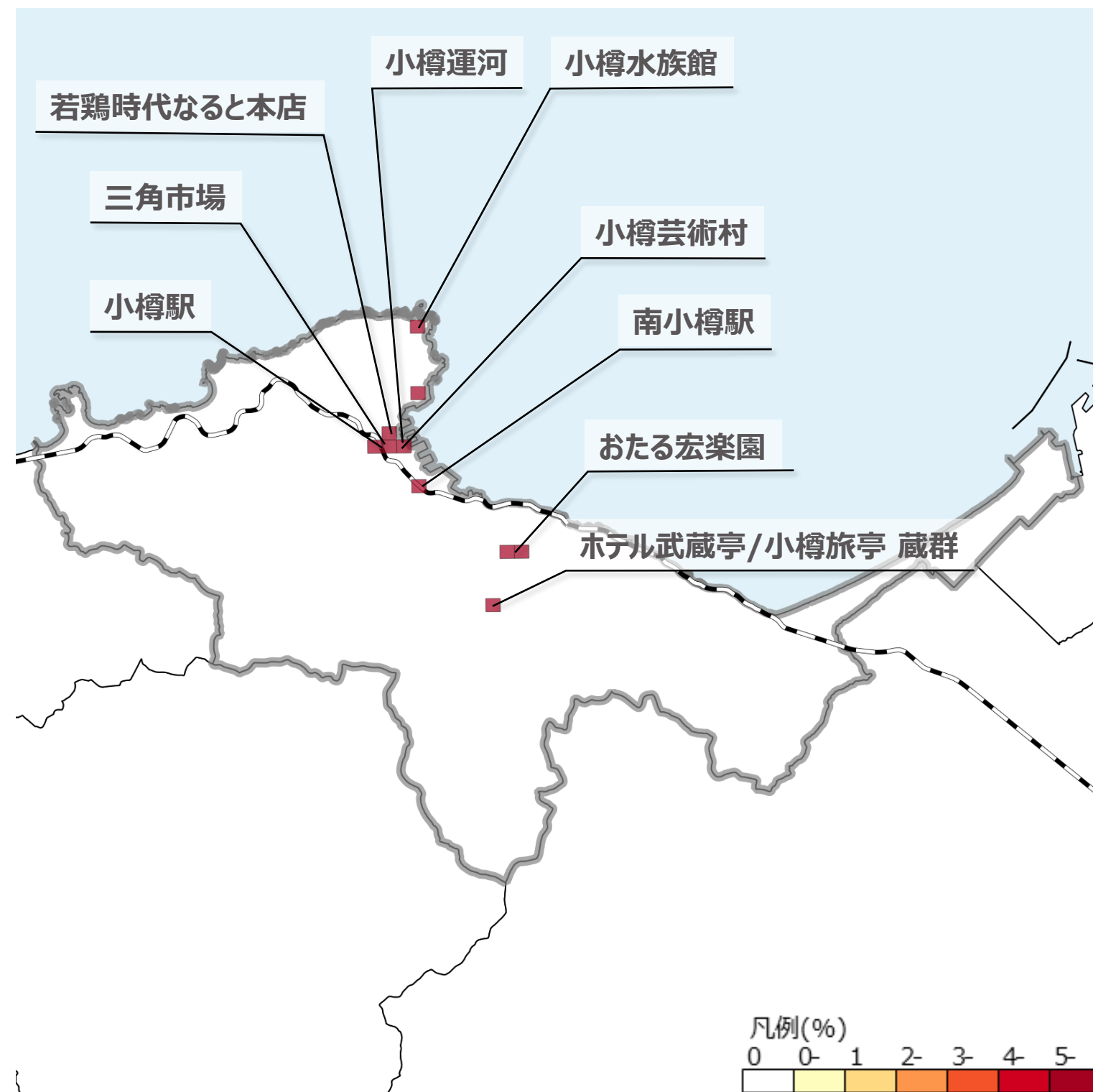
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺の分析結果（2024年）

- ▶ 小樽市では中心部エリアのほかおたる宏楽園・ホテル武蔵亭・小樽旅亭 蔵群付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・苫小牧との周遊が多い。

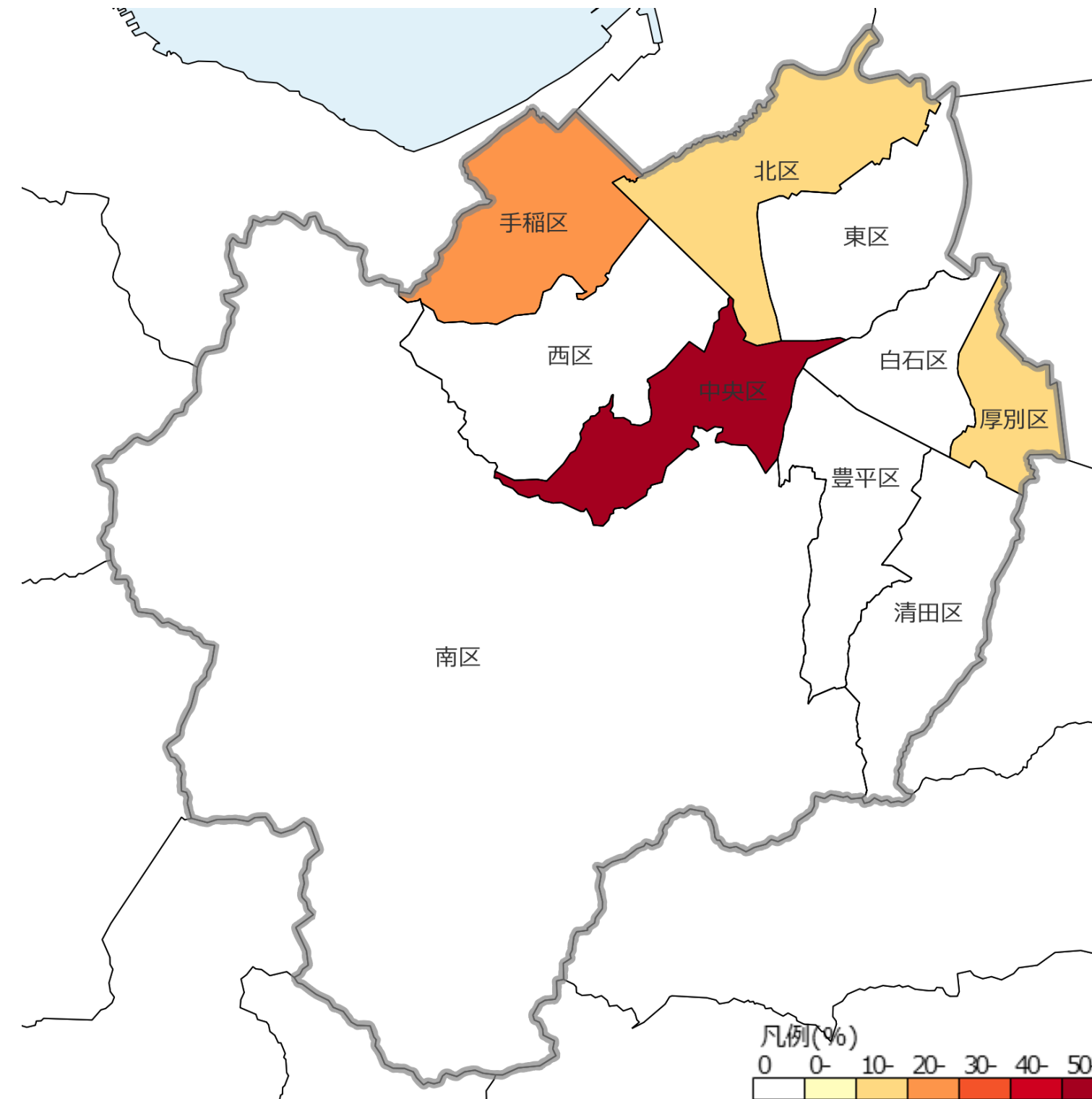
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2024年1～3月）

【小樽市内】



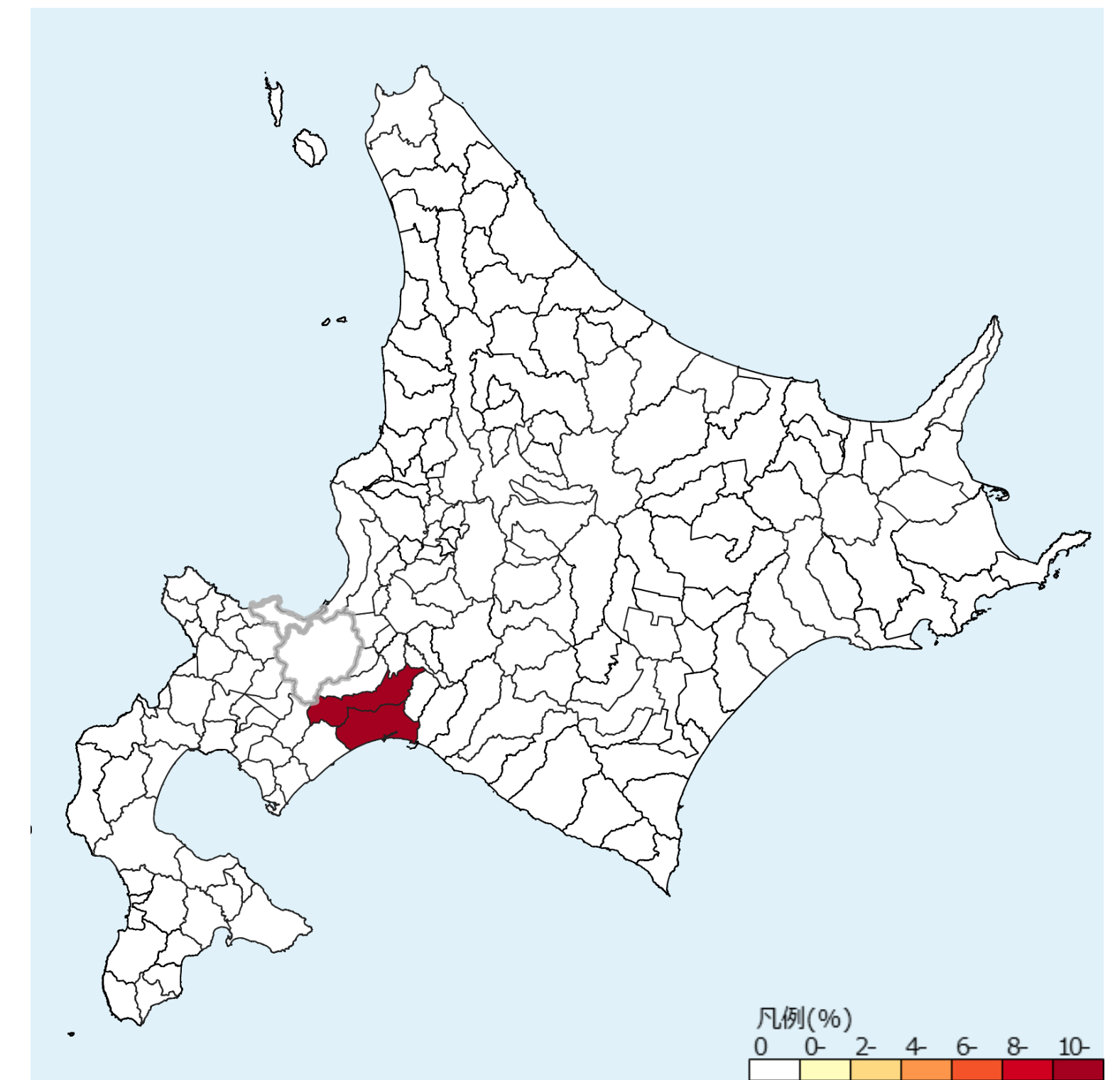
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

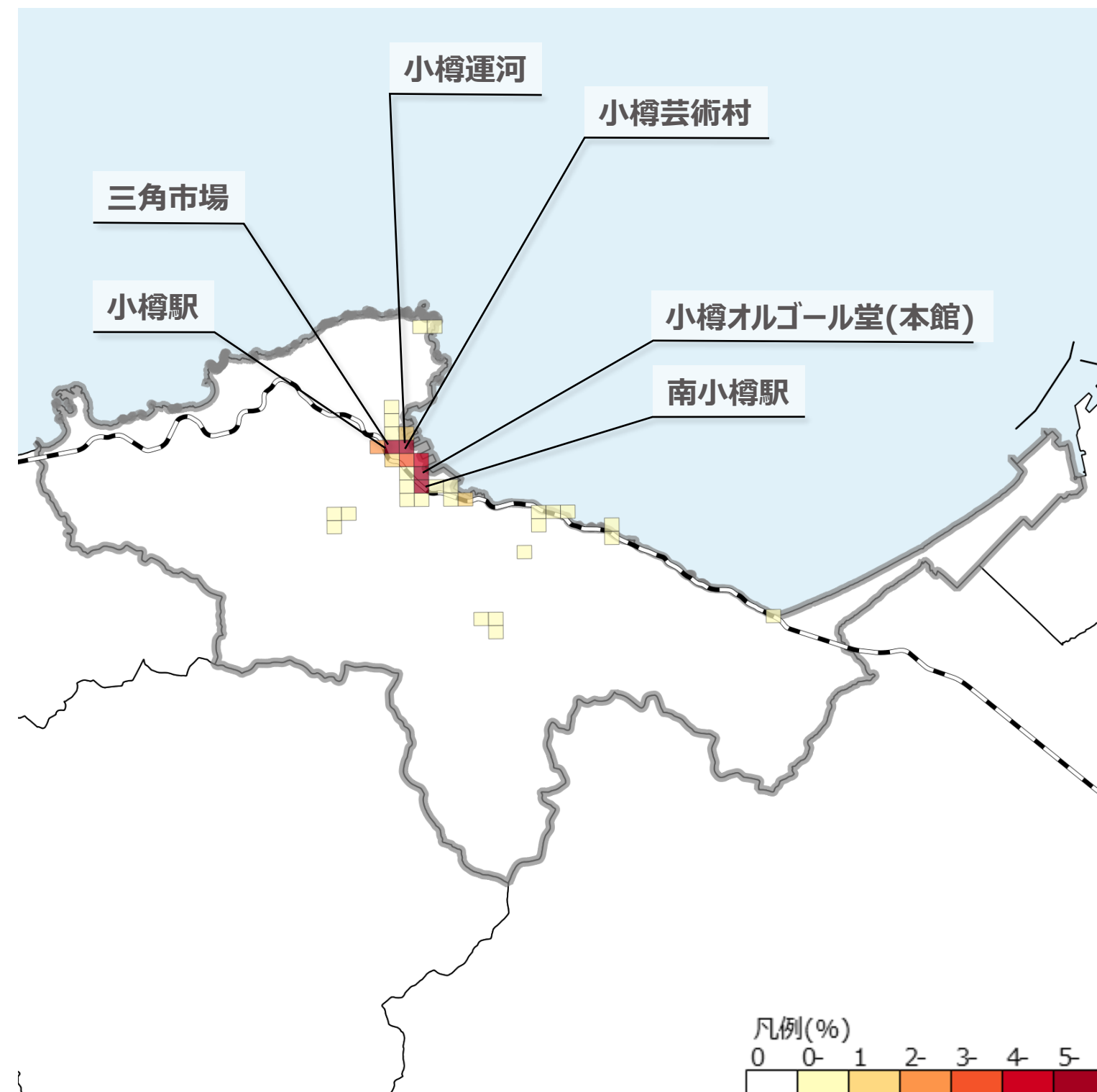
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺の分析結果（2025年）

- ▶ 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・小樽オルゴール堂(本館)付近・南小樽駅付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

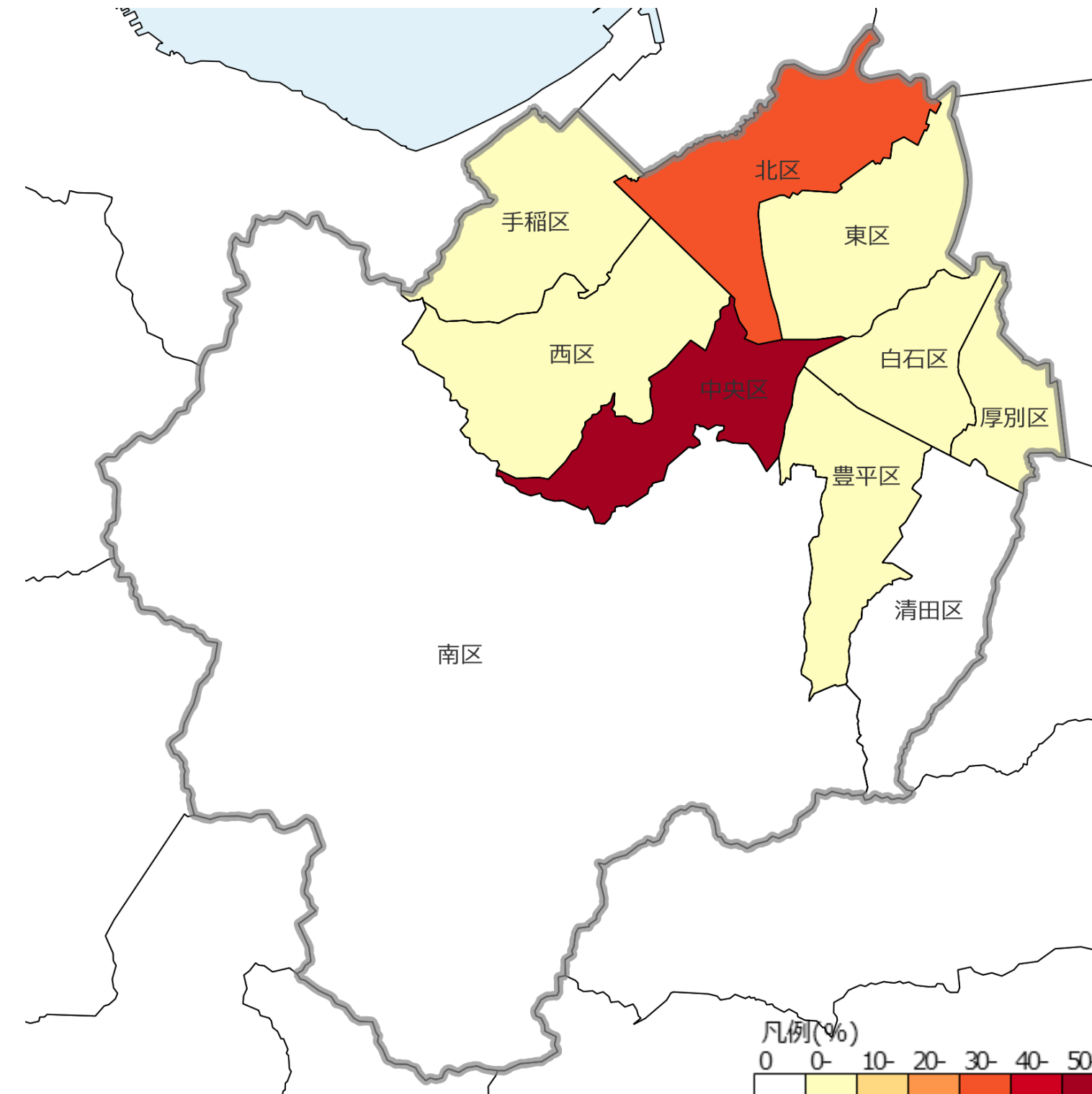
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2025年1～3月）

【小樽市内】



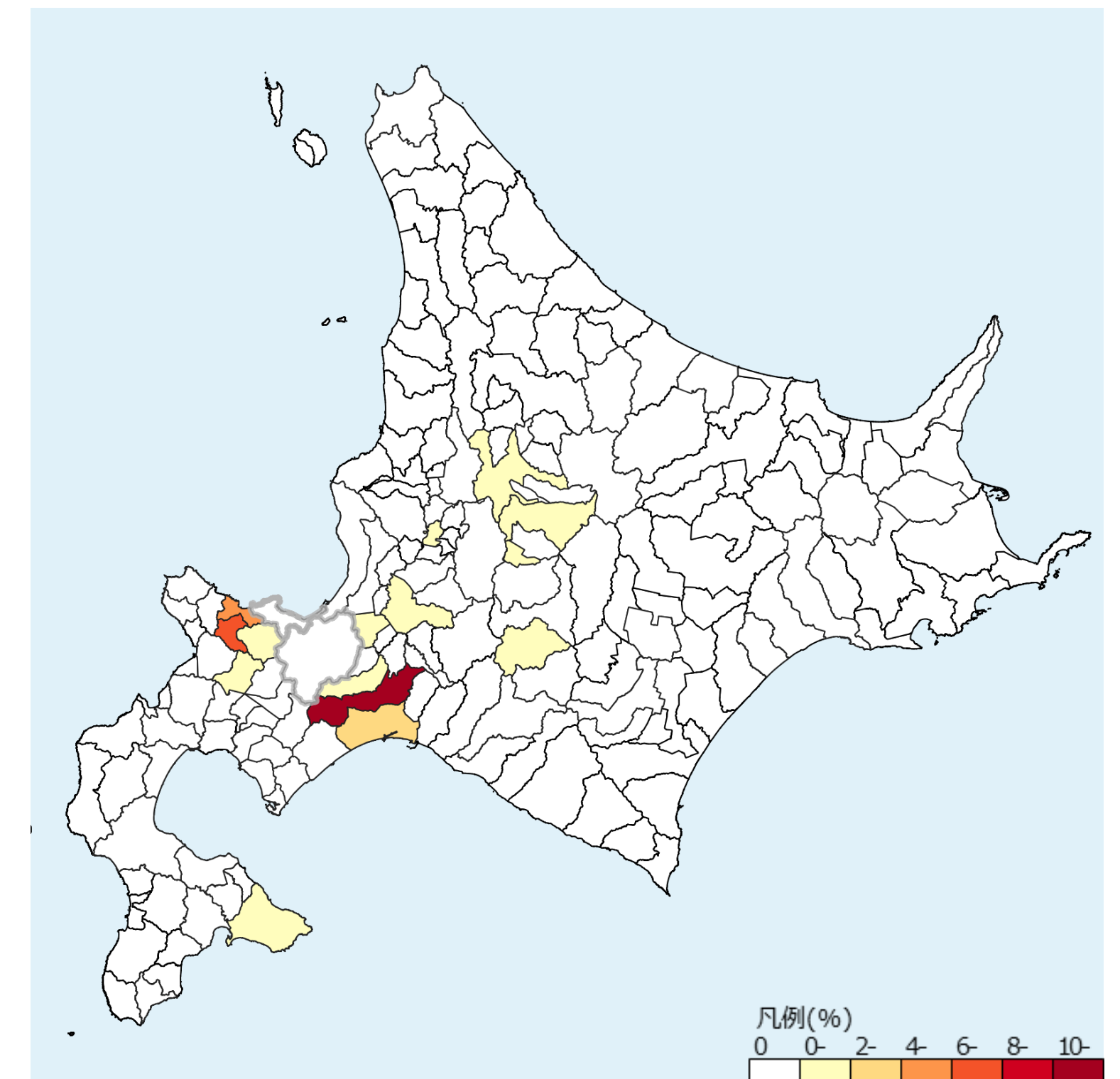
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

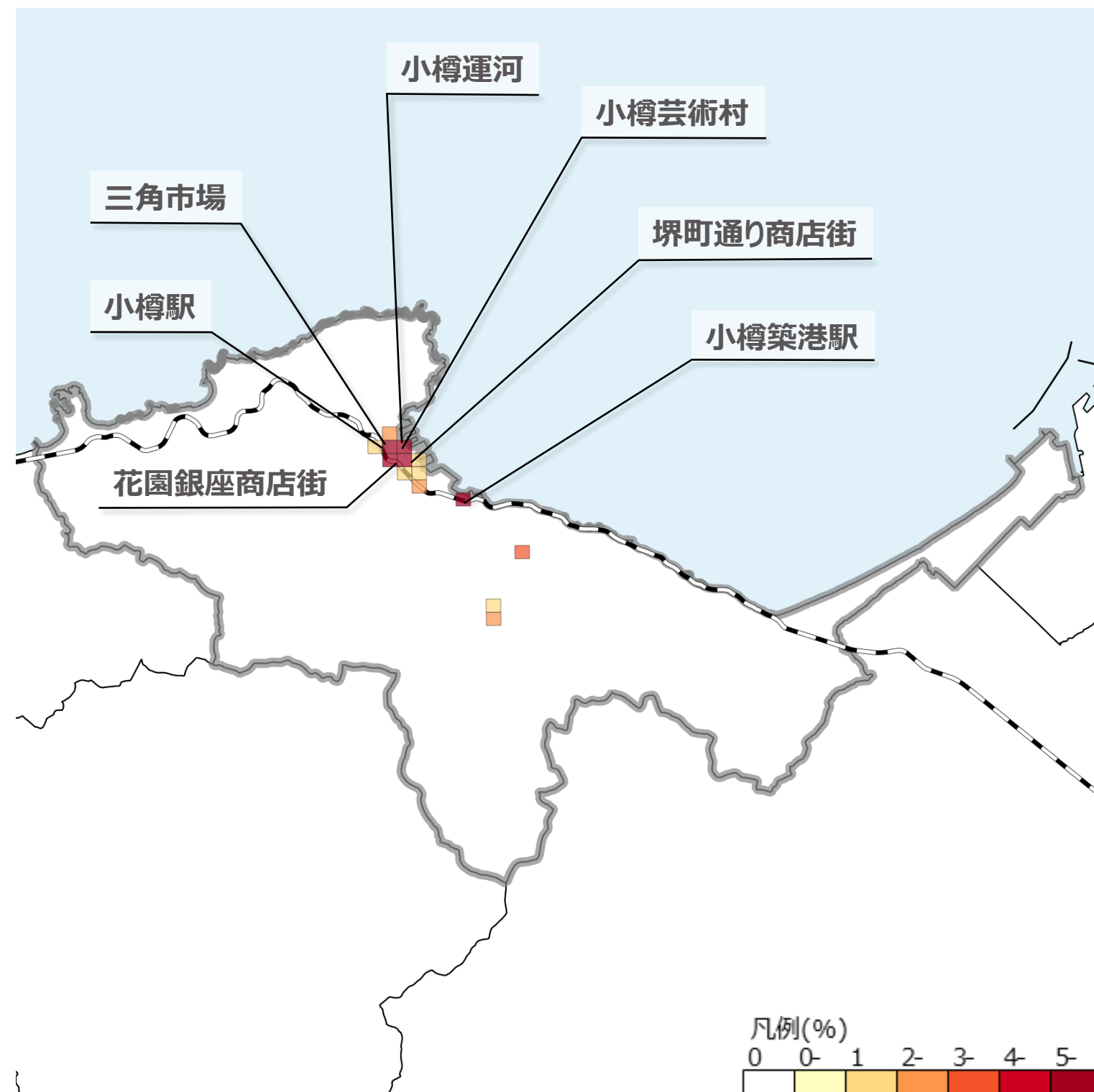
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR朝里駅周辺の分析結果（2025年）

- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・花園銀座商店街・小樽築港駅付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では北区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

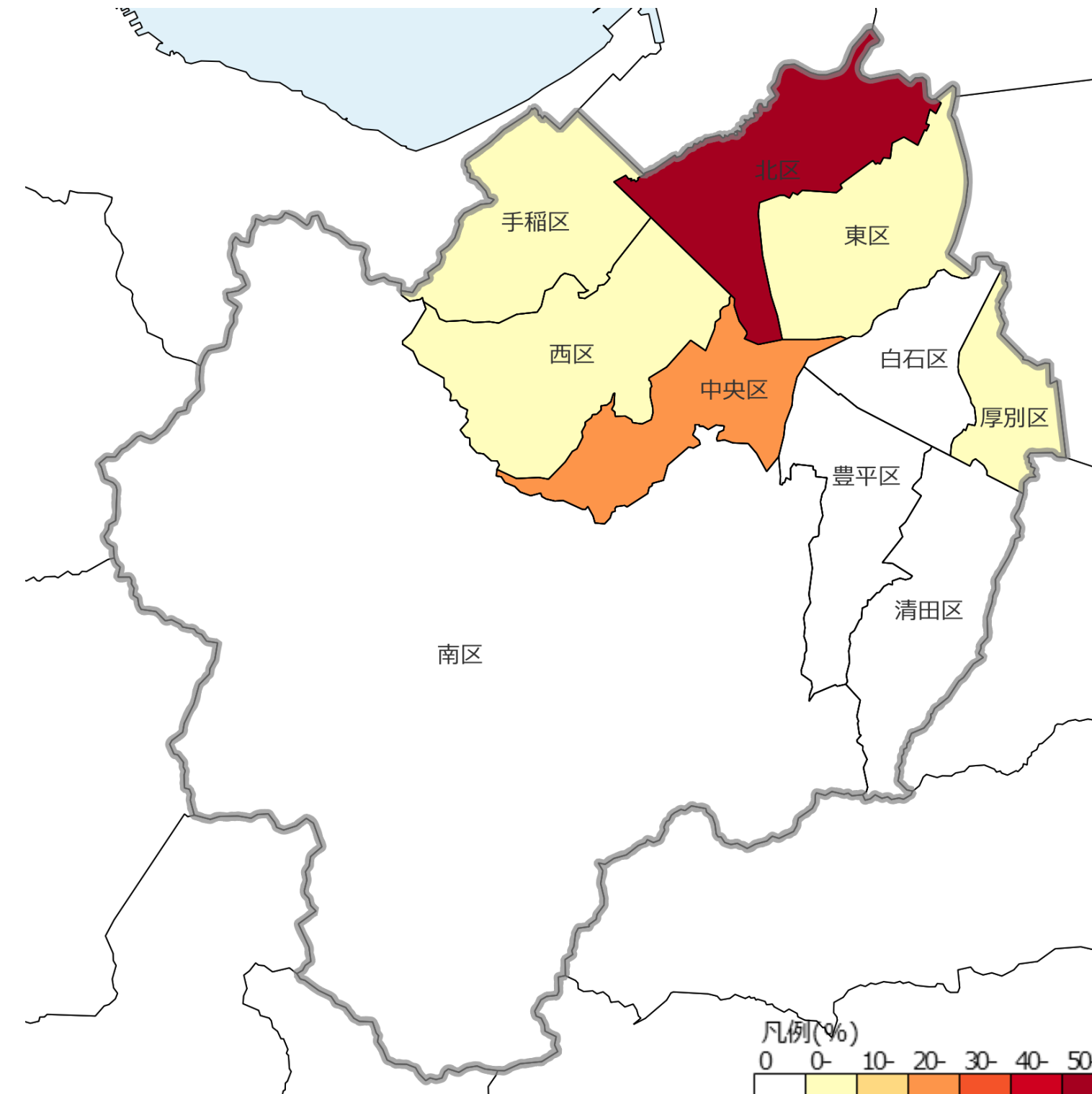
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2025年1～3月）

【小樽市内】



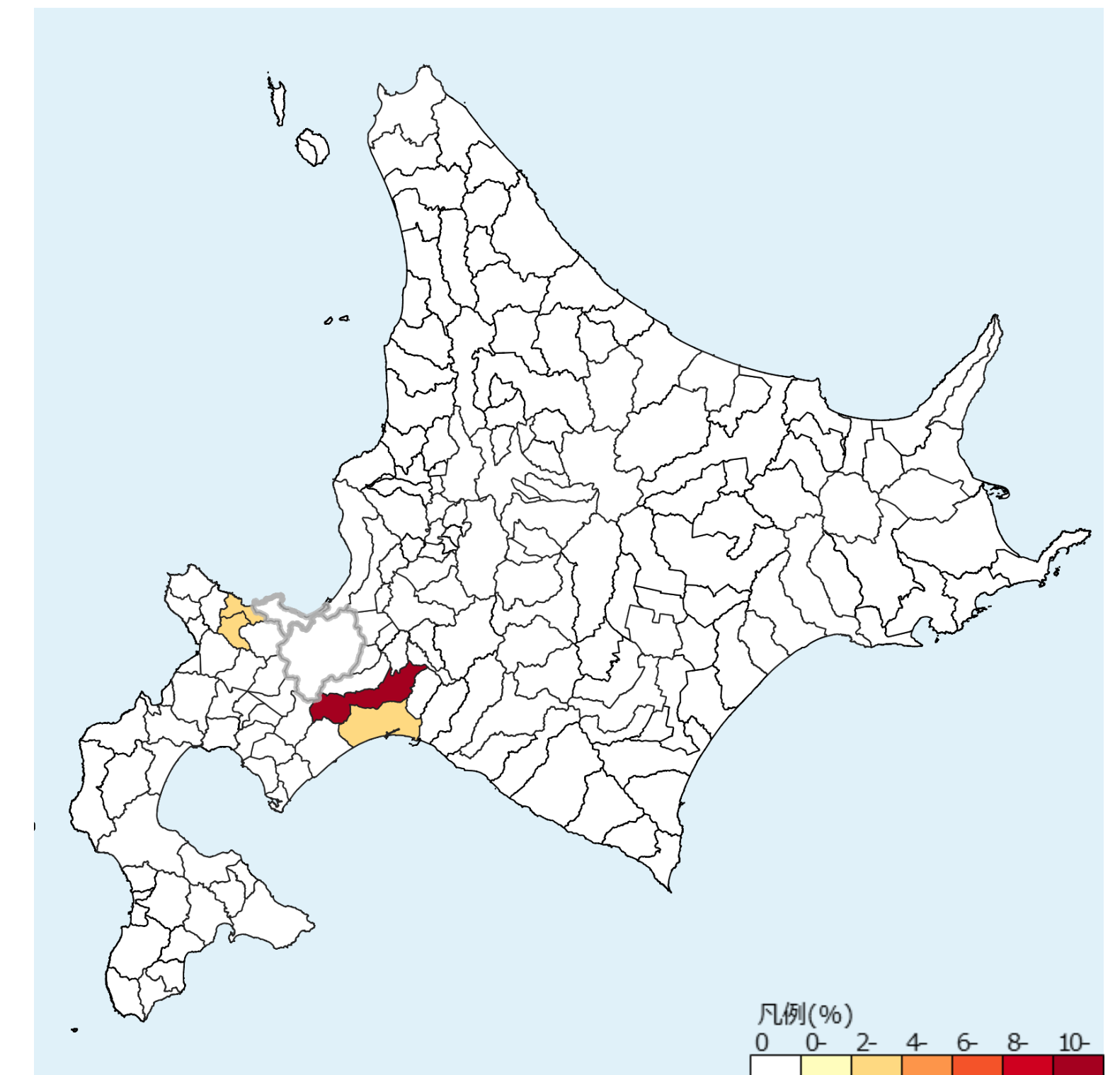
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

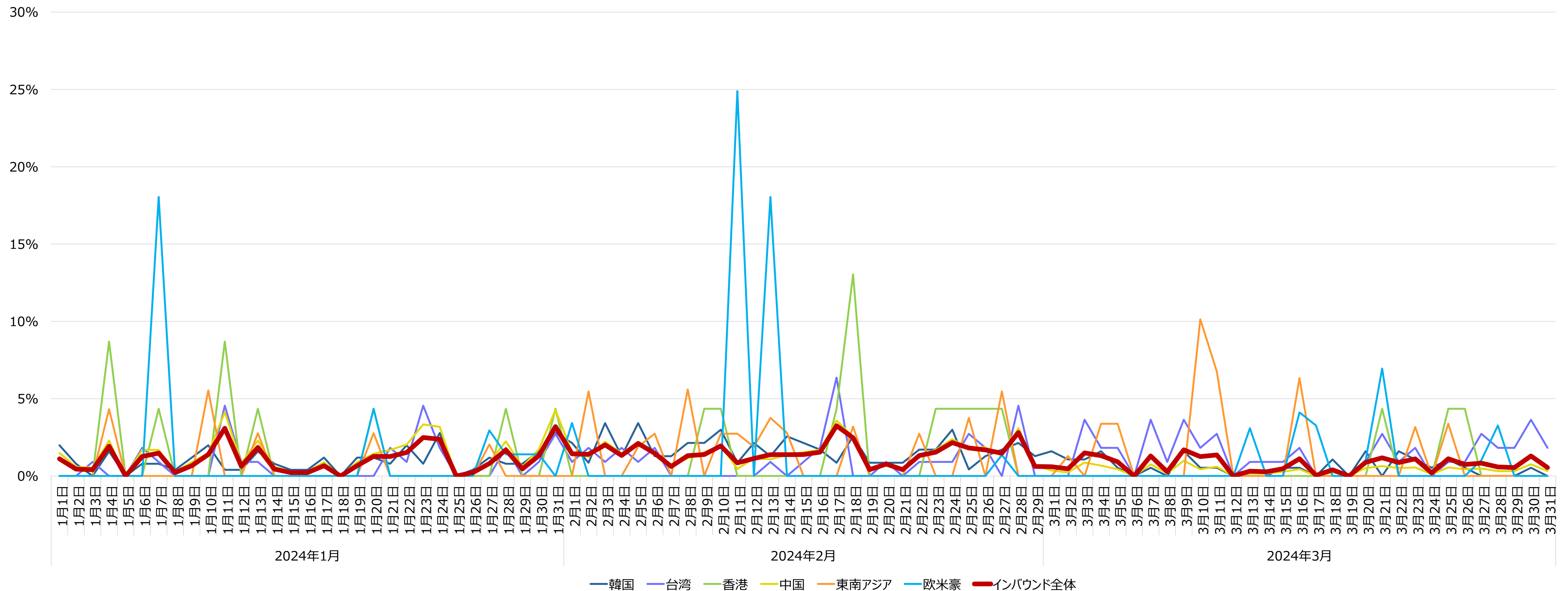
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺

JR銭函駅周辺の分析結果（2024年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、2月17日が最も多く、次いで1月31日、1月11日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、欧米豪は2月11日、香港は2月18日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2024年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている

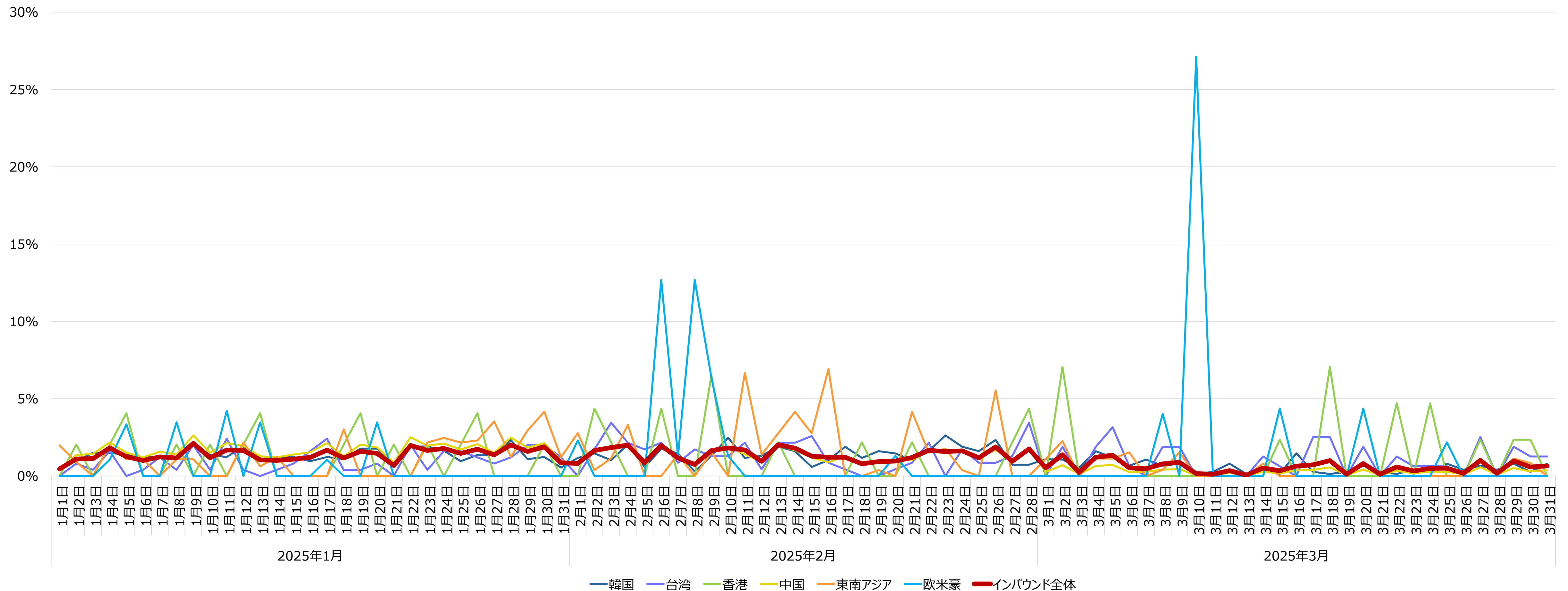


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺の分析結果（2025年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、1月9日が最も多く、次いで2月13日、1月28日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況を見ると、欧米豪は3月10日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2025年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている



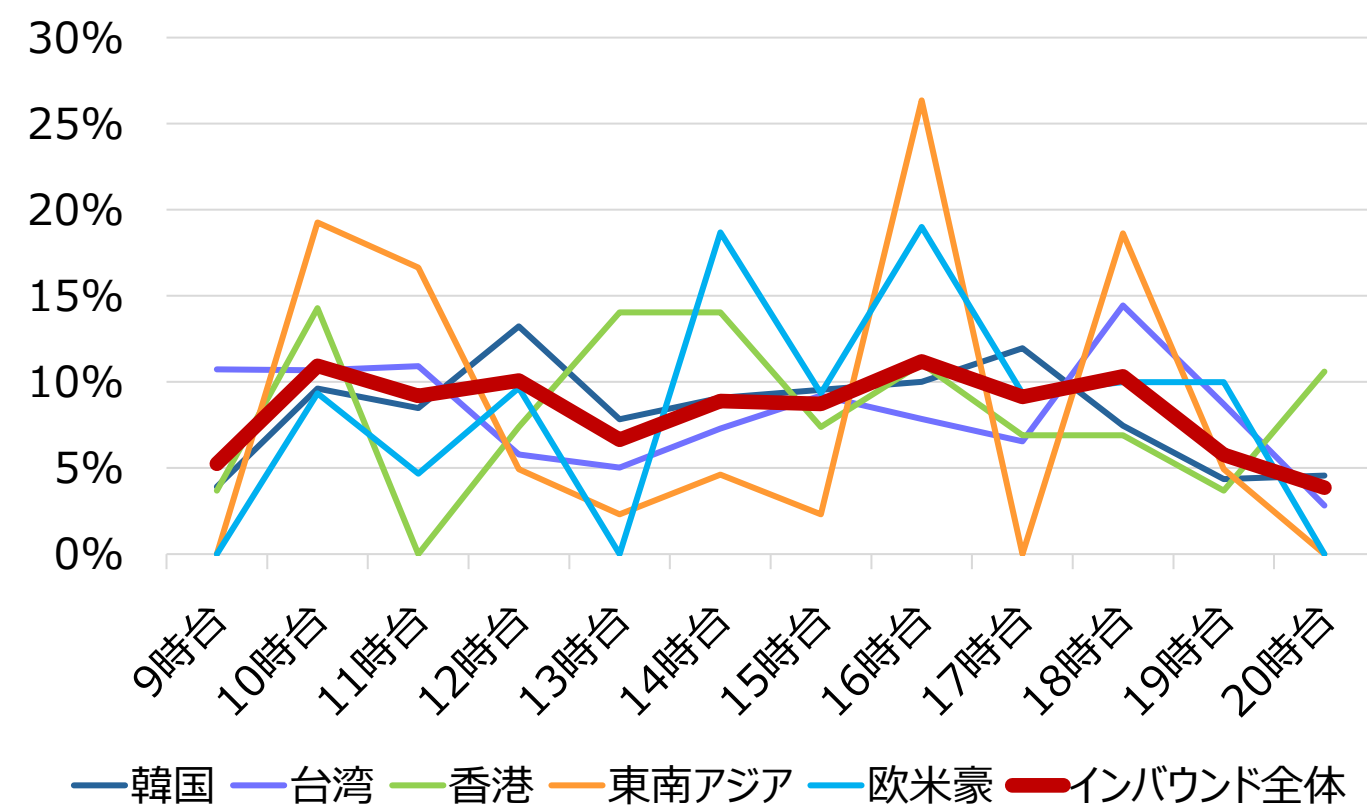
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺の分析結果（2024年/2025年）

- ▶ 来訪時間帯について、2024年は16時台、2025年は11時台がピークとなっており、ピーク時間帯における来訪率は1%増加している。
- ▶ 滞在時間について、2024年に比べ2025年は韓国・台湾・東南アジアで増加傾向、欧米豪で減少傾向にある。

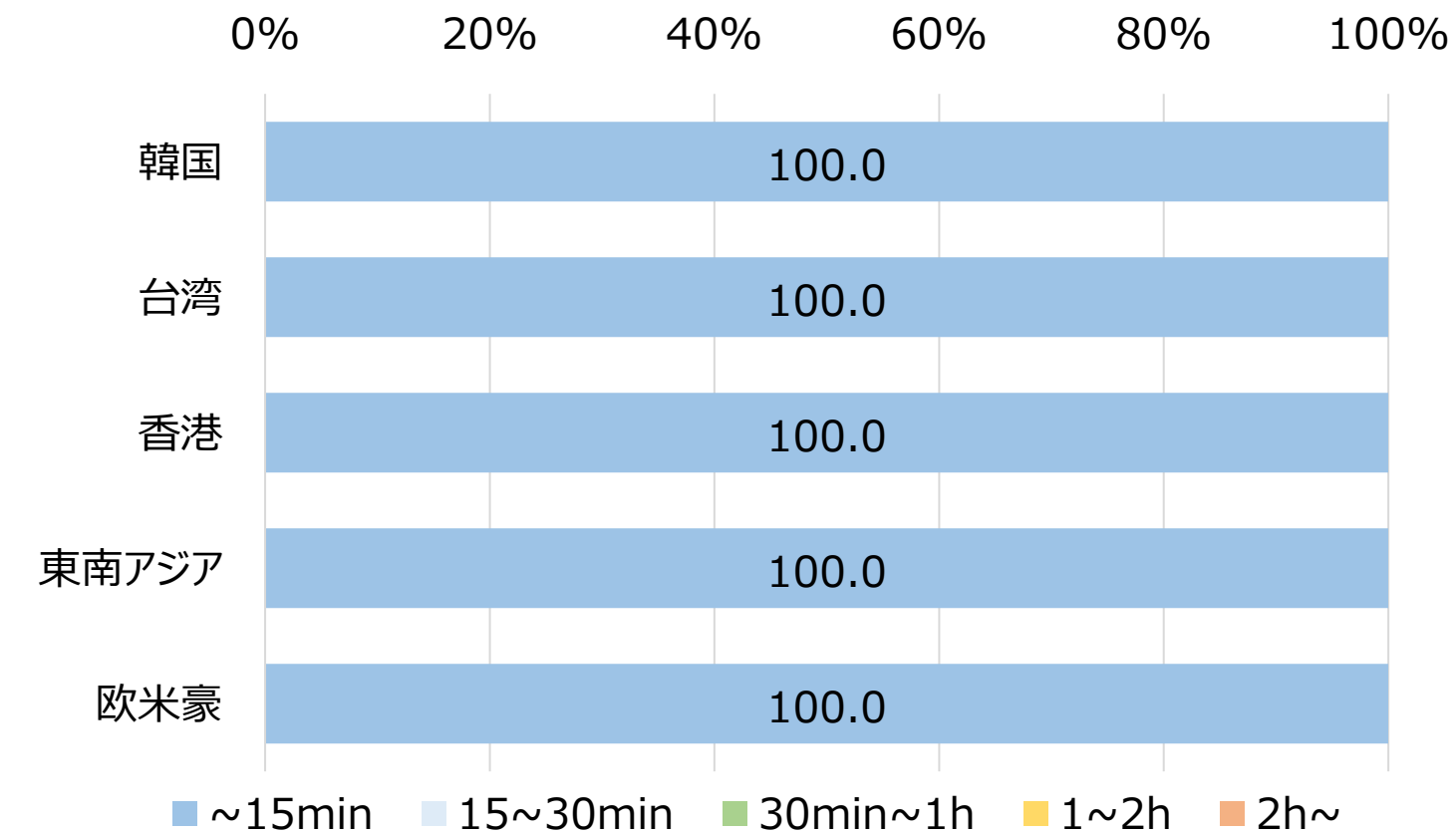
● 来訪時間帯分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉 全体ピーク：16時台（11%）



● 滞在時間分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉

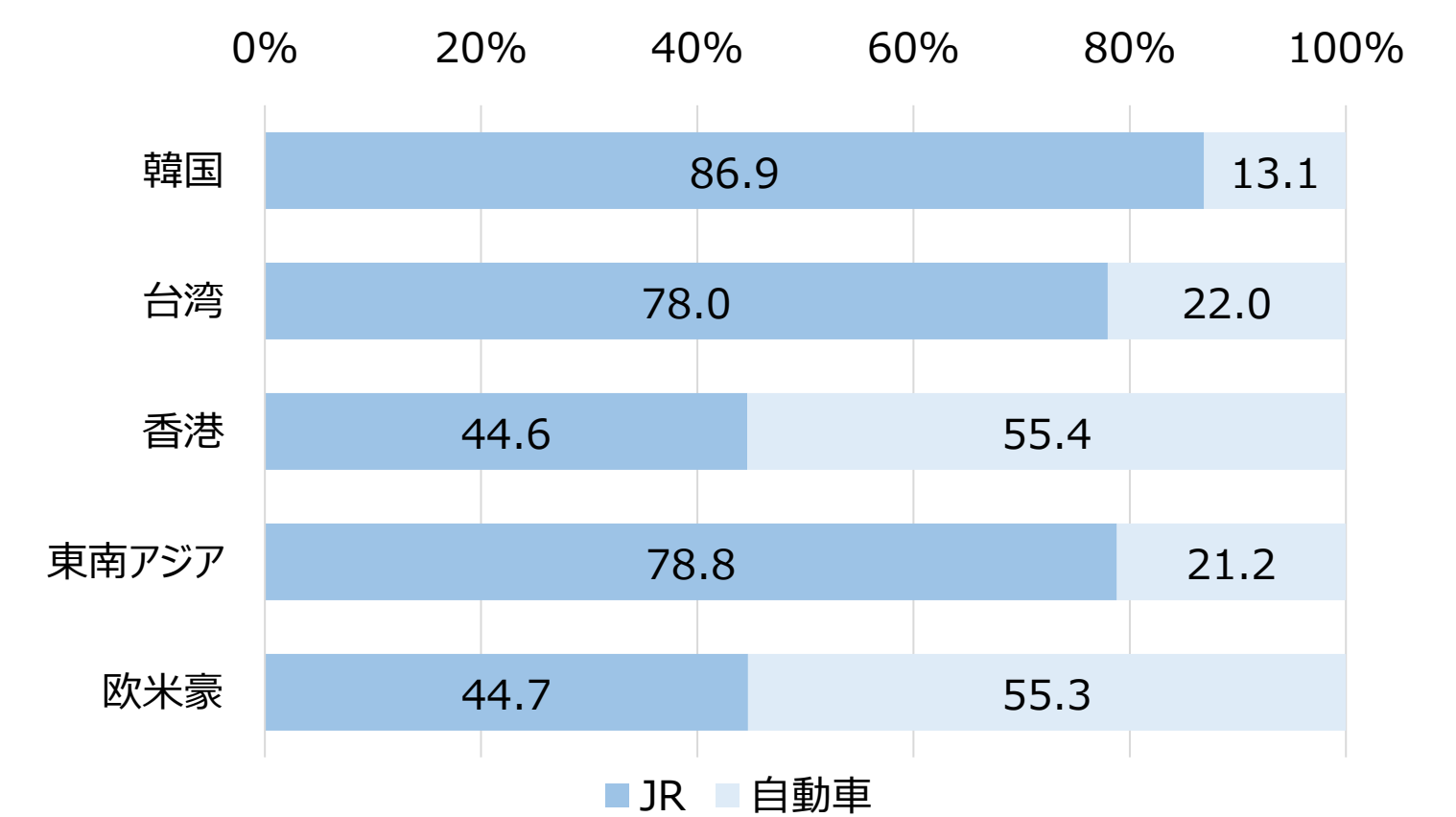


平均滞在時間（分）

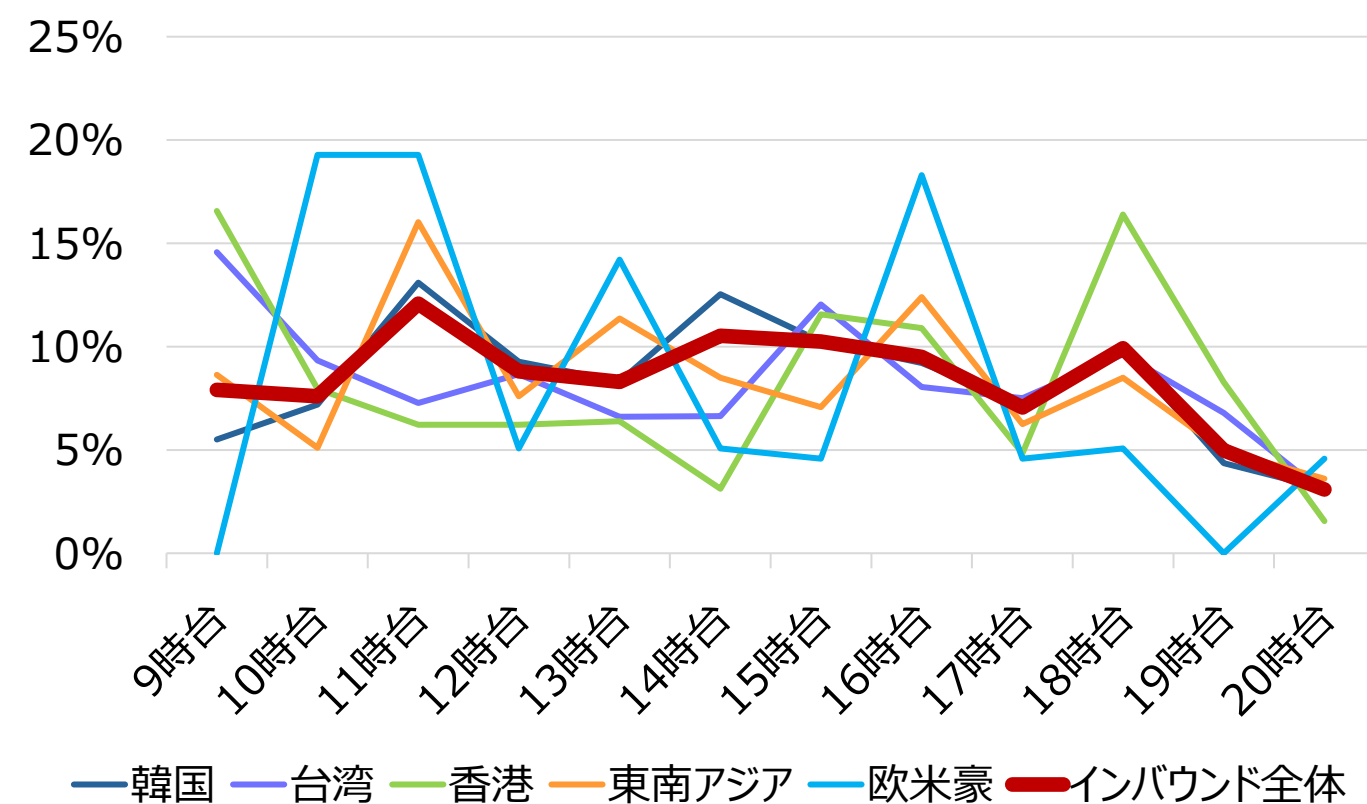
0:05
0:05
0:05
0:05
0:11

● 利用交通手段分布（インバウンド）

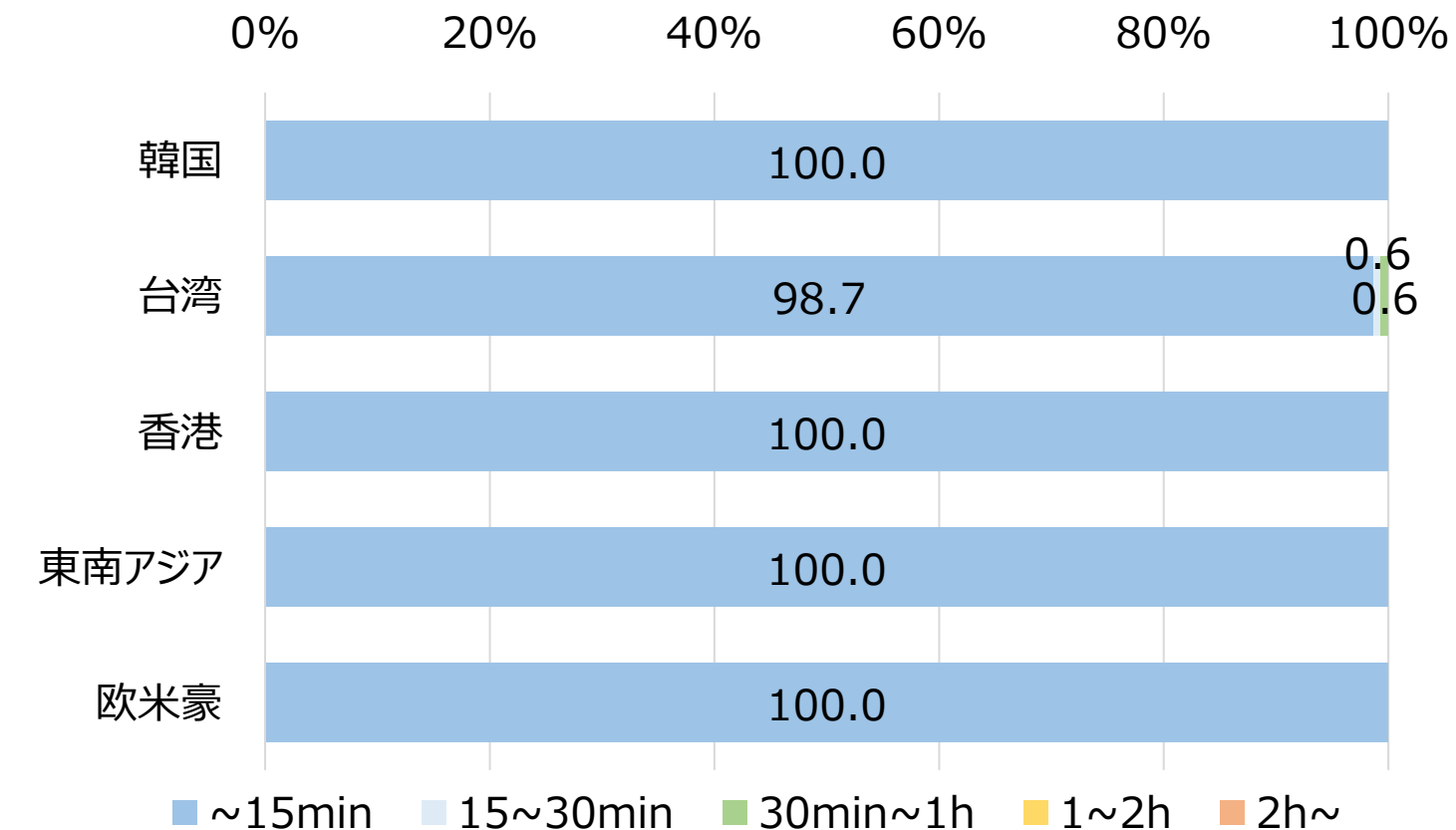
〈2024年1～3月〉



〈2025年1～3月〉 全体ピーク：11時台（12%）



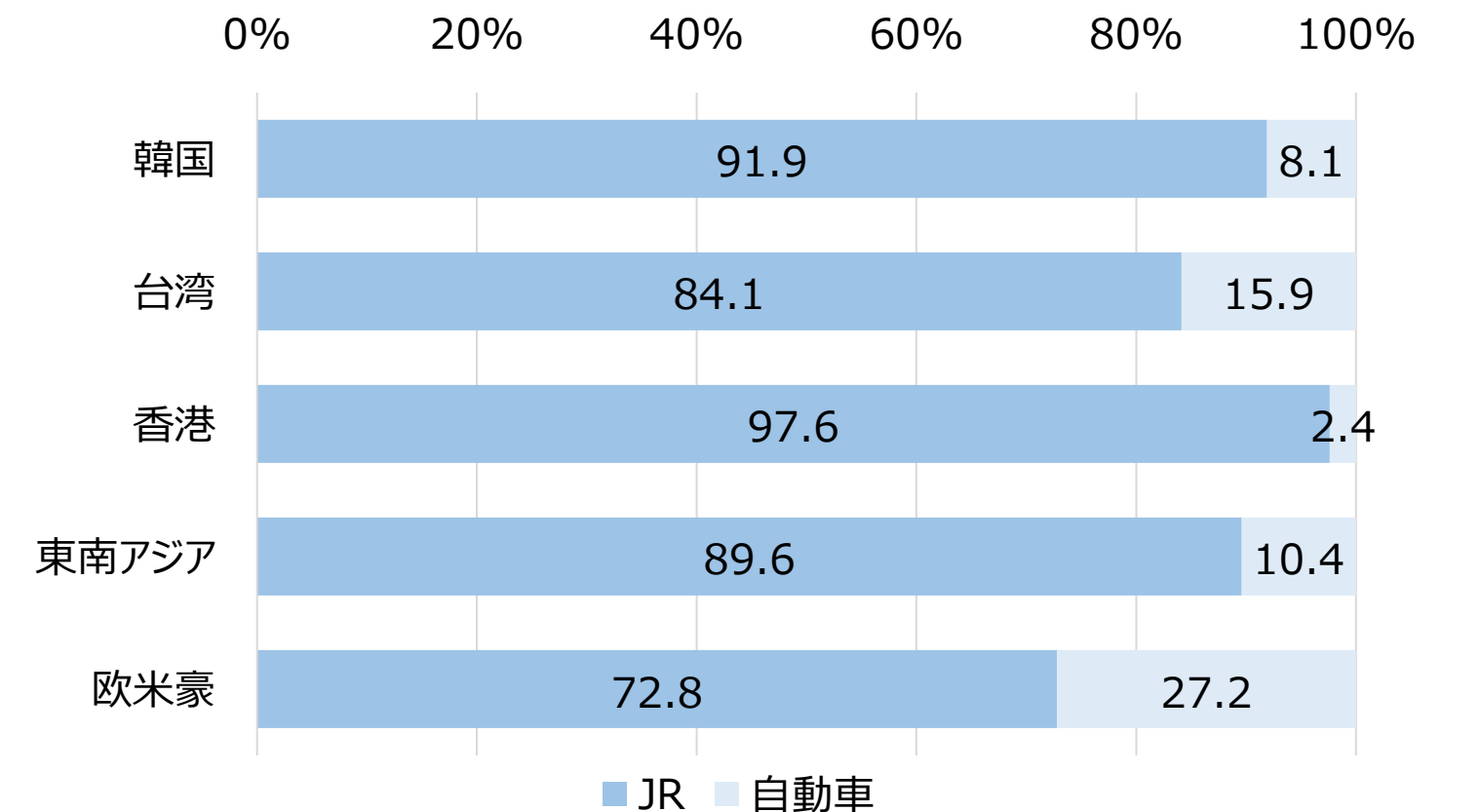
〈2025年1～3月〉



平均滞在時間（分）

0:14
0:29
0:05
0:14
0:05

〈2025年1～3月〉



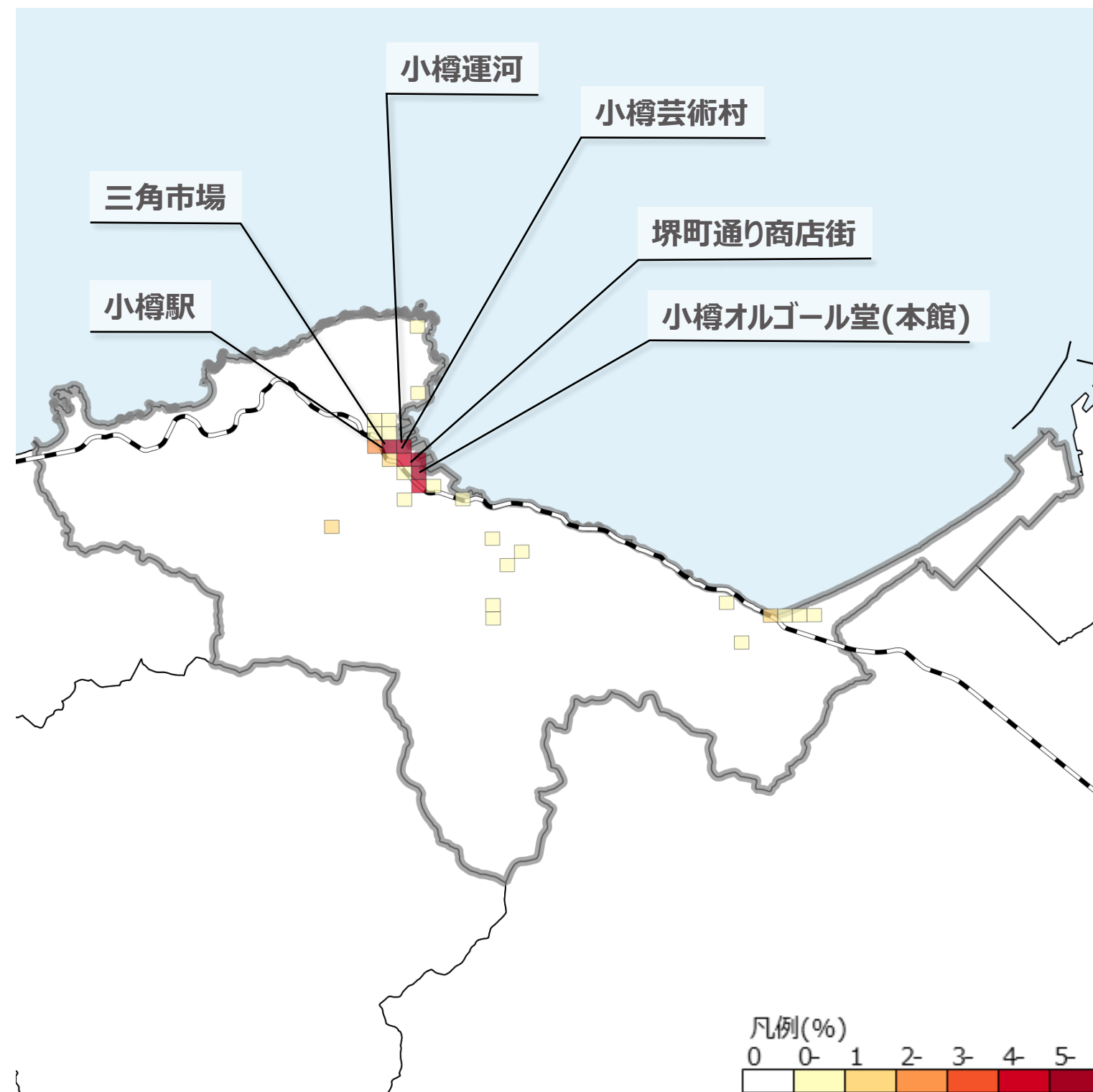
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺の分析結果（2024年）

- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

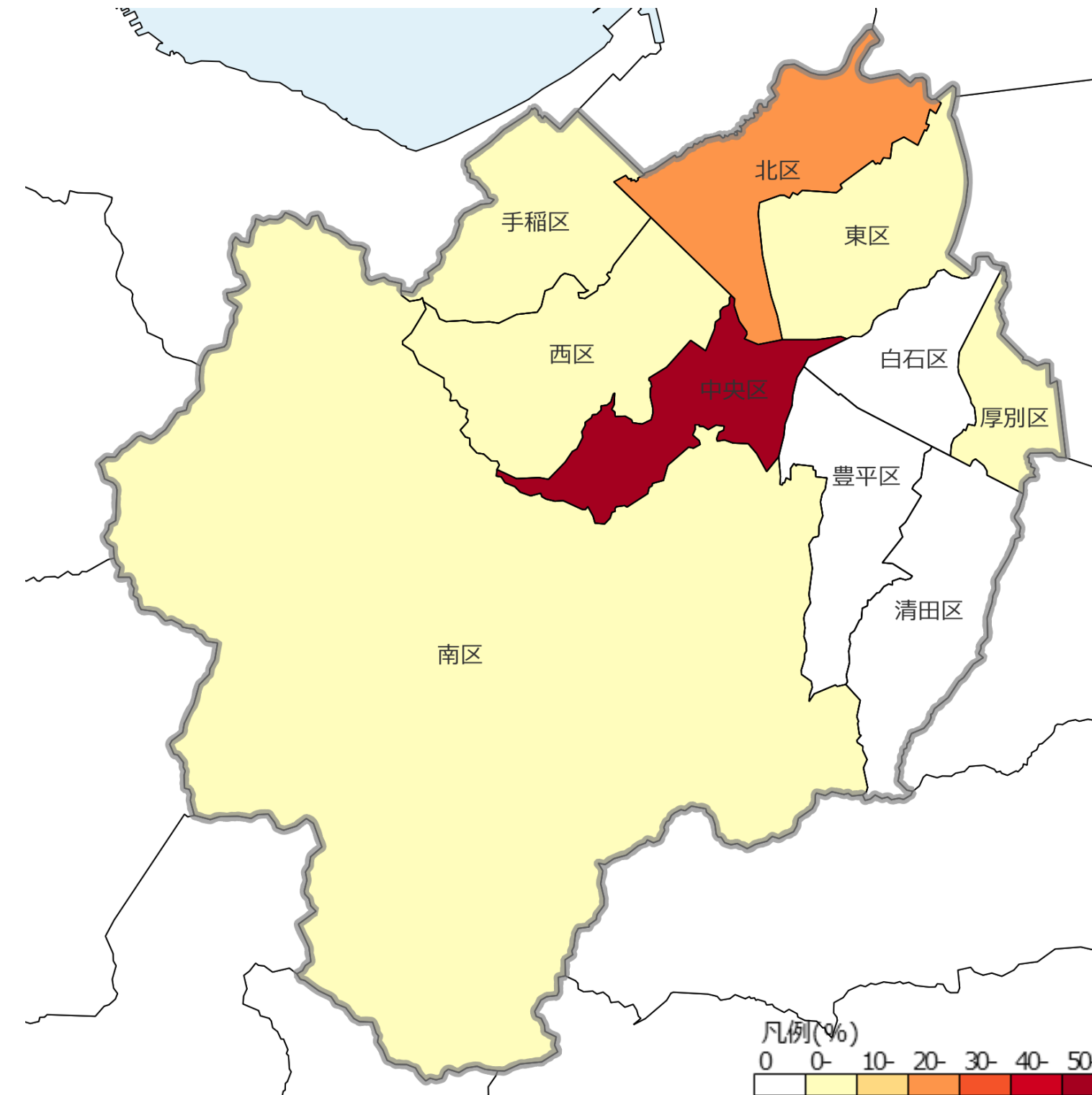
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2024年1～3月）

【小樽市内】



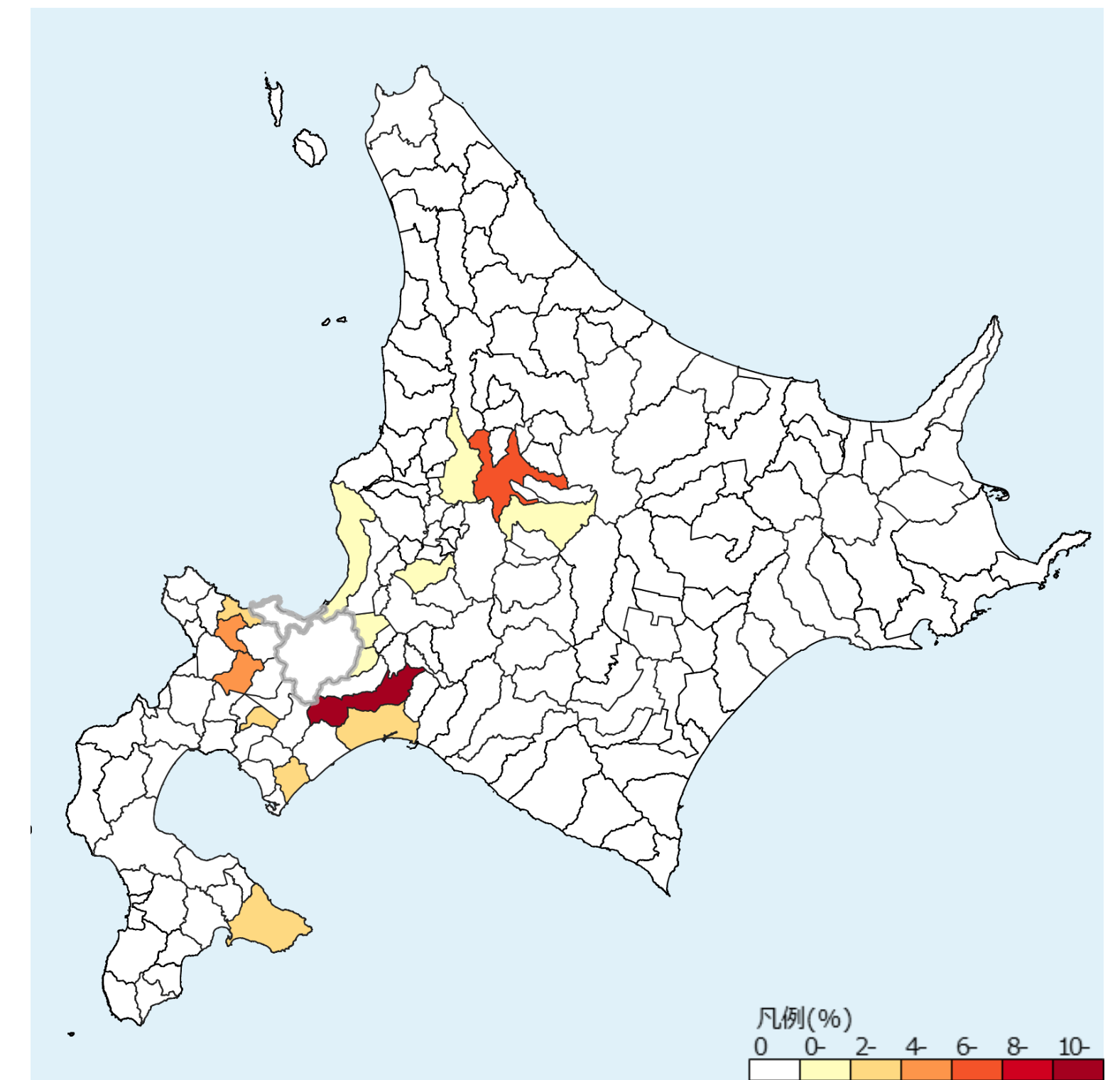
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

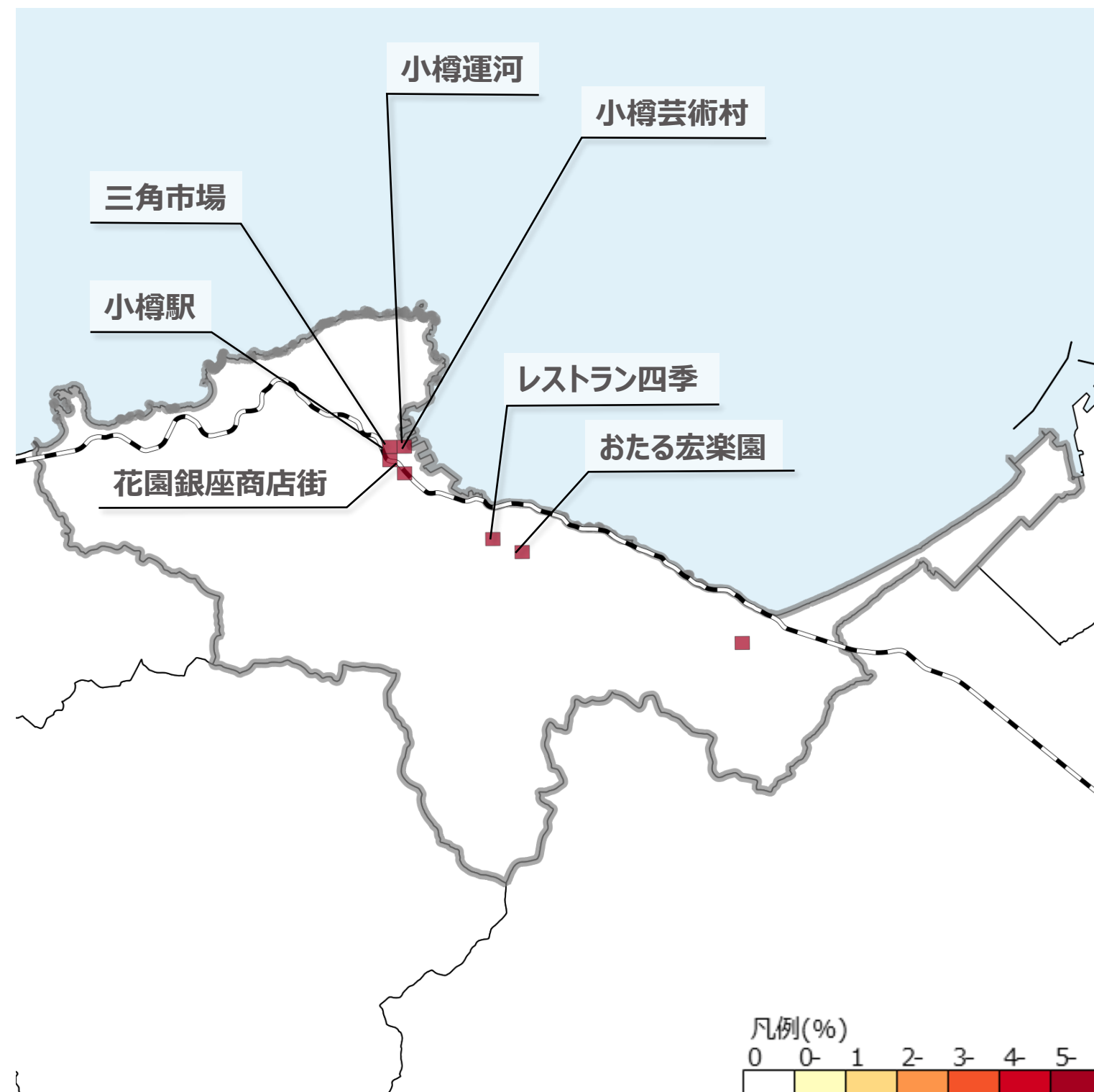
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺の分析結果（2024年）

- ▶ 小樽市では中心部エリアのほかレストラン四季・おたる宏楽園付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・江別・苫小牧との周遊が多い。

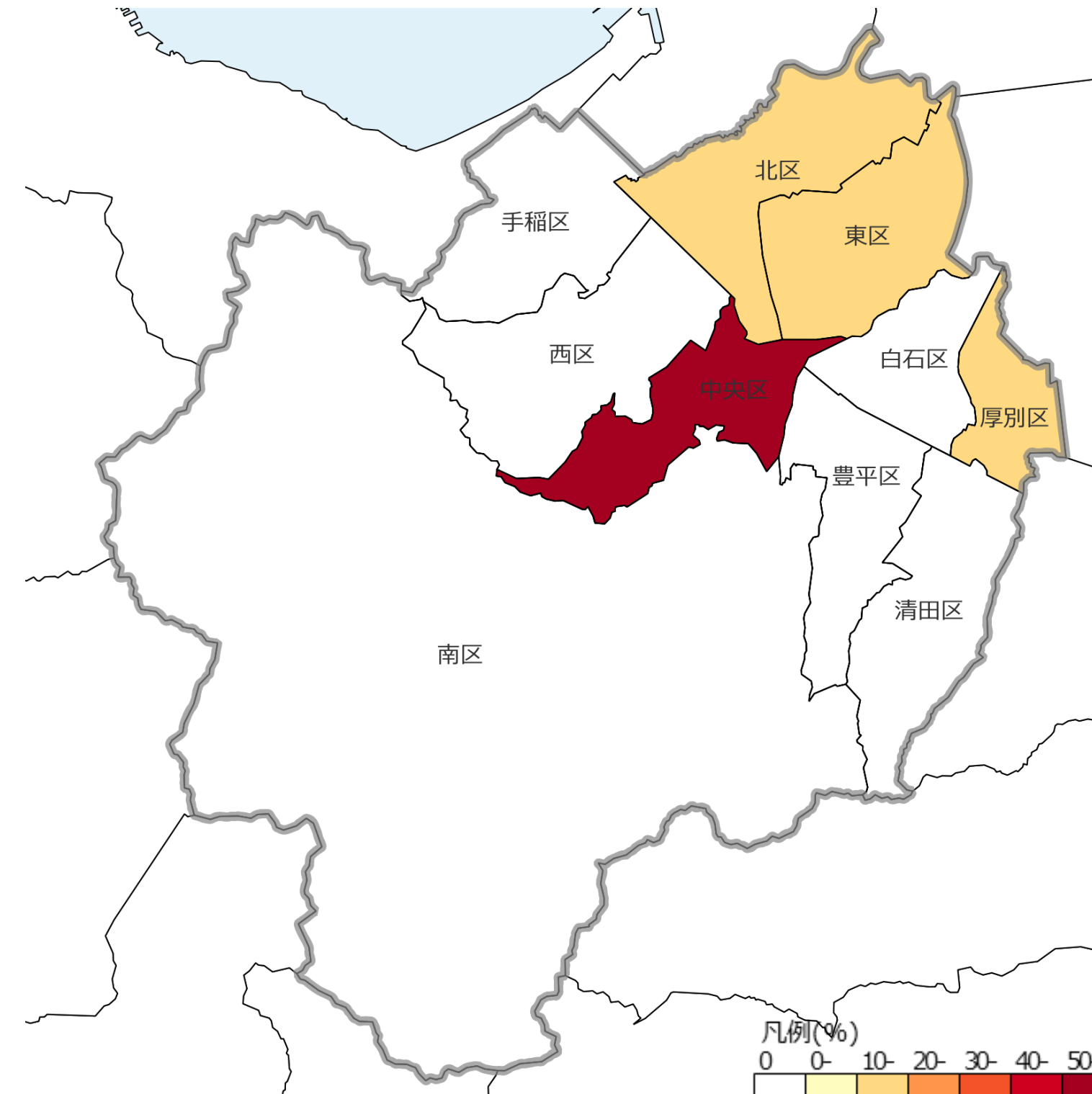
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2024年1～3月）

【小樽市内】



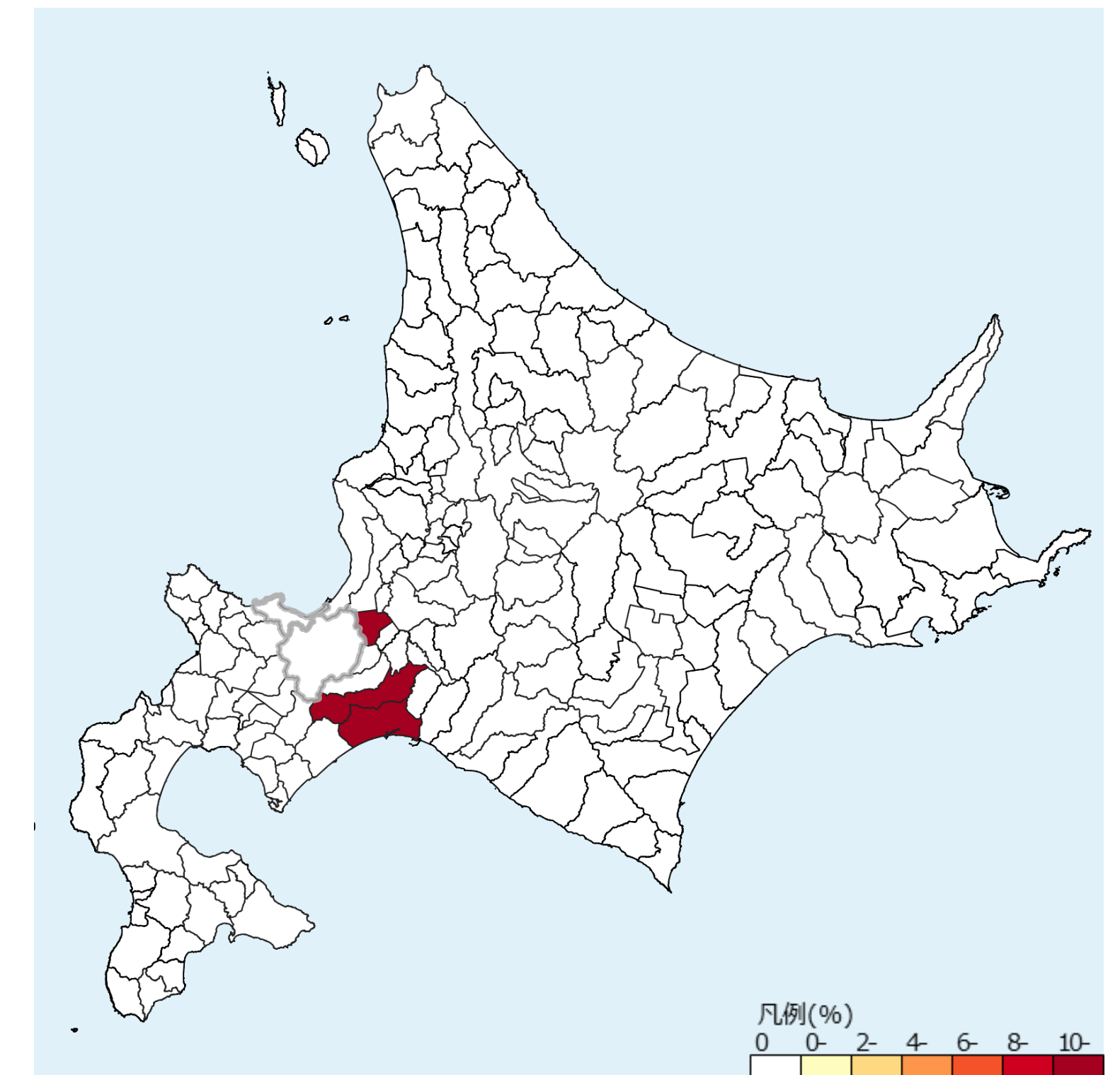
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

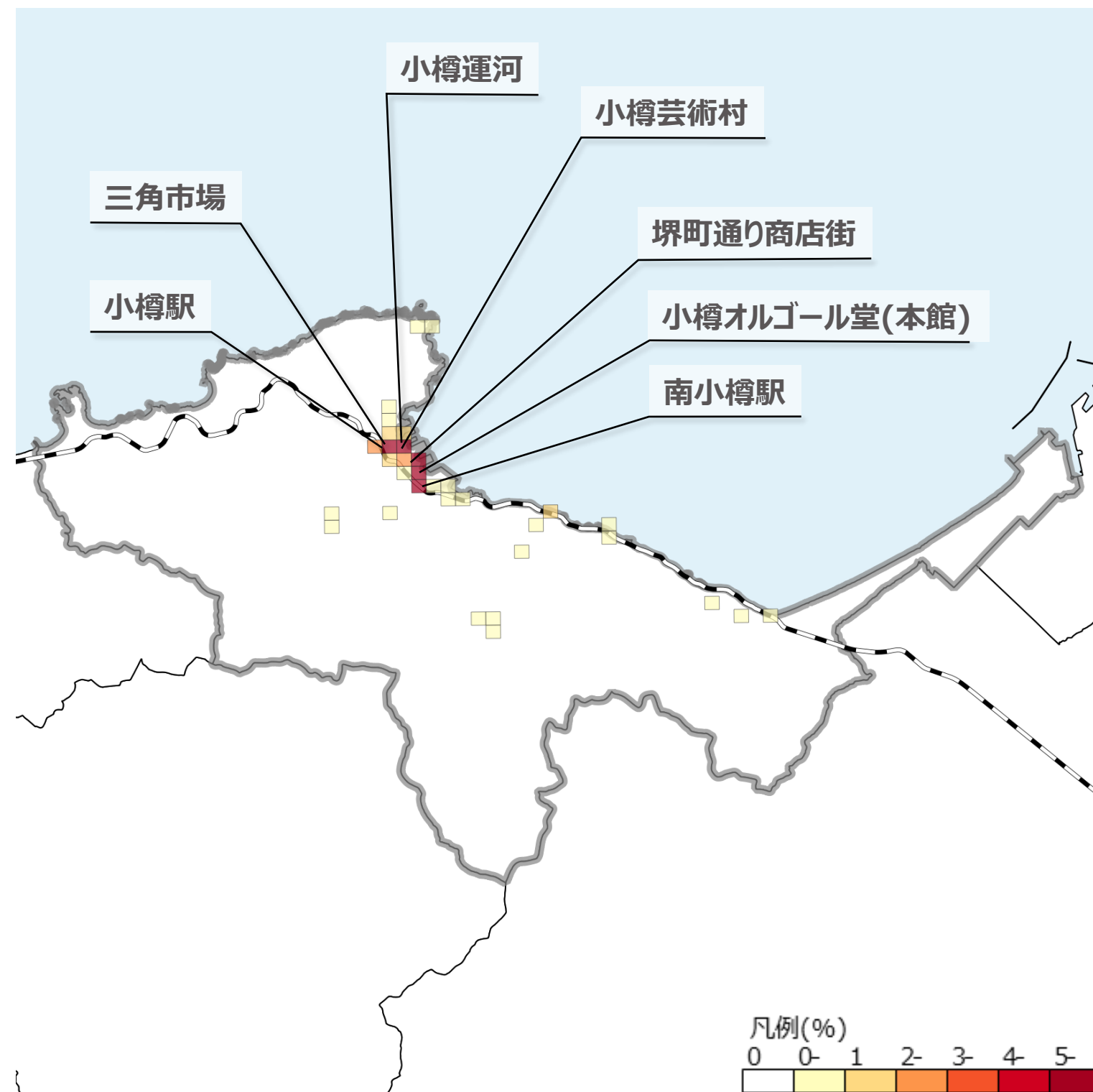
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺の分析結果（2025年）

- ▶ 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・堺町通り商店街・小樽オルゴール堂(本館)・南小樽駅付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

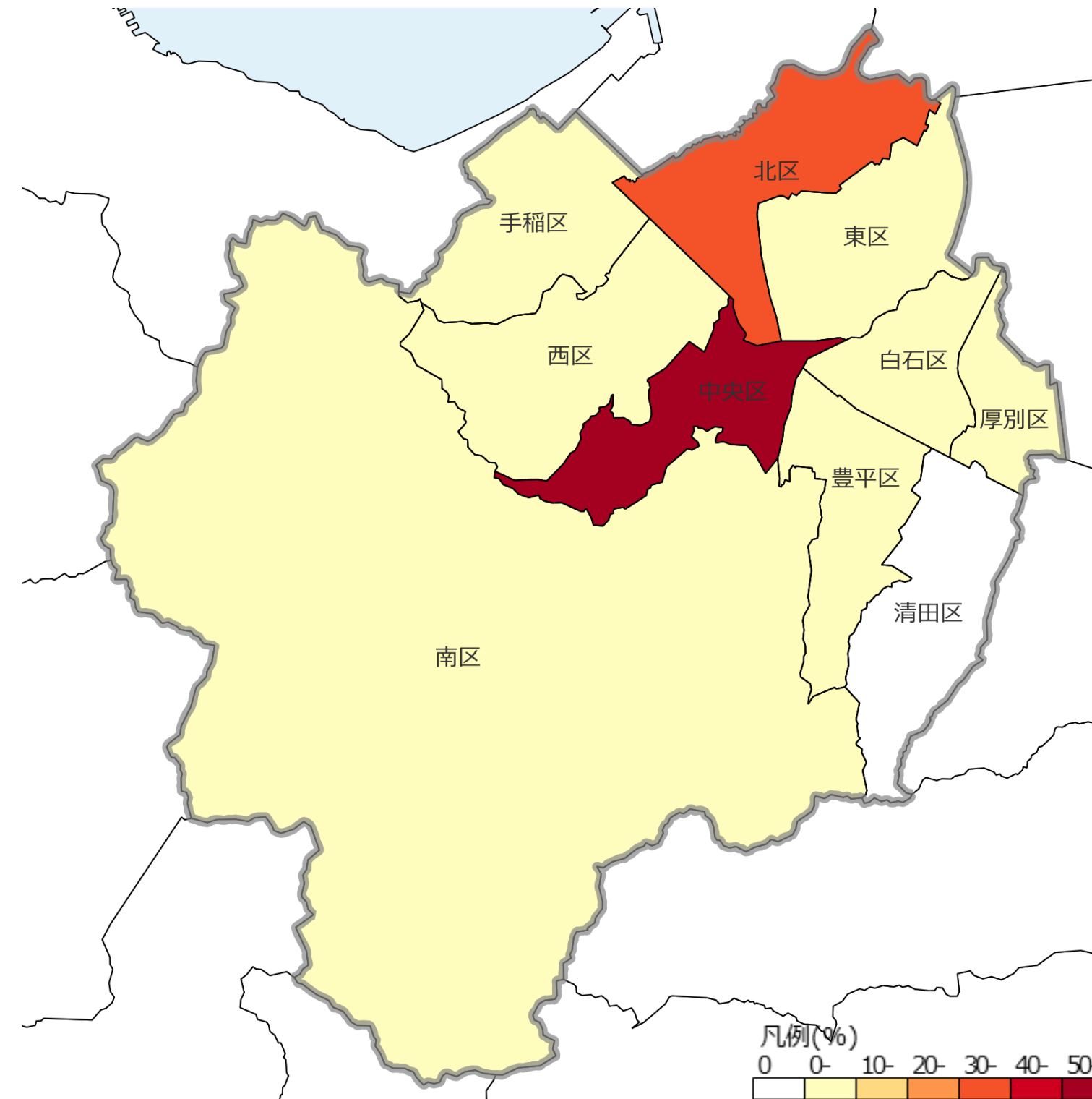
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2025年1～3月）

【小樽市内】



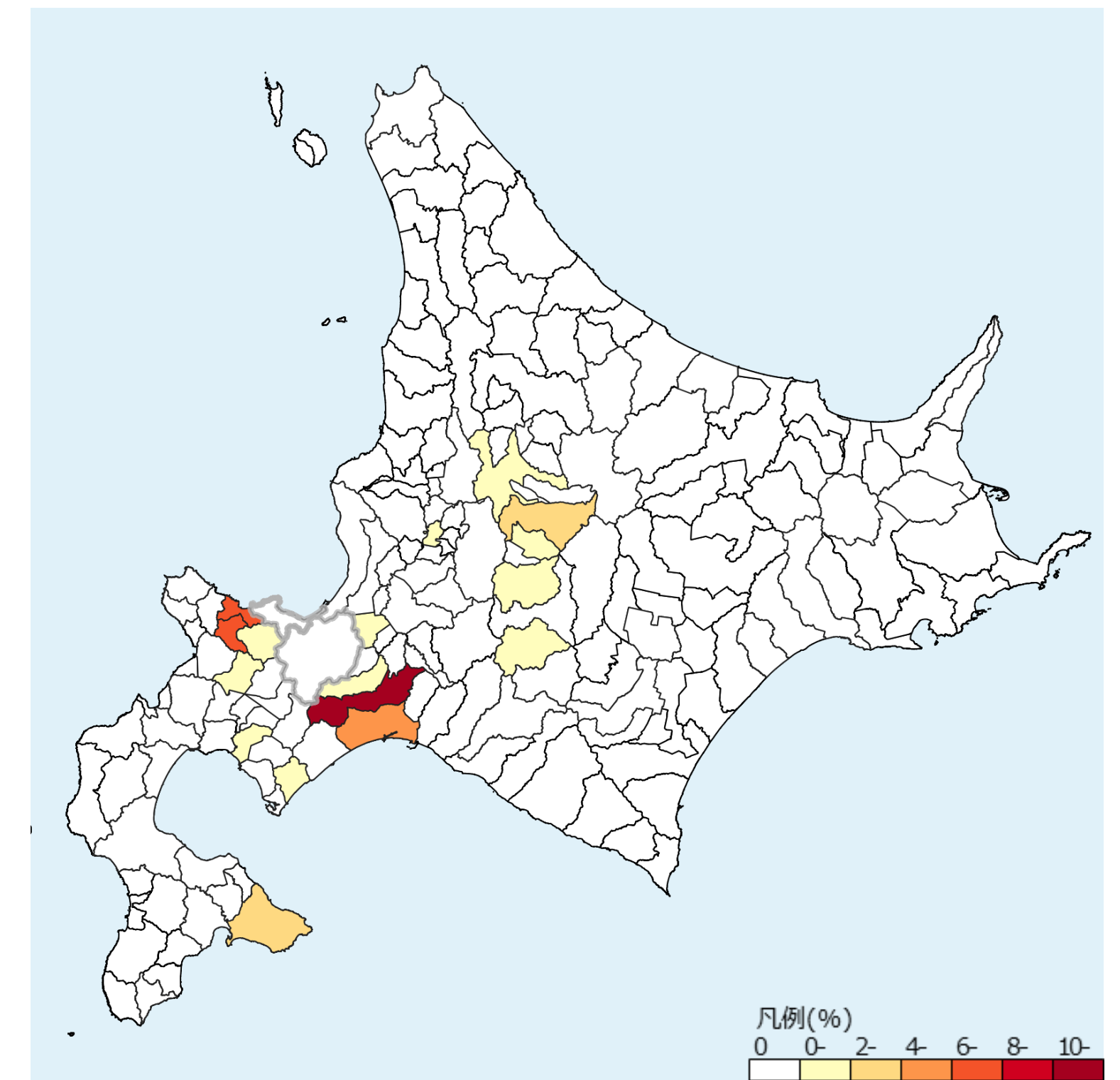
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

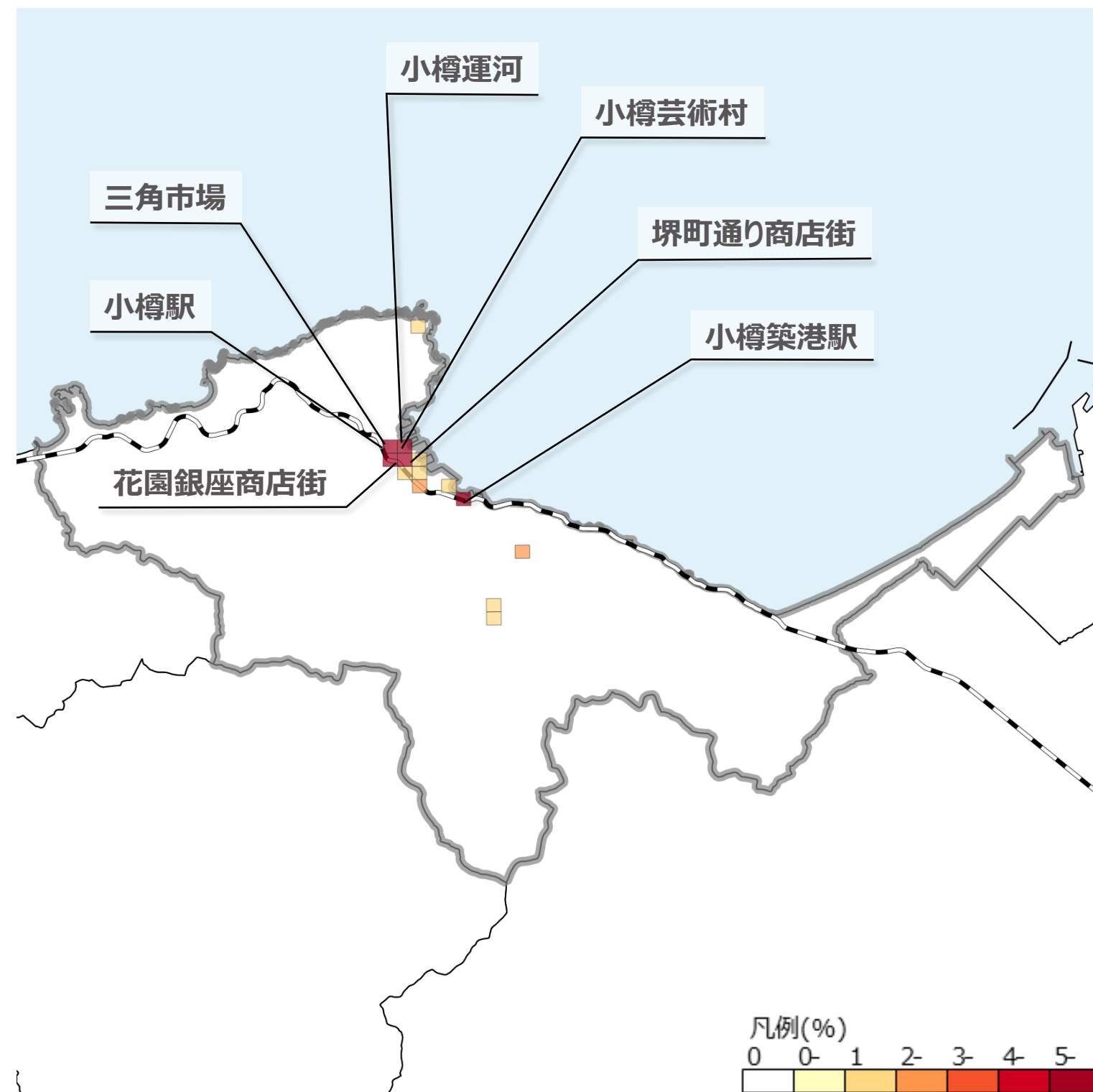
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

JR銭函駅周辺の分析結果（2025年）

- 小樽市では小樽駅・三角市場・小樽運河・小樽芸術村・堺町通り商店街・花園銀座商店街・小樽築港駅付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では北区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳との周遊が多い。

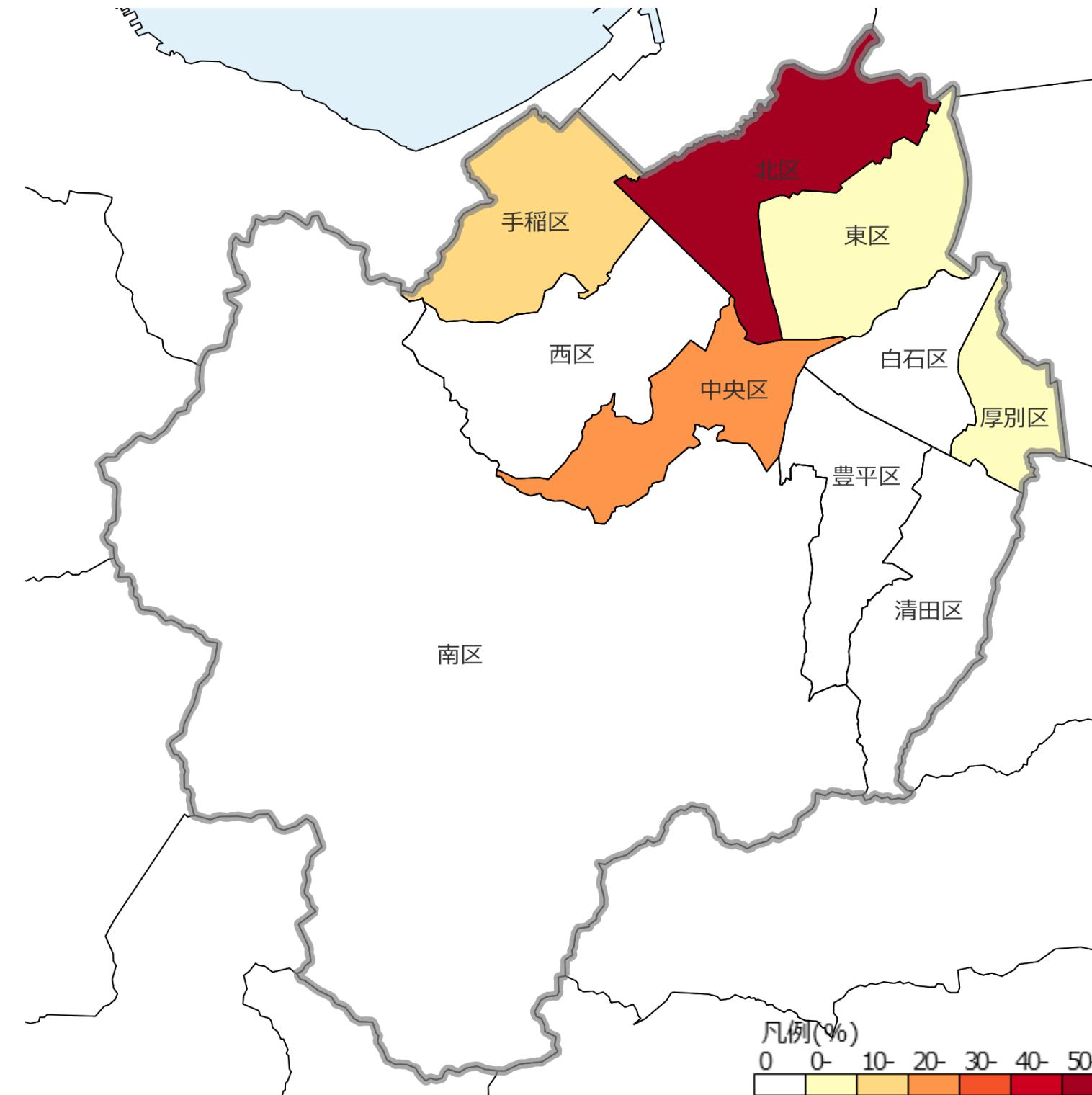
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2025年1～3月）

【小樽市内】



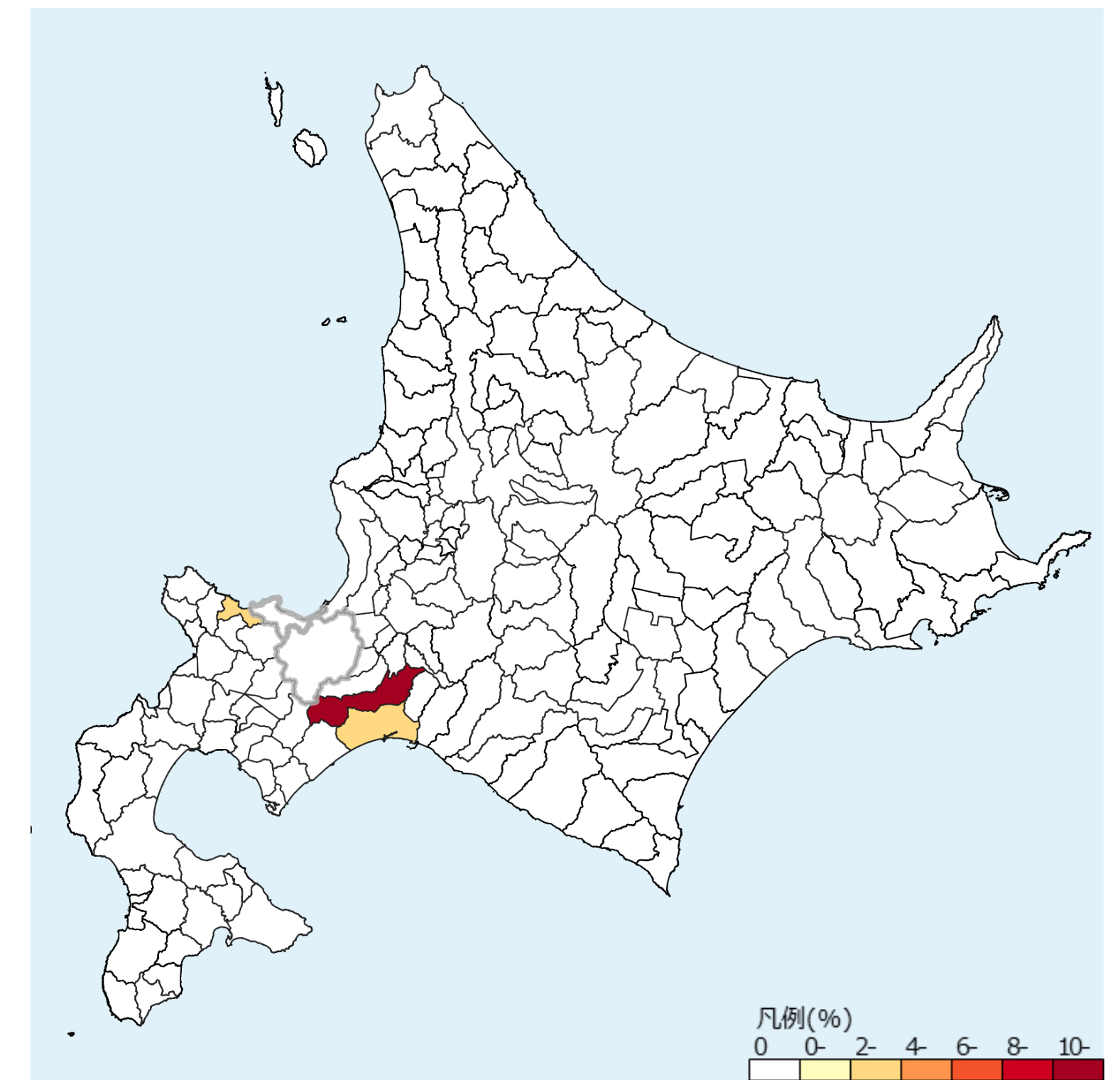
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

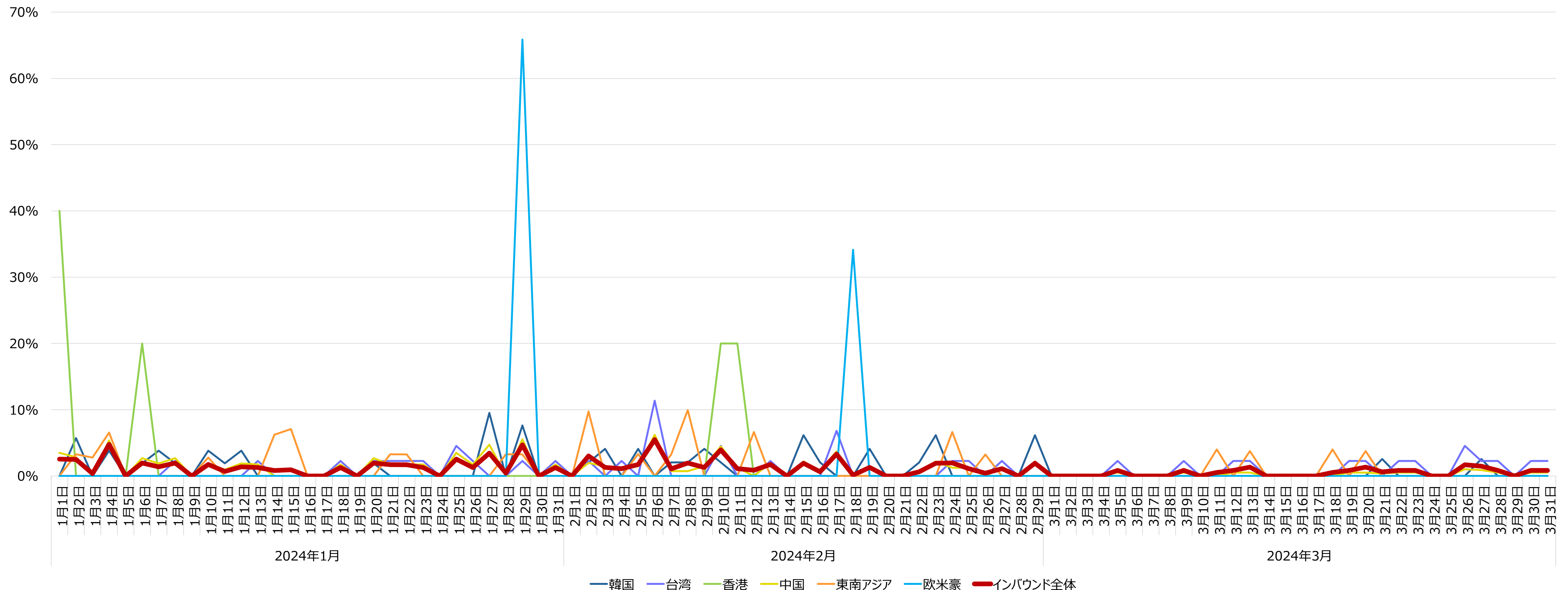
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2024年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、2月6日が最も多く、次いで1月4日、1月29日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、欧米豪は1月29日・2月18日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2024年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている

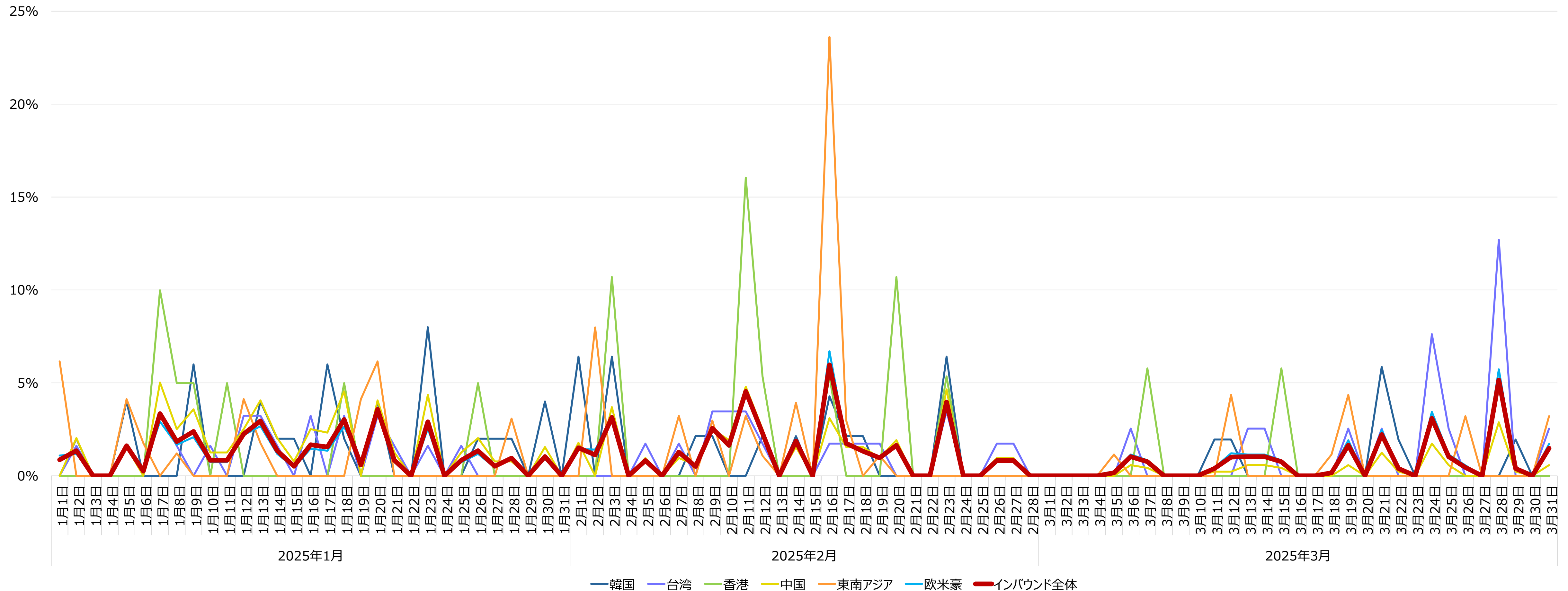


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2025年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、2月16日が最も多く、次いで3月28日、2月11日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況を見ると、東南アジアは2月16日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2025年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている



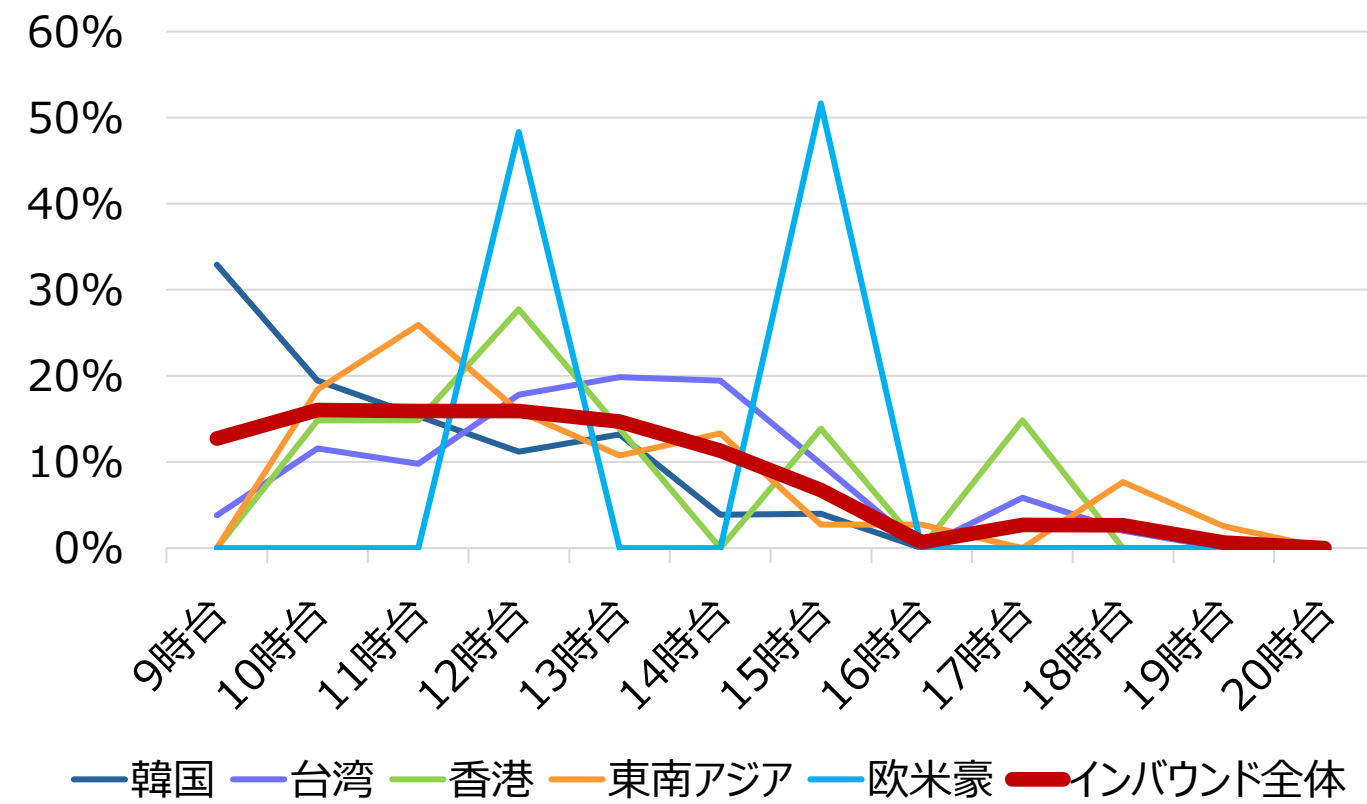
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2024年/2025年）

- 来訪時間帯について、2024年・2025年とも10時台がピークとなっており、ピーク時間帯における来訪率は2%増加している。
- 滞在時間について、2024年に比べ2025年は韓国・台湾・香港で増加傾向にある。

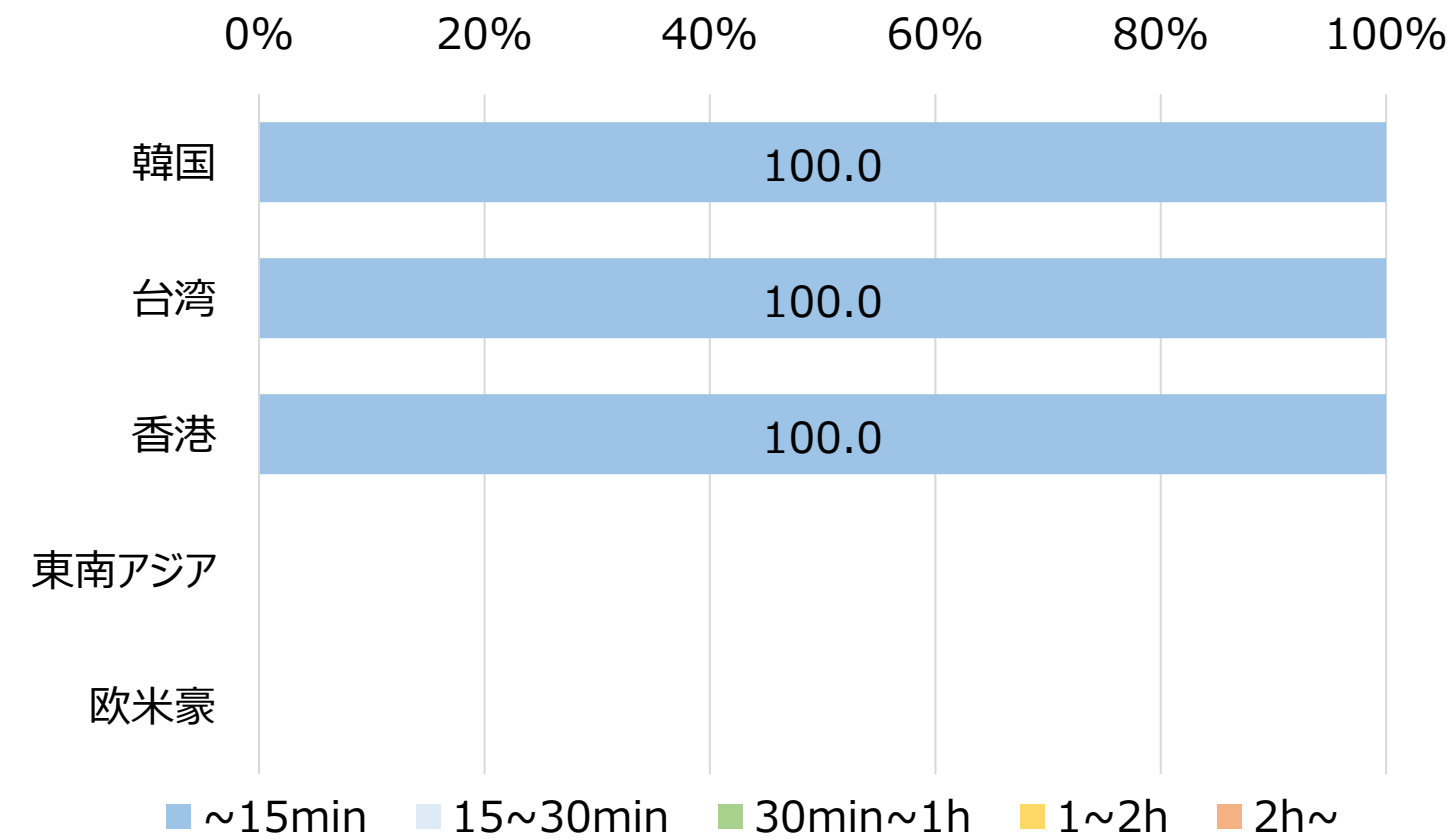
● 来訪時間帯分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉 全体ピーク：10時台（16%）



● 滞在時間分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉

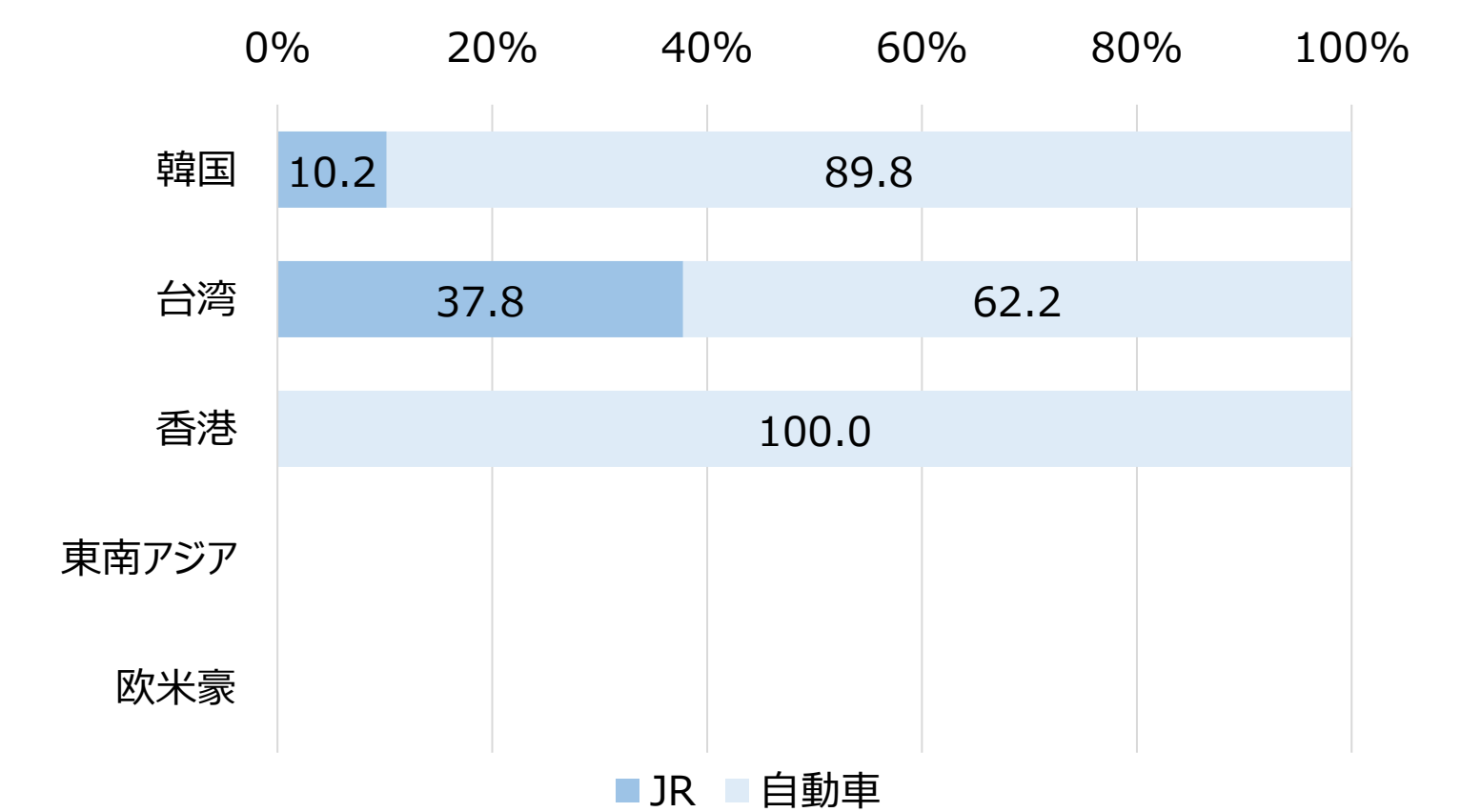


平均滞在時間（分）

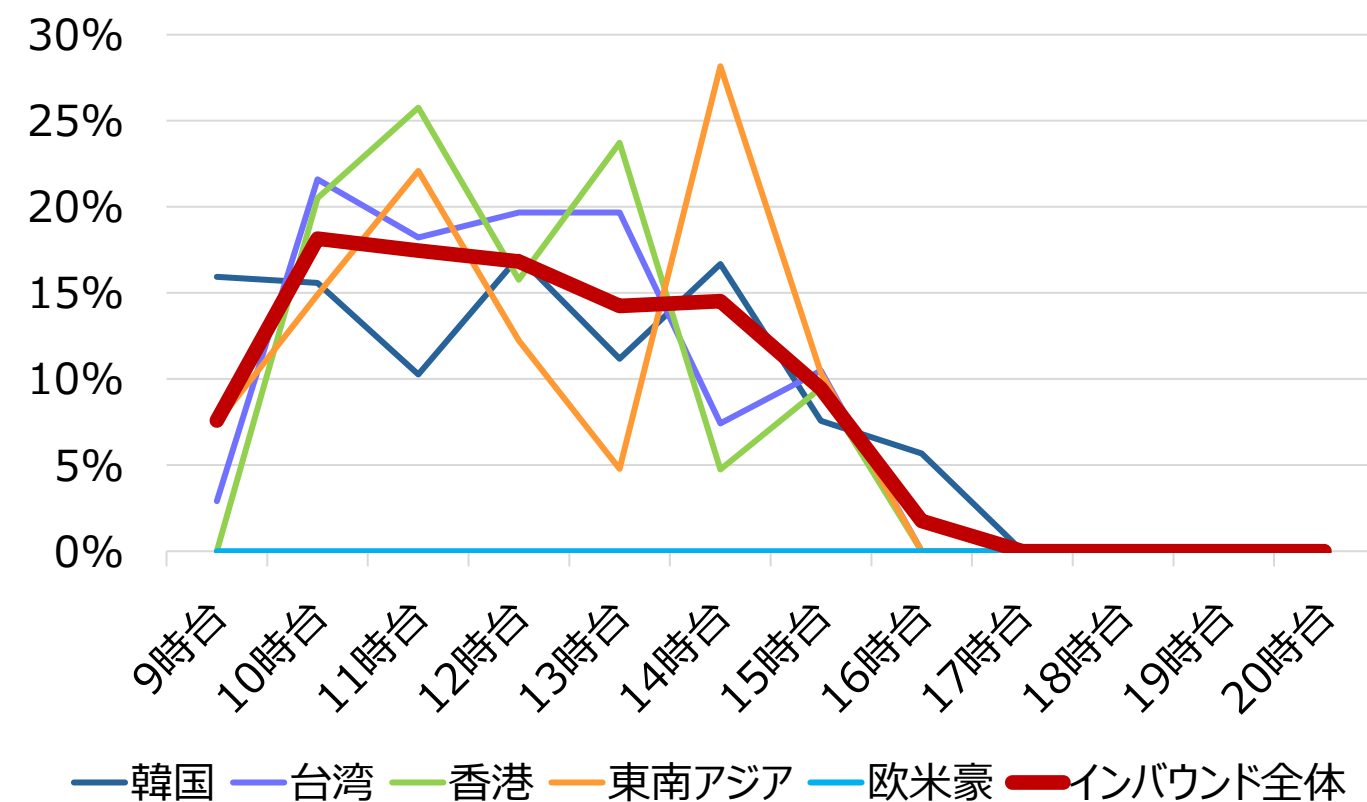
0:10
0:11
0:05

● 利用交通手段分布（インバウンド）

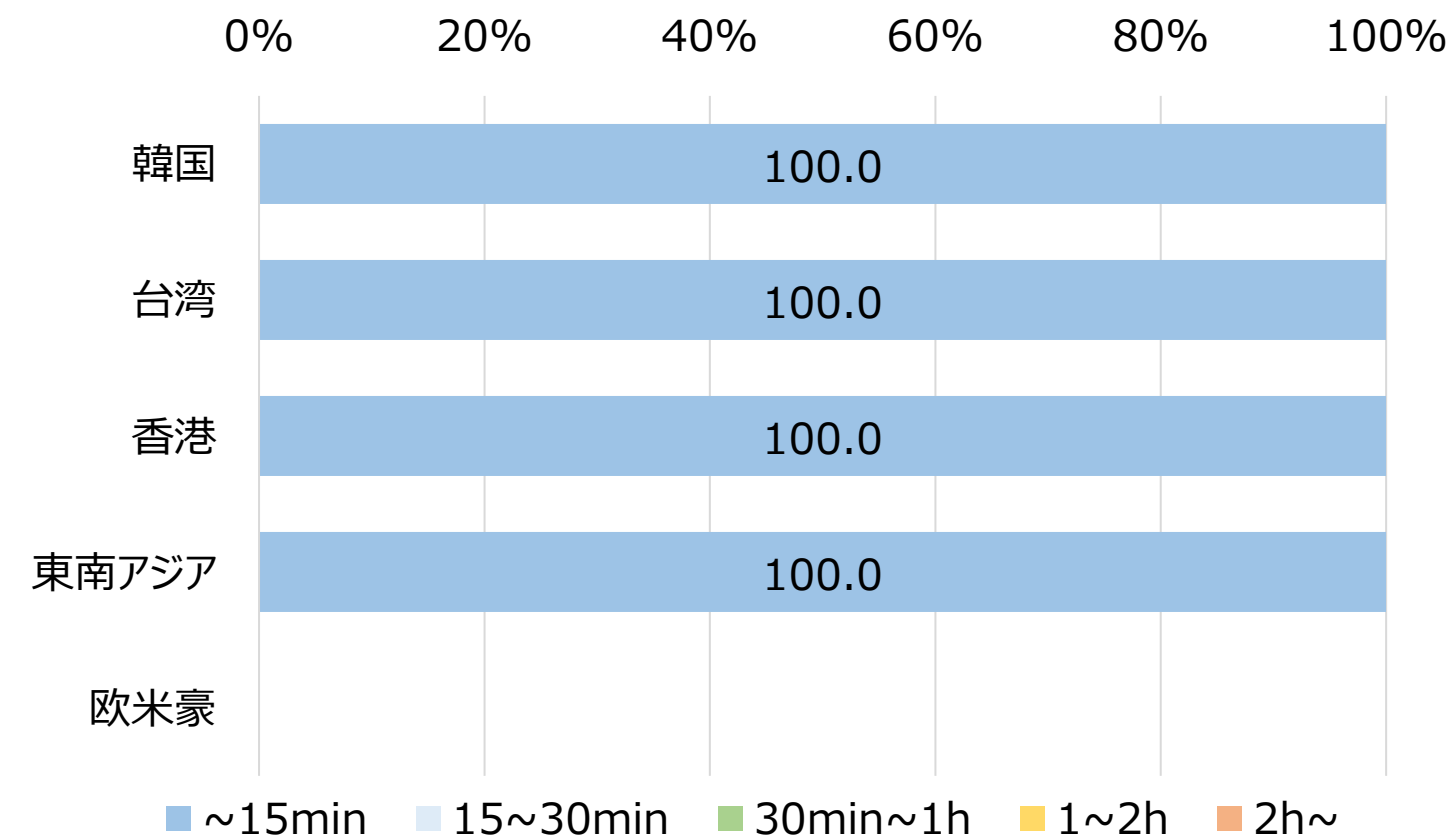
〈2024年1～3月〉



〈2025年1～3月〉 全体ピーク：10時台（18%）



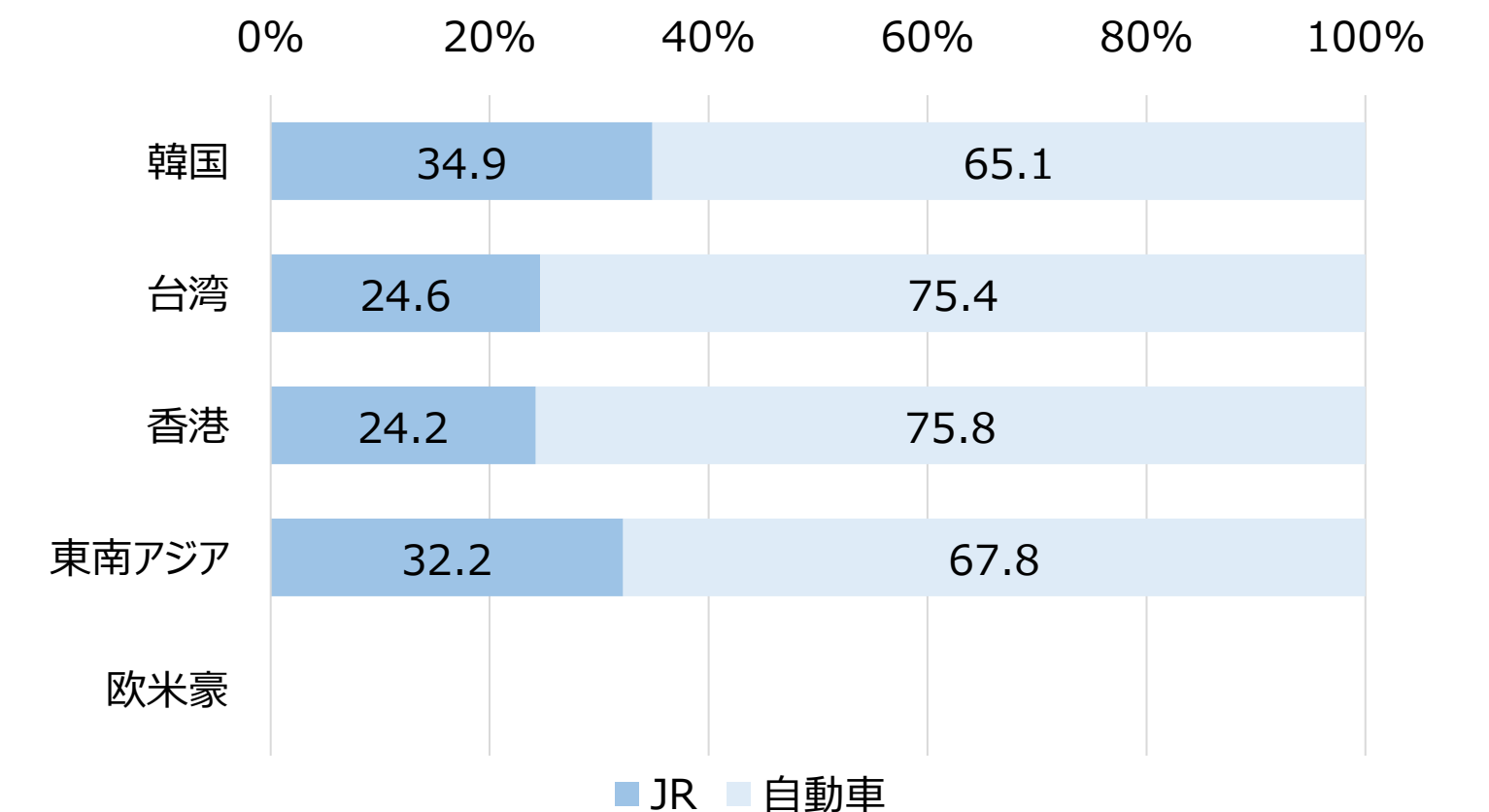
〈2025年1～3月〉



平均滞在時間（分）

0:13
0:14
0:07
0:05

〈2025年1～3月〉



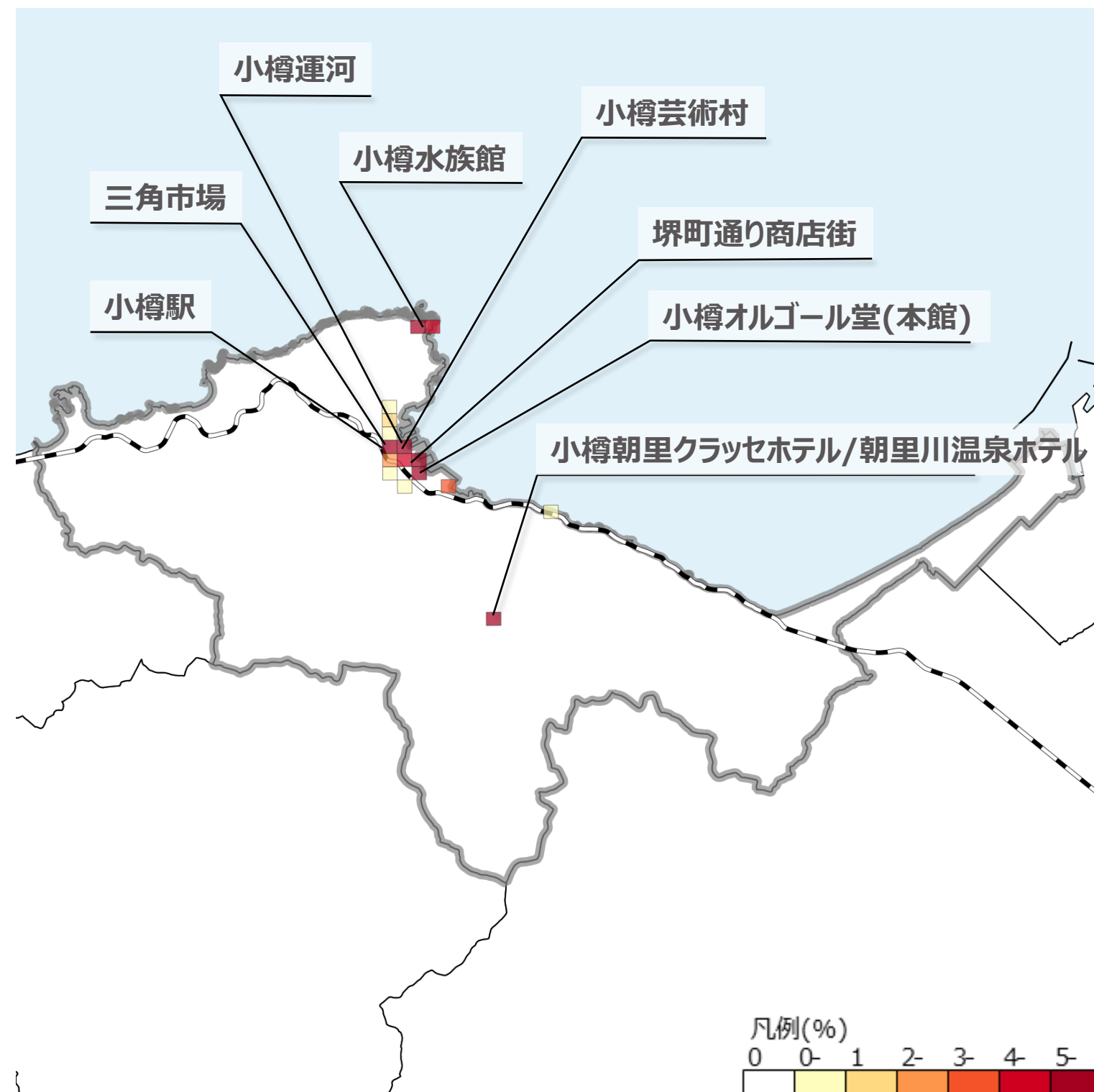
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2024年）

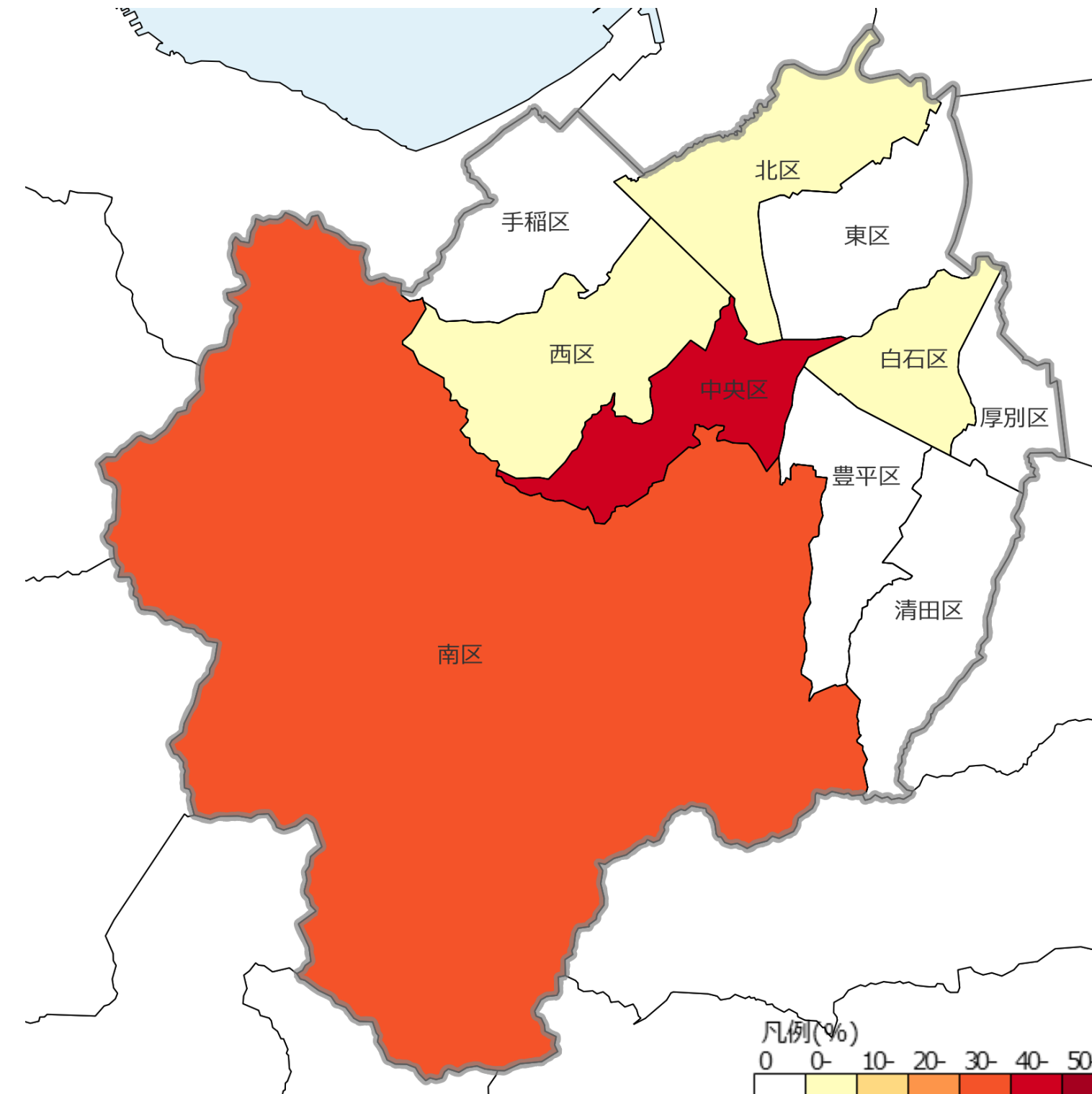
- 小樽市では中心部エリアのほか小樽朝里クラッセホテル・朝里川温泉ホテルとの周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか江別・余市との周遊が多い。

● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2024年1～3月）

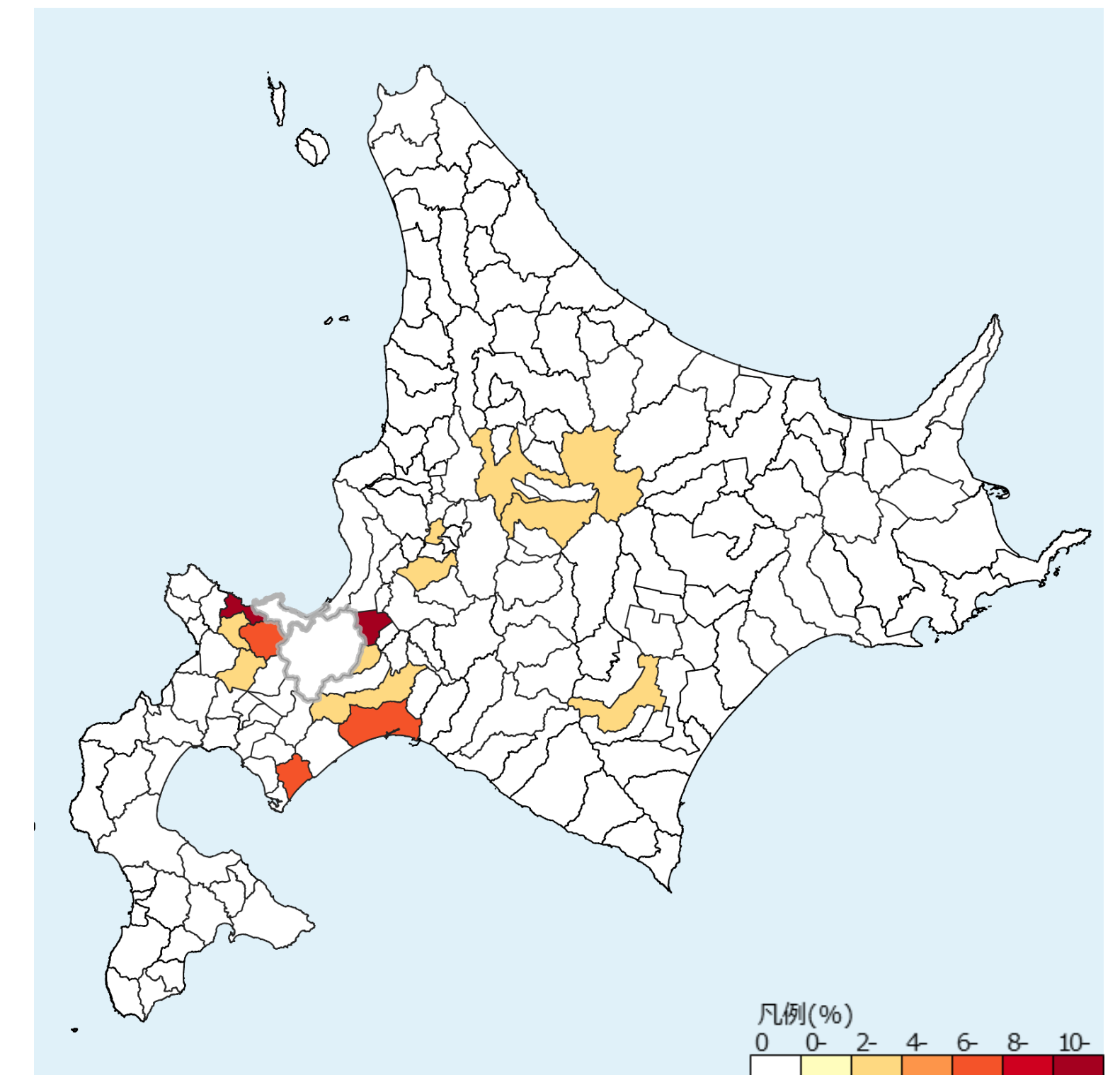
【小樽市内】



【札幌市内】



【全道】



※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2024年）

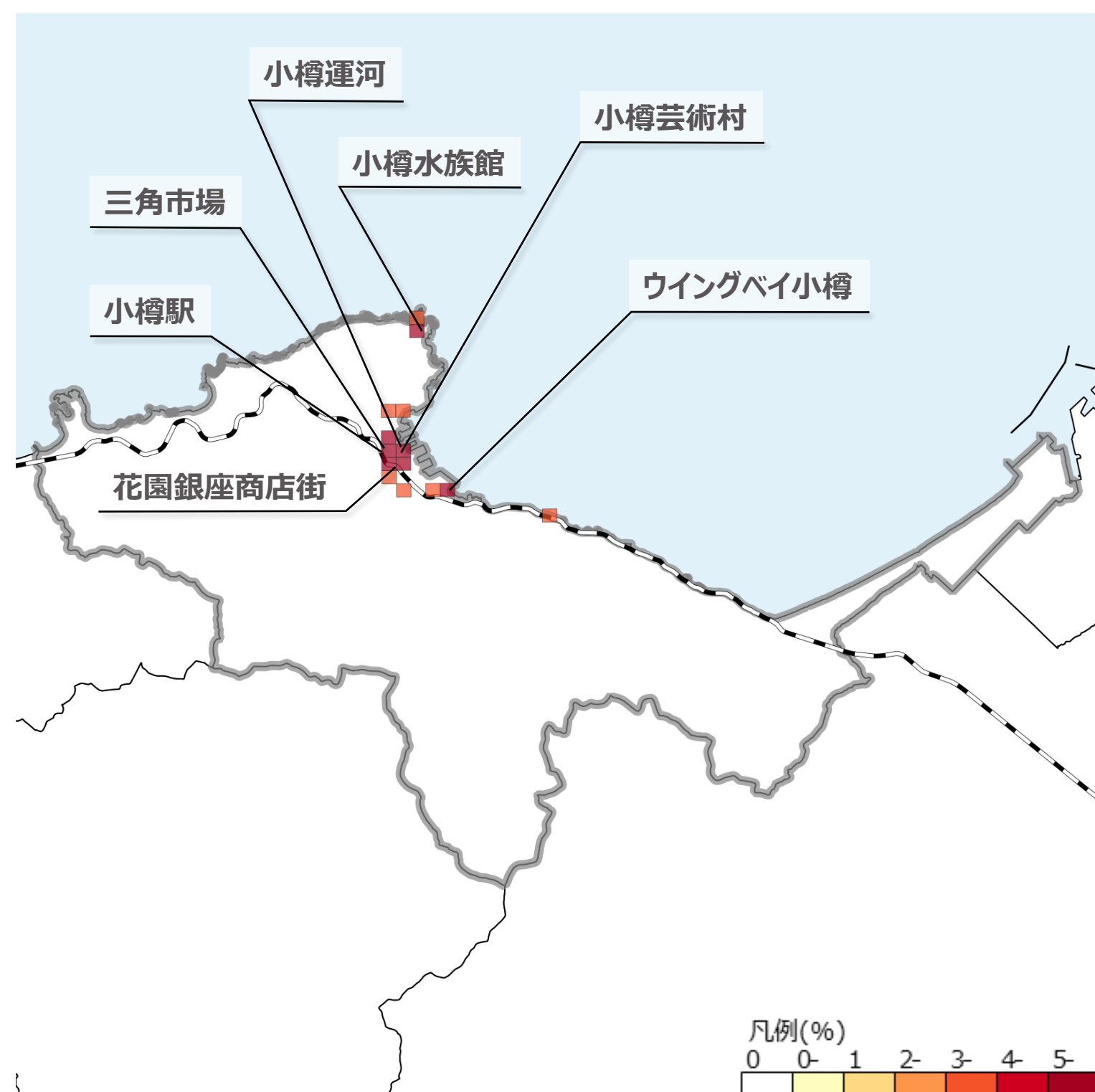
➤ 小樽市では中心部エリアのほか小樽水族館・ウイングベイ小樽付近との周遊が特に多い。なお、小樽市以外との直接移動はみられなかった。

● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2024年1～3月）

【小樽市内】

【札幌市内】

【全道】



(データなし)

(データなし)

※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

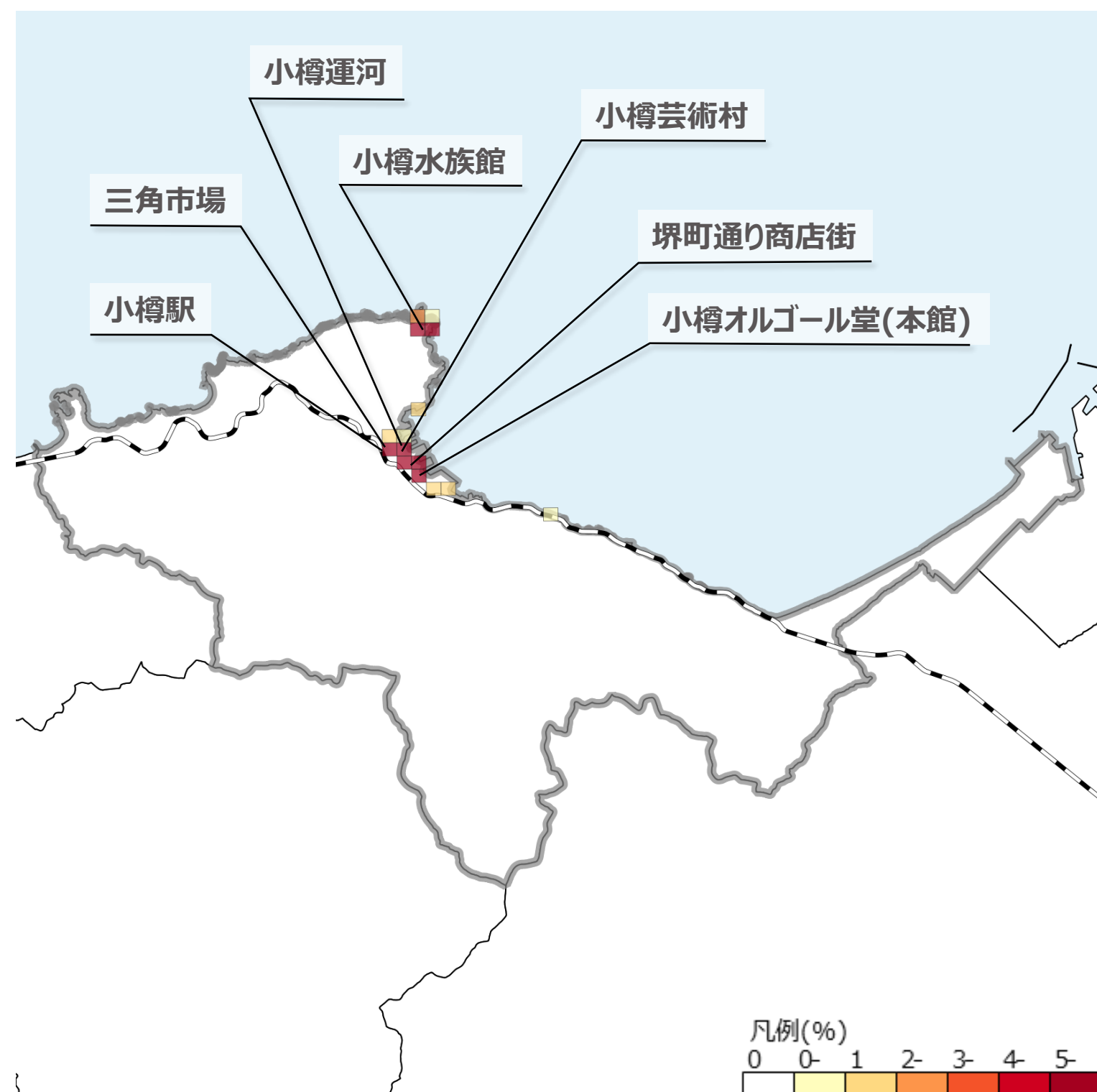
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2025年）

- 小樽市では中心部エリアのほか小樽水族館付近との周遊が特に多い。
- 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか仁木・千歳・江別・北広島・赤井川との周遊が多い。

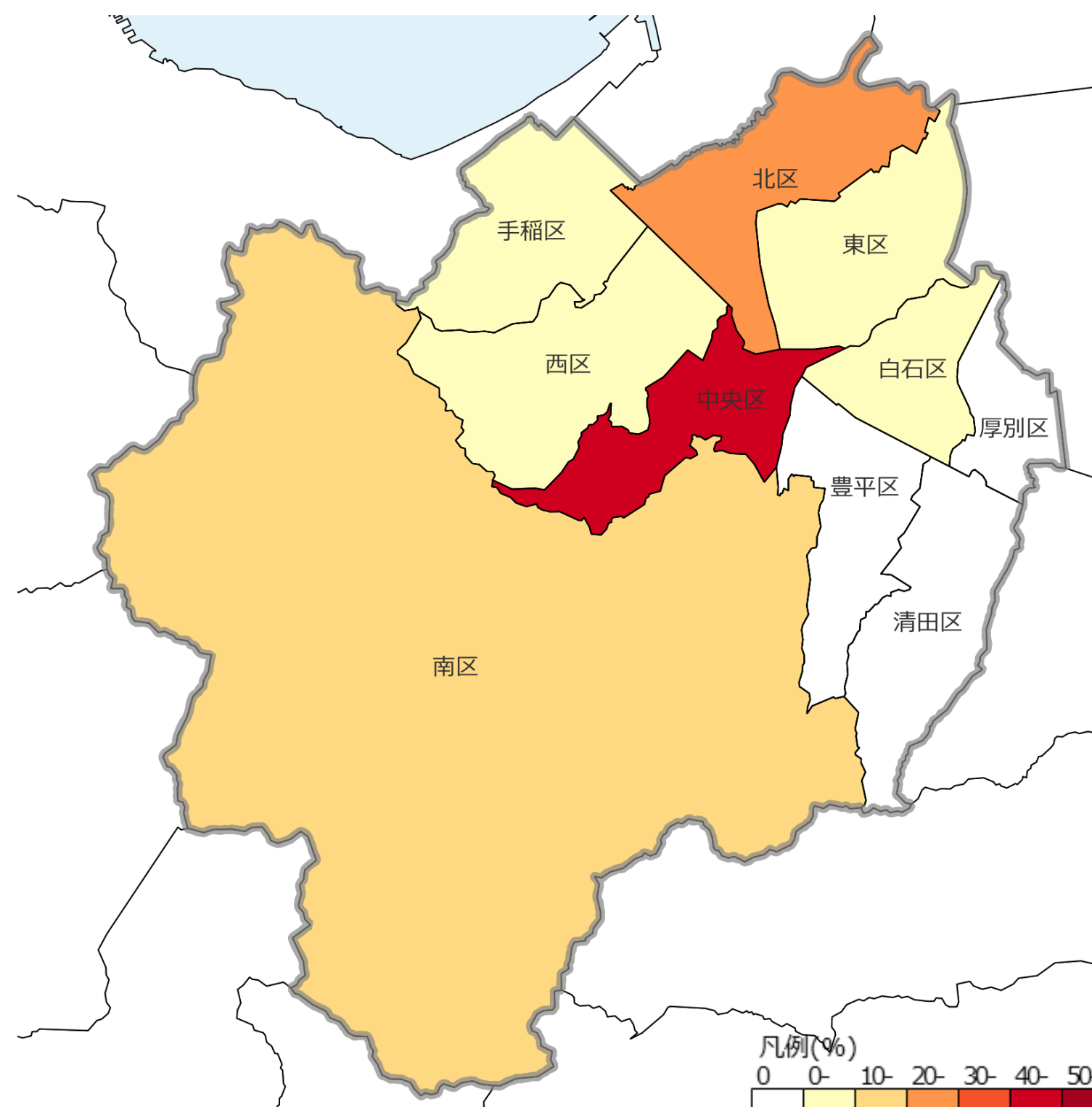
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2025年1～3月）

【小樽市内】



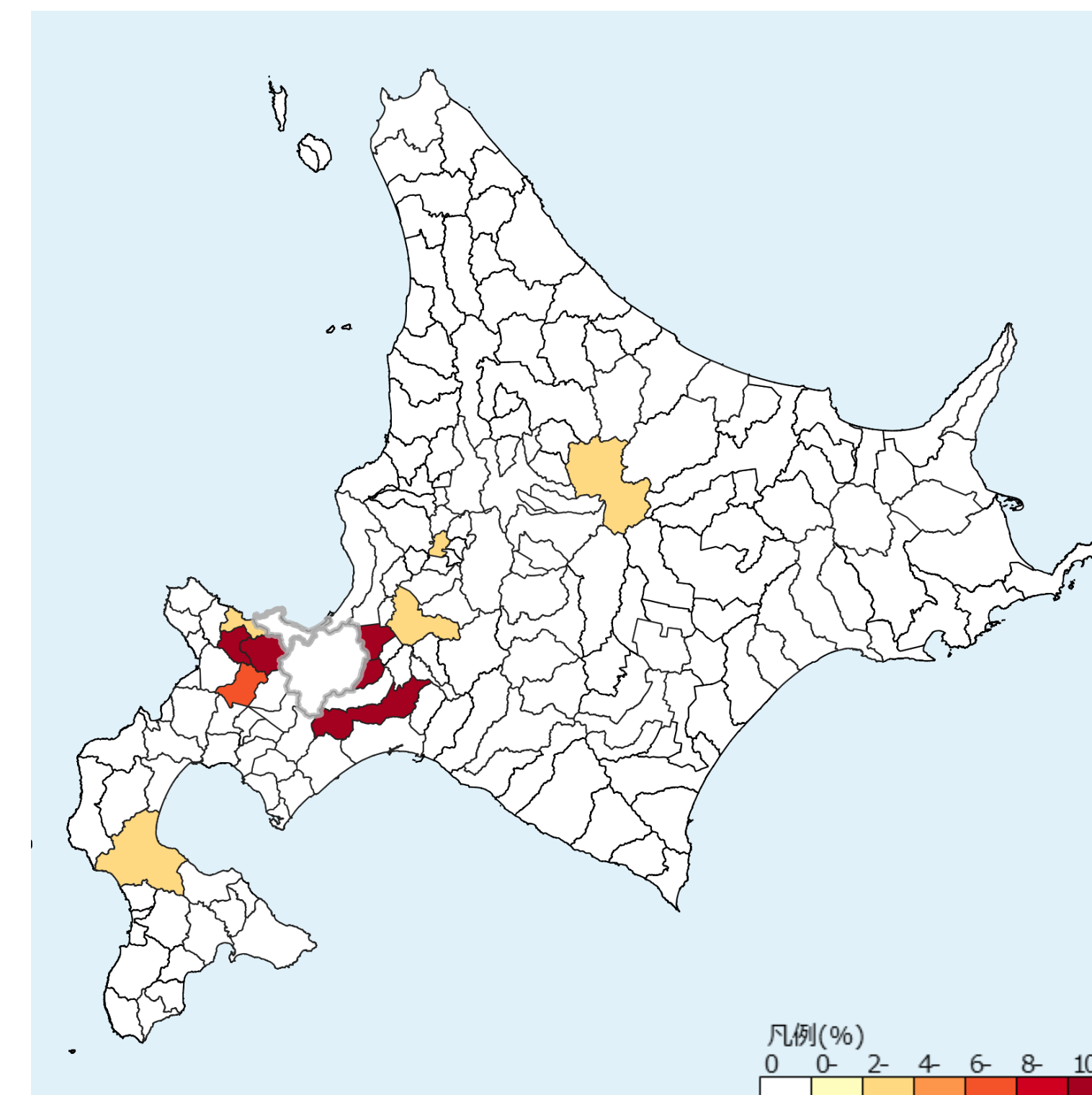
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

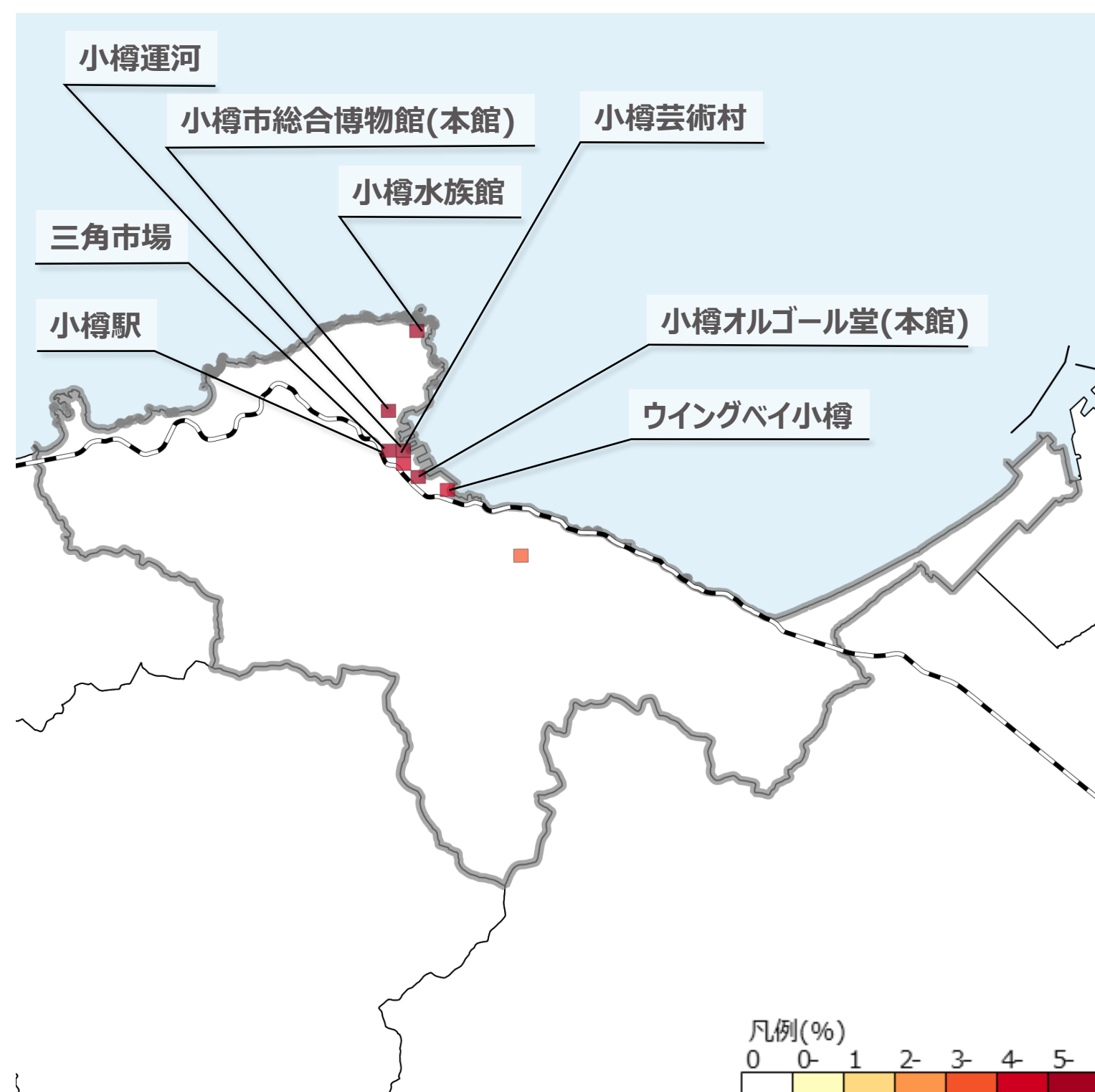
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

祝津パノラマ展望台周辺の分析結果（2025年）

- ▶ 小樽市では中心部エリアのほか小樽水族館・小樽市総合博物館(本館)・ウイングベイ小樽付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では北区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか北広島・余市・共和との周遊が多い。

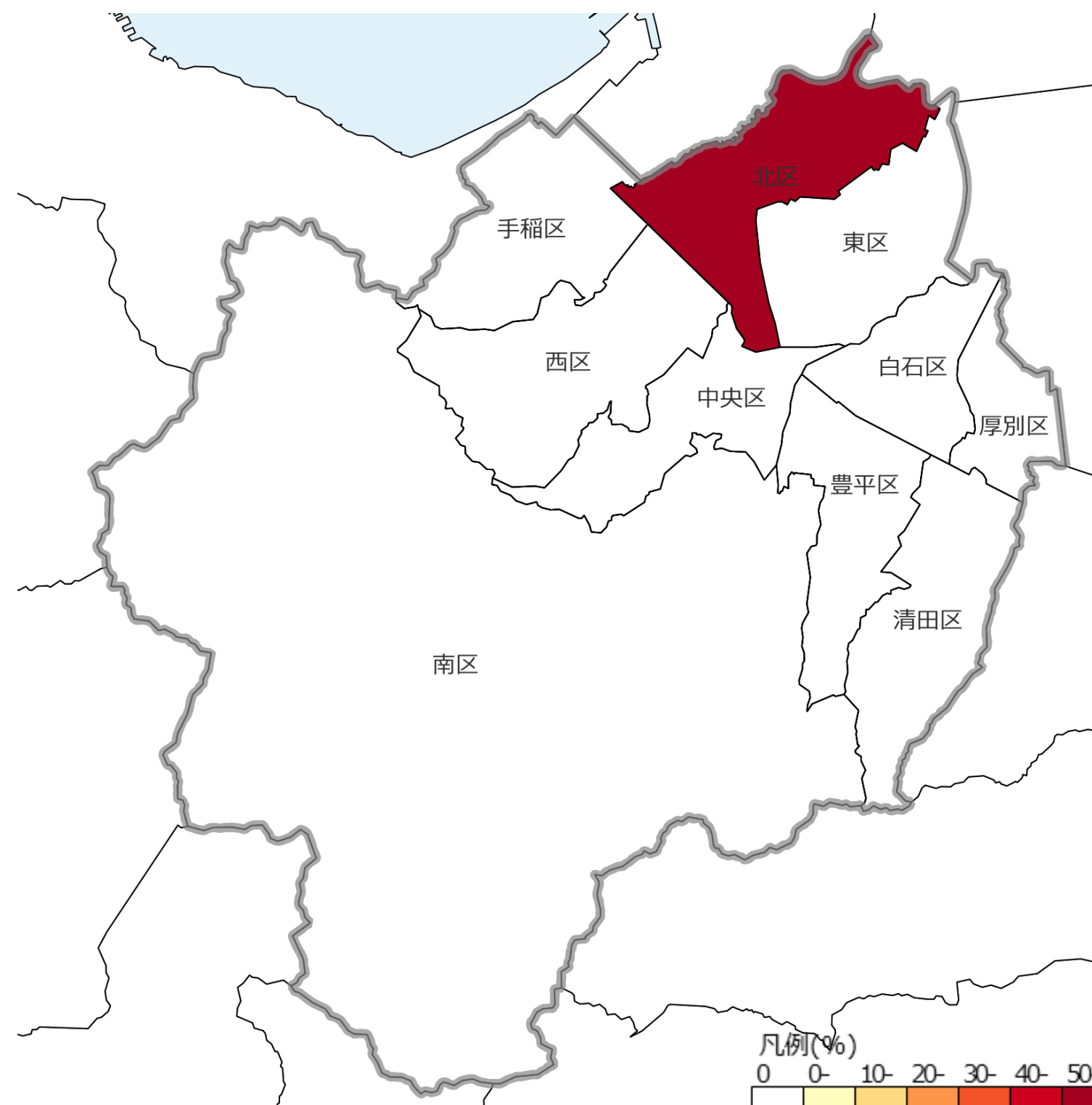
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2025年1～3月）

【小樽市内】



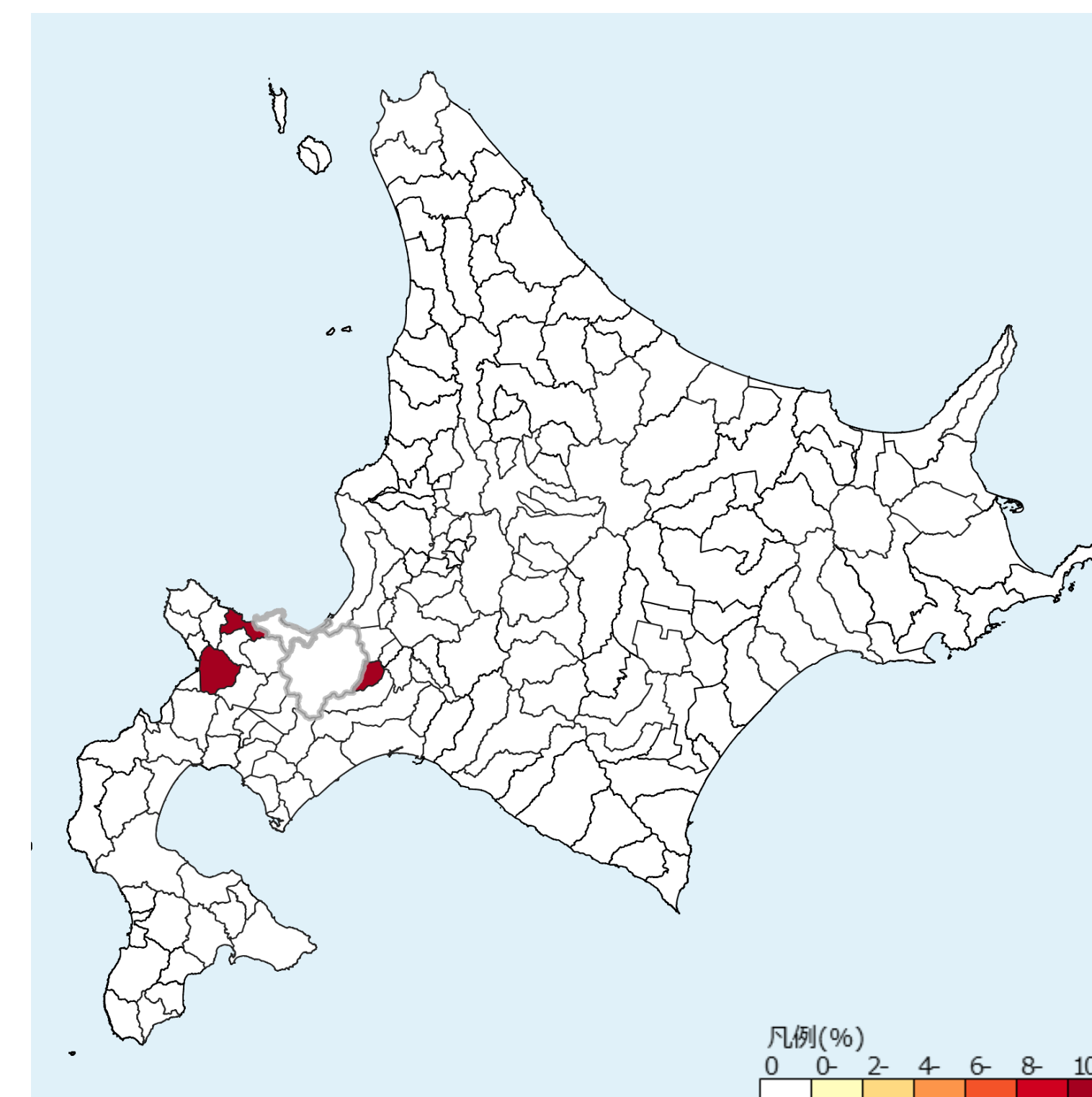
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

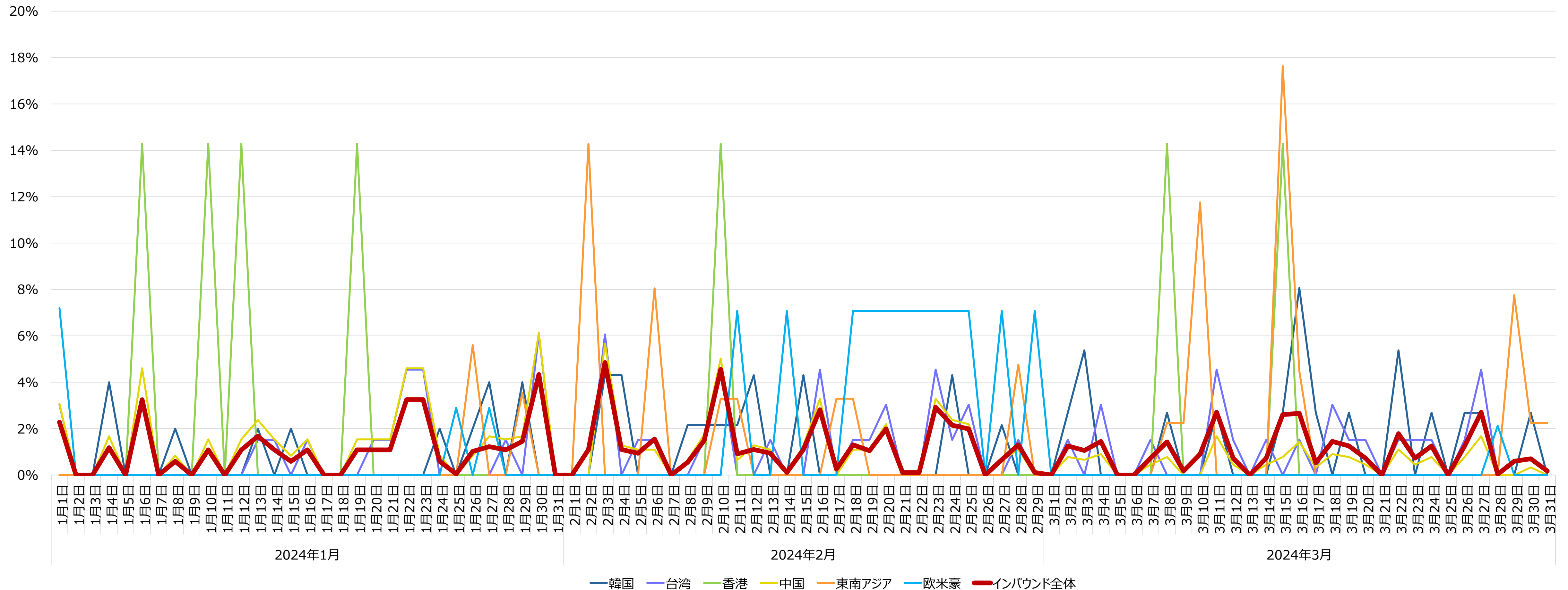
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2024年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、2月3日が最も多く、次いで2月10日、1月30日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、東南アジアは3月15日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2024年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている

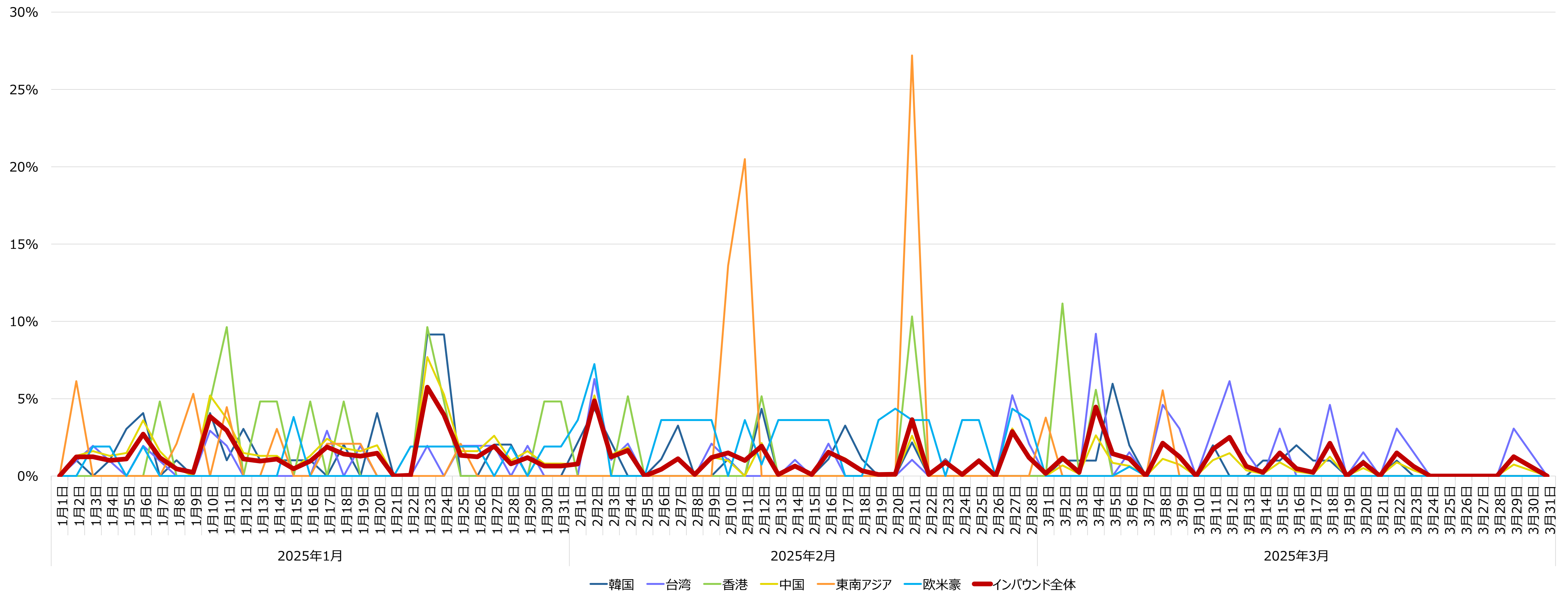


※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2025年）

- ▶ インバウンド全体の入込は、1月23日が最も多く、次いで2月2日、3月4日の順となっている。
- ▶ 市場別の入込状況をみると、東南アジアは2月21日・2月11日が特に多い。

● 入込客分布（インバウンド）〈2025年1～3月〉 ※市場別に、1～3月の本エリア来訪者を100%としている



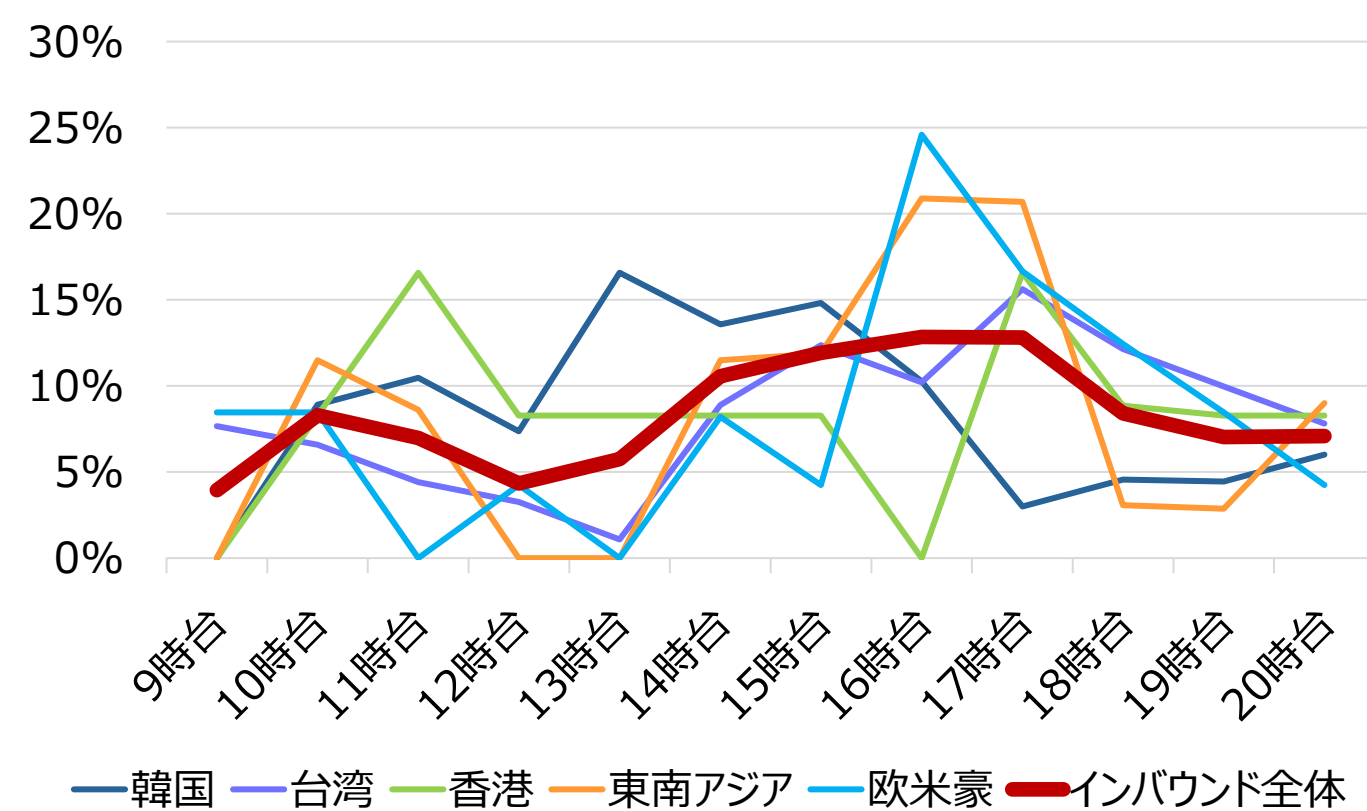
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2024年/2025年）

- 来訪時間帯について、2024年・2025年とも16時台がピークとなっており、ピーク時間帯における来訪率は2%増加している。
- 滞在時間について、2024年に比べ2025年は韓国・東南アジア・欧米豪で増加傾向、台湾・香港で減少傾向にある。

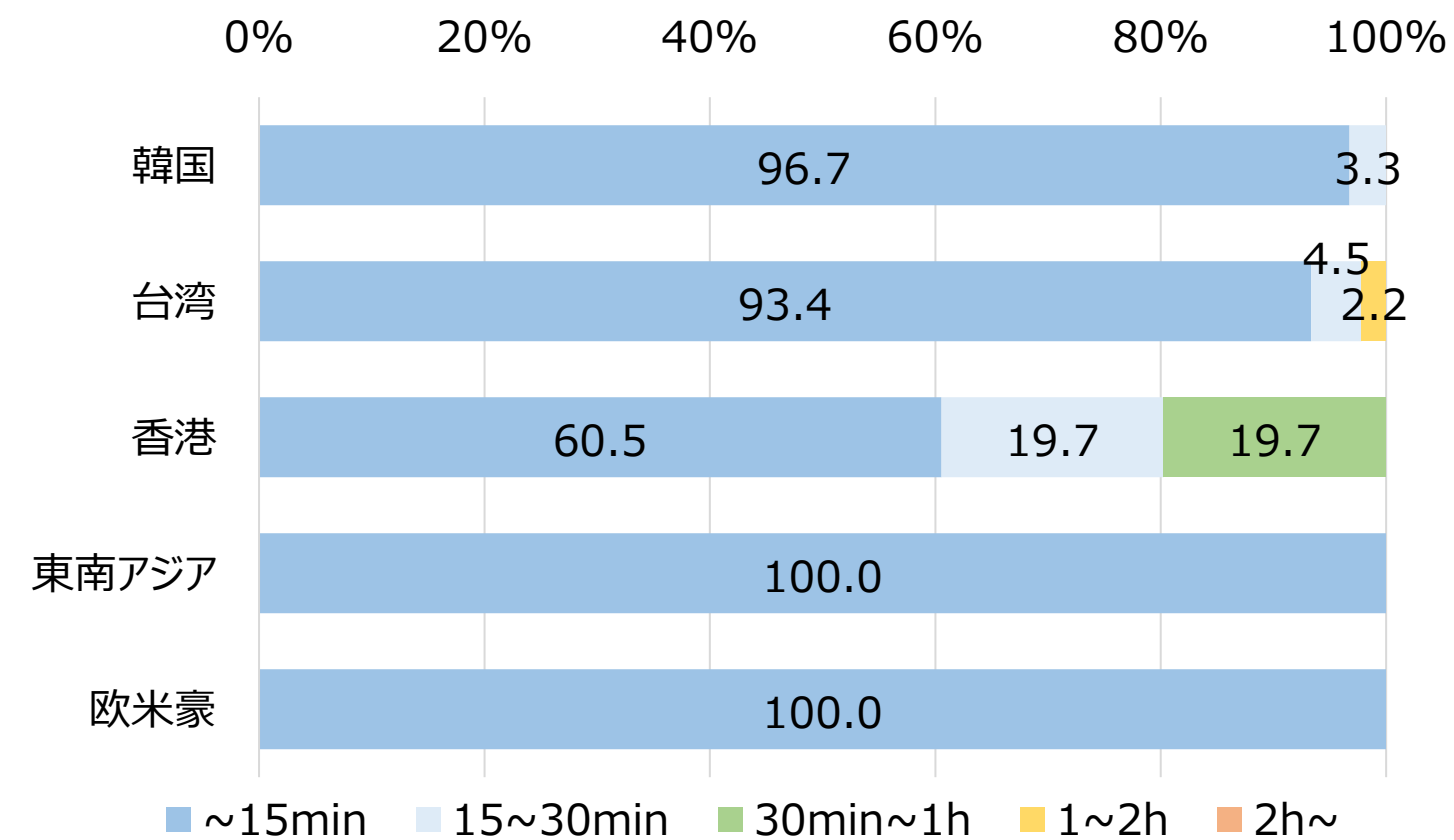
● 来訪時間帯分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉 全体ピーク：16時台（13%）



● 滞在時間分布（インバウンド）

〈2024年1～3月〉

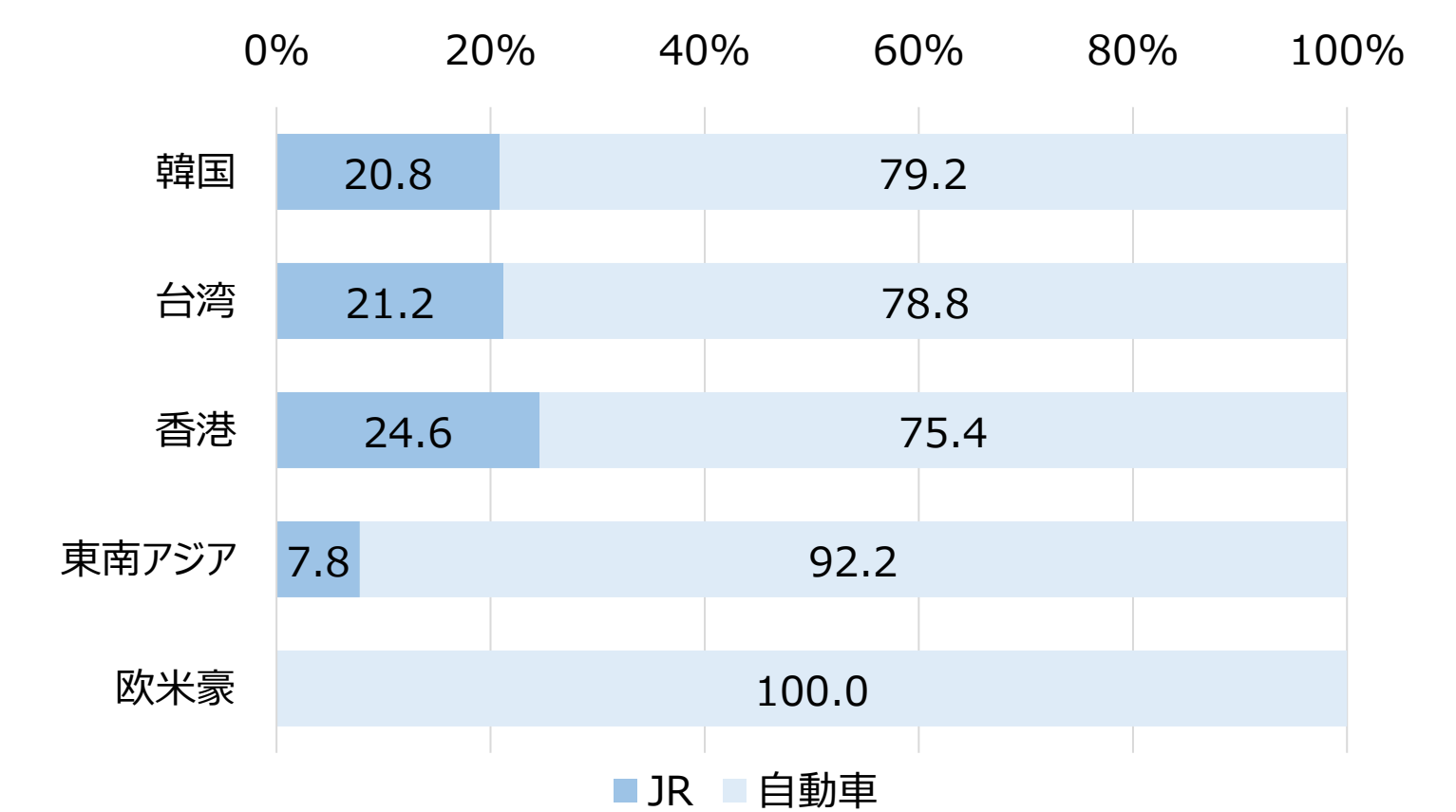


平均滞在時間 (分)

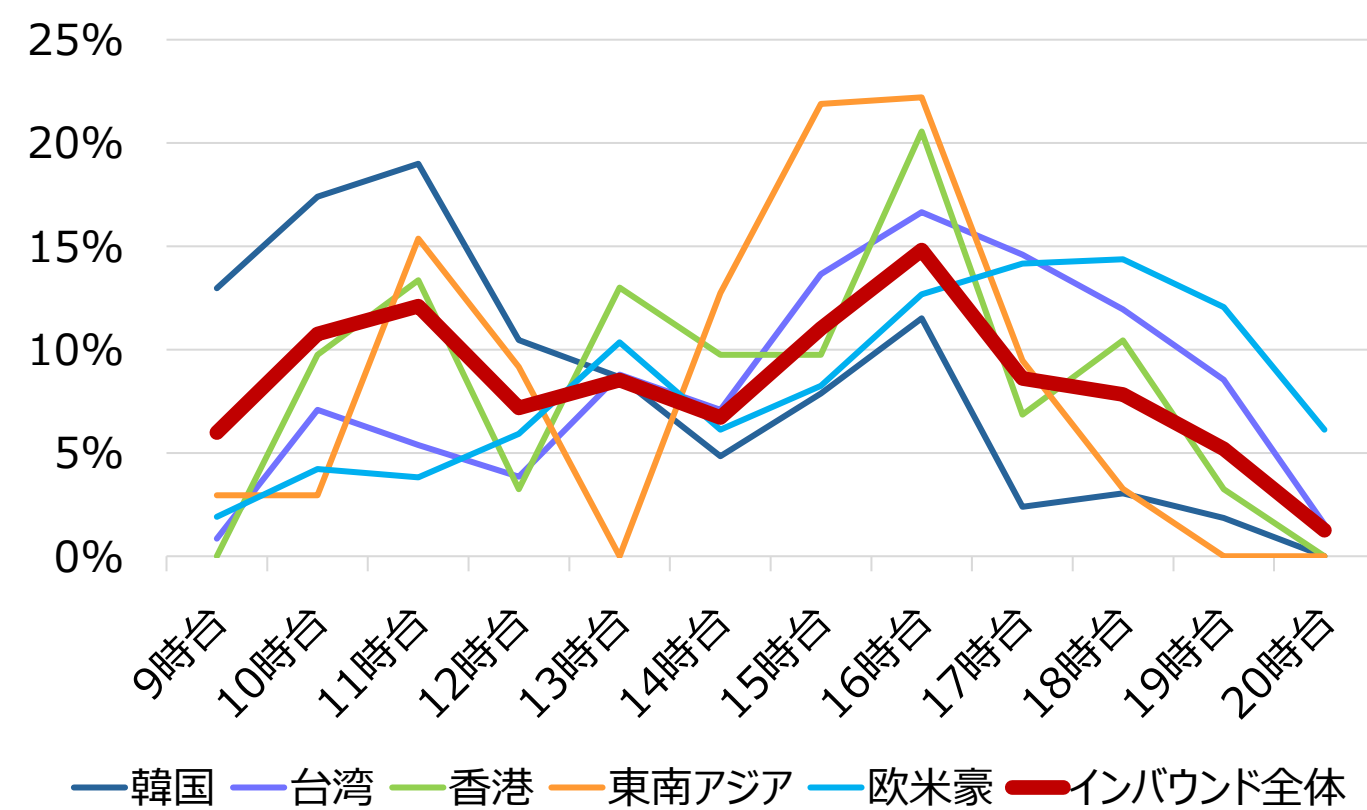
0:15
0:22
0:28
0:13
0:14

● 利用交通手段分布（インバウンド）

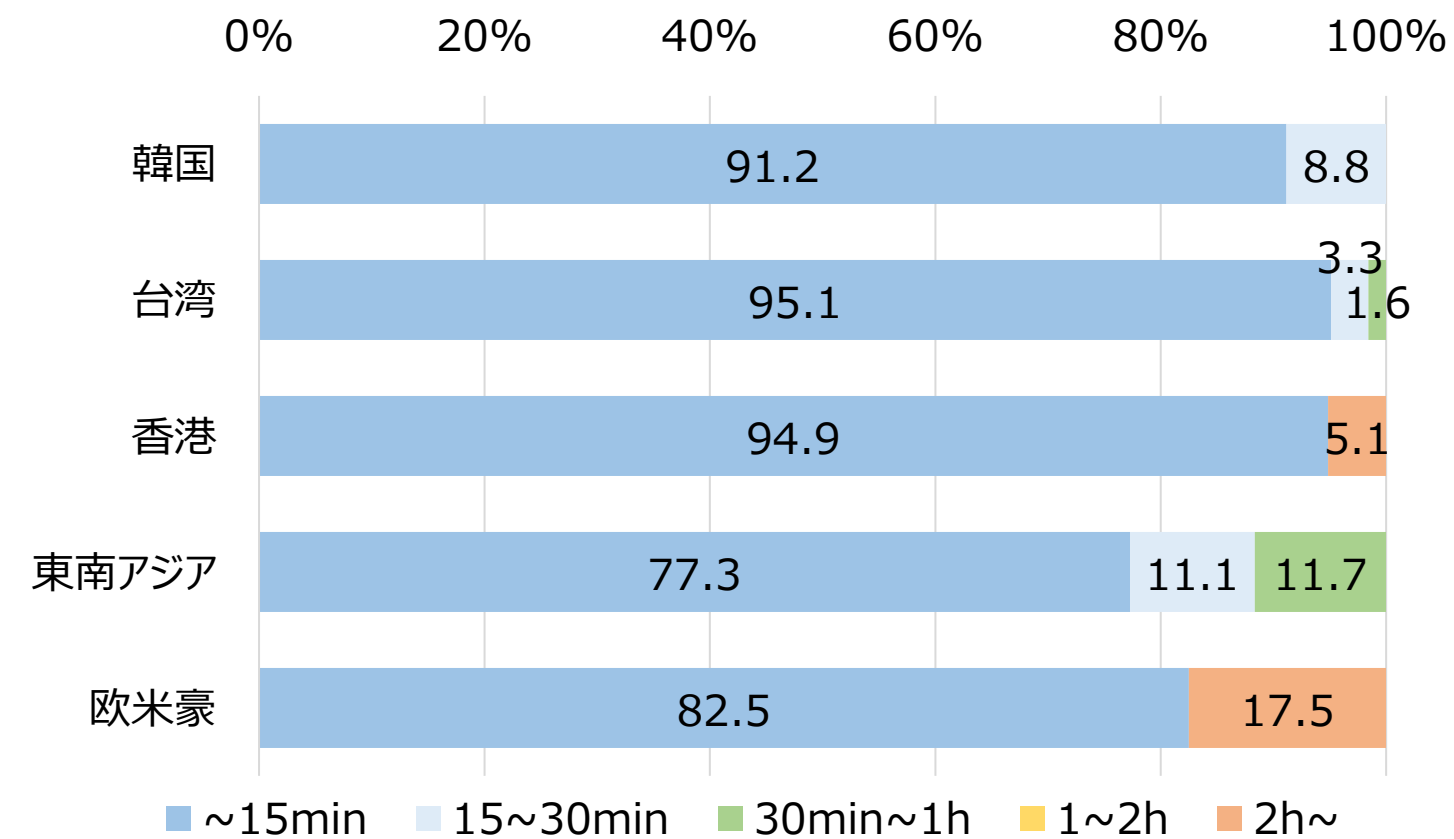
〈2024年1～3月〉



〈2025年1～3月〉 全体ピーク：16時台（15%）



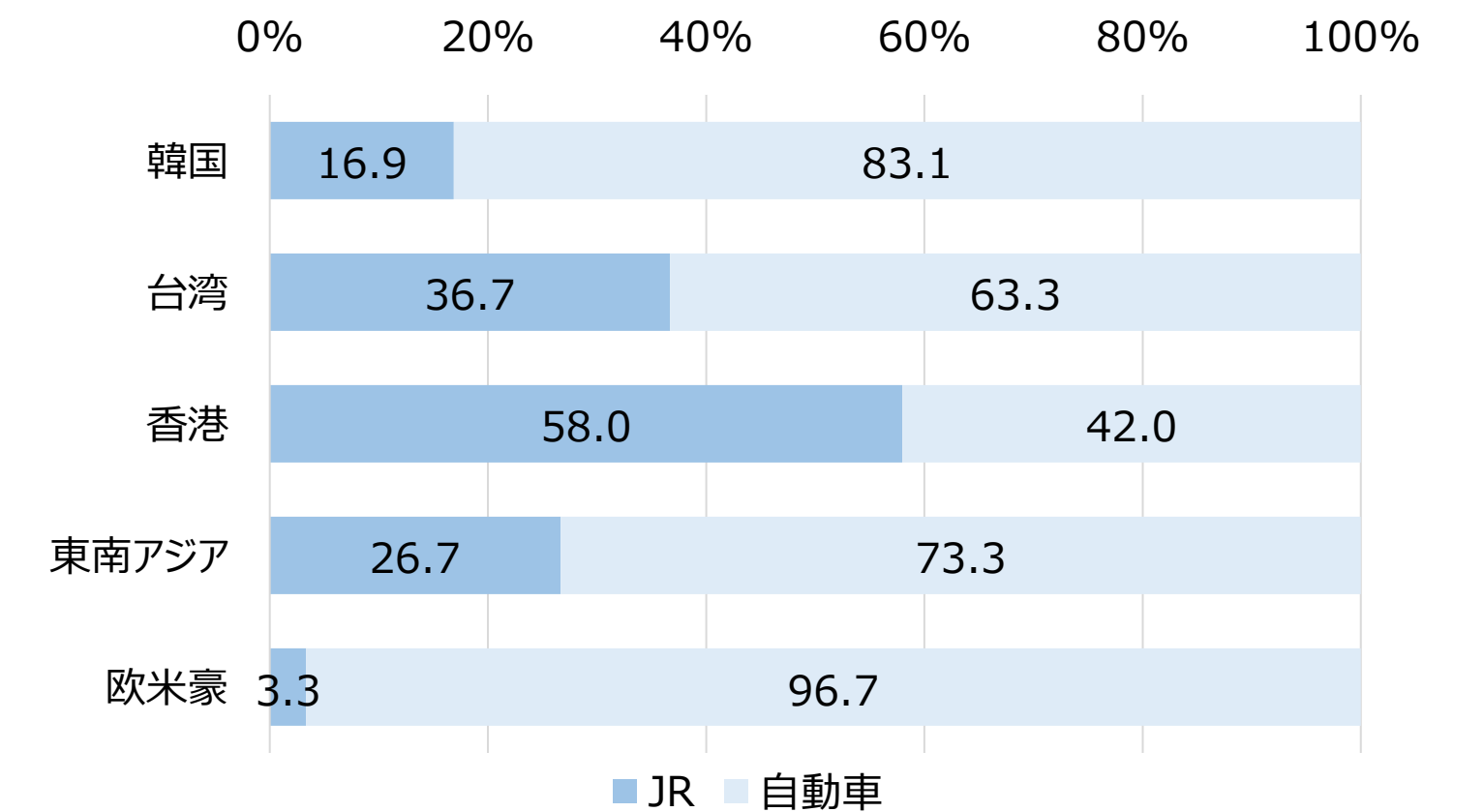
〈2025年1～3月〉



平均滞在時間 (分)

0:17
0:15
0:21
0:26
0:34

〈2025年1～3月〉



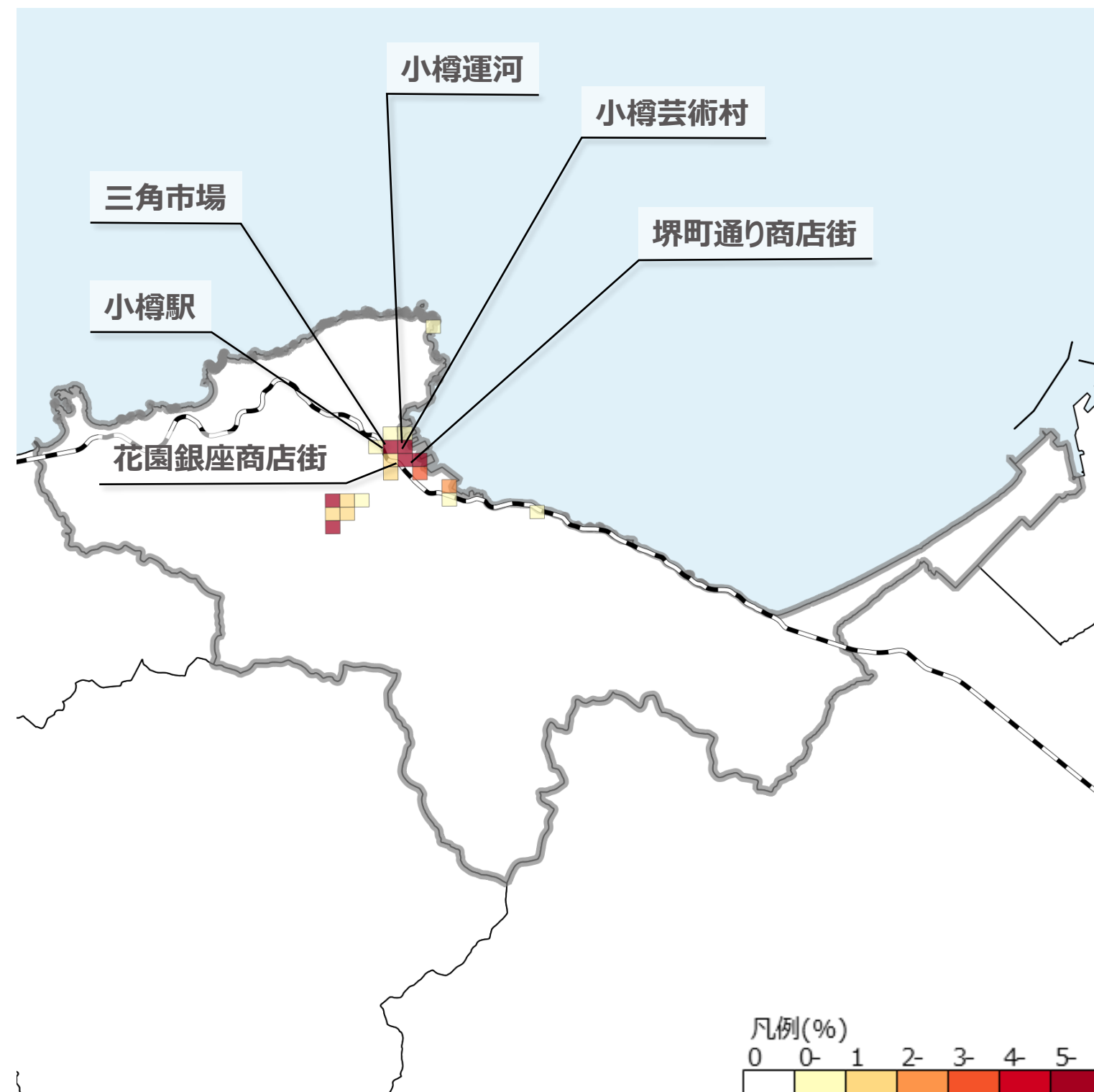
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2024年）

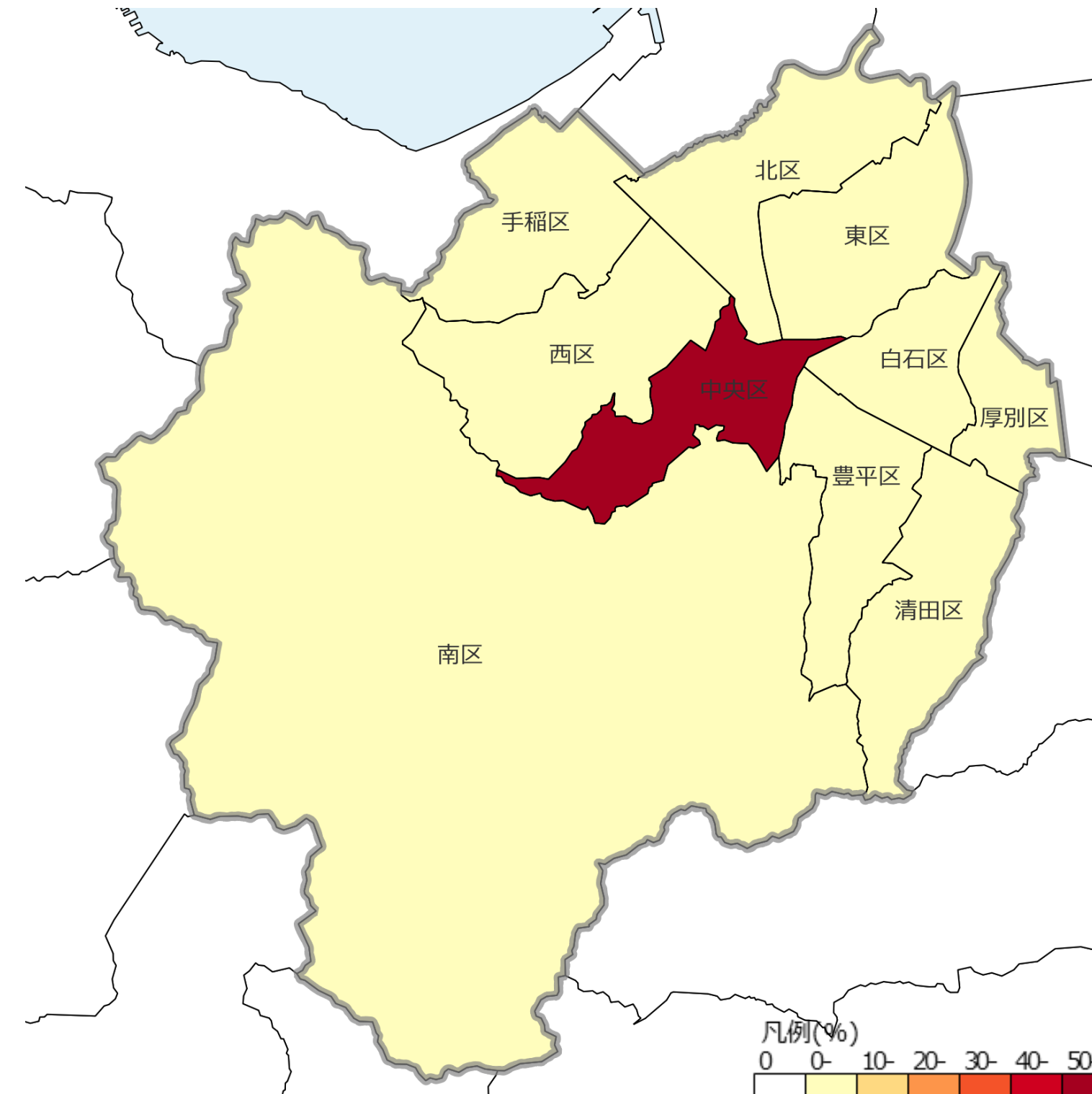
- ▶ 小樽市では中心部エリアの周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・積丹・赤井川・登別との周遊が多い。

● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2024年1～3月）

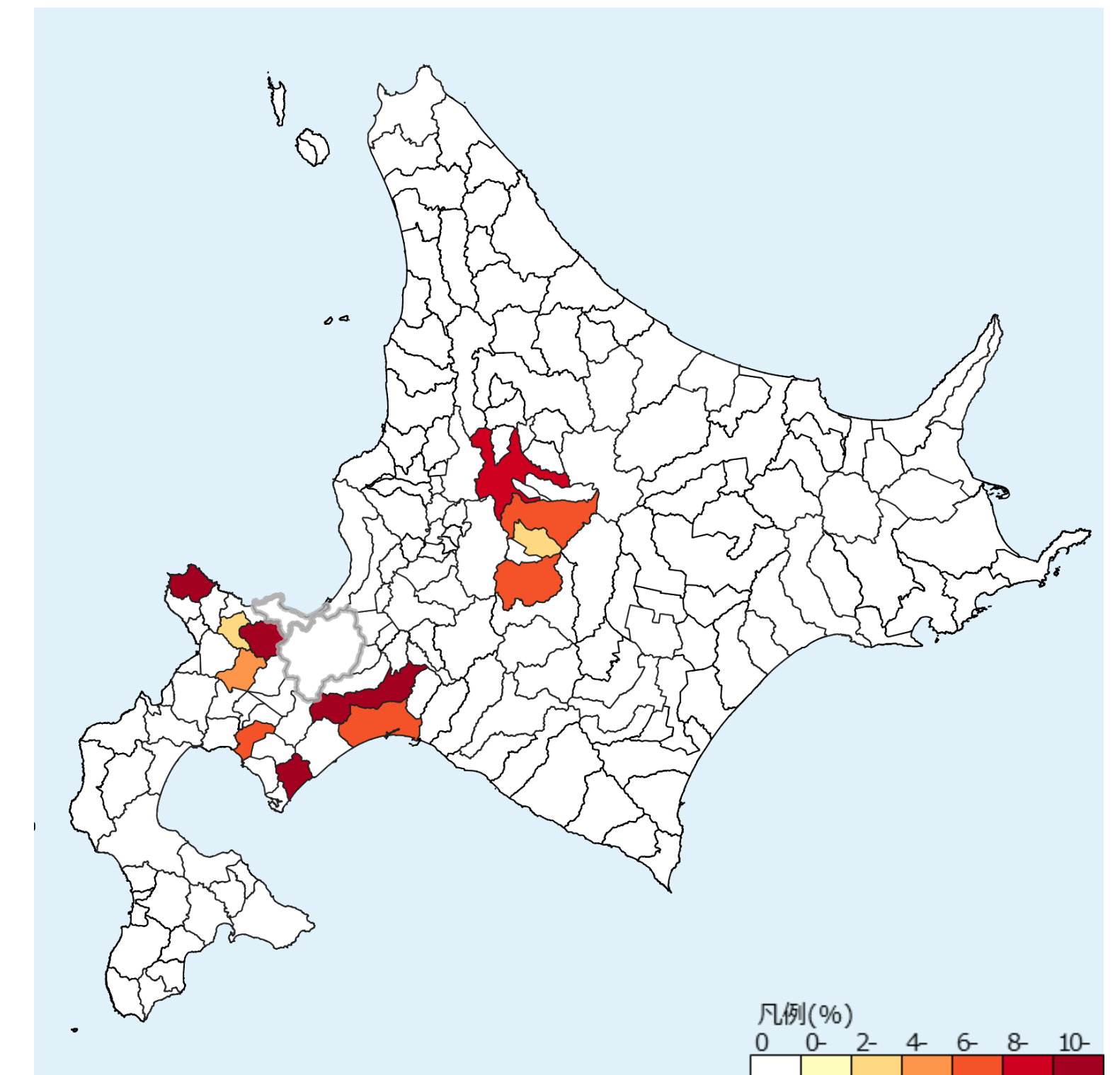
【小樽市内】



【札幌市内】



【全道】



※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2024年）

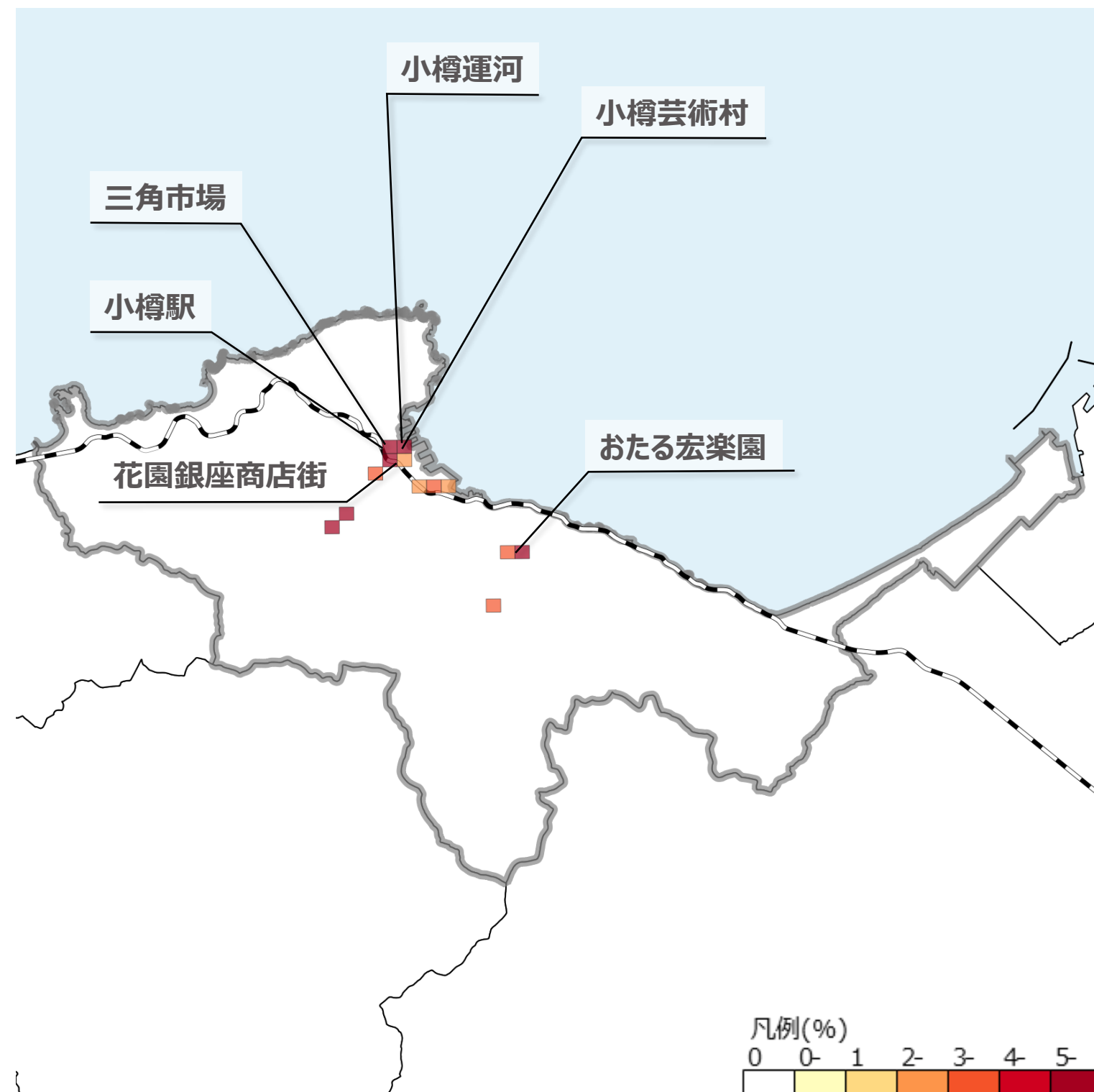
- ▶ 小樽市では中心部エリアのほか、おたる宏楽園付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市との直接移動はみられず、道全体では小樽のほか千歳・赤井川との周遊が多い。

● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客〈2024年1～3月〉

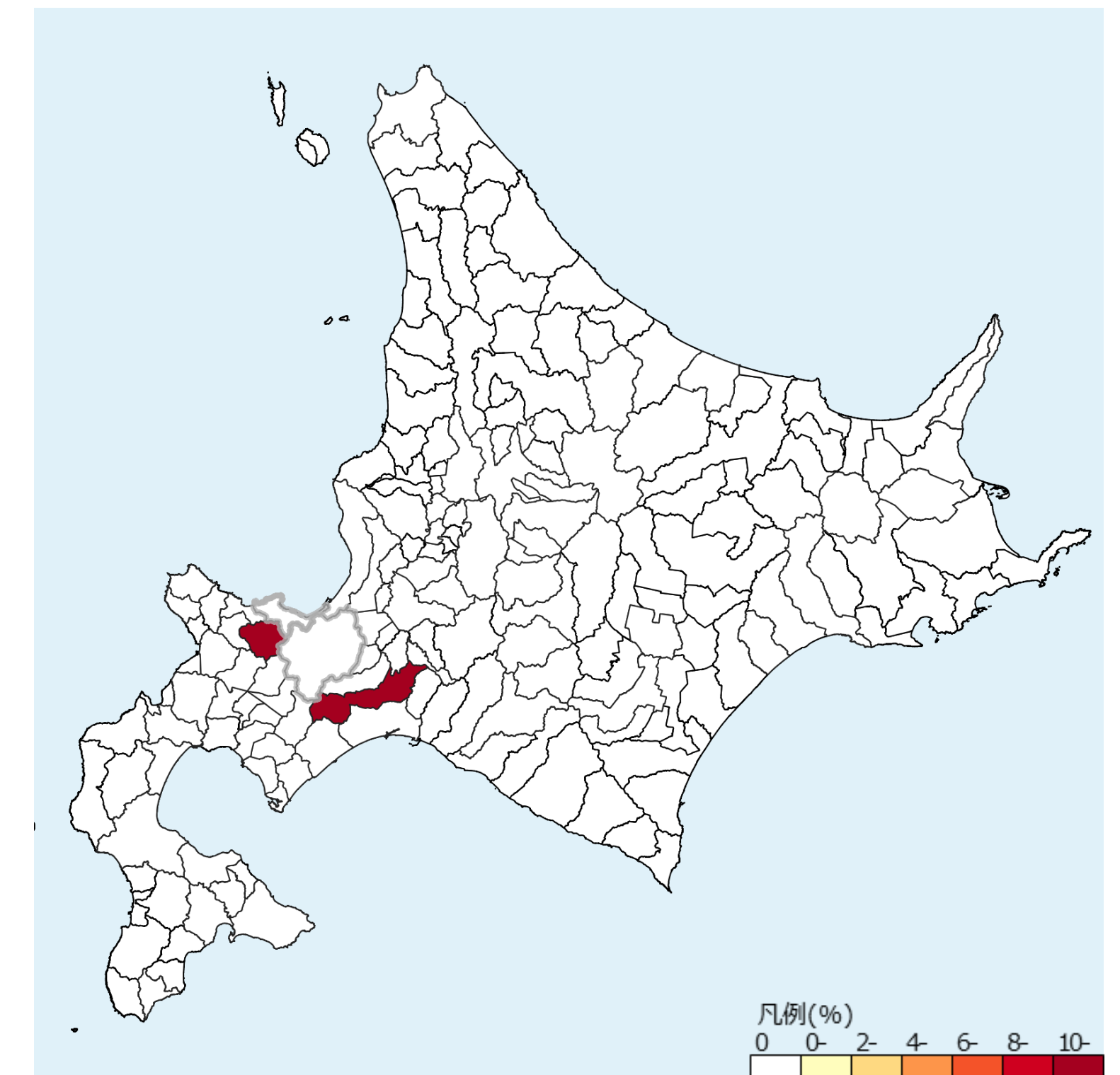
【小樽市内】

【札幌市内】

【全道】



(データなし)



※小樽市の合計値を100%としている。

※札幌市の合計値を100%としている。

※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

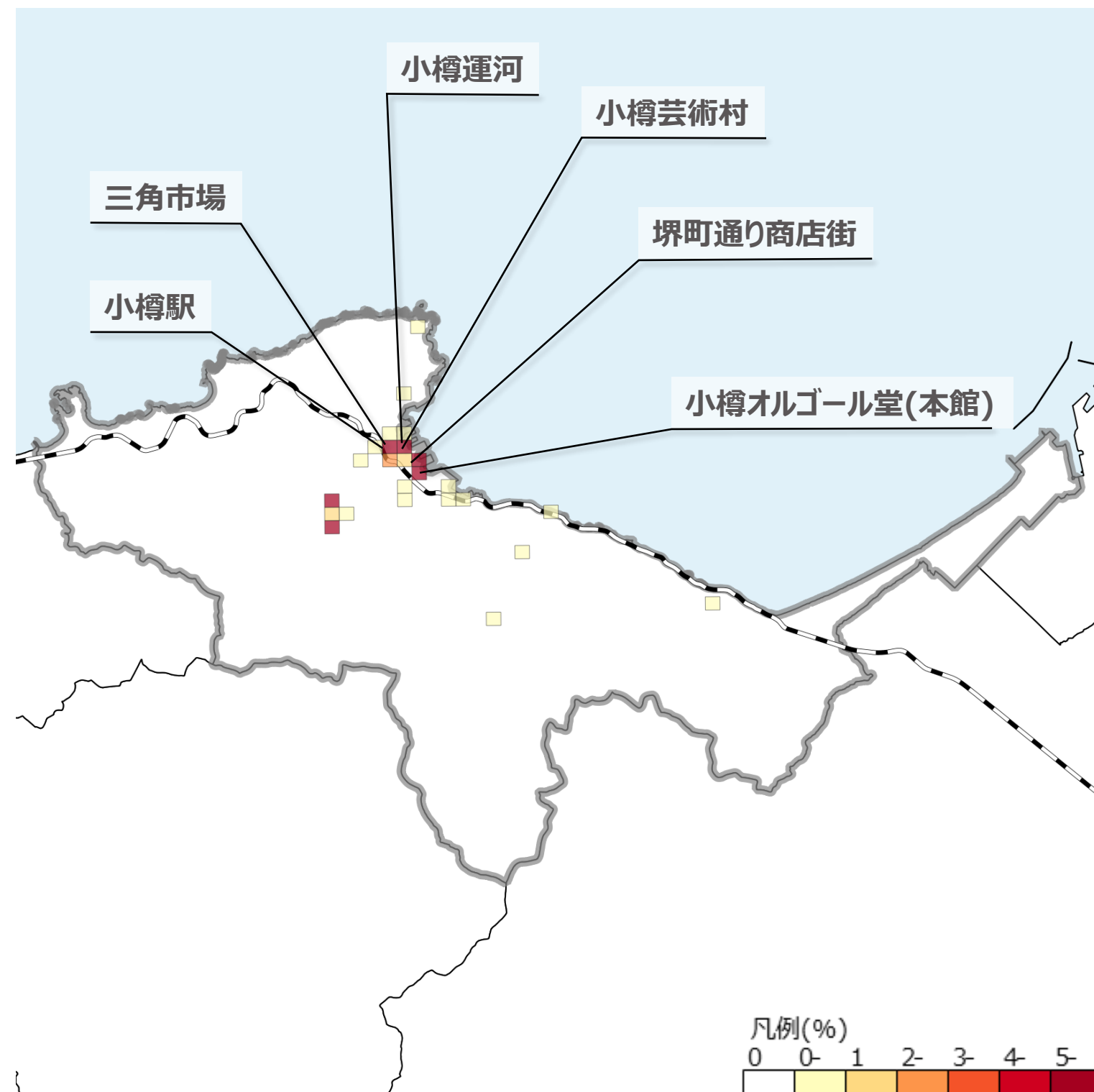
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2025年）

- ▶ 小樽市では中心部エリアの周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では中央区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか千歳・旭川・北広島との周遊が多い。

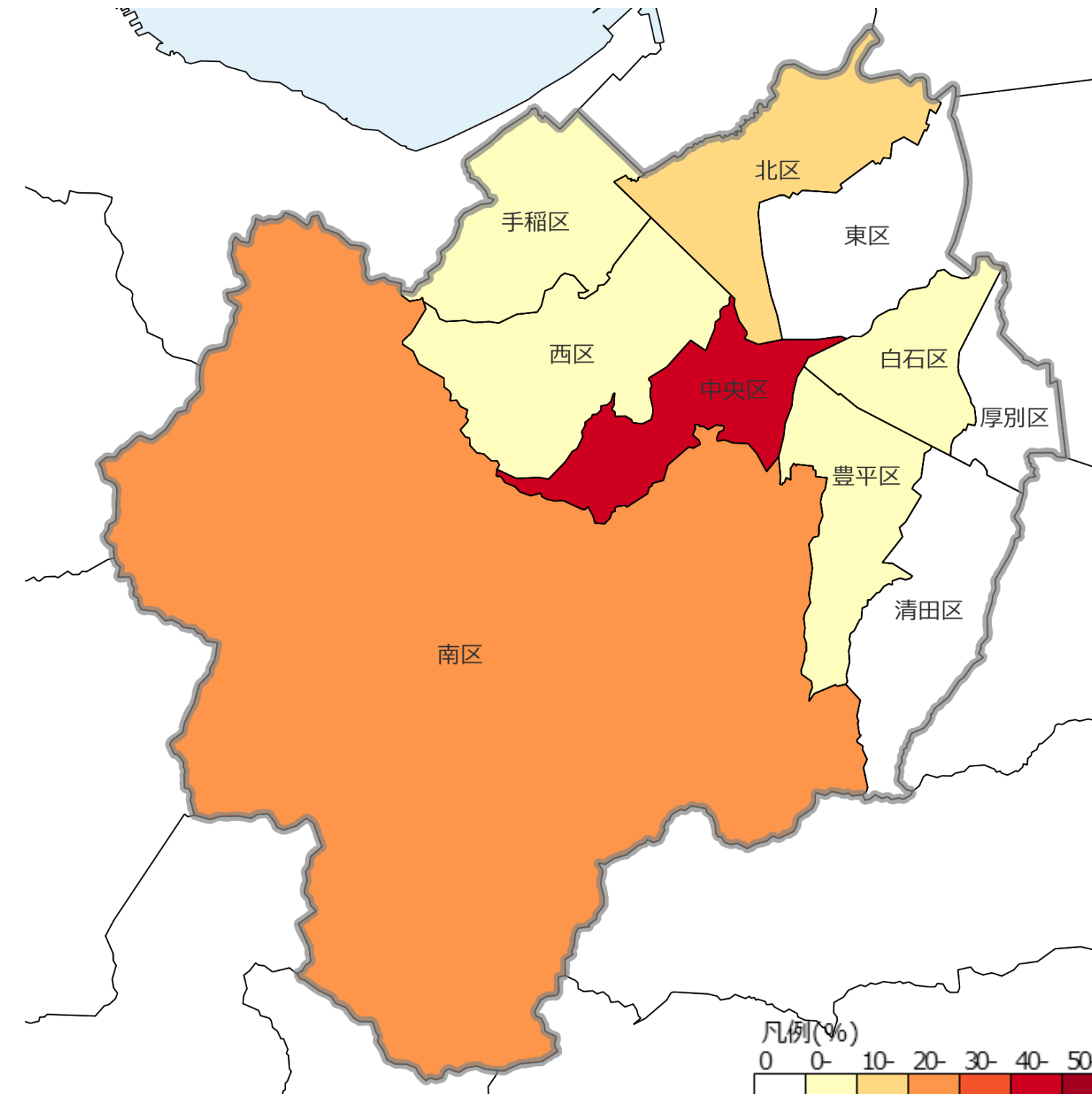
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・日帰り客（2025年1～3月）

【小樽市内】



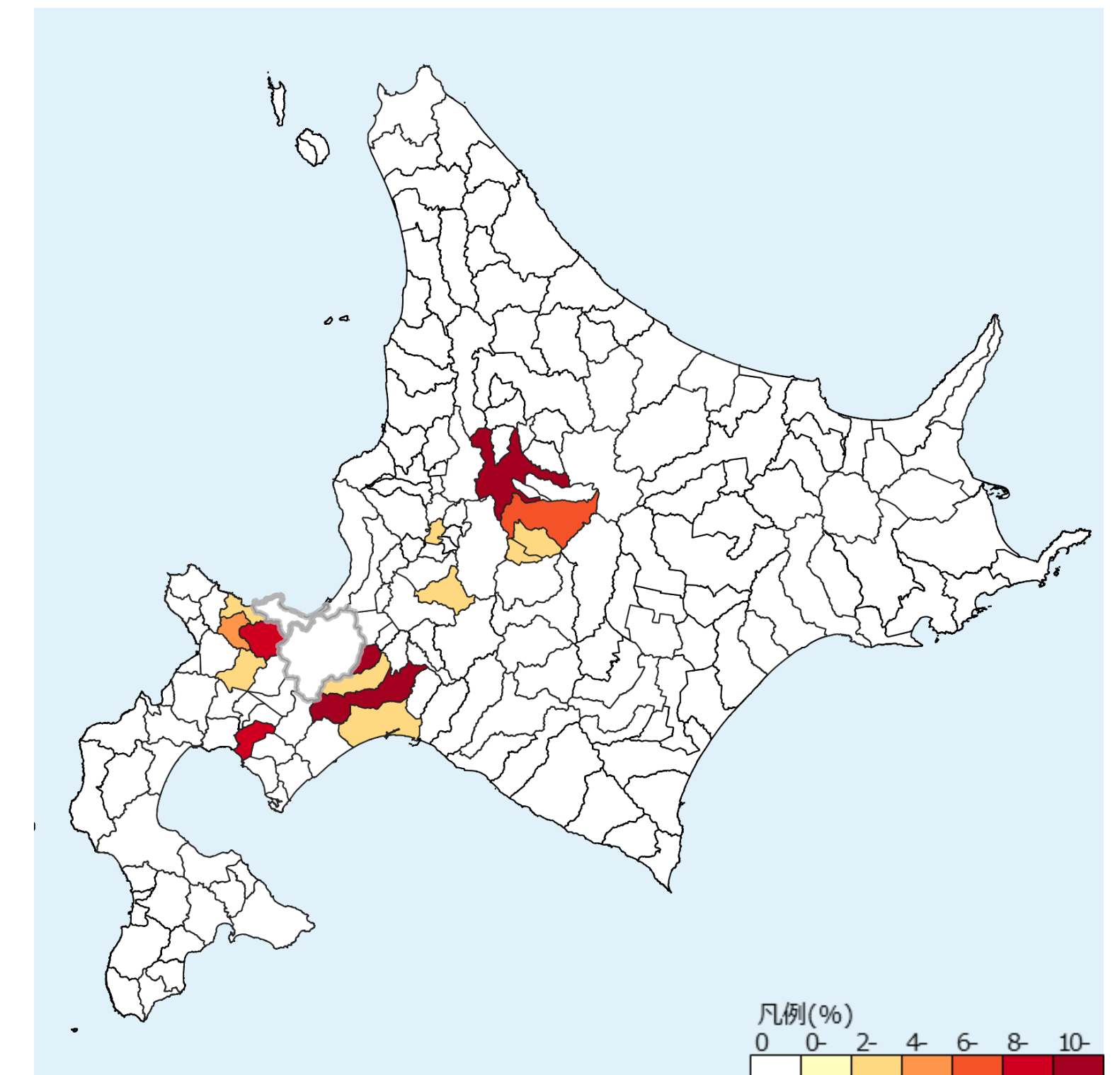
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

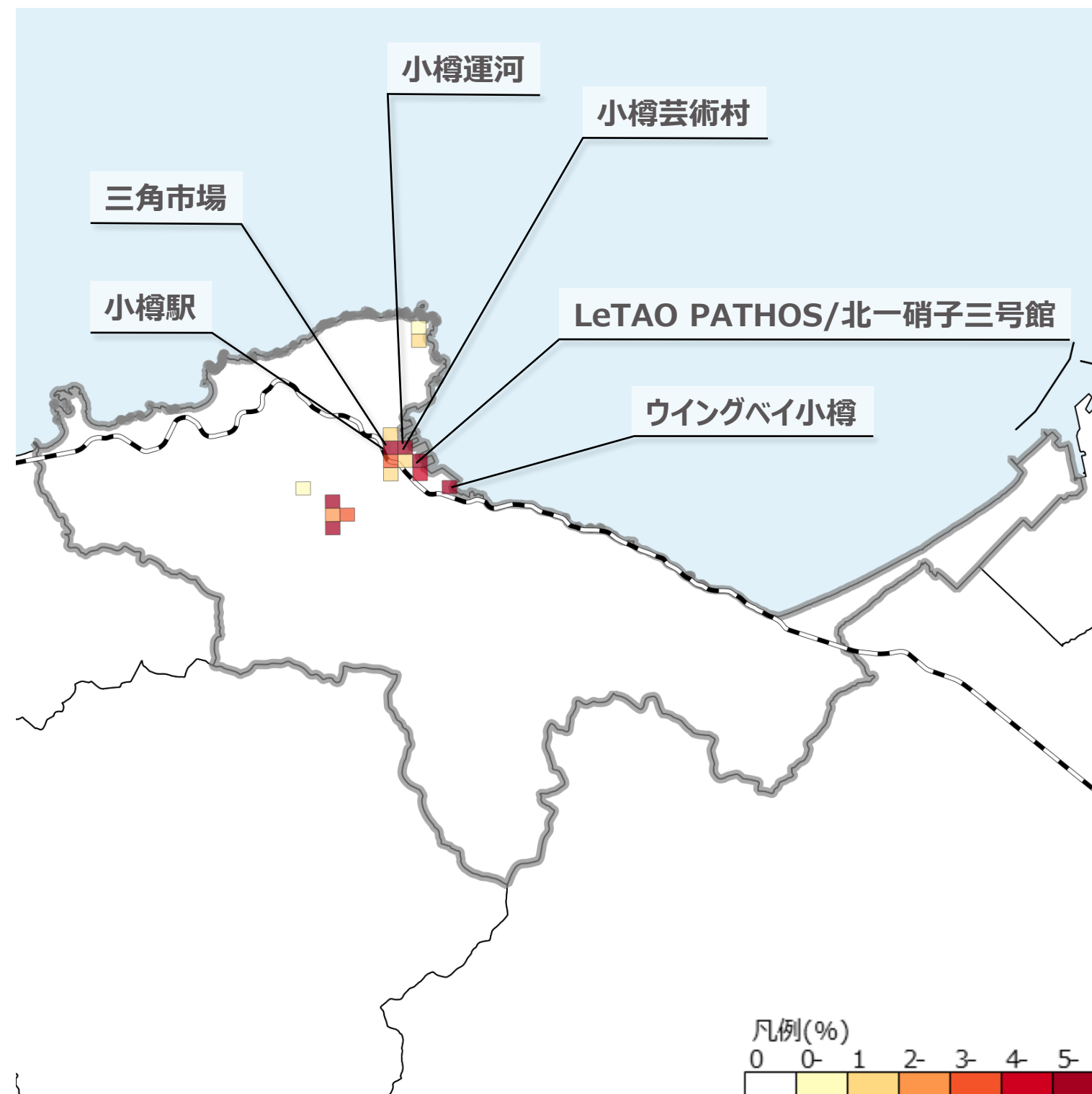
※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。

天狗山ロープウェイ〈山麓周辺〉の分析結果（2025年）

- ▶ 小樽市では小樽運河・LeTAO PATHOS・北一硝子三号館・ウイングベイ小樽付近との周遊が特に多い。
- ▶ 札幌市では手稲区との周遊が特に多く、道全体では小樽・札幌のほか北広島・赤井川・苫小牧との周遊が多い。

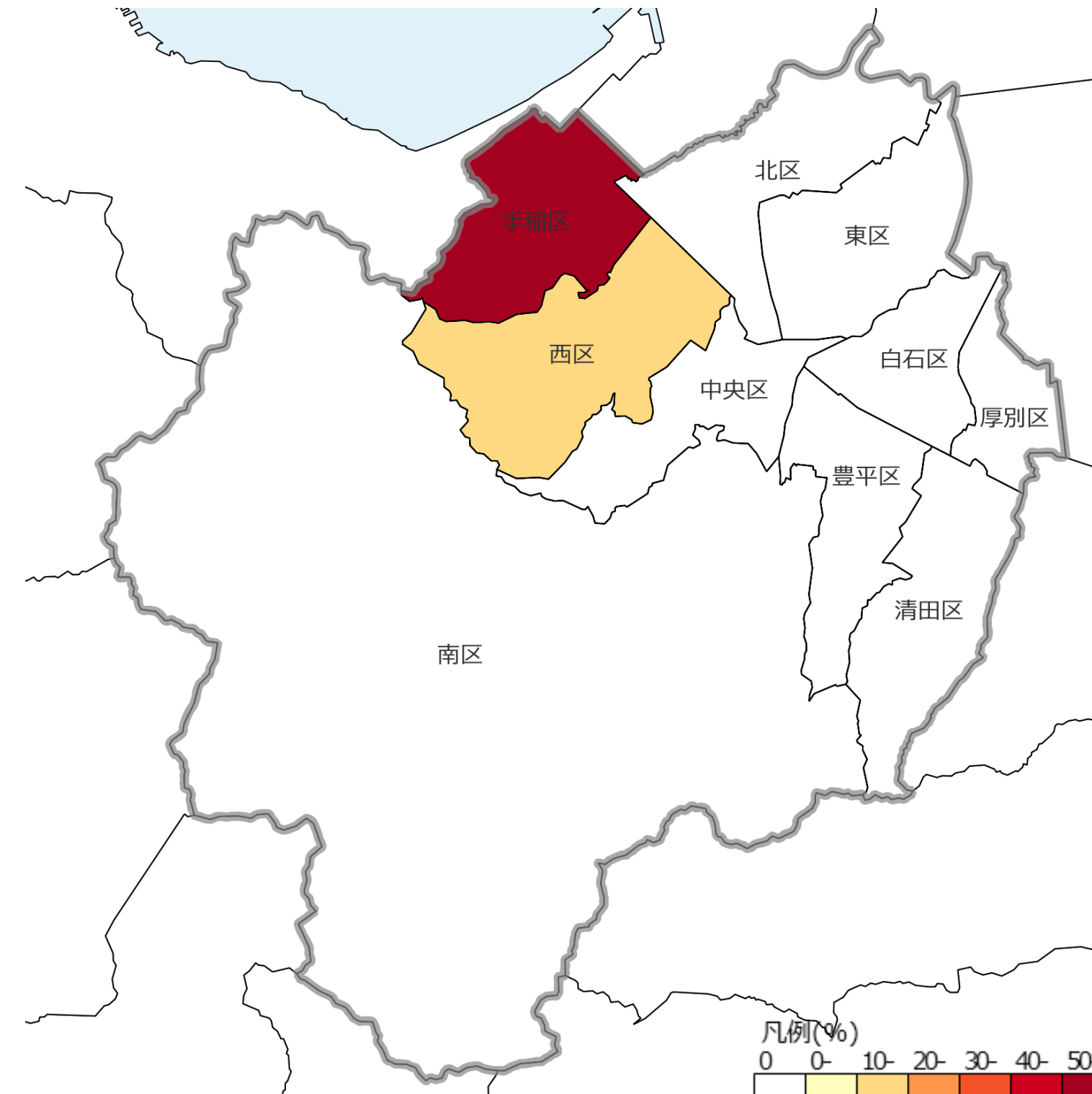
● 周遊先分布【小樽市来訪前＋後合算】インバウンド・宿泊客（2025年1～3月）

【小樽市内】



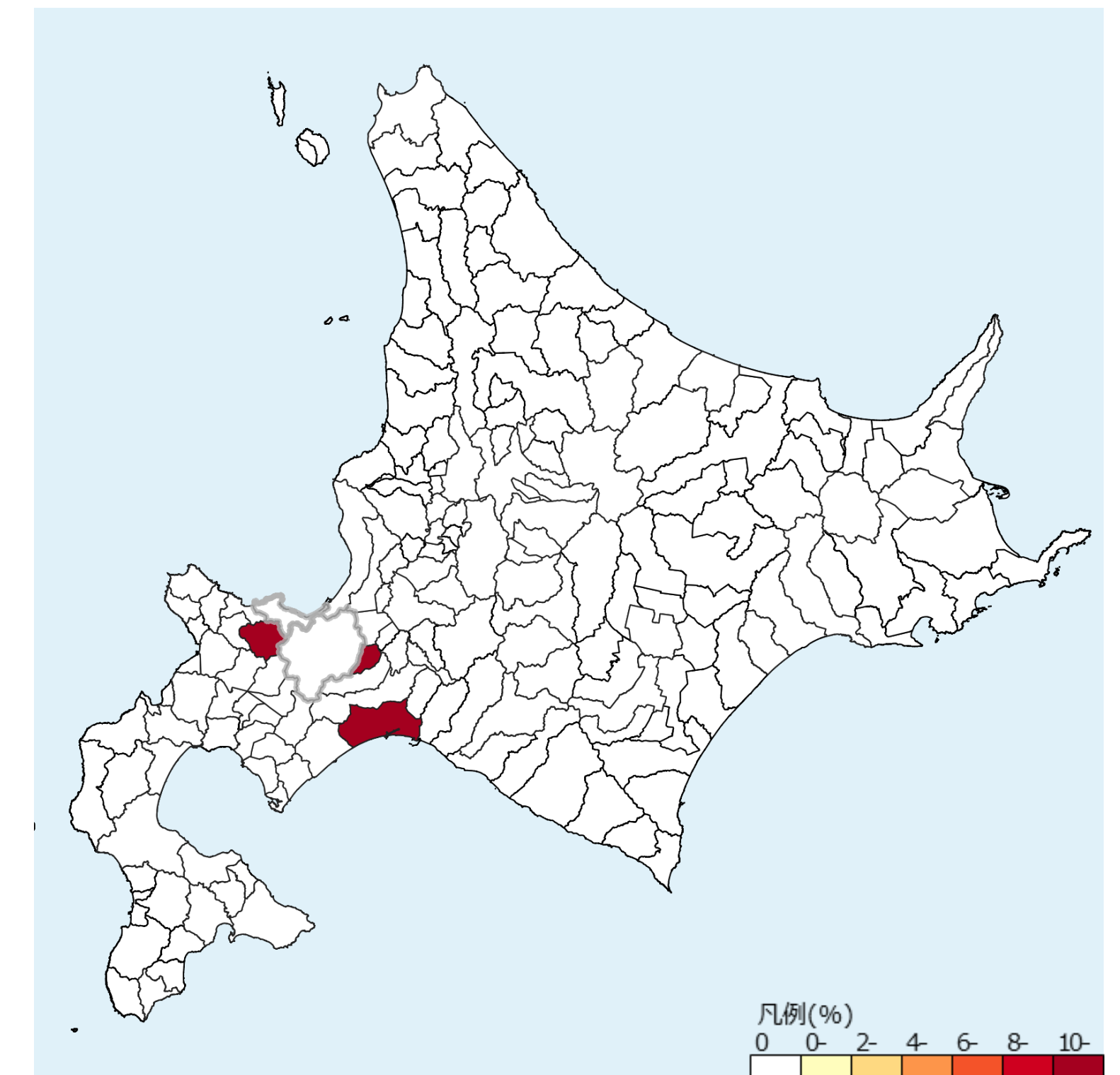
※小樽市の合計値を100%としている。

【札幌市内】



※札幌市の合計値を100%としている。

【全道】



※札幌市と小樽市を除いた全道の合計値を100%としている。

※データが出現していない項目は、一定の閾値を下回ったため個人情報保護の観点から秘匿されたものである（詳細はp.4を参照）。